

科目一覽

【発行日：2021/4/3】最新版のシラバスは、法政大学 Web シラバス (<https://syllabus.hosei.ac.jp/>) で確認してください。

資格関係科目	[A3853]	美術史 (西洋) A [安藤 智子]	春学期授業/Spring	1
資格関係科目	[A3853]	美術史 (西洋) A [安藤 智子]	春学期授業/Spring	2
資格関係科目	[A3854]	美術史 (西洋) B [安藤 智子]	秋学期	3
資格関係科目	[A3854]	美術史 (西洋) B [安藤 智子]	秋学期授業/Fall	4
資格関係科目	[A3855]	考古学概論 [古庄 浩明]	春学期授業/Spring	5
資格関係科目	[A3855]	考古学概論 [古庄 浩明]	春学期授業/Spring	6
資格関係科目	[A3856]	日本考古学 [古庄 浩明]	秋学期授業/Fall	7
資格関係科目	[A3856]	日本考古学 [古庄 浩明]	秋学期	8
資格関係科目	[A3857]	美術史 (日本) A [稲本 万里子]	春学期	9
資格関係科目	[A3858]	美術史 (日本) B [稲本 万里子]	秋学期	10
資格関係科目	[A3859]	民俗学Ⅰ [室井 康成]	春学期	11
資格関係科目	[A3860]	民俗学Ⅱ [室井 康成]	秋学期	12
資格関係科目	[C6734]	博物館概論 [金山 喜昭]	春学期	13
資格関係科目	[C6734]	博物館概論 [金山 喜昭]	春学期	14
資格関係科目	[C6735]	博物館経営論 [金山 喜昭]	春学期	15
資格関係科目	[C6735]	博物館経営論 [金山 喜昭]	春学期	16
資格関係科目	[C6737]	博物館資料論 [田中 裕二]	秋学期	17
資格関係科目	[C6737]	博物館資料論 [田中 裕二]	秋学期	18
資格関係科目	[C6738]	博物館教育論 [渡邊 祐子]	秋学期	19
資格関係科目	[C6738]	博物館教育論 [渡邊 祐子]	秋学期	20
資格関係科目	[C6756]	博物館資料保存論 [今野 農]	春学期	21
資格関係科目	[C6756]	博物館資料保存論 [今野 農]	春学期	22
資格関係科目	[C6759]	博物館展示論 [渡邊 尚樹]	秋学期	23
資格関係科目	[C6759]	博物館展示論 [渡邊 尚樹]	秋学期	24
資格関係科目	[C6763]	博物館実習Ⅰ [田中 裕二]	年間	25
資格関係科目	[C6763]	博物館実習Ⅰ [田中 裕二]	年間	25
資格関係科目	[C6765]	博物館実習Ⅱ [小西 雅徳]	年間	26
資格関係科目	[C6765]	博物館実習Ⅱ [小西 雅徳]	年間	27
資格関係科目	[C6767]	博物館実習Ⅲ [金山 喜昭]	年間	28
資格関係科目	[C6800]	図書館情報学概論Ⅰ [丹 一信]	春学期	29
資格関係科目	[C6801]	図書館情報学概論Ⅱ [丹 一信]	秋学期	30
資格関係科目	[C6802]	図書館制度・経営論 [丹 一信]	春学期	31
資格関係科目	[C6803]	図書館サービス概論 [有山 裕美子]	春学期	32
資格関係科目	[C6804]	児童サービス論 [松田 ユリ子]	春学期	33
資格関係科目	[C6805]	情報サービス論 [丹 一信]	春学期	34
資格関係科目	[C6806]	情報サービス演習 [丹 一信]	年間	35
資格関係科目	[C6807]	図書館情報資源概論 [山口 洋]	春学期	36
資格関係科目	[C6808]	図書館情報資源特論 [山口 洋]	秋学期	37
資格関係科目	[C6809]	情報資源組織論 [山口 洋]	春学期	38
資格関係科目	[C6810]	情報資源組織演習 [山口 洋]	年間	39
資格関係科目	[C6811]	図書館演習 [丹 一信]	年間	40
資格関係科目	[C6812]	学校図書館メディアの構成 [有山 裕美子]	秋学期	41
資格関係科目	[C6813]	学校経営と学校図書館 [松田 ユリ子]	春学期	42
資格関係科目	[C6814]	学習指導と学校図書館 [松田 ユリ子]	春学期	43
資格関係科目	[C6815]	読書と豊かな人間性 [有山 裕美子]	秋学期	44
資格関係科目	[C6816]	情報メディアの活用 [有吉 末充]	秋学期	45
教職関係科目	[K5153]	倫理学A [松本 力]	春学期授業/Spring	46
教職関係科目	[K5153]	倫理学A [松本 力]	春学期授業/Spring	47
教職関係科目	[K5154]	倫理学B [松本 力]	秋学期授業/Fall	48
教職関係科目	[K5154]	倫理学B [松本 力]	秋学期授業/Fall	49
教職関係科目	[K5165]	哲学A [西川 純子]	春学期授業/Spring	50
教職関係科目	[K5165]	哲学A [西川 純子]	春学期授業/Spring	51
教職関係科目	[K5166]	哲学B [西川 純子]	秋学期授業/Fall	52

教職関係科目	[K5166]	哲学B [西川 純子] 秋学期授業/Fall	53
教職関係科目	[K5259]	日本史A [古澤 直人] 春学期授業/Spring	54
教職関係科目	[K5259]	日本史A [古澤 直人] 春学期授業/Spring	55
教職関係科目	[K5260]	日本史B [古澤 直人] 秋学期授業/Fall	56
教職関係科目	[K5260]	日本史B [古澤 直人] 秋学期授業/Fall	57
教職関係科目	[K5261]	世界史A [太田 啓子] 春学期授業/Spring	58
教職関係科目	[K5262]	世界史B [太田 啓子] 秋学期授業/Fall	59
教職関係科目	[K6201]	国際政治論 [曹 海石] 秋学期授業/Fall	60
教職関係科目	[K8005]	人文地理学Ⅰ [濱田 博之] 春学期授業/Spring	60
教職関係科目	[K8006]	人文地理学Ⅱ [松永 和子] 秋学期授業/Fall	61
教職関係科目	[K8007]	自然地理学Ⅰ [山川 信之] 春学期授業/Spring	62
教職関係科目	[K8008]	自然地理学Ⅱ [山川 信之] 秋学期授業/Fall	63
教職関係科目	[K8009]	地誌Ⅰ [松永 和子] 春学期授業/Spring	64
教職関係科目	[K8010]	地誌Ⅱ [濱田 博之] 秋学期授業/Fall	65
教職関係科目	[K8015]	データベースと情報システム [坂本 憲昭] 春学期授業/Spring	66
教職関係科目	[K8016]	情報メディアと画像処理 [坂本 憲昭] 秋学期授業/Fall	67
教職関係科目	[K8017]	情報と職業A [坂本 憲昭] 春学期授業/Spring	68
教職関係科目	[K8018]	情報と職業B [坂本 憲昭] 秋学期授業/Fall	69
教職関係科目	[L3101]	教職入門 [綿貫 公平] 春学期授業/Spring	70
教職関係科目	[L3102]	教職入門 [綿貫 公平] 春学期授業/Spring	71
教職関係科目	[L3103]	教育原理 [御園生 純] 春学期授業/Spring	72
教職関係科目	[L3104]	教育の制度・経営 [福嶋 真治] 春学期授業/Spring	73
教職関係科目	[L3105]	教育原理 [御園生 純] 春学期授業/Spring	74
教職関係科目	[L3106]	教育の制度・経営 [福嶋 真治] 秋学期授業/Fall	75
教職関係科目	[L3107]	教育心理学 [安齊 順子] 秋学期授業/Fall	76
教職関係科目	[L3108]	教育心理学 [安齊 順子] 秋学期授業/Fall	77
教職関係科目	[L3109]	教育相談 [沼田 あや子] 春学期授業/Spring	78
教職関係科目	[L3110]	教育相談 [沼田 あや子] 秋学期授業/Fall	79
教職関係科目	[L3114]	道德教育指導論 [石神 真悠子] 春学期授業/Spring	80
教職関係科目	[L3115]	生徒・進路指導論 [谷川 由佳] 春学期授業/Spring	81
教職関係科目	[L3116]	生徒・進路指導論 [谷川 由佳] 春学期授業/Spring	82
教職関係科目	[L3117]	特別活動論 [桐島 次郎] 秋学期授業/Fall	83
教職関係科目	[L3118]	特別活動論 [桐島 次郎] 秋学期授業/Fall	84
教職関係科目	[L3119]	教育課程論 [三浦 芳恵] 秋学期授業/Fall	85
教職関係科目	[L3120]	教育課程論 [三浦 芳恵] 秋学期授業/Fall	85
教職関係科目	[L3121]	教育方法論 [酒井 英光] 春学期授業/Spring	86
教職関係科目	[L3122]	教育方法論 [酒井 英光] 秋学期授業/Fall	87
教職関係科目	[L3123]	道德教育指導論 [石神 真悠子] 秋学期授業/Fall	88
教職関係科目	[L3125]	教職実践演習 (中・高) [御園生 純] 秋学期授業/Fall	89
教職関係科目	[L3127]	教職実践演習 (中・高) [高橋 繁] 秋学期授業/Fall	90
教職関係科目	[L3128]	教職実践演習 (中・高) [小嶋 常喜] 秋学期授業/Fall	91
教職関係科目	[L3129]	教職実践演習 (中・高) [本山 明] 秋学期授業/Fall	92
教職関係科目	[L3133]	教育実習 (事前指導) [御園生 純] 秋学期授業/Fall	93
教職関係科目	[L3135]	教育実習 (事前指導) [高橋 繁] 秋学期授業/Fall	94
教職関係科目	[L3136]	教育実習 (事前指導) [小嶋 常喜] 秋学期授業/Fall	95
教職関係科目	[L3137]	教育実習 (事前指導) [本山 明] 秋学期授業/Fall	96
教職関係科目	[L3138]	教育実習 (中・高) [永木 耕介] 年間授業/Yearly	97
教職関係科目	[L3139]	教育実習 (高) [永木 耕介] 年間授業/Yearly	97
資格関係科目	[L3151]	社会教育経営論 [荒井 容子] 年間授業/Yearly	98
資格関係科目	[L3152]	社会教育総合演習 (実習を含む) [江頭 晃子] 年間授業/Yearly	99
資格関係科目	[L3153]	生涯学習支援論 [栗山 究] 年間授業/Yearly	100
資格関係科目	[L3155]	視聴覚教育Ⅰ [原田 雅子] 秋学期授業/Fall	101
資格関係科目	[L3155]	視聴覚教育Ⅰ [原田 雅子] 秋学期授業/Fall	102
資格関係科目	[L3156]	視聴覚教育Ⅱ [原田 雅子] 秋学期授業/Fall	103
教職関係科目	[L3160]	特別な教育的ニーズの理解と支援 [山下 洋児] 春学期授業/Spring	104
教職関係科目	[L3161]	特別な教育的ニーズの理解と支援 [山下 洋児] 秋学期授業/Fall	105
教職関係科目	[L3162]	総合的な学習の時間の指導法 [本山 明] 秋学期授業/Fall	106

教職関係科目	【L3163】	総合的な学習の時間の指導法 [本山 明] 春学期授業/Spring	107
教職関係科目	【L3164】	社会・地歴科教育法 (1) [石出 法太] 春学期授業/Spring	108
教職関係科目	【L3165】	社会・地歴科教育法 (2) [石出 法太] 秋学期授業/Fall	109
教職関係科目	【L3166】	社会・公民科教育法 (1) [松山 尚寿] 春学期授業/Spring	110
教職関係科目	【L3167】	社会・公民科教育法 (2) [松山 尚寿] 秋学期授業/Fall	111
教職関係科目	【L3168】	情報科教育法 I [御園生 純] 春学期授業/Spring	112
教職関係科目	【L3169】	情報科教育法 II [御園生 純] 秋学期授業/Fall	113
資格関係科目	【LA208】	福祉社会学 I [堅田 香緒里] 春学期授業/Spring	114
資格関係科目	【LA209】	福祉社会学 II [堅田 香緒里] 秋学期授業/Fall	114
資格関係科目	【LA302】	グローバル社会のローカリティ/地域社会学 [中筋 直哉] 秋学期授業/Fall	115
教職関係科目	【LA312】	国際法 [妻木 伸之] 秋学期授業/Fall	115
教職関係科目	【LB102】	発達・教育の理論 I [山下 大厚] 春学期授業/Spring	116
教職関係科目	【LB103】	発達・教育の理論 II [山下 大厚] 秋学期授業/Fall	116
資格関係科目	【LB111】	社会教育概論 I / 生涯学習論 I [荒井 容子] 春学期授業/Spring	117
資格関係科目	【LB111】	社会教育概論 I / 生涯学習論 I [荒井 容子] 春学期授業/Spring	118
資格関係科目	【LB112】	社会教育概論 II / 生涯学習論 II [荒井 容子] 春学期授業/Spring	119
資格関係科目	【LB112】	社会教育概論 II / 生涯学習論 II [荒井 容子] 秋学期授業/Fall	120
資格関係科目	【LB302】	表象文化論 A [高橋 愛] 春学期授業/Spring	121
資格関係科目	【LB303】	表象文化論 B [野田 吉郎] 秋学期授業/Fall	121
資格関係科目	【LD007】	メディアと人間 I / 比較文化論 I [李 舜志] 春学期授業/Spring	122
資格関係科目	【LD008】	メディアと人間 II / 比較文化論 II [李 舜志] 秋学期授業/Fall	123
資格関係科目	【LD209】	マス・コミュニケーション論 [加藤 徹郎] 春学期授業/Spring	124
教職関係科目	【M9010】	保健体育科教育法 I [小田 佳子] 春学期授業/Spring	124
教職関係科目	【M9020】	保健体育科教育法 II [鬼頭 英明] 秋学期授業/Fall	125
教職関係科目	【M9030】	保健体育科教育法 III [永木 耕介] 秋学期授業/Fall	126
教職関係科目	【M9040】	保健体育科教育法 IV [小田 佳子] 秋学期授業/Fall	127
資格関係科目	【N0651】	視聴覚教育 I [原田 雅子] 秋学期授業/Fall	128
資格関係科目	【N0652】	視聴覚教育 II [原田 雅子] 秋学期授業/Fall	129

美術史（西洋）A

安藤 智子

配当年次／単位：3～4 年次／2 単位

開講時期：春学期授業/Spring

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近代から現代までの美術史の文脈において、芸術作品を様々な視点から考察するとともに、その鑑賞方法を習得する。

【到達目標】

芸術作品の主題、様式、技法等に関する美術史の基礎知識の習得に加え、同時代の政治や社会状況の考察を踏まえた上で、作品を多角的・重層的に捉える視点を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

対面授業の場合は、パワーポイントで画像を映写し、レジュメ（資料・参考文献）を配布した上で講義を行う。
オンラインの授業では、Youtube にアップされた動画教材を視聴する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の概要と展覧会情報 美術史の学習方法・参考文献
第 2 回	美術史の基礎概念と美術史の基礎用語	美術におけるジャンルとは？ 絵画様式や絵画を叙述する上で必要となる基本的な美術用語を確認
第 3 回	絵画のジャンル①	絵画のジャンルの確認 宗教画・神話画～ギリシア神話や聖書に典拠した絵画とは？
第 4 回	絵画のジャンル②	寓意画とは何か？ 物語における抽象的な概念をいかに表象するか？
第 5 回	絵画のジャンル③	肖像画、静物画、風景画
第 6 回	絵画のジャンル④	風俗画～時代の風俗を映した絵画
第 7 回	主題から作品へ①～身ぶりからの読解	聖書の「受胎告知」という主題とした作品を取り上げて、テキストを典拠として描かれた身ぶりを検証
第 8 回	主題から作品へ②～イコノロジーとは？	フェルメールの寓意画を考察する
第 9 回	主題から作品へ③	物語を視覚的に叙述する異時同図
第 10 回	瞬間を捉える	19 世紀フランス絵画において、瞬間を捉えた作品に焦点を当てる
第 11 回	都市と自然①	19 世紀フランス第二帝政期の都市改造計画によって生まれ変わった都市パリを表象した絵画を検証
第 12 回	都市と自然②	パリで生活している人々を描いた絵画を見る
第 13 回	都市と自然③	19 世紀フランスの地方を表象した絵画を考察する
第 14 回	まとめと質疑応答	これまでの考察をもとに、芸術作品への見方の多様性を確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

美術館に積極的に出向き、常設のコレクションや企画展において、実際に美術作品を見てほしい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

対面授業では、教科書は使用せず、毎回プリントを配布する。各回の参考文献は授業中に紹介する。

【参考書】

『世界美術大全集 西洋編』、小学館、19-24 巻、1993-96 年
高階秀爾・三浦篤編『西洋美術史ハンドブック』、新書館、1997 年
三浦篤『まなざしのレッスン 1—西洋伝統絵画』、東京大学出版会、2001 年
三浦篤『まなざしのレッスン 2—西洋近現代絵画』、東京大学出版会、2015 年

【成績評価の方法と基準】

対面授業の場合は、学期末レポート（80％）と、平常点（20％）を参考に成績評価を決定する。

また、オンライン授業となった場合は、小レポートを 3 回（60％）、最終レポート（40％）で評価する予定。

芸術作品に関する基礎知識を身に付けた上で、分析と論証の手続きが一定のレベルに達しているかを評価基準とする。

【学生の意見等からの気づき】

授業内容の理解度を確認するために、小レポートを提出してもらい、そのレポートに対してコメントをつけて返却する

【Outline and objectives】

Based on the modern art and contemporary art, we will study art works from multiple points of view and learn how to understand them in the context of the art history.

美術史（西洋）A

安藤 智子

配当年次／単位：3～4 年次／2 単位

開講時期：春学期授業/Spring

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近代から現代までの美術史の文脈において、芸術作品を様々な視点から考察するとともに、その鑑賞方法を習得する。

【到達目標】

芸術作品の主題、様式、技法等に関する美術史の基礎知識の習得に加え、同時代の政治や社会状況の考察を踏まえた上で、作品を多角的・重層的に捉える視点を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

対面授業の場合は、パワーポイントで画像を映写し、レジュメ（資料・参考文献）を配布した上で講義を行う。
オンラインの授業では、Youtube にアップされた動画教材を視聴する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の概要と展覧会情報 美術史の学習方法・参考文献
第 2 回	美術史の基礎概念と美術史の基礎用語	美術におけるジャンルとは？ 絵画様式や絵画を叙述する上で必要となる基本的な美術用語を確認
第 3 回	絵画のジャンル①	絵画のジャンルの確認 宗教画・神話画～ギリシア神話や聖書に典拠した絵画とは？
第 4 回	絵画のジャンル②	寓意画とは何か？ 物語における抽象的な概念をいかに表象するか？
第 5 回	絵画のジャンル③	肖像画、静物画、風景画
第 6 回	絵画のジャンル④	風俗画～時代の風俗を映した絵画
第 7 回	主題から作品へ①～身ぶりからの読解	聖書の「受胎告知」という主題とした作品を取り上げて、テキストを典拠として描かれた身ぶりを検証
第 8 回	主題から作品へ②～イコノロジーとは？	フェルメールの寓意画を考察する
第 9 回	主題から作品へ③	物語を視覚的に叙述する異時同図
第 10 回	瞬間を捉える	19 世紀フランス絵画において、瞬間を捉えた作品に焦点を当てる
第 11 回	都市と自然①	19 世紀フランス第二帝政期の都市改造計画によって生まれ変わった都市パリを表象した絵画を検証
第 12 回	都市と自然②	パリで生活している人々を描いた絵画を見る
第 13 回	都市と自然③	19 世紀フランスの地方を表象した絵画を考察する
第 14 回	まとめと質疑応答	これまでの考察をもとに、芸術作品への見方の多様性を確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

美術館に積極的に出向き、常設のコレクションや企画展において、実際に美術作品を見てほしい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

対面授業では、教科書は使用せず、毎回プリントを配布する。各回の参考文献は授業中に紹介する。

【参考書】

『世界美術大全集 西洋編』、小学館、19-24 巻、1993-96 年
高階秀爾・三浦篤編『西洋美術史ハンドブック』、新書館、1997 年
三浦篤『まなざしのレッスン 1—西洋伝統絵画』、東京大学出版会、2001 年
三浦篤『まなざしのレッスン 2—西洋近現代絵画』、東京大学出版会、2015 年

【成績評価の方法と基準】

対面授業の場合は、学期末レポート（80%）と、平常点（20%）を参考に成績評価を決定する。

また、オンライン授業となった場合は、小レポートを 3 回（60%）、最終レポート（40%）で評価する予定。

芸術作品に関する基礎知識を身に付けた上で、分析と論証の手続きが一定のレベルに達しているかを評価基準とする。

【学生の意見等からの気づき】

授業内容の理解度を確認するために、小レポートを提出してもらい、そのレポートに対してコメントをつけて返却する

【Outline and objectives】

Based on the modern art and contemporary art, we will study art works from multiple points of view and learn how to understand them in the context of the art history.

美術史（西洋）B

安藤 智子

配当年次／単位：3～4 年次／2 単位

開講時期：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近代から現代までの美術史の文脈において、芸術作品を様々な観点から考察するとともに、その鑑賞方法を習得する。

【到達目標】

芸術作品の生成と構造を、美術史の基礎概念をもとに、さらに深く理解する。芸術と社会との関係性をより多角的に捉える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

Youtube にアップされた動画教材の中で、作品を解説し美術史的な考察を行っていく。

隔週（3回の予定）で動画の内容を見た上での課題を提出し、こちらからコメントによってフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の概要 美術史へのアプローチ
第 2 回	美術史の基礎概念と基礎用語	作品主題のジャンル 造形性を表す用語の確認
第 3 回	筆触の多様性	美術史の流れに従って、筆触という技法の表現が変容していく過程を考察する
第 4 回	視点とパースペクティブ	絵画空間における視点、及びパースペクティブに着目し、19世紀後半から20世紀初頭にかけて、ドラスティックな絵画空間の変化を探る
第 5 回	異文化との出会い①	19世紀にイギリスやフランスで開催された万国博覧会から異国の文化が波及する過程を追う
第 6 回	異文化との出会い②	主に19世紀のフランス美術が日本の彩色木版画（浮世絵）から受けた影響について紹介する
第 7 回	展覧会と展示	芸術作品を展示する展覧会のシステムについて、フランスを中心に社会的な考察を加える
第 8 回	再現性の消失と抽象絵画	対象を現実に見ているように再現する芸術作品から、概念によって構成された芸術作品へと転換する過程を考察する
第 9 回	美術コレクションとコレクター	20世紀初頭に形成されたコートールド・コレクションやパランス・コレクションから現代の個人や企業によるコレクションまでを視野に入れ、コレクターとコレクションについて考察する
第 10 回	美術市場の形成	デュラン＝リュエル、ヴォーラルなどの過去の画商の活動を参照し、現代のコレクター、美術批評家、芸術家のネットワークを考える
第 11 回	美術館の役割	収集、収蔵、研究、展示、教育など美術館が持つ機能と役割をロンドンの「ナショナル・ギャラリー」を例に考察する
第 12 回	美術作品の値段	ゴッホの〈ひまわり〉などを例にとり、美術品の値段を社会学的に考察する
第 13 回	美術鑑賞と美術批評	美術作品を見る立場にある鑑賞者の視点に立って、鑑賞形態や作品を批評することについて考える。
第 14 回	双方向の授業によるディスカッション	これまでの総括 芸術と社会との関係性を包括的に考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

できれば、春学期と通年で履修してください。

状況が許せば、様々な美術館の展覧会に出向き、芸術作品を実際に鑑賞してください。

本授業の準備学習・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

とくに指定しません。
授業内に資料を配付致します。

【参考書】

授業中に適宜ご紹介します。

【成績評価の方法と基準】

対面授業の場合は、学期末レポート（80%）と、平常点（20%）を参考に成績評価を決定する。

また、オンライン授業となった場合は、小レポートを3回（60%）、最終レポート（40%）で評価する予定。

芸術作品に関する基礎知識を身に付けた上で、分析と論証の手続きが一定のレベルに達しているかを評価基準とする。

【学生の意見等からの気づき】

今学期は展覧会見学でできないことを考慮しつつ、これらに向けて、授業の内容に沿って、都内の美術館の展示を紹介する。

【Outline and objectives】

Based on the modern art and the contemporary art, we will study the construction of art works from the multiple view points and learn how to interpret them in the context of the Art History.

美術史（西洋）B

安藤 智子

配当年次／単位：3～4 年次／2 単位

開講時期：秋学期授業/Fall

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近代から現代までの美術史の文脈において、芸術作品を様々な観点から考察するとともに、その鑑賞方法を習得する。

【到達目標】

芸術作品の生成と構造を、美術史の基礎概念をもとに、さらに深く理解する。芸術と社会との関係性をより多角的に捉える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

Youtube にアップされた動画教材の中で、作品を解説し美術史的な考察を行っていく。

隔週（3回の予定）で動画の内容を見た上での課題を提出し、こちらからコメントによってフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の概要 美術史へのアプローチ
第 2 回	美術史の基礎概念と基礎用語	作品主題のジャンル 造形性を表す用語の確認
第 3 回	筆触の多様性	美術史の流れに従って、筆触という技法の表現が変容していく過程を考察する
第 4 回	視点とパースペクティブ	絵画空間における視点、及びパースペクティブに着目し、19世紀後半から20世紀初頭にかけて、ドラスティックな絵画空間の変化を探る
第 5 回	異文化との出会い①	19世紀にイギリスやフランスで開催された万国博覧会から異国の文化が波及する過程を追う
第 6 回	異文化との出会い②	主に19世紀のフランス美術が日本の彩色木版画（浮世絵）から受けた影響について紹介する
第 7 回	展覧会と展示	芸術作品を展示する展覧会のシステムについて、フランスを中心に社会的な考察を加える
第 8 回	再現性の消失と抽象絵画	対象を現実に見ているように再現する芸術作品から、概念によって構成された芸術作品へと転換する過程を考察する
第 9 回	美術コレクションとコレクター	20世紀初頭に形成されたコートールド・コレクションやパランス・コレクションから現代の個人や企業によるコレクションまでを視野に入れ、コレクターとコレクションについて考察する
第 10 回	美術市場の形成	デュラン＝リュエル、ヴォーラルなどの過去の画商の活動を参照し、現代のコレクター、美術批評家、芸術家のネットワークを考える
第 11 回	美術館の役割	収集、収蔵、研究、展示、教育など美術館が持つ機能と役割をロンドンの「ナショナル・ギャラリー」を例に考察する
第 12 回	美術作品の値段	ゴッホの〈ひまわり〉などを例にとり、美術品の値段を社会的に考察する
第 13 回	美術鑑賞と美術批評	美術作品を見る立場にある鑑賞者の視点に立って、鑑賞形態や作品を批評することについて考える。
第 14 回	双方向の授業によるディスカッション	これまでの総括 芸術と社会との関係性を包括的に考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

できれば、春学期と通年で履修してください。状況が許せば、様々な美術館の展覧会に出向き、芸術作品を実際に鑑賞してください。

本授業の準備学習・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

とくに指定しません。授業内に資料を配付致します。

【参考書】

授業中に適宜ご紹介致します。

【成績評価の方法と基準】

対面授業の場合は、学期末レポート（80％）と、平常点（20％）を参考に成績評価を決定する。

また、オンライン授業となった場合は、小レポートを3回（60％）、最終レポート（40％）で評価する予定。

芸術作品に関する基礎知識を身に付けた上で、分析と論証の手続きが一定のレベルに達しているかを評価基準とする。

【学生の意見等からの気づき】

今学期は展覧会見学でできないことを考慮しつつ、これらに向けて、授業の内容に沿って、都内の美術館の展示を紹介する。

【Outline and objectives】

Based on the modern art and the contemporary art, we will study the construction of art works from the multiple view points and learn how to interpret them in the context of the Art History.

考古学概論

古庄 浩明

配当年次／単位：2～4 年次／2 単位

開講時期：春学期授業/Spring

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

歴史学研究を物質資料の検討によって実践する考古学について学ぶ。考古学の概要と方法に関する講義を通して、考古学の本質、関連諸科学との関係、学史的展開等を理解することを目標とし、物質文化から組み立てる広義の歴史像について考えることがテーマとなる。

【到達目標】

日本を中心とした考古学の学術的展開過程を解説できるようになる。
考古学的方法が発達する過程が理解できる。
考古学と関連諸科学との関係が理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

主に学史的観点から考古学の方法と考え方について理解するとともに、物質文化から組み立てる広義の歴史像について考える。
授業は講義形式で行う。状況によってはオンデマンド型の授業となる可能性もある。資料配布・課題提出・フィードバック等は学習支援システム等を利用する。具体的には、学習支援システムに課題を提出していただき、そのフィードバックも学習支援システムで各学生に返信する。質問及びそれに対する回答も学習支援システムを利用する。資料も利用する。授業のプリントは「古庄浩明の講義ノート」(<https://wacoffee.blogspot.com/>)から各自ダウンロードして使用する。プロテクトを掛けてあり、プロテクトキーは授業で知らせる。
毎回授業後に小レポートの提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概要と方法・評価基準
第2回	考古学とは何か	考古学の本質
第3回	古代日本における考古学的認識	考古学的営為を試みた先人たち
第4回	近世日本における学術的展開	近代科学につながる学術的な先駆者たち
第5回	ヨーロッパ考古学の展開	古典考古学と先史考古学
第6回	層位学と型式学	学術的方法の整備
第7回	近代科学として導入された考古学	外国人による近代の考古学的営為
第8回	人種・民族論争と記紀	近代考古学を担った日本人研究者たち
第9回	実証主義研究の展開	貝塚研究と編年学派
第10回	戦時体制と考古学	言論統制と考古学
第11回	戦後考古学の光と影（1）	岩宿遺跡と登呂遺跡
第12回	戦後考古学の光と影（2）	大規模開発と遺跡破壊
第13回	現代と考古学（1）	関連諸科学と考古学
第14回	現代と考古学（2）	文化財保護行政と考古学

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日本考古学の発達史の内容を含んでいるため、参考書等をよく読み、考古学についての知見を深めておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

古庄浩明 2021『第2版 考古学の世界－初めて考古学を勉強する方のために』三恵社
ISBN 978-4-86693-380-1 C1020 定価 1650 円（本体 1500 円＋税 10 %）

【参考書】

佐々木憲一ほか（2011）『はじめて学ぶ考古学』有斐閣アルマ、勅使河原彰（1995）『日本考古学の歩み』名著出版、岩波書店刊『岩波講座日本考古学』（全9巻）

【成績評価の方法と基準】

授業内の課題にもとづく小レポートによる評価を50%とし、期末試験による評価を50%とする。

【学生の意見等からの気づき】

プリント類を利用した解説、板書、映像投影など多様な方法を用いて講義するので、しっかりと対応すること。

【学生が準備すべき機器他】

ネット環境とデバイス（パソコン・スマホ・パッドなど）資料配布・課題提出等のために学習支援システム等を利用する。

【その他の重要事項】

本科目は資格課程の関連科目としても公開しており、史学科以外の受講者も受け入れているが、史学科の専門科目としての難易度を有する科目であるので、特に他学部・他学科の受講者は考古学に関する概説書等を読んでおくことを推奨する。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to learn about archeology research methods and history.

考古学概論

古庄 浩明

配当年次／単位：2～4 年次／2 単位

開講時期：春学期授業/Spring

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

歴史学研究を物質資料の検討によって実践する考古学について学ぶ。考古学の概要と方法に関する講義を通して、考古学の本質、関連諸科学との関係、学史的展開等を理解することを目標とし、物質文化から組み立てる広義の歴史像について考えることがテーマとなる。

【到達目標】

日本を中心とした考古学の学術的展開過程を解説できるようになる。
考古学的方法が発達する過程が理解できる。
考古学と関連諸科学との関係が理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

主に学史的観点から考古学の方法と考え方について理解するとともに、物質文化から組み立てる広義の歴史像について考える。
授業は講義形式で行う。状況によってはオンデマンド型の授業となる可能性もある。資料配布・課題提出・フィードバック等は学習支援システム等を利用する。具体的には、学習支援システムに課題を提出していただき、そのフィードバックも学習支援システムで各学生に返信する。質問及びそれに対する回答も学習支援システムを利用する。資料も利用する。授業のプリントは「古庄浩明の講義ノート」(<https://wacoffee.blogspot.com/>)から各自ダウンロードして使用する。プロテクトを掛けてあり、プロテクトキーは授業で知らせる。
毎回授業後に小レポートの提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概要と方法・評価基準
第2回	考古学とは何か	考古学の本質
第3回	古代日本における考古学的認識	考古学的営為を試みた先人たち
第4回	近世日本における学術的展開	近代科学につながる学術的な先駆者たち
第5回	ヨーロッパ考古学の展開	古典考古学と先史考古学
第6回	層位学と型式学	学術的方法の整備
第7回	近代科学として導入された考古学	外国人による近代の考古学的営為
第8回	人種・民族論争と記紀	近代考古学を担った日本人研究者たち
第9回	実証主義研究の展開	貝塚研究と編年学派
第10回	戦時体制と考古学	言論統制と考古学
第11回	戦後考古学の光と影（1）	岩宿遺跡と登呂遺跡
第12回	戦後考古学の光と影（2）	大規模開発と遺跡破壊
第13回	現代と考古学（1）	関連諸科学と考古学
第14回	現代と考古学（2）	文化財保護行政と考古学

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日本考古学の発達史の内容を含んでいるため、参考書等をよく読み、考古学についての知見を深めておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

古庄浩明 2021『第2版 考古学の世界－初めて考古学を勉強する方のために』三恵社
ISBN 978-4-86693-380-1 C1020 定価 1650 円（本体 1500 円＋税 10 %）

【参考書】

佐々木憲一ほか（2011）『はじめて学ぶ考古学』有斐閣アルマ、勅使河原彰（1995）『日本考古学の歩み』名著出版、岩波書店刊『岩波講座日本考古学』（全9巻）

【成績評価の方法と基準】

授業内の課題にもとづく小レポートによる評価を50%とし、期末試験による評価を50%とする。

【学生の意見等からの気づき】

プリント類を利用した解説、板書、映像投影など多様な方法を用いて講義するので、しっかりと対応すること。

【学生が準備すべき機器他】

ネット環境とデバイス（パソコン・スマホ・パッドなど）資料配布・課題提出等のために学習支援システム等を利用する。

【その他の重要事項】

本科目は資格課程の関連科目としても公開しており、史学科以外の受講者も受け入れているが、史学科の専門科目としての難易度を有する科目であるので、特に他学部・他学科の受講者は考古学に関する概説書等を読んでおくことを推奨する。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to learn about archeology research methods and history.

日本考古学

古庄 浩明

配当年次／単位：2～4 年次／2 単位

開講時期：秋学期授業/Fall

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本列島の旧石器時代から奈良時代に至る歴史展開の中で、中国や朝鮮半島との交流を中心に獲得した各種の生産技術や社会制度を理解することを目標とする。考古学資料にもとづく交流と技術の歴史学的説明がテーマである。

【到達目標】

物質文化としてとりあげる各種の技術の系譜と展開を説明することができる。各種の技術の意義について解説することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

日本列島における原始・古代の生産と技術について考え、生産活動を支える技術の進화가列島史にどのような影響を与えてきたのか学ぶ。授業は講義形式で行う。状況によってはオンデマンド型の授業となる可能性もある。資料配布・課題提出・フィードバック等は学習支援システム等を利用する。具体的には、学習支援室システムに課題を提出していただき、そのフィードバックも学習支援システムで各学生に返信する。質問及びそれに対する回答も学習支援システムを利用する。資料も利用する。授業のプリントは各自「古庄浩明の講義ノート」(<https://wacoffee.blogspot.com/>) からダウンロードして使用する。プロテクトを掛けてあり、プロテクトキーは授業で知らせる。毎回授業後に小レポートの提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	概要説明	授業の概要と方法・評価基準
第 2 回	旧石器時代（1）	列島の文化形成の前提となる石器製作技術
第 3 回	旧石器時代（2）	後期旧石器時代の石刃技法と細石刃技法
第 4 回	縄文時代（1）	縄文土器の起源と製作
第 5 回	縄文時代（2）	縄文時代の生業技術
第 6 回	弥生時代（1）	稲作の伝播と展開
第 7 回	弥生時代（2）	青銅器の生産
第 8 回	弥生時代（3）	木器・木製品の生産
第 9 回	弥生時代（4）	玉作の技術と対外交流
第 10 回	古墳時代（1）	古墳時代前期の対外交流
第 11 回	古墳時代（2）	須恵器生産の開始
第 12 回	古墳時代（3）	製鉄・冶金・彫金
第 13 回	奈良時代	正倉院宝物の国際性
第 14 回	原始・古代の技術革新	全体のふりかえりと講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書・参考書等をよく読み、時代の流れを理解するとともに、考古学によって検討される交流史についての知見を深めておくこと。

期末試験を課すので、それに関する資料の渉猟と読み込みを行うこと。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

古庄浩明 2013『第 2 回改訂版「日本」のはじまり－考古学からみた原始・古代』和出版

ISBN978-4-9906476-0-5 C1021 定価 3300 円（本体 3000 円＋税 10 %）

【参考書】

白石太郎編（2002）『日本の時代史 1 倭国誕生』吉川弘文館
 鈴木靖民編（2002）『日本の時代史 2 倭国と東アジア』吉川弘文館
 石川日出志（2010）『農耕社会の成立 シリーズ日本古代史 1』岩波新書
 吉村武彦（2010）『ヤマト王権 シリーズ日本古代史 2』岩波新書
 大津透ほか編（2013）『岩波講座日本歴史 第 1 巻 原始・古代 1』岩波書店

【成績評価の方法と基準】

授業内の課題にもとづく小レポートによる評価を 50 % とし、期末試験による評価を 50 % とする。

【学生の意見等からの気づき】

物質文化を扱う科目なので、概念的な理解のみでなく、物質資料そのものやその歴史的意義に対する理解も大切にしたい。受講者は博物館等や美術館において（環境が整わない場合には HP 等も活用して）考古学資料や美術資料に触れ、物質資料に対する感覚を十分に養ってほしい。

授業内容をわかりやすくするため、実物資料の写真や図面をまじえた画像の投影によって授業を進める。オンライン授業となった場合も同様である。画像や配付資料をもとに要領よくノートを作成し、学習を進める必要があることを念頭に置いてほしい。

【学生が準備すべき機器他】

ネット環境とデバイス（パソコン・スマホ・パッドなど）資料配布・課題提出等のために学習支援システム等を利用する。

【その他の重要事項】

本科目は資格課程の関連科目として公開しており、史学科以外の受講者も受け入れているが、史学科の専門科目としての難易度を有する科目であるので、特に他学部・他学科の受講者は考古学に関する概説書等を読んでおくことを推奨する。

【Outline and objectives】

The aim of this class is to learn the technologies and social systems that Japan has introduced from mainland China and Korean Peninsula.

日本考古学

古庄 浩明

配当年次／単位：2～4 年次／2 単位

開講時期：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本列島の旧石器時代から奈良時代に至る歴史展開の中で、中国や朝鮮半島との交流を中心に獲得した各種の生産技術や社会制度を理解することを目標とする。考古学資料にもとづく交流と技術の歴史学的説明がテーマである。

【到達目標】

物質文化としてとりあげる各種の技術の系譜と展開を説明することができる。各種の技術の意義について解説することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

日本列島における原始・古代の生産と技術について考え、生産活動を支える技術の進화가列島史にどのような影響を与えてきたのか学ぶ。授業は講義形式で行う。状況によってはオンデマンド型の授業となる可能性もある。資料配布・課題提出・フィードバック等は学習支援システム等を利用する。具体的には、学習支援室システムに課題を提出していただき、そのフィードバックも学習支援システムで各学生に返信する。質問及びそれに対する回答も学習支援システムを利用する。資料も利用する。授業のプリントは各自「古庄浩明の講義ノート」(<https://wacoffee.blogspot.com/>) からダウンロードして使用する。プロテクトを掛けてあり、プロテクトキーは授業で知らせる。毎回授業後に小レポートの提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	概要説明	授業の概要と方法・評価基準
第 2 回	旧石器時代（1）	列島の文化形成の前提となる石器製作技術
第 3 回	旧石器時代（2）	後期旧石器時代の石刃技法と細石刃技法
第 4 回	縄文時代（1）	縄文土器の起源と製作
第 5 回	縄文時代（2）	縄文時代の生業技術
第 6 回	弥生時代（1）	稲作の伝播と展開
第 7 回	弥生時代（2）	青銅器の生産
第 8 回	弥生時代（3）	木器・木製品の生産
第 9 回	弥生時代（4）	玉作の技術と対外交流
第 10 回	古墳時代（1）	古墳時代前期の対外交流
第 11 回	古墳時代（2）	須恵器生産の開始
第 12 回	古墳時代（3）	製鉄・冶金・彫金
第 13 回	奈良時代	正倉院宝物の国際性
第 14 回	原始・古代の技術革新	全体のふりかえりと講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書・参考書等をよく読み、時代の流れを理解するとともに、考古学によって検討される交流史についての知見を深めておくこと。

期末試験を課すので、それに関する資料の渉猟と読み込みを行うこと。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

古庄浩明 2013『第 2 回改訂版「日本」のはじまり－考古学からみた原始・古代』和出版

ISBN978-4-9906476-0-5 C1021 定価 3300 円（本体 3000 円＋税 10 %）

【参考書】

白石太郎編（2002）『日本の時代史 1 倭国誕生』吉川弘文館

鈴木靖民編（2002）『日本の時代史 2 倭国と東アジア』吉川弘文館

石川日出志（2010）『農耕社会の成立 シリーズ日本古代史 1』岩波新書

吉村武彦（2010）『ヤマト王権 シリーズ日本古代史 2』岩波新書

大津透ほか編（2013）『岩波講座日本歴史 第 1 巻 原始・古代 1』岩波書店

【成績評価の方法と基準】

授業内の課題にもとづく小レポートによる評価を 50 % とし、期末試験による評価を 50 % とする。

【学生の意見等からの気づき】

物質文化を扱う科目なので、概念的な理解のみでなく、物質資料そのものやその歴史的意義に対する理解も大切にしたい。受講者は博物館等や美術館において（環境が整わない場合には HP 等も活用して）考古学資料や美術資料に触れ、物質資料に対する感覚を十分に養ってほしい。

授業内容をわかりやすくするため、実物資料の写真や図面をまじえた画像の投影によって授業を進める。オンライン授業となった場合も同様である。画像や配付資料をもとに要領よくノートを作成し、学習を進める必要があることを念頭に置いてほしい。

【学生が準備すべき機器他】

ネット環境とデバイス（パソコン・スマホ・パッドなど）資料配布・課題提出等のために学習支援システム等を利用する。

【その他の重要事項】

本科目は資格課程の関連科目として公開しており、史学科以外の受講者も受け入れているが、史学科の専門科目としての難易度を有する科目であるので、特に他学部・他学科の受講者は考古学に関する概説書等を読んでおくことを推奨する。

【Outline and objectives】

The aim of this class is to learn the technologies and social systems that Japan has introduced from mainland China and Korean Peninsula.

美術史（日本）A

稲本 万里子

配当年次／単位：3～4 年次／2 単位

開講時期：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、平安時代後期に制作された絵巻を取りあげ、基礎知識を説明するとともに、どのような技法と表現法が使われているのか解説し、制作年代や注文主などの諸問題を検討する。

この授業の目的は、視覚表象（ヴィジュアル・イメージ）をさまざまな角度から分析する手法を知るために、絵巻を鑑賞し、技法と表現法を理解し、美術史研究の現況を把握することである。

【到達目標】

授業で取りあげた絵巻の基礎知識を修得し、技法と表現法について説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式でおこなう。はじめに、美術史と絵巻についての概説をおこなう。次に、平安時代後期に制作された「源氏物語絵巻」「信貴山縁起絵巻」「伴大納言絵巻」を取りあげ、基本的な事柄を説明する。毎回教室備えつけの液晶プロジェクターを使用して、スライドを映写しながら、どのような技法が用いられ、どのような表現がなされているか説明するので、映写時はノートをとることよりも、スライドをじっくり見てもらいたい。そのうえで、制作年代や注文主などの諸問題を検討する。その際、ジェンダーやクラスの視点から注文主の権力や幻想、欲望を読み解く新しい美術史学（ニュー・アート・ヒストリー）の方法を紹介する。授業で紹介する手法を用いて、現代の我々を取り巻く視覚表象の問題についても考えてもらいたい。質問はコメントペーパーで受けつける。翌週の授業開始時に答え、皆でシェアする。筆記試験の結果と優秀レポートは、成績提出後に講評をおこなう。

また、現在私たちが作品を鑑賞する場のひとつになっている「展覧会」というイベントについて考えるために、授業期間中に開催されている日本美術の展覧会を紹介し、美術館・博物館が現在抱えている問題点を指摘するので、展覧会場に足を運んでもらいたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、美術史概説	授業内容の説明、美術史の研究方法・ジャンル・時代区分
第 2 回	絵巻概説	絵巻の形態、鑑賞法
第 3 回	「源氏物語絵巻」Ⅰ	「源氏物語絵巻」概説
第 4 回	展覧会の見方	独立行政法人化と指定管理者制度の問題
第 5 回	「源氏物語絵巻」Ⅱ	「源氏物語絵巻」柏木第一段～御法段
第 6 回	「源氏物語絵巻」Ⅲ	「源氏物語絵巻」の情景選択法、竹河第一段～東屋第二段
第 7 回	「源氏物語絵巻」Ⅳ	「源氏物語絵巻」蓬生段・関屋段、諸問題の検討
第 8 回	「信貴山縁起絵巻」Ⅰ	「信貴山縁起絵巻」概説
第 9 回	「信貴山縁起絵巻」Ⅱ	「信貴山縁起絵巻」飛倉巻、延喜加持巻、尼公巻
第 10 回	「信貴山縁起絵巻」Ⅲ	「信貴山縁起絵巻」諸問題の検討、レポートの書き方
第 11 回	「伴大納言絵巻」Ⅰ	「伴大納言絵巻」概説

第 12 回 「伴大納言絵巻」Ⅱ 「伴大納言絵巻」上巻～下巻、諸問題の検討

第 13 回 授業のまとめⅠ 筆記試験の説明

第 14 回 授業のまとめⅡ 各作品の相違点

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備・復習時間は各 2 時間を標準とする。授業後、作品と作品名が一致するように、各自で参考図版を見ておくこと。ただし「源氏物語絵巻」については、『源氏物語』の内容を講義する時間がないので、あらかじめ物語のあらすじを把握しておくことが望ましい。参考書に記した『すぐわかる源氏物語の絵画』が便利。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。毎回スライドとプリントを使って進める。

【参考書】

入門書として、田口榮一監修、稲本万里子・木村朗子・龍澤彩『すぐわかる源氏物語の絵画』（東京美術、2009）、稲本万里子『源氏の系譜—平安時代から現代まで』（森話社、2018）、佐野みどり『じっくり見たい『源氏物語絵巻』』（小学館、2000）、泉武夫『躍動する絵に舌を巻く 信貴山縁起絵巻』（小学館、2004）、黒田泰三『思いつき味わいつくす伴大納言絵巻』（小学館、2002）。

各作品についての参考図版、参考文献は授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期末の筆記試験 80 %、コメントペーパー 20 %。

筆記試験は、基礎知識を習得しているか否かを判断する。ただし、筆記試験の点数の 1/4 をレポート点に代えることもできる。レポートの提出は任意。レポートの内容については授業中に説明する。

【学生の意見等からの気づき】

前年度とは授業内容が異なるので、確認のうえ受講すること。教室の設備にかなする苦情は受けつけない。

【学生が準備すべき機器他】

毎回教室備えつけの液晶プロジェクターを使用して、スライドを映写する。対面授業の場合は、学生が準備すべき機器はない。

【その他の重要事項】

時間配分により、実際の授業では順序や内容が変わることがある。

【Outline and objectives】

This course introduces the basics of narrative scroll study to students taking this course.

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the analysis method of visual image.

美術史（日本）B

稲本 万里子

配当年次／単位：3～4 年次／2 単位

開講時期：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、平安時代後期から鎌倉時代に制作された絵巻を取りあげ、基礎知識を説明するとともに、どのような技法と表現法が使われているのか解説し、制作年代や注文主などの諸問題を検討する。秋学期は、どのような社会がどのような視覚表象（ヴィジュアル・イメージ）を作り出したのかという問題に重点をおいて講義を進める。

この授業の目的は、視覚表象をさまざまな角度から分析する手法を知るために、絵巻を鑑賞し、技法と表現法を理解し、美術史研究の現況を把握することである。

【到達目標】

授業で取りあげた絵巻の基礎知識を修得し、技法と表現法について説明することができる。

どのような社会がどのような視覚表象を作り出したのか説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式でおこなう。はじめに、美術史と絵巻についての概説をおこなう。次に、平安時代後期から鎌倉時代に制作された絵巻を取りあげ、基本的な事柄を説明する。毎回教室備えつけの液晶プロジェクターを使用して、スライドを映写しながら、どのような技法が用いられ、どのような表現がなされているか説明するので、映写時はノートをとることよりも、スライドをじっくり見てもらいたい。そのうえで、制作年代や注文主など、視覚表象と社会をめぐる諸問題を検討する。その際、ジェンダーやクラスの視点から注文主の権力や幻想、欲望を読み解く新しい美術史学（ニュー・アート・ヒストリー）の方法を紹介する。授業で紹介する手法を用いて、現代の我々を取り巻く視覚表象の問題についても考えてもらいたい。質問はコメントペーパーで受け付ける。翌週の授業開始時に答え、皆でシェアする。筆記試験の結果と優秀レポートは、成績提出後に講評をおこなう。

また、現在私たちが作品を鑑賞する場のひとつになっている“展覧会”というイベントについて考えるために、授業期間中に開催されている日本美術の展覧会を紹介し、美術館・博物館が現在抱えている問題点を指摘するので、展覧会場に足を運んでもらいたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、美術史概説	授業内容の説明、美術史の研究方法、ジャンル、時代区分
第 2 回	絵巻概説	絵巻の形態、鑑賞法
第 3 回	「鳥獣人物戯画」	「鳥獣人物戯画」の鑑賞と検討
第 4 回	「病草紙」	「病草紙」の鑑賞と検討
第 5 回	似絵	似絵作品の鑑賞と検討
第 6 回	「華嚴宗祖師絵伝」	「華嚴宗祖師絵伝」の鑑賞と検討
第 7 回	「北野天神縁起絵巻」	「北野天神縁起絵巻」の鑑賞と検討
第 8 回	「平治物語絵巻」	「平治物語絵巻」の鑑賞と検討
第 9 回	「男衾三郎絵巻」	「男衾三郎絵巻」の鑑賞と検討、レポートの書き方
第 10 回	「一遍聖絵」	「一遍聖絵」の鑑賞と検討

第 11 回 「春日権現験記絵巻」 「春日権現験記絵巻」の鑑賞と検討

第 12 回 「伊勢物語絵巻」 「伊勢物語絵巻」の鑑賞と検討

第 13 回 授業のまとめⅠ 筆記試験の説明

第 14 回 授業のまとめⅡ 様式の展開と各作品の相違点

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備・復習時間は各 2 時間を標準とする。授業後、作品と作品名が一致するように、各自で参考図版を見ておくこと。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。毎回スライドとプリントを使って進める。

【参考書】

入門書として、若杉準治編『絵巻物の鑑賞基礎知識』（至文堂、1995）、榎原悟監修、佐伯英里子・内田啓一『すぐわかる絵巻の見かた』（東京美術、2004）。

各作品についての参考図版、参考文献は授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期末の筆記試験 80 %、コメントペーパー 20 %。

筆記試験は、基礎知識を習得しているか否かを判断する。ただし、筆記試験の点数の 1/4 をレポート点に代えることもできる。レポートの提出は任意。レポートの内容については授業中に説明する。

【学生の意見等からの気づき】

前年度とは授業内容が異なるので、確認のうえ受講すること。教室の設備にかんする苦情は受けつけない。

【学生が準備すべき機器他】

毎回教室備えつけの液晶プロジェクターを使用して、スライドを映写する。対面授業の場合は、学生が準備すべき機器はない。

【その他の重要事項】

時間配分により、実際の授業では順序や内容が変わることがある。

【Outline and objectives】

This course introduces the basics of narrative scroll study to students taking this course.

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the analysis method of visual image.

民俗学 I

室井 康成

配当年次／単位：2～4 年次／2 単位

開講時期：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本民俗学の創始者・柳田国男（1875 - 1962）の研究歴に沿いながら、民俗学の基礎を学ぶ。柳田の生涯は、西南戦争前の明治の初年から、アジア太平洋戦争後の高度経済成長期にまで及ぶ。言わば日本近代を凝縮した人生とも言えるわけで、その経歴に沿いながら、柳田が「民俗」に着目した動機とその社会背景を明らかにし、そこから彼が「民俗」の研究を通じて構想した社会像を考える。

【到達目標】

「民俗」とは、いったい何だろう。民俗芸能・民俗文化財・民俗宗教など、この語を冠した言葉は多用されているが、ここで言う「民俗」とは、私たちの日常生活のあり方を規定する文化的な事象を指している。しかし所与のものではなく、「近代」という時代状況の中で発見されたものである。その「民俗」が、何ゆえその時代に、いかなる契機によって発見されたのか。本講義では、「民俗」および「民俗学」を理解する前段階として、日本における民俗学の創始者・柳田国男の思想と学問を手掛かりとして、この問題を理解し、併せて現代を生きる私たちにとって、「民俗」の何が問題なのかということを考える視座を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

対面による講義形式にて行ないますが、今後の社会情勢の変化に応じてオンライン授業に切り替わった場合は、zoom による同期配信で講義を行ないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	本講義全体の趣旨を説明します。
第 2 回	DVD『柳田国男—民俗の心を探る旅』の視聴と解説	柳田国男の生涯を描いた映像作品を視聴し、その特徴と問題点を指摘します。
第 3 回	生い立ちと貧困問題	柳田の民俗学構想には彼が幼少時に見聞した原体験があるとされ、その事例を確認します。
第 4 回	関西から関東への転居	柳田が幼少時に経験した関西から関東への転居が、その後の民俗学に与えた影響を考えます。
第 5 回	恋愛抒情詩人から農政官僚へ	柳田は学生時代、後に高名な文学者となる友人を多く持ちました。彼らとの交流が後の民俗学に与えた影響を考えます。
第 6 回	近代化論と農業政策論	柳田は大学卒業後、農商務省の高級官僚となります。その職務を通じて彼が披歴した近代観・農業観の特徴を確認します。
第 7 回	『遠野物語』を読む（1）	柳田が官僚時代に刊行した『遠野物語』の学史的な位置づけを押さえます。
第 8 回	『遠野物語』を読む（2）	具体的に『遠野物語』を通読し、そこから読み取れる柳田の思想を考えます。
第 9 回	政策課題としての「民俗」の発見	柳田の中で発見された「民俗」は、どのような性格のものであったのかを確認します。
第 10 回	ジャーナリストへの転向と大正デモクラシー	柳田は官僚を辞した後、ジャーナリストになりました。その時代の世相と彼の思想との関連性を考えます。
第 11 回	民俗学の組織化と柳田国男の孤立	柳田はジャーナリストとして活動しつつ民俗学の体系化を目指します。その過程で起きた問題点の学史的意味を考えます。
第 12 回	日本の敗戦と新たな民俗学構想	柳田は日本の戦争を止められなかったのは、自身を含めた知識人の力不足だったと考えました。柳田は民俗学を通じてどのような社会貢献をしようとしていたのかを考えます。
第 13 回	「公民」養成論としての民俗学へ	戦後の柳田は、民俗学の目的を「公民の養成」と宣言しました。その意味を検討し、民俗学とは何かを考えます。
第 14 回	試験と総括	本講義を総括し、受講生諸氏の理解度を机上試験で測ります。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義では毎回教員がレジュメを配布するので、そこに記された参考文献については通読しておくこと。また授業外の学習は、上記参考文献を用いた予習・復習（2 時間程度）のほか、個々の学生の日常生活の中に散見される「民俗」的な事象・問題に気配りし、それらを学問的に考える姿勢を求めます（随時）。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし。毎回教員においてレジュメを作成し、配布します。

【参考書】

室井康成『柳田国男の民俗学構想』（森話社）

その他は、授業時に配布するレジュメで紹介いたします。

【成績評価の方法と基準】

最終授業時に課すりポート。その内容のみで成績を判定します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

zoom による同期配信を行ないますので、受講可能な機器をご準備ください。

【その他の重要事項】

本科目に関わる情報は、講師の Twitter (@ MuroiKosei) でも発信しますので、「学習支援システム」での情報とあわせて、ご確認ください。

【Outline and objectives】

In this class, you will learn about the history and characteristics of Japanese folklore-studies. Since the concept of folklore varies from country to country, this lesson will accurately learn the concept of "folklore" used in Japan.

民俗学Ⅱ

室井 康成

配当年次／単位：2～4 年次／2 単位

開講時期：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

多くの日本人の加齢の過程で行なわれる「七五三」「成人式」が、どのように形成されたのかを民俗学の立場から考えていく。具体的には、今日私たちが「当たり前」「常識」と考える事象が形成されるに至った歴史的要因・背景を明らかにし、今後の「民俗」との付き合い方を展望する。

【到達目標】

「民俗 (folklore)」とは伝承的知識の総体と考えてよいが、その特質ついて、日本人にとって身近な人生儀礼である「七五三」および「成人式」を例に検討する。これらの行事は、多くの履修生にとって父母世代も経験したものであるため、これを行なうのが「当たり前」だと考えられがちだが、その「当たり前」という感覚がある程度一般化したのは、そう古いことではない。本講義では、それらの成立史を踏まえ、「民俗」の相対化を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

対面による講義形式で行ないますが、今後の社会情勢の変化に応じてオンライン授業に切り替わった場合は、zoom による同期配信で講義を行ないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	本講義全体の説明をしますので、履修希望者は必ず参加のこと。
第 2 回	「民俗」の概説	民俗および民俗学について概説します。
第 3 回	前近代の歳祝い「髪置き」「袴着」「帯解き」	明治維新以前に行なわれていた歳祝いについて概説します。
第 4 回	明治維新と都市住民の急増	急激な都市化が民俗文化に与えた影響を考えます。
第 5 回	「規範」の希求と商業主義の相乗	「七五三」が成立した社会的背景を考えます。
第 6 回	民法の制定と「民俗」との乖離	民法の制定により、それまで地域によって異なっていた成人年齢や「大人」の意識が、どのように変わったのかを概観します。
第 7 回	日清・日露戦争と「民俗」的意識の変容	対外戦争の勝利は、日本の「伝統」の発見にもつながります。それが「七五三」などの行事に与えた影響を考えます。
第 8 回	さまざまな成人儀礼（その 1）- 参考映像視聴	映像に記録された多様な成人儀礼を学びます。
第 9 回	さまざまな成人儀礼（その 2）- 全国の事例の比較	日本各地で行なわれていた多様な成人儀礼を比較することで、見えてくる課題を考えます。
第 10 回	「国民儀礼」の創出と地方文化の整除	もともと多種多様であった歳祝いや成人儀礼が、同一のものへと整除された背景を考えます。
第 11 回	「成人式」の起源は元服か？	今日の「成人式」の起源となる戦前の「成年式」から、その意義を考えます。
第 12 回	自治体主催「成人式」の当初の目的	戦後に始まった自治体主催による成人式の背景を考えます。
第 13 回	「七五三」「成人式」の全国化の背景	「七五三」や「成人式」を全国化させた「力」は何かを考えます。
第 14 回	行きたくない人の声に耳を傾ける	「七五三」や「成人式」への参加を苦痛と感じる人もいます。その人たちに対する答えも、学問が提示する必要があります。そのことを、ともに考えたいと思います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義では適宜教員がレジュメを配布するので（学習支援システムの授業ページにアップロード）、そこに記された参考文献については通読しておくこと。また授業外の学習は、参考文献の通読や関連するウェブサイトの閲覧などを通じて予習・復習（2 時間程度）を行なってください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。適宜教員においてレジュメを作成し、配布します。

【参考書】

室井康成『事大主義-日本・朝鮮・沖縄の「自虐と侮蔑」』（中公新書）

鳥村恭則『みんなの民俗学-ヴァナキュラーって何だ?』（平凡社新書）
岩本通弥ほか編『民俗学の思考法——（いま・ここ）の日常と文化を捉える』（慶応義塾大学出版会）
その他、講義時に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

学期終了時に課すレポート。その内容のみで成績を判定します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン講義（zoom）を受講可能な機器。

【その他の重要事項】

本科目の開講情報は、学習支援システムのほか、講師の Twitter(@MuroiKosei) でも発信しますので、大学からの情報と併せてご確認ください。

【Outline and objectives】

In this class, we will consider from the standpoint of folklore how the "Shichigosan" and "coming-of-age ceremony" that are held in the process of aging for many Japanese people.

博物館概論

金山 喜昭

配当年次／単位：1～4 年次／2 単位

開講時期：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教育や学術、文化施設としての博物館について理解し、その社会的な役割や意義を学ぶ。

【到達目標】

博物館に関する基礎的な知識を修得することをめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

博物館学やその歴史を概観した上で、博物館の定義（種類、目的、機能など）を示す。さらに日本と海外の博物館の歴史や現状を説明するとともに、学芸員論や博物館法、関連法令などを取り上げる。最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。大学行動方針レベルが2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	博物館とは何か？ 博物館の定義などについて概説する。
第 2 回	ミュージアムの誕生	西洋の博物館の歴史について解説する。
第 3 回	日本の博物館史	日本の博物館の歴史について解説する。
第 4 回	博物館学史	博物館学の学史を概観する。
第 5 回	博物館の制度（博物館法と関連法令）	博物館法ならびに関連する法律・制度について解説する。
第 6 回	博物館の分類	博物館の種類・設置者・対象にする領域など、多角的に博物館を分類して定義する。
第 7 回	日本の博物館の現状	博物館に関する統計データから博物館の現状と課題を解説する。
第 8 回	博物館の資料論	博物館が取り扱う資料について解説する。
第 9 回	博物館機能論	資料の収集、整理保管、調査研究、教育普及など、博物館の特徴的な機能について説明する。
第 10 回	博物館と地域社会 I	地域と市民生活にとって博物館が果たす役割や可能性を解説する。
第 11 回	博物館と地域社会 II	各種の地域博物館の事例を取り上げ、その理念と現状について解説する。
第 12 回	博物館と災害	博物館学芸員による特別講義 現代の災害のリスク管理について解説する
第 13 回	学芸員の役割	博物館で働く専門職としての学芸員の仕事について解説する。
第 14 回	総括	授業内容を総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の授業で取り上げた事例について、自主的に文献や現地調査をするなどして裏づけ作業をする。
東京国立博物館、国立科学博物館、国立美術館（国立西洋美術館、国立近代美術館等）はキャンパスメンバーであるために常設展を無料で見学できるので活用すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

金山 喜昭『博物館学入門』（慶友社、2003）

【参考書】

金山 喜昭『日本の博物館史』（慶友社、2001）

金山 喜昭『公立博物館を NPO に任せたら - 市民・自治体・地域の連』（同成社、2012）

金山 喜昭『博物館と地方再生 - 市民・自治体・企業・地域との連携 -』（同成社、2017）

【成績評価の方法と基準】

平常点（宿題提出）（40 %）

課題レポート（60%）

【学生の意見等からの気づき】

授業で不明な点は積極的に質問してください。

【Outline and objectives】

This course aims to understand “What is a museum? as a cultural facility and learn its social role and significance.

博物館概論

金山 喜昭

配当年次／単位：1～4 年次／2 単位

開講時期：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教育や学術、文化施設としての博物館について理解し、その社会的な役割や意義を学ぶ。

【到達目標】

博物館に関する基礎的な知識を修得することをめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

博物館学やその歴史を概観した上で、博物館の定義（種類、目的、機能など）を示す。さらに日本と海外の博物館の歴史や現状を説明するとともに、学芸員論や博物館法、関連法令などを取り上げる。最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。大学行動方針レベルが2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	博物館とは何か？ 博物館の定義などについて概説する。
第 2 回	ミュージアムの誕生	西洋の博物館の歴史について解説する。
第 3 回	日本の博物館史	日本の博物館の歴史について解説する。
第 4 回	博物館学史	博物館学の学史を概観する。
第 5 回	博物館の制度（博物館法と関連法令）	博物館法ならびに関連する法律・制度について解説する。
第 6 回	博物館の種類	博物館の種類・設置者・対象にする領域など、多角的に博物館を分類して定義する。
第 7 回	日本の博物館の現状	博物館に関する統計データから博物館の現状と課題を解説する。
第 8 回	博物館の資料論	博物館が取り扱う資料について解説する。
第 9 回	博物館機能論	資料の収集、整理保管、調査研究、教育普及など、博物館の特徴的な機能について説明する。
第 10 回	博物館と地域社会 I	地域と市民生活にとって博物館が果たす役割や可能性を解説する。
第 11 回	博物館と地域社会 II	各種の地域博物館の事例を取り上げ、その理念と現状について解説する。
第 12 回	博物館と災害	博物館学芸員による特別講義 現代の災害のリスク管理について解説する
第 13 回	学芸員の役割	博物館で働く専門職としての学芸員の仕事について解説する。
第 14 回	総括	授業内容を総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の授業で取り上げた事例について、自主的に文献や現地調査をするなどして裏づけ作業をする。
東京国立博物館、国立科学博物館、国立美術館（国立西洋美術館、国立近代美術館等）はキャンパスメンバーであるために常設展を無料で見学できるので活用すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

金山 喜昭『博物館学入門』（慶友社、2003）

【参考書】

金山 喜昭『日本の博物館史』（慶友社、2001）

金山 喜昭『公立博物館を N P O に任せたら - 市民・自治体・地域の連』（同成社、2012）

金山 喜昭『博物館と地方再生 - 市民・自治体・企業・地域との連携 -』（同成社、2017）

【成績評価の方法と基準】

平常点（宿題提出）（40 %）

課題レポート（60%）

【学生の意見等からの気づき】

授業で不明な点は積極的に質問してください。

【Outline and objectives】

This course aims to understand “What is a museum? as a cultural facility and learn its social role and significance.

博物館経営論

金山 喜昭

配当年次／単位：2～4 年次／2 単位

開講時期：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生は、博物館の経営上の課題を解決していくためのスキルを習得することを目的に、博物館経営についての基本知識と日本の博物館の経営の現状と課題について学習します。

【到達目標】

日本の博物館が急増し始めた 1970 年代・80 年代とグローバル化が進み、社会構造が大きく変化しつつある現在とでは、博物館の経営環境は大きく変化しています。この変化に伴い、博物館に求められている役割や期待も、大きく変わりつつあります。受講生は、博物館の経営環境の変化と博物館に期待されている社会的役割について理解を深め、環境の変化に対応し、社会の期待に応える博物館となるために必要な博物館経営（ミュージアム・マネジメント）の考え方を習得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

博物館経営に関する基本事項について講義し、受講生には、博物館を視察した成果を踏まえてレポートを提出してもらいます。受講生のリアクションペーパー等でのコメントや授業内容に即した課題レポートは、授業で取りあげ、講義内容の理解を深めるために活用します。大行行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンスー博物館経営の基本コンセプトと博物館の業種特性、博物館の経営資源を中心に	博物館の経営（マネジメント）の重要性が強調されるようになった背景、博物館経営の基本コンセプト、博物館の業種特性、博物館の経営資源について学習する。
2	博物館の目的・使命（ミッション）・事業計画、評価・改善の取組について	博物館の使命がどのように設定されているかについて学習する。また、使命を達成する上で、事業の計画・実施・評価・改善からなる PDCA サイクルを機能させることの重要性について理解を深める。
3	経営資源から見た日本の博物館の現状	博物館の経営資源（ヒト・モノ・カネ・経営力）に着目して、我が国の博物館の現状（経営資源が乏しい館が多いこととその背景）について学習する。
4	博物館の課題と国の博物館政策の動向	日本の博物館の抱える課題と国の博物館政策の動向について学習する。
5	博物館におけるマーケティングについて	マーケティングは、博物館の経営戦略を構築する上で基本的なツールである。マーケティングの基本コンセプトとマーケティングを活用した博物館経営について学習する。
6	博物館の広報活動ー現状と課題	博物館の広報活動の現状と求められている広報戦略（ブランド戦略を含む）について学習する。
7	博物館の支援組織と他の組織との連携・協力ー現状と課題	博物館の支援組織（友の会・後援会）とボランティアについて学習する。経営資源を豊かにするために必要な他の組織との連携・協力の現状と課題について学習する。
8	博物館経営におけるイノベーションについて	博物館経営には、イノベーションが求められている。博物館のイノベーションの事例を取り上げ、イノベーションが可能となる条件を探る。
9	国立博物館の経営ー現状と課題	独立行政法人制度の下で運営されている国立博物館を中心に、国立博物館の現状について学習する。外国の代表的な博物館と日本の国立博物館の経営状況を比較し、国立博物館の経営上の課題について学習する。
10	公立博物館の経営ー現状と課題	公立博物館の行財政制度、指定管理者制度、地方独立行政法人制度、国の公立博物館に関する政策について学習する。

11	私立博物館の経営ー現状と課題	私立博物館の成立事情に触れながら、私立博物館の特徴と課題、国の支援策について学習する。
12	博物館の利用者サービス施設と施設設備の諸問題について	利用者サービス施設（ミュージアムショップ、レストラン・カフェ）と施設設備に係わる諸問題（老朽化対策、バリアフリー）について学習する。
13	博物館の倫理規程・行動規範について	博物館活動において倫理上問題になった事例を取り上げ、博物館の倫理規程・行動規範の意義・内容について学習する。
14	博物館における危機管理について・授業のまとめ	博物館が直面する様々な危機と危機への対応の在り方（危機管理）について学習する。最後に、授業のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生の皆さんは、博物館経営の観点から博物館を観察・分析するマインドと方法を身につけてください。教科書と参考図書は、講義内容の理解を深めていく上で欠かせないものです。他の学芸員資格科目の学習にも役に立つものを選んでいきますので、積極的に読んでください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書「転換期における博物館経営」（金山喜昭編、同成社、2020 年 4 月 22 日発行、価格 2,700 円+税）を使用します。また、教科書で言及していない内容は、資料を授業支援システムに掲載します。

【参考書】

①ミュージアム・マーケティング、F・コトラー、N・コトラー、第一法規、②マネジメント、P. F. ドラッカー、ダイヤモンド社、③ミュージアムが都市を再生する、上山信一・稲葉郁子、日本経済新聞社、④公立博物館を NPO に任せたら、金山喜昭著、同成社、⑤博物館と地方再生、金山喜昭著、同成社、⑥思想としてのミュージアム、村田麻里子、人文書院、⑦文部科学省の社会教育調査（https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/chousa02/shakai/）、⑧その他（授業中に適宜紹介します）

【成績評価の方法と基準】

博物館経営についての理解の度合いを判定するため、レポートにより評価します。レポートの配分は、①授業期間中の指摘した時期に提出す課題レポート（授業時に示す課題から5題を選択して提出）が 50%、②第 14 回授業時に提出する課題レポートが 50%です。②の課題レポートは、i 指定した教科書、講義内容から出題するもの又は ii（新型コロナウイルス感染症がおさまらず、博物館の見学に支障がない状況になれば）特定の博物館に関する経営分析に関するもの、2つの何れかを選択してもらいます。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の皆さんの授業理解が深まるよう進行速度を調整しながら講義します。授業内容に不明な点がある時には、質問をしてください。質問には、授業支援システムを使って回答します。また、授業環境に問題があると感じた場合には、その都度指摘してください。

【学生が準備すべき機器他】

教材の配付や諸連絡は、授業支援システムで行います。各回の授業の前後に必ず支援システムにアクセスをしてください。

【その他の重要事項】

この科目は、学芸員資格を取得する上で必要な科目の一つです。学芸員資格の取得は目指さなくても、博物館経営に関心のある方の受講も念頭に置いて、授業を進行していきます。①疑問、質問、ご意見は、授業への参画のための重要なツールで、授業を面白くする上でも重要な役割を果たします。②博物館を理解する上では、“歩く・見る・聞く”そして“考える”がセットになった行動が必要不可欠です。皆さんの博物館体験を深化させてください。講義は、博物館での勤務経験を踏まえて、博物館現場の姿を伝えることに力点を置きたいと思えます。

【Outline and objectives】

Students will learn basic knowledge about museum management and the current state and issues of museum management in Japan, and aim to acquire skills to solve the management issues of museums.

博物館経営論

金山 喜昭

配当年次／単位：2～4 年次／2 単位

開講時期：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博物館の経営の現状とその課題や改善に学ぶ。

【到達目標】

博物館の適切な管理・運営について理解するとともに、博物館経営（ミュージアム・マネジメント）に関する基礎的能力と応用力を養うことを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

博物館や美術館の運営形態や運営に関する基礎的知識に加えて、組織管理・経営戦略・経営評価について学ぶ。実際の博物館の経営調査・報告発表等のグループワークを通じて、博物館経営に関する理解を深める。最終授業では、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。大学行動方針レベルが2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	博物館経営とは何か？	授業ガイダンスに加え、博物館・美術館を「ミュージアム経営」の視点から考える必要性を概説する。「ミュージアム・マネジメント」の概念の理解。
第 2 回	博物館の経営基盤	博物館の経営基盤について概説する。特に、組織体や職種のほか、関連する行財政制度や人材育成面について、その特徴を解説する。
第 3 回	博物館経営の現状Ⅰ（公立博物館）	公立博物館について、財務管理、施設・設備・職員体制などの運営面をはじめ、施設・設備や近年の経営動向について解説する。
第 4 回	博物館経営の現状Ⅱ（民間博物館）	民間博物館について、財務管理、施設・設備・職員体制などの運営面をはじめ、施設・設備や近年の経営動向について解説する。
第 5 回	博物館の使命・社会的役割Ⅰ	博物館の社会的使命、行動規範・倫理ならびにリスク・マネジメント（危機管理）やコンプライアンスについて解説する。
第 6 回	博物館調査に入るためのガイダンス	博物館の経営調査をグループ・ワークで進めるための準備作業。調査から発表に至るまでの方法・プロセスや留意点を説明する。
第 7 回	博物館の使命・社会的役割Ⅱ	博物館の社会的使命、行動規範・倫理ならびにリスク・マネジメント（危機管理）やコンプライアンスについて解説する。
第 8 回	独立行政法人博物館、地方独立行政法人博物館の経営と課題	東京国立博物館・国立科学博物館、地方独立行政法人の経営状態と課題や展望について解説する。
第 9 回	博物館行政と博物館経営	博物館経営に関する制度を解説する。
第 10 回	インバウンド観光と博物館経営	博物館経営における観光の考え方や展望について解説する。
第 11 回	博物館における連携・ネットワーク	博物館における連携・ネットワークについて説明する。特に「博物館とまちづくり」「地域と市民生活」「キャリア開発」の視点からボランティア活動など市民参画の事例を扱う。
第 12 回	博物館経営調査Ⅰ（調査・分析）	実際にグループワークで博物館の経営状況について調査・分析し、その成果をまとめる。
第 13 回	博物館経営調査の実際（報告／討議）	グループワークで調査・分析した成果を発表・報告し、各事例について相互に討議・解説する
第 14 回	本授業の総括	本授業の内容を総括する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の授業で取り上げた事例について、自主的に文献や現地調査をするなどして裏づけ作業をする。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

金山喜昭 編『転換期の博物館経営』（同成社、2020）

【参考書】

金山喜昭『博物館と地方再生』（同成社、2017）

【成績評価の方法と基準】

平常点（40 %）、レポート課題（60 %）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業で不明な点は積極的に質問してください。

【Outline and objectives】

This course aims to learn the present conditions of museum management and consider its problems and improvement plans.

博物館資料論

田中 裕二

配当年次／単位：1～4 年次／2 単位

開講時期：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博物館活動の根幹をなす「資料」について、まずその特質や多様性を、さまざまな理論や具体例にもとづいて把握する。そのうえで、博物館資料が「収集」され、「保存」され、「研究」に活用され、「展示」「公開」に供される過程を概観し、博物館活動における資料の意味や役割を理解する。

【到達目標】

博物館を、「資料」という観点から理解することをめざす。「博物館資料」という概念が成立した背景、資料の収集や登録のプロセス、保存のありかた、さらには資料の閲覧や展示を通じた教育活動の現状や課題について、具体例にもとづきながら学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

配布プリントやパワーポイント、映像等を用いた講義形式で行われる。学生の積極的な参加を促すために、グループ・ディスカッションや課題のプレゼンテーション等も適宜実施する。また最低一度は、博物館でのフィールド調査を課す予定。提出されたレポートはコメントを付けて返却すると共に、授業内で取り上げ課題とコメントを共有する。

大学行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	博物館学における博物館資料論の位置づけについて説明し、講義の見取図を示す。
第 2 回	博物館資料の概念	博物館資料という考え方が形成されてきた背景を概観する。
第 3 回	博物館の一次資料	博物館の一次資料について具体的に学ぶ。
第 4 回	博物館の二次資料	博物館の二次資料について具体的に学ぶ。
第 5 回	博物館資料の収集	資料収集の理念や目的について考える。
第 6 回	博物館資料の整理	収集した資料の記録、登録、整理等のプロセスを学ぶ。
第 7 回	博物館資料の公開	資料を公開することの意義や多様な手法について学ぶ。
第 8 回	博物館資料の展示	さまざまな資料の展示のありかたを概観する。
第 9 回	博物館資料の保存	資料の保存や管理の手法について学ぶ。
第 10 回	博物館資料と調査研究	博物館における調査研究と資料の関係について考える。
第 11 回	調査研究の公開	博物館資料にもとづく研究成果を公開する意義について考える。
第 12 回	市民と博物館資料	地域資源と博物館資料の関係について考える。
第 13 回	博物館資料の活用	学校教育や生涯学習、地域活性など、博物館資料の活用の可能性について考える。
第 14 回	まとめとふりかえり	半期を通して学んできた内容をふりかえり、博物館資料についての理解を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業に関連した事例を各自で調べておくこと。授業内で活発な議論となるよう発言を促します。また、学期の途中で実際に博物館を訪れ、その成果をもとにレポートを課す予定です。レポート課題作成のため若干の入館料が発生する可能性があります。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しないが、ほぼ毎回、プリント資料を配布します。

【参考書】

授業時に関連する文献について紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業の参加度（ディスカッションの姿勢や課題の成果など）： 50 %

期末試験（論述）： 50 %

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は完全オンラインだったため、コミュニケーションが取りにくかったが、今年度はオンデマンドと対面のハイブリッドを予定しており、活発な意見交換を期待したい。

【Outline and objectives】

Students will understand museums from the viewpoint of their materials and collection. They will see how the idea of museum materials and collection has been formed, and then study through concrete examples the process of collecting and registering materials, the way of conservation and the current state and issues of educational activities by way of exhibiting materials.

博物館資料論

田中 裕二

配当年次／単位：1～4 年次／2 単位

開講時期：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博物館活動の根幹をなす「資料」について、まずその特質や多様性を、さまざまな理論や具体例にもとづいて把握する。そのうえで、博物館資料が「収集」され、「保存」され、「研究」に活用され、「展示」「公開」に供される過程を概観し、博物館活動における資料の意味や役割を理解する。

【到達目標】

博物館を、「資料」という観点から理解することを旨とする。「博物館資料」という概念が成立した背景、資料の収集や登録のプロセス、保存のありかた、さらには資料の閲覧や展示を通じた教育活動の現状や課題について、具体例にもとづきながら学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

配布プリントやパワーポイント、映像等を用いた講義形式で行われる。学生の積極的な参加を促すために、グループ・ディスカッションや課題のプレゼンテーション等も適宜実施する。また最低一度は、博物館でのフィールド調査を課す予定。提出されたレポートはコメントを付けて返却すると共に、授業内で取り上げ課題とコメントを共有する。大学行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	博物館学における博物館資料論の位置づけについて説明し、講義の見取図を示す。
第 2 回	博物館資料の概念	博物館資料という考え方が形成されてきた背景を概観する。
第 3 回	博物館の一次資料	博物館の一次資料について具体的に学ぶ。
第 4 回	博物館の二次資料	博物館の二次資料について具体的に学ぶ。
第 5 回	博物館資料の収集	資料収集の理念や目的について考える。
第 6 回	博物館資料の整理	収集した資料の記録、登録、整理等のプロセスを学ぶ。
第 7 回	博物館資料の公開	資料を公開することの意義や多様な手法について学ぶ。
第 8 回	博物館資料の展示	さまざまな資料の展示のありかたを概観する。
第 9 回	博物館資料の保存	資料の保存や管理の手法について学ぶ。
第 10 回	博物館資料と調査研究	博物館における調査研究と資料の関係について考える。
第 11 回	調査研究の公開	博物館資料にもとづく研究成果を公開する意義について考える。
第 12 回	市民と博物館資料	地域資源と博物館資料の関係について考える。
第 13 回	博物館資料の活用	学校教育や生涯学習、地域活性など、博物館資料の活用の可能性について考える。
第 14 回	まとめとふりかえり	半期を通して学んできた内容をふりかえり、博物館資料についての理解を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業に関連した事例を各自で調べておくこと。授業内で活発な議論となるよう発言を促します。また、学期の途中で実際に博物館を訪れ、その成果をもとにレポートを課す予定です。レポート課題作成のため若干の入館料が発生する可能性があります。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しないが、ほぼ毎回、プリント資料を配布します。

【参考書】

授業時に関連する文献について紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業の参加度（ディスカッションの姿勢や課題の成果など）：50%

期末試験（論述）：50%

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は完全オンラインだったため、コミュニケーションが取りにくかったが、今年度はオンデマンドと対面のハイブリッドを予定しており、活発な意見交換を期待したい。

【Outline and objectives】

Students will understand museums from the viewpoint of their materials and collection. They will see how the idea of museum materials and collection has been formed, and then study through concrete examples the process of collecting and registering materials, the way of conservation and the current state and issues of educational activities by way of exhibiting materials.

博物館教育論

渡邊 祐子

配当年次／単位：1～4 年次／2 単位

開講時期：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、ミュージアムにおける教育活動の理念、活動の基礎となる学習理論、国内外のミュージアムの具体的な事例に関する講義を通して、ミュージアムの教育的な役割と意義について理解を深めます。

【到達目標】

実際のミュージアムの利用体験と照らし合わせながら講義の内容について理解を深め、ミュージアムの教育活動に必要なとされる基礎的能力を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業は、講義と演習によって構成されます。また、授業内での発表や調べ学習の他、場合によってはアクションペーパーの提出があります。提出された課題等に対しては、授業内でフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	本授業の目的、進め方、計画、評価などの概要について説明します。
第 2 回	博物館教育とは何か	ミュージアムとは何か、“博物館教育” (museum education) とは何かについて学びます。また、なぜミュージアムにおいて教育が重視されるようになったのか、歴史をたどりながら理解していきます。
第 3 回	博物館教育の学習理論	ミュージアムでの学びにみられる特徴について、学校教育などとの比較をふまえて理解していきます。
第 4 回	教育資源としての展示	ミュージアムでの実物教授の学び (object-based learning) について理解し、教育的な活用事例を見ていきます。
第 5 回	展示見学	ミュージアムの展示を見学し、調べ学習をします。
第 6 回	ミュージアムと来館者をつなぐ①	ミュージアムの資料や展示を生かしたプログラムの実践事例を知り、プログラムの企画・立案のプロセスについて学びます。
第 7 回	ミュージアムと来館者をつなぐ②	ミュージアムが教育活動のために作成している教材やウェブなどの媒体、アーカイブの事例を知り、制作のプロセスを学びます。
第 8 回	ミュージアムと来館者をつなぐ③	ミュージアムで活躍する市民（アート・コミュニケータ）の役割と活動について学びます。
第 9 回	ワークショップ体験	ミュージアムで実践されているワークショップと同じ内容の活動を授業内で体験します。
第 10 回	プログラム・メイキング①	教育プログラムを立案するためのプロセスを理解したところで、グループごとに与えられたテーマに沿った企画を考えます。
第 11 回	プログラム・メイキング②	グループごとに与えられたテーマに沿った企画内容を考え、企画案を作成します。
第 12 回	グループ発表①	グループごとに作成した企画案を発表します。(前半)
第 13 回	グループ発表②	グループごとに作成した企画案を発表します。(後半)
第 14 回	まとめと試験	ミュージアム教育の意義や課題について、授業を通して得られた知見を整理・確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業では、ミュージアムの見学や、その体験をもとにしたプログラム案の企画・発表を予定しています。そのため、授業内容と合わせて各館のホームページを閲覧して多様な教育プログラムについての知識を深めたり、授業内で紹介する博物館教育に関する報告書、文献等を読んだりするための、準備学習及び課題が適宜課されます。

授業外の準備・復習時間は、2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布します。

【参考書】

J.H. フォーク・L.D. ディアーキング『博物館体験』（雄山閣出版）

G.E. ハイン『博物館で学ぶ』（同成社）ほか、授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 %と、期末試験 50 %（グループ発表及び試験）を合計して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

担当初年度のため、特にありません。

【Outline and objectives】

In this class, you will learn the philosophy and learning theory of museum education. And also you will deepen your understanding of the educational role and significance of museums through concrete examples of museums at home and abroad.

博物館教育論

渡邊 祐子

配当年次／単位：1～4 年次／2 単位

開講時期：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ミュージアムにとって教育とは何か。その活動の経緯や基となる理論を学び、さまざまな実践例を通して、ミュージアムの教育活動について理解を深める。

【到達目標】

- ①ミュージアムの教育活動の意味、意義について理解できる。
- ②ミュージアムでの教育活動が多様であることや、地域社会との関わりについて理解を深めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

美術館や博物館、水族館などさまざまなミュージアムでの教育普及プログラムの事例を紹介しながら、ミュージアムにおける教育について考えを深める。受講生それぞれのミュージアム体験も紹介しあう。

リアクションペーパーなどによる感想や質問などについては、授業のなかで紹介したり、答えていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ミュージアム教育の現在	現在、ミュージアムにおいて教育活動がどのように展開されているのかを概観する。た、その目的や方法で実践・研究が行われてきたのかを概説する。（授業のガイダンスを含む）
第 2 回	ミュージアムの利用とミュージアム体験	受講生の博物館体験や利用実態を振り返ってもらい、利用者の博物館体験が構成されていくプロセスを説明する。
第 3 回	ミュージアムでの「学び」	教育学などの先行研究の知見を紹介しながら、人が学ぶとは何を意味するのかを考える。学校教育との違いや受講生自らの学びを振り返る。
第 4 回	ミュージアム教育の意義と理念	日本および諸外国で展開されてきた博物館教育の意義や理論について解説する。
第 5 回	生涯学習の場としてのミュージアム	美術館での学び、ワークショップ生涯学習として行われている博物館活動とその課題について解説する。
第 6 回	地域やコミュニティに根差したミュージアムの教育活動①	自然史系博物館での学び① 地域やコミュニティに根差した博物館で展開されている教育活動に着目する。特徴的な事例を解説しながら、必要とされる活動の具体像を考える。
第 7 回	地域やコミュニティに根差したミュージアムの教育活動②	自然史系博物館での学び② さまざまな地域博物館における学びから、考える。
第 8 回	地域やコミュニティに根差したミュージアムの教育活動③	学校と連携したミュージアム教育の事例。学校教育との違い、また学校教育と連携することの意味や課題について考える。
第 9 回	動物園・水族館での学び	動物園や水族館での教育プログラムや展示を紹介し、教育の場としての動物園、水族館について考える。
第 10 回	ミュージアム教育的活動の手法	ミュージアム・エデュケーターについて知る。どのようなことが求められるのかなど、日本での実情を概説する。
第 11 回	ミュージアムの利用と学び	ミュージアムは社会的包摂の役割を担う。その意味で教育活動は重要であることを理解する。
第 12 回	ミュージアム教育の実際	ミュージアムで教育プログラムを実践している方をゲストに招き、活動を紹介・解説してもらう。
第 13 回	ミュージアムグッズとミュージアム教育	ミュージアムグッズの教育的効果を考える。ミュージアムショップはもうひとつの教育の場であることを認識する
第 14 回	試験（まとめを含む）	授業内に試験を行う。 教科書を持ち込み可。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

いろいろなミュージアムに行き、展示だけでなく教育普及プログラムを見たり、参加したりしてみましょう。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

参考として、『博物館教育論』黒沢浩・編著（講談社）

【参考書】

雑誌「ミュゼ」のほか、授業で紹介します。

『博物館教育論』黒沢浩・編著（講談社）

【成績評価の方法と基準】

（出席数＋リアクションペーパー）（50%）＋レポート（30%）＋学期末試験（20%）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

「ミュゼ」というミュージアムの専門誌を編集してきました。取材や編集で得た情報や背景、今後の展望などについて、スライドや記事を使って紹介し、ともに考えていきます。

【Outline and objectives】

This course introduces the theory and the history of museum education by various case studies. The student will appreciate museum education deeply.

博物館資料保存論

今野 農

配当年次／単位：1～4 年次／2 単位

開講時期：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博物館における基本的な機能の1つである「資料保存」について学習する。代表的な資料の劣化要因や環境管理、さらに、歴史的・自然的環境の保護に対する博物館の役割について、学総的見地から理解を深める。講義を通じ、資料保存に関する基礎的な能力を身に付け、資料を将来へ継承していくことに対する意識の向上を目指す。

【到達目標】

講義の序盤では、主として材質や劣化要因、取扱いなど、「資料」に関する知識を習得する。中盤では、温湿度や生物等、資料を取り巻く「環境管理」に関する知識を習得する。終盤では、博物館外に立地する「地域資源の保護」に関する知識を習得する。これら一連の講義を総括して、資料の劣化やその展示・収蔵環境に関し、学芸員としての知識の基盤をつくる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

パワーポイントと配布資料による講義を中心とする。その他、サンプルや用具等を講義中に適宜回覧する。また、各回にリアクションペーパーの提出を課し、記載された重要な事項や質問については、各回の講義冒頭で取り上げて議論を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	博物館における資料保存の意義	学芸員資格課程における資料保存論の位置付けを明確化し、博物館における資料保存の意義について解説する。
第 2 回	資料の種類・材質と維持管理	主な資料の種類や材質の特性、および維持管理上の留意点について解説する。
第 3 回	資料の調査	資料の状態調査・現状把握の方法、代表的な分析機器について解説する。
第 4 回	資料の修復・保存処理	木材、金属等を素材とした資料について、修復や保存処理の方法について解説する。
第 5 回	資料の梱包・輸送	資料の輸送における保存上の留意点や梱包方法、材料等について解説する。
第 6 回	日本の伝統的保存法	日本の風土に根差して文化財を伝世してきた、伝統的保存方法について解説する。
第 7 回	博物館における環境管理・温湿度管理	資料保存における環境管理の概要、および温湿度による劣化とその対策について解説する。
第 8 回	有害物質管理と照明管理	汚染物質や光による劣化と保全対策について解説する。
第 9 回	有害生物管理	生物被害の種類、日本の代表的な害虫、I P M（総合的有害生物管理）について解説する。
第 10 回	災害と保全対策	災害の種類（火災、地震、水害、盗難等）と対策、復興支援等について解説する。
第 11 回	地域資源の保存・活用と博物館	地域資源の保存と活用等、地域全体を対象とする博物館の沿革と役割について解説する。

第 12 回	歴史的環境の保護と博物館	歴史的建造物や史跡等をはじめとする文化財の保護、および博物館の役割について解説する。
第 13 回	自然環境の保護と博物館	「種の保存」や環境教育等、自然環境の保護における博物館の役割について解説する。
第 14 回	まとめ・学芸員の役割	授業のまとめとして、資料保存に果たすべき学芸員の役割について解説する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

分野・専攻を問わず、様々な博物館へ頻繁に足を運ぶ。講義中に関心を持った点、理解が不足していた点は、文献を読むなどして知識を補っておく。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

・石崎武志・編著（2012.3）『博物館資料保存論』講談社
 ・国立文化財機構東京文化財研究所（2011.12）『文化財の保存環境』中央公論美術出版
 ・京都造形芸術大学（2002.4）『文化財のための保存科学入門』飛鳥企画

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー：70%（内、平常点 50%程度、各回コメント 20%程度）、最終試験：30%。

【学生の意見等からの気づき】

昨年のリアクションペーパーにおけるフィードバックから、講義内容について、詳細であったとの高評を得たため、この点は水準の維持に努める。一方で、難解であったとの反応については、より多くの学生が親しめるように努める。

【Outline and objectives】

This course provides students with a basic knowledge of preservation of the museum materials. The aria of this course is preservation of the museum materials, Environmental management for museum materials, and preservation of historic heritages and natural heritages.

博物館資料保存論

今野 農

配当年次／単位：1～4 年次／2 単位

開講時期：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学芸員資格を取得する際に必要な博物館における資料保存の基礎について学習する。資料を展示すると共に資料を保存（保全）する役割を、博物館は担っている。この相反する事柄を可能にする為に、資料に劣化や害を及ぼす要因、資料を展示及び保存する環境を適切に保つ為に土台となる知識を修得する。また、博物館は地域の文化財保護の担い手でもあることから、文化財の保存や活用等についても見ていきたい。

【到達目標】

博物館における資料の展示及び収蔵の環境を科学的に捉え、資料を良好な状態で保存していくための知識を習得することを通して、博物館資料の保存に関する基礎的能力を養う。

到達目標としては、博物館における資料保存及び資料の置かれる環境に関して科学的に分析できる為の基礎学力を身に付けることを目指す。次に、資料劣化の原因を把握し、対策を構築できる応用能力を育む為に、自ら考えることの重要度を理解し実行できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

- ・ppt による資料を提示しながら、実施する。
- ・その場での質問や意見を歓迎するが、できない場合は、リアクションペーパーに記載する。
- ・リアクションペーパーにおける質問は、内容に応じて、授業時、或いは、質問者に直接フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
講義	オリエンテーション	オンライン講義を履修する上の注意点や評価方法などの説明
講義	博物館資料とは何か・資料保存の意義	博物館が資料を蒐集し、保存することについて様々な角度からその意義について考える
講義	資料の梱包と輸送	資料の貸借等における調書の作成や輸送の手順及び保存上の留意点について
講義	保存の諸条件 1	資料を保存する環境について、劣化要因として温度と湿度に関して
講義	保存の諸条件 2	資料を展示する際の環境を中心に、劣化要因となる光、その他について
講義	文化財の保存と活用	文化財の保護から活用へ社会的な位置づけが大きく変わった中で、未来へ資料を受け継ぐ為の対策や課題を考えていく
講義	保存の諸条件 3	資料における生物の被害と、総合的病害虫管理（IPM：Integrated Pest Management）について
講義	収蔵と展示 1	博物館の収蔵と展示という、相反する環境下における資料保存について
講義	収蔵と展示 2	博物館の収蔵と展示という、相反する環境下における資料保存について、資料の取扱いを中心に見ていく
講義	自然災害と資料保存	災害の多い日本において、資料を守るための対策と被災後の対応について
ワークショップ	地域資源の保全と博物館の役割	地域の文化財保護における博物館の役割と、博物館の在るべき姿をみんなで考える。
ワークショップ	博物館の役割とは何か	前回のワークショップのまとめと発表。
講義	エコミュージアムとコミュニティ	ワークショップの講評及び地域資源の保全の事例を見ていく。
講義	まとめ	これまでの講義のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・原則、授業後にリアクションペーパーを提出してもらうが、その他については、必要に応じて告知する。
- ・本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは設定していない。授業はパワーポイント投影しながら進める。必要があれば、資料を配布予定。

【参考書】

『歴史を未来につなぐ：「3・11 からの歴史学」の射程』東京大学出版、2019 年 5 月
 金山喜昭『博物館と地方再生－市民・自治体・企業・地域との連携－』同成社、2017 年 3 月
 奥村弘・村井良介・木村修二『地域歴史遺産と現代社会（地域づくりの基礎知識 1）』神戸大学出版会、2018 年 1 月
 吉田 正人『世界遺産を問い直す』山と溪谷社、2018 年 8 月
 *その他、必要に応じて授業内で告知する。

【成績評価の方法と基準】

- ・講義終了後に、理解の程度を確認する為のリアクションペーパーを提出。小課題 50 % 期末課題 50 % にて評価する。
- *詳細は、第 1 回目の講義で説明する。

【学生の意見等からの気づき】

他の出席者との関係性が希薄になるという学生からの意見があったので、ワークショップを取り入れ、お互いに意見交換したり、共に何かを考える時間を設けながら進める予定である。

【Outline and objectives】

Students learn the basics of preservation of museum materials, which is necessary to obtain a curator's license. Museums are responsible for exhibition and preserving materials. In order to fulfill this contradictory role, the basic knowledge for the proper maintenance of deterioration and harmful factors, exhibition and preservation environment is acquired. In addition, since museums are responsible for the protection of local cultural properties, we would like to take a look at the preservation and utilization of cultural properties.

博物館展示論

渡邊 尚樹

配当年次／単位：1～4 年次／2 単位

開講時期：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「ミュージアム展示論」先人の様々な営みの中で生まれた芸術や学問の成果を観覧者に伝えるのは、どのような方法が効果的であるか展示論を通して学ぶ。

【到達目標】

1. 「博物館展示とは何か」を理解し、一般的な展示との違いが分かるようになる。
2. 博物館展示の様々な表現が出来るようになる。
3. 展示室を構成する展示ケースや展示台などの装置の特性を理解し展示空間をつくれるようになる。
4. 展示の芸術性や科学性が分かり、その展示方法が出来るようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

・授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
・人に伝える技術として広まった展示の歴史を知り、博物館という教育施設の中で、様々な表現メディアを駆使して、対象に応じて分かりやすく伝える展示方法について学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	展示とは何か	日本ディスプレイ略史について解説し、今日の博物館展示のあり方を学ぶ
2	展示とは何か	博物館展示の様々な諸類型を理解し、博物館展示はどのようにすべきかについて学ぶ
3	博物館における学び	生涯学習、学校との連携、展示と創造力、地域づくり、社会性についての展示を学ぶ
4	博物館における学び	展示と回想法、展示とコミュニケーション、展示教材、参加型展示について学ぶ
5	展示空間の構成	展示設計と建築設計、博物館をつくる流れ、展示シナリオ、展示空間の作り方学ぶ
6	展示空間の構成	展示ケース・展示台・展示具のありかた、動線計画と視線計画について学ぶ
7	展示の芸術性	展示の芸術性について表現方法を学ぶ
8	展示の芸術性	物語性・共感感動について展示の表現を学ぶ
9	展示の科学性	資料の保存と展示方法、展示照明と保存科学、公開承認施設について学ぶ
10	展示の科学性	エアタイトケース、収蔵庫、美術工芸品の保存と展示方法について学ぶ
11	展示の解説と造型	展示解説パネルの方法、映像解説について学ぶ
12	展示の解説と造型	模型・パノラマ・ジオラマ・人物模型について学ぶ
13	展示照明	照明計画の要点と課題、正しく見せる、照明演出のアート性、照明テクニックについて学ぶ
14	展示評価、博物館展示のまとめ	企画段階評価、形成的評価、総括的評価を学ぶ、最後に博物館展示のまとめを行い、講義で学んだ重要な点を再確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間に則り、配布の教科書の各項目を事前に読み、授業の説明を受けてより深い理解が出来るようにする。

【テキスト（教科書）】

里見親幸 「博物館展示の理論と実践」同成社

【参考書】

特に無し。

【成績評価の方法と基準】

授業参加度 30 %、レポート 30 %、試験 40 %で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

対面講義は再開するが、密にならないワークショップを考慮したい。

【学生が準備すべき機器他】

特に無し。

【Outline and objectives】

"Museum Exhibition Theory" Students learn through the exhibition theory what kind of method is effective to convey the results of art and learning.

博物館展示論

渡邊 尚樹

配当年次／単位：1～4 年次／2 単位

開講時期：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「ミュージアム展示論」先人の様々な営みの中で生まれた芸術や学問の成果を観覧者に伝えるのは、どのような方法が効果的であるか展示論を通して学ぶ。

【到達目標】

1. 「博物館展示とは何か」を理解し、一般的な展示との違いが分かるようになる。
2. 博物館展示の様々な表現が出来るようになる。
3. 展示室を構成する展示ケースや展示台などの装置の特性を理解し展示空間をつくれるようになる。
4. 展示の芸術性や科学性が分かり、その展示方法が出来るようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

・授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
・人に伝える技術として広まった展示の歴史を知り、博物館という教育施設の中で、様々な表現メディアを駆使して、対象に応じて分かりやすく伝える展示方法について学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	展示とは何か	日本ディスプレイ略史について解説し、今日の博物館展示のあり方を学ぶ
2	展示とは何か	博物館展示の様々な諸類型を理解し、博物館展示はどのようにすべきかについて学ぶ
3	博物館における学び	生涯学習、学校との連携、展示と創造力、地域づくり、社会性についての展示を学ぶ
4	博物館における学び	展示と回想法、展示とコミュニケーション、展示教材、参加型展示について学ぶ
5	展示空間の構成	展示設計と建築設計、博物館をつくる流れ、展示シナリオ、展示空間の作り方学ぶ
6	展示空間の構成	展示ケース・展示台・展示具のありかた、動線計画と視線計画について学ぶ
7	展示の芸術性	展示の芸術性について表現方法を学ぶ
8	展示の芸術性	物語性・共感感動について展示の表現を学ぶ
9	展示の科学性	資料の保存と展示方法、展示照明と保存科学、公開承認施設について学ぶ
10	展示の科学性	エアタイトケース、収蔵庫、美術工芸品の保存と展示方法について学ぶ
11	展示の解説と造型	展示解説パネルの方法、映像解説について学ぶ
12	展示の解説と造型	模型・パノラマ・ジオラマ・人物模型について学ぶ
13	展示照明	照明計画の要点と課題、正しく見せる、照明演出のアート性、照明テクニックについて学ぶ
14	展示評価、博物館展示のまとめ	企画段階評価、形成的評価、総括的評価を学ぶ、最後に博物館展示のまとめを行い、講義で学んだ重要な点を再確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間に則り、配布の教科書の各項目を事前に読み、授業の説明を受けてより深い理解が出来るようにする。

【テキスト（教科書）】

里見親幸 「博物館展示の理論と実践」同成社

【参考書】

特に無し。

【成績評価の方法と基準】

授業参加度 30 %、レポート 30 %、試験 40 %で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

対面講義は再開するが、密にならないワークショップを考慮したい。

【学生が準備すべき機器他】

特に無し。

【Outline and objectives】

"Museum Exhibition Theory" Students learn through the exhibition theory what kind of method is effective to convey the results of art and learning.

博物館実習 I

田中 裕二

配当年次／単位：2～4 年次／2 単位

開講時期：年間

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博物館の実務に関わる業務を実習する。

【到達目標】

博物館にかかわる実務を中心に学習しながら、学芸員としての心構えや技能を培うことを目的とする。学芸員の職務は多岐にわたるものであり、博物館の役割や機能に応じた活動が求められる。実務実習として、実際に資料を取り扱い、資料の観察・記録・整理・展示のほか、博物館運営に関わる実践的能力を身につける。将来、博物館などの文化施設のみならず、文化・教育関連、地域や NPO 等の分野でも活用できるスキルを養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

前期には大学のコレクションを用いた実務実習と教材製作を行う。後期には各種の資料の取り扱いや資料の製作を学ぶ。この授業では、博物館活動の基礎となる実習を行う。

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	事前指導	ガイダンスとして実習全体の事前指導に加え、「博物館学芸員という仕事・実務」に関して概説する。
第 2 回	博物館資料の取り扱い（実務実習のための指導）	博物館資料を取り扱う上での基礎知識、特に実資料（民芸玩具：風）に関する基礎知識と具体的な取扱手技・調査方法を解説する。
第 3 回	博物館資料の取り扱い I	資料（風）の整理・実測（1）
第 4 回	博物館資料の取り扱い II	資料（風）の整理・実測（2）
第 5 回	博物館資料の取り扱い III	資料（風）の整理・実測（3）
第 6 回	博物館資料の取り扱い IV	資料（風）の整理・実測（4）
第 7 回	博物館資料の取り扱い V	取り扱い資料（風）の整理・調査・観察・記録に至る成果を発表し、実務実習・調査研究の成果・考察について発表
第 8 回	博物館資料の取り扱い VI	博物館資料を取り扱う上での基礎知識、特に実資料（石器）に関する基礎知識と具体的な取扱手技・調査方法を解説する。
第 9 回	博物館資料の取り扱い VII	石器の調査・観察・記録（1）
第 10 回	博物館資料の取り扱い VIII	石器の調査・観察・記録（2）
第 11 回	博物館資料の取り扱い IX	石器の調査・観察・記録（3）
第 12 回	博物館資料の取り扱い X	石器の調査・観察・記録（4）
第 13 回	博物館資料の取り扱い XI	石器の調査・観察・記録（5）
第 14 回	博物館見学会	現地調査。東京及び近郊博物館での学芸員からの業務解説で実態理解。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

夏休み中に資料収集をすることや、篆刻はホームワークとする。

【テキスト（教科書）】

随時プリントなどを配布する。

【参考書】

随時プリントなどを配布する。

【成績評価の方法と基準】

出席と課題の提出によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業で不明な点は積極的に質問してください。

【その他の重要事項】

本授業は 25 名を上限とする。なお、初回の授業にて希望者を選考する。また見学会や授業の詳細は、授業内の指示および資格課程実習準備室の掲示などを留意すること。

【Outline and objectives】

This course aims to undertake a practicum for practical operations at the museum.

博物館実習 I

田中 裕二

配当年次／単位：2～4 年次／2 単位

開講時期：年間

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博物館学芸員として必要な実務に係る諸技能を実習で学ぶ。

【到達目標】

博物館に係る実務に則しながら、学芸員としての心得や技能を培うことを目的とする。学芸員の職務は多岐にわたるが、その中でも資料の取り扱い方や、資料の記録・整理・展示を中心に、博物館運営に関わる実践的な能力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

昨年度はオンラインと対面のハイブリッド授業であったが、今年度は対面を予定している。お知らせや課題、リアクションペーパーは、原則学習支援システムを通じて行う。常に Hoppii を確認しておくこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	事前指導	実習全体の事前指導を行うガイダンス。博物館学芸員の仕事・実務について概観する。
第 2 回	博物館資料の取り扱い（実務実習のための指導）	博物館資料を取り扱う上での基礎知識、特に実資料（民芸玩具：風）に関する基礎知識と具体的な取扱手技・調査方法を解説する。
第 3 回	博物館資料の取り扱い I	資料（風）の整理・実測（1）
第 4 回	博物館資料の取り扱い II	資料（風）の整理・実測（2）
第 5 回	博物館資料の取り扱い III	資料（民具）の整理・実測（1）
第 6 回	博物館資料の取り扱い IV	資料（民具）の整理・実測（2）
第 7 回	博物館資料の取り扱い V	取り扱い資料の整理・調査・観察・記録に至る成果を発表し、実務実習・調査研究の成果・考察について発表
第 8 回	博物館資料の取り扱い VI	博物館資料を取り扱う上での基礎知識、特に資料に関する基礎知識と具体的な取扱手技・調査方法を解説する。
第 9 回	博物館資料の取り扱い VII	文書類の調査・観察・記録（1）
第 10 回	博物館資料の取り扱い VIII	文書類の調査・観察・記録（2）
第 11 回	博物館資料の取り扱い IX	文書類の調査・観察・記録（3）
第 12 回	博物館資料の取り扱い X	文書類の調査・観察・記録（4）
第 13 回	博物館資料の取り扱い XI	文書類の調査・観察・記録（5）
第 14 回	博物館見学会	実地調査。東京及び関東近郊の博物館で学芸員から解説を受け、実態を理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

夏休み期間中に資料の収集調査をしてもらいます。実地調査に必要な旅費交通費や入館料など各自の負担となります。収集調査した結果は授業内で発表してもらい予定です。詳細については授業内で周知します。

【テキスト（教科書）】

随時プリントなどを配布する。

【参考書】

随時プリントなどを配布する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（50 %）と課題の提出（50 %）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

不明な点は積極的に質問してください。

【その他の重要事項】

本授業は 25 名を上限とする。なお、初回の授業で希望者を選考する。また見学会や授業の詳細は授業内で指示するが、資格課程実習準備室の掲示、学習支援システムなどを随時確認すること。

【Outline and objectives】

This course aims to undertake a practicum for practical operations at a museum.

博物館実習Ⅱ

小西 雅徳

配当年次／単位：2～4 年次／2 単位

開講時期：年間

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博物館は奥の深い世界です。学芸員のスタンスとして博物館活動の花形である企画展実施過程の手法を学んでいきます。日本の博物館ではコレクションの関係や館規模、組織等の問題から、集客性に重点を置いた企画展を重視する傾向があります。これは世界的にみても特異な現象ですが、企画展は学芸員を志す者にとって最も興味深い分野ですので、学生各人の企画力やグループ討議を通じて企画展実施のノウハウを学びながら、博物館の裏方を支える学芸員の世界をのぞいてみましょう。

【到達目標】

日本の博物館活動では企画展あるいは特別展と呼ばれる集客性を重視した企画が必要とされます。そのため学芸員も企画展を前提に活動することが求められています。企画展を実施するには、多様な価値観や専門性に加え基本となる企画展実施の工程・過程を学ぶ必要があり、この授業では1年間を通じて企画展実施までの様々な手法やその時々の流行を捉え、博物館現場の実際をシミュレーションして学んでいきます。博物館学という基礎能力の構築と同時に豊かな企画展創造への個人々のスタイルと発想力を引き出していきます。個人の企画力に加え、グループワークとしての企画展を構想・発表し企画展実施計画への到達点を確認します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業内容は、前期と後期を通じて①博物館展示の意義、②企画展実施の工程と手順、③学生個人々の企画展案発表、④グループ企画展発表とし、適宜配布資料により授業を進めていきます。前期は主として講義形式ですが博物館の展示状況をスライドで紹介し、後期は各人の企画展発表やグループ発表準備にあてます。企画力を高め、大規模展で主流となりつつあるプロジェクト体制をグループワークを通じて模擬体験します。発表はパワーポイントとなります。レポート課題を随時課していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 博物館展示と学芸員の世界観	授業の狙いや課題提示について説明します。学芸員の心得や実情を紹介しします。
第2回	博物館展示の時代的、地域的変遷推移と日本と海外の企画展の違いについて	博物館の始まりと展示の種類・手法について、特に常設展と企画展との違いを比較検証しつつ、海外と日本の学芸員のスタイルについて紹介します。
第3回	企画展プロセス①－企画展を考える種の探し方とは？	企画展実施までの工程手順－その1－展示のための素材探し、種・ヒントの探し方を考える。
第4回	企画展プロセス②－話題となった企画展を分析してみる	企画展実施までの工程手順－その2－成功した企画展例を基に、自分なりにシミュレーションしてみる。
第5回	スライド（海外博物館の展示状況）	欧米博物館・美術館の展示状況をスライドで解説します。
第6回	展示構想と企画書 企画展を構想する①	展示構想の内容と要点について説明し、企画書に盛り込む内容を整理する。課題として企画書を作成準備する。
第7回	展示設営（展示レイアウト－展示導線と照明計画	展示レイアウト－展示導線と照明計画について説明する。パワポ資料提示。
第8回	レポート課題	前回までの展示の進め方を参考に自分が取り組んでみたい企画展を構想し提出してください。
第9回	展示解説パネル、キャプション作成や効果的な演出力について	学芸員が存在する理由の一つは解説者、説明者であり、また作文者であること。ライターとしての学芸員像を提示する。
第10回	展示小道具とサイン計画	常備すべき展示小道具や新たに発注する小道具について考える。またサイン作成も重要。
第11回	展示図録・パンフレット等の作成手順及び情報端末導入について	展示図録・パンフレット等の作成手順。大規模展示では音声ガイド等の様々な情報媒体が導入されている。その取り組み方考える。
第12回	借用交渉と調査	学芸員の力量は資料を見る目と同時に、借用交渉の態度にも表れる。資料をみて調査を作成する。

第13回 企画展発表Ⅰ①

各回10名程度に分け、パワポ5枚程度を作成し発表する。

第14回 企画展発表Ⅰ②

パワポ5枚程度を作成し発表する。発表終了後、後期の発表課題について事前説明を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。企画展発表のためにはいろいろな展示会への見学参加を希望します。レポート課題を最低3回程度課します。最新の展示状況を俯瞰し自分の企画展発表のシーズ（種）を探してください。

【テキスト（教科書）】

特に指定はしませんが、展示論に関する本には目を通してください。テキストは随時授業時に配布します。

【参考書】

特別展図録や展示論関係本を参考図書として推薦します。

【成績評価の方法と基準】

出席7割以上確認の上、成績を課題発表等から評価する。学生自身のオリジナリティを評価したいと考えています。積極的な発言者を評価する共に、自由な発想力を評価します。後期に行われるグループ発表に欠席した場合には成績を評価しないこともあります。前期の出席や評価については適宜課題等を通じて確認していきます。

【学生の意見等からの気づき】

机上討議なので、企画展本来の面白さをどれだけ伝えられるか心配ですが、このスタイルの授業はそれなりに学生からも評価されていると考えています。後期のグループワークは総じて楽しいとの評価がある一方で、仲間を形成できない学生の姿を時々散見しますので、授業に問題があった場合は遠慮なく声をかけて欲しいです。

【学生が準備すべき機器他】

グループ討議では☑を用意していただきます。個人用に加え、必要があれば貸し出しも用意します。情報共有として☑を活用してほしいですが、最近ではスマートフォンでやり取りするケースも多く、実際その使用を認めています。

【その他の重要事項】

特にありません。

【Outline and objectives】

Learn how to organize exhibitions at the museum. In the first half the lesson, you will learn various steps based on the text. In the second half, we will organize a group and present a special exhibition. At the same time, learn about the differences between the world and Japan in their approach to museum activities.

博物館実習Ⅱ

小西 雅徳

配当年次／単位：2～4 年次／2 単位

開講時期：年間

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

展覧会は博物館学芸員の主たる活動の一つです。この授業では展覧会の企画からフライヤー（展覧会チラシ）の制作までを通して、学芸員の仕事の実際について学び、資料の活用方法や展示に関する技術の習得を目指します。

【到達目標】

この授業では、展覧会の企画から実施までのプロセスを理解し、その上で受講生自らが展覧会を立案して展覧会の企画書にまとめ、最終的にそれをフライヤー（展覧会チラシ）として完成させ、発表するまでを到達目標とします。この授業を履修することによって、展覧会活動に必要な知識や技術などの習得が可能となることでしよう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

学習支援システムを通して「資料配信型」の授業を進めていきます。当該の授業回のねらいや目的を提示しますので、受講生は配布した資料を読み、また場合によっては参考動画を視聴し、各自の考えを課題（レポート）にまとめてもらいます。なお、その際に受講生の皆さんからの質問等に答えたり、レポートへのフィードバックを行いたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の内容や目的、その進め方について説明する
2	博物館と学芸員	博物館の使命や意義、学芸員の役割やその仕事について解説する
3	日本における博物館の歩み	展覧会の歴史を紐解きながら、日本において博物館がどのように発展していったのかを解説する
4	公立博物館の活動紹介	東京国立博物館の概要と収蔵する資料について紹介する
5	私立博物館の活動紹介	日本民藝館の歴史とその概要について紹介する
6	博物館資料の収集と活用について	日本民藝館が所蔵するアイヌ資料を紹介し、併せて博物館における収集（蒐集）について考える
7	博物館資料の保存と調査研究について	日本民藝館で実施された韓国文化財の共同調査を通して、文化財返還問題について考える
8	海外における博物館の歴史と活動の紹介	海外における博物館の歴史を紐解きながら、大英博物館の概要について紹介する
9	企画展の開催とその意義について	企画展の歴史やその意義、そして開催方法などについて解説する
10	展覧会実施までのプロセス①	展覧会（企画展）の立案から企画書の作成までの過程を解説する
11	展覧会実施までのプロセス②	出品交渉などの準備から展覧会実施までの過程を解説する
12	展覧会企画書の作成に向けて	展覧会実施までのプロセスを理解した上で、企画書の作成方法や注意点について解説する
13	展覧会企画書の作成	企画展示の企画書を実際に作成してみる
14	13 回目に統合	同上

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博物館に関する学問は現場から生まれたものです。受講生各位は積極的に多くの展覧会を見学するなど、日頃から意識して様々な博物館施設を利用するよう心掛けて下さい。

【テキスト（教科書）】

レジュメを授業中に配布します。

【参考書】

必要に応じて講義中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

春学期の課題「企画書の作成と発表」の評価 40 %、秋学期の課題「フライヤー（展覧会チラシ）の制作と発表」の評価 60 %

【学生の意見等からの気づき】

受講生同士の積極的な意見交換がなされるよう、秋授業では各自が毎時間発言する機会を設けたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【Outline and objectives】

An exhibition which is one of the basic items of curator's activities.

In this lesson, from the planning of the exhibition to the production of the flyer, we aim to master the technique of utilizing the materials and the exhibition.

博物館実習Ⅲ

金山 喜昭

配当年次／単位：3～4 年次／2 単位

開講時期：年間

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマは、博物館の実務実習である。博物館で働く学芸員に触れることで、専門的で多様な技能を身につけることをめざす。

【到達目標】

博物館に関する基礎知識や基本的な技能をベースに、博物館での館務体験を通して、博物館の業務を理解するとともに、学芸員として求められる実践的な能力を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

受講前年度までに「博物館概論」、「博物館経営論」、「博物館資料論」、「博物館資料保存論」、「博物館展示論」、「博物館情報・メディア論」、「博物館教育論」、「博物館実習Ⅰ」、「博物館実習Ⅱ」の9科目全てを取得した者のみを対象に、2週間（10日間）以上の館務実習を実施する。

実習先としては、(1) 全国の博物館における館園実習コース及び(2) 法政大学博物館展示施設での展示実習コースを選択する。受け入れ先の博物館の都合により、実習日数が10日を満たない場合は、不足分を秋学期に学内での学芸員実務で補う。このほか、実習前後に計5回の事前（実習ガイダンス）・事後（実習発表会）の指導のほか、個別の面接指導・課題指導等を実施する（全員が対象）。

なお、新型コロナウイルス感染拡大の影響に伴い、今後の予定や、変更等が生じた場合は資格課程準備室等からメール等で連絡をする。

最終授業となる実習報告会では、実習のまとめや振り返りだけでなく、学芸員となるための準備や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
実習前①	事前指導	博物館実習Ⅲ（館務実習）の事前指導。概要、受講条件・年間スケジュール、受講及び応募に向けての準備学習を指導。
実習前②	事前指導	受講生の志望に即した実習計画の設定、応募施設の選択等に関する個別面談指導。
実習前③	事前指導	実習計画を踏まえた博物館学芸員実習希望登録書・身上書等の作成・提出。
実習前④	事前指導	「博物館実習Ⅲ」の履修登録手続等の確認、学内外実習の応募先の決定、実習計画・関連書類の整備。
実習前⑤	事前指導	博物館実習の事前指導。（実務実習の方針、実習にのぞむ心構え・姿勢、事前準備・予習事項）
実習中	館園実習（10日間）	現場の学芸員によるガイダンス等を行う。 学内実習の場合は担当教員によるガイダンスを行う。 ・実習館の見学、説明。 ・展示企画、準備、実施などを行う ・資料整理を行う。 ・教育普及活動。 ・実習授業の反省会。
実習後①	事後指導	事後指導ガイダンス。実習を終えての礼状、実習成果報告及びプレゼンテーションに関する指導。
実習後②	事後指導	実習成果・考察を明示した報告課題（実習日誌・実習レポート・年度報告書用レジュメ）とプレゼンテーション用電子資料のまとめ・提出。
実習後③	事後指導	受講者全員による実習成果の発表会。実習授業全体の振り返りと総評。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料を事前に読むこと。
実習する館を事前に下調べする。

【テキスト（教科書）】

資料を配布する。

【参考書】

随時指示する

【成績評価の方法と基準】

実習先での評価（50%）。
ガイダンスを含めた平常点（20%）
課題提出物（30%）

【学生の意見等からの気づき】

授業で不明な点は積極的に質問してください。

【その他の重要事項】

その他の重要事項

*第1回ガイダンス【受講準備】（前年度12月）

*個別指導【施設選択、希望実習館への問い合わせ、提出書類作成、応募】

*第2回ガイダンス【登録、学内・学外実習先の決定】（4月）

*第3回ガイダンス【事前指導】（7月）

*実地実習

*実習先への礼状の送付

*第4回ガイダンス【報告準備】（10月）

*事後指導・実習報告会および情報交換会（12月上旬に市ヶ谷キャンパスで開催予定）形式：各自制作のレジュメおよびパワーポイントによる成果発表。

なお、本講座に関する指示・通知に関しては、各ガイダンスならびに資格課程実習準備室の掲示板等で常に確認するようにしてください。

【学内実習】

学内実習の実務実習は、春学期（6月）及び秋学期（10月～11月）にそれぞれ10日間実施する。学外の各博物館の都合で実習日数が10日に満たない場合、不足分を秋学期の学内実習で補う。

【Outline and objectives】

The theme of this course is a practicum for practical operations at a museum. This course aims to learn communication skills as a member of society as well as professional and diverse skills by training with the professionals at a museum.

図書館情報学概論 I

丹 一信

配当年次／単位：2～4 年次／2 単位

開講時期：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

図書館に関する入門的講義として次の諸点を学習する。

- (1) 図書館の基本的機能（資料収集・組織・提供・保存機能）
- (2) 図書館の種類（国立・公共・大学・専門図書館の理念・制度・実態）
- (3) 図書館関係法規（図書館法ならびに関連法規）
- (4) 図書館員の役割（専門性と司書職制度、図書館の自由、図書館員の倫理綱領など）

【到達目標】

図書館情報学概論 I は、図書館司書課程の学修の入り口となる科目である。「図書館とはなにか」を学習することにより、司書課程の学修の全体像を把握することにもつながる。

本科目の到達目標は、

- ① 履修者が図書館の機能や社会における意義や役割について理解すること。
- ② 図書館の歴史と現状、
- ③ 館種別図書館と利用者のニーズ
- ④ 図書館職員の役割と資格
- ⑤ 類縁機関との関係などについて十分な理解を得ることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業はテキストを中心に、講義形式で進める。図書館司書課程の e-Learning システムである HULiC を活用しながら、図書館情報学に基礎的知識を総合的に理解できるように進める。

なお授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。リアクションペーパーは紙に限らず、電子媒体も使用します。

初回授業のガイダンスは重要です。出席してください。なお、初回授業はリアルタイムのオンライン授業の予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス	授業ガイダンス
2	図書館の現状と動向	現代の図書館の現状について学ぶ
3	図書館の構成要素と機能および図書館サービス	図書館の機能や図書館サービスについて学習する
4	図書館の業務モデル	図書館の業務について、モデルケースをもとに学習する。
5	図書館の社会的意義	図書館の社会的意義について、事例も含めながら学習する。
6	文化を伝承し保存する図書館	図書館の役割の一つである文化の伝承と保存、これらについて事例研究を含めながら学習する
7	公共図書館の成立と展開	欧米を中心とした近代以降の公共図書館の成立の歴史的背景について、学習する。
8	我国における公共図書館の成立と発展	我国における公共図書館の成立過程と発展の経緯を学ぶ。
9	我国における公共図書館政策の展開	我国における公共図書館政策の背景、特に生涯学習社会の成立などを踏まえながら学習する。
10	図書館の歴史	紀元前から現代にいたるまでの図書館の概略史を読み解く
11	図書館の種類と利用者	図書館の種類、すなわち館種と対象とする利用者について概観する。
12	図書館の類縁機関と図書館関連団体	公文書館をはじめとする類縁機関、そして関連団体について、具体事例を踏まえながら学習する。
13	図書館職員とライブラリアンシップ	専門職としての司書とその職業倫理・精神について「図書館員の倫理綱領」を読みながら学習する
14	知的自由と図書館	現代の図書館と切り離すことが出来ない知的自由について「図書館の自由に関する宣言」を読み学習する
15	知的自由と図書館	知的自由と図書館との関わりについて学習する。特に「図書館の自由宣言」との関連を中心に考える。
16	図書館の課題	図書館の今後の課題について考える

14 総まとめ、今後の展望 総まとめと今後の課題について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必ずテキストを読み予習の上、授業に参加すること
本授業の準備・復習時間は、各 2 時間程度を目安とします。

【テキスト（教科書）】

図書館の基礎と展望 二村健著 第 2 版、学文社、2019.6
ISBN 9784762028885

【参考書】

塩見昇、(2015). 図書館概論 (4 訂版 版). 日本図書館協会.

【成績評価の方法と基準】

レポート類 100 % で採点する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【Outline and objectives】

Learn the following points as an introductory lecture on libraries.

- (1) basic functions of the library (collection of materials, organization, provision and preservation function)
- (2) Types of libraries (philosophy, institution, actual condition of national / public / university / special libraries)
- (3) Library related laws (library law and related laws)
- (4) Role of librarians (expertise and librarian system, freedom of library, code of ethics for librarians etc.)

図書館情報学概論Ⅱ

丹 一信

配当年次／単位：2～4 年次／2 単位

開講時期：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

図書館業務に必要な基礎的な情報技術を習得するための科目です。コンピュータの基礎、図書館業務システム、データベース、検索エンジン、電子資料、インターネット、情報社会論等について学習します。単に講義を聴講するだけでは、この科目を学習することにはなりません。常に演習を行いながら、実践的に学びます。

【到達目標】

図書館にかかわる情報技術の基礎的な知識を理解するとともに、コンピュータを使った演習を通して、図書館情報に関する基本的な技術を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

コンピュータ、インターネットを使用しながら講義と演習、実習を組み合わせで行います。ハイブリッド授業の場合は、別途、初回授業時に説明します。なお授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。リアクションペーパーは紙に限らず、電子媒体も使用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス コンピュータとネットワークの基礎	授業について概説し、使用する機器やサイトについて説明する。 ・身の回りにおけるコンピュータ ・コンピュータシステムの構造について学びます
2	コンピュータとネットワークの基礎②	・ハードウェア、ソフトウェア、ネットワークの基礎について ・コンピュータシステムが扱う「デジタルデータ」の基礎 ・コンピュータシステムの応用分野について学びます。
3	情報技術と社会	・情報化社会とはなにか ・情報技術の普及と社会の変化 ・情報化社会の抱える課題について
4	図書館における情報技術活用の現状	図書館で使われる情報技術について、具体的な事例に基づいて学習します。
5	図書館業務システムの仕組み	・図書館業務システムの構成 ・図書館業務システムの機能 — ソフトウェアの構成 ・オンラインサービスについて（ネットワークによるサービス）を学びます。
6	インターネットの仕組みとその歴史	インターネットの仕組みとその歴史について学ぶ
7	データベースの仕組み	・データベースの概要と構造、利用方法について（リレーショナルDBなどを中心に学びます）
8	検索エンジンの仕組み	検索エンジンの概要や歴史、課題について
9	電子資料の基礎	電子資料の基礎知識や管理技術、課題について学びます。
10	検索エンジンの種類	検索エンジンの種類と仕組みについて学び、演習を行う
11	コンピュータシステムの管理	システム管理の基本的な考え方やアプリケーション管理、データ管理、セキュリティについて学びます。
12	デジタルアーカイブ	デジタルアーカイブの構築や図書館における具体例をあげながら、実際に演習も行います。
13	電子書籍・出版	電子書籍・出版の仕組みについて学び、演習を行う
14	最新の情報技術と図書館	図書館業務の効率化や、新しい図書館サービスにつながる最新技術について学びます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業は演習を伴う場合も多いため、必ず次週分のテキストを閲読して、備える必要があります。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

日高昇治 著. 図書館情報技術論 第二版. 学文社, 2017. ; ISBN:978-4-7620-2720-8

【参考書】

田中均著. 図書館情報技術論 青土社, 2019. ISBN 9784787200709

【成績評価の方法と基準】

平常点 15 % 小課題 35% 期末試験 50 %

【学生の意見等からの気づき】

新型コロナウイルスの影響により、特記事項はありません。

【学生が準備すべき機器他】

司書課程の学習支援システム Hulic にて授業を進めます。

【その他の重要事項】

「実務経験のある教員による授業」に該当します。図書館においてシステム管理官としての業務経験をもとに、図書館の実務で使われている技術、またその運用手法について具体的に解説します。情報実習室で授業を行う関係上、人数超過の場合は抽選となります。必ず初回の授業には出席してください。初回授業に出席しない場合は、履修を認めません。授業はただ出席すればよいのではなく、演習等への積極的な参加も求めます。但し上記はあくまでも対面授業が実施できる場合の前提条件です。感染状況により変更が生じた場合は、別途周知します。

【Outline and objectives】

In this subject, we will learn the information technology necessary for library work.

In the lesson, you will learn about the fundamentals of computers, library operation systems, databases, search engines, electronic materials, the Internet, information sociology theory and so on.

図書館制度・経営論

丹 一信

配当年次／単位：2～4 年次／2 単位

開講時期：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

図書館運営の基礎となる図書館の諸制度や、図書館経営の基礎的知識を身につけます。前半は図書館法をはじめとする法律について学習します。後半は現代の図書館が抱える組織の問題、経営上の問題を中心に学びます。司書として実務に就いた場合に、経験するであろう諸問題に対して、経営の観点から、合理的な判断ができるようになることが目的です。

【到達目標】

現代の図書館の管理及び運営について、経営的視点をもって理解が出来るようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義形態の授業進行です。

図書館経営では人事・財務・PR・施設管理など多岐にわたります。具体的な事例研究を平行して進める事により具体的な理解に努めます。なお授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつかり取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。リアクションペーパーは紙に限らず、電子媒体も使用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	図書館をめぐる法体系	1. 日本国憲法 2. 教育基本法 3. 社会教育法 4. 図書館法
第 2 回	図書館法逐条解説（1） 総則	1. 図書館法の目的と図書館の定義 2. 図書館奉仕 3. 司書および司書補 4. 設置及び運営上望ましい基準
第 3 回	図書館法逐条解説 公立 図書館および私立図書館	1. 公立図書館の設置 2. 公立図書館の職員 3. 図書館協議会 4. 入館料など 5. 公立図書館の補助 6. 私立図書館 7. 図書館同種施設
第 4 回	地方自治体の図書館関連 条例など	1. 公共図書館の法的根拠 2. 地方自治体における関係法令 3. 地方自治体における物品管理（図書館の場合）
第 5 回	他館種の図書館に関する 法律など	1. 他館種との連携 2. 学校図書館 3. 国立図書館 4. 大学図書館 5. そのほかの図書館
第 6 回	図書館サービス関連法規	1. 読書に関連する法律と図書館サービス 2. 著作権法と図書館サービス 3. 個人情報保護に関する法律と図書館サービス 4. 労働関連法規と図書館サービス 5. 公益法人制度改革と図書館サービス
第 7 回	図書館政策（国、地方自治体）	1. 国の生涯学習政策 2. 国の図書館政策 3. 都道府県の図書館政策
第 8 回	公共機関・施設の経営方法と図書館経営	1. 経営とは何か 2. 公共機関・施設の経営方法 3. 公立図書館の経営
第 9 回	図書館の組織・職員（1）	1. 教育委員会 2. 組織構成 3. 図書館長の役割 4. 人事管理
第 10 回	図書館の組織・職員（2）	1. 図書館協議会 2. 図書館を支える住民団体 3. 図書館ボランティア

第 11 回 図書館の施設・設備

1. 図書館建築のあり方
2. 図書館建築計画書の実践
3. 図書館の設置及び運営上の望ましい基準における施設・設備
4. そのほかの基本的な留意点

第 12 回 図書館のサービス計画と
予算の確保

1. 図書館のサービス計画
2. 予算の確保

第 13 回 図書館業務／サービスの
調査と評価

1. 図書館業務／サービスの調査
2. 図書館業務／サービスの評価

第 14 回 図書館の管理形態の多様
化

1. 管理運営、業務の外部化
2. 業務委託
3. 指定管理者制度
4. PFI
5. 市場化テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必ず予習を行い授業に臨んでほしい。

【テキスト（教科書）】

図書館制度・経営論 / 手嶋孝典編著. - 第 2 版. - 東京 : 学文社, 2017.4. - 154p : 挿図 ; 26cm. - (ベーシック司書講座・図書館の基礎と展望 / 二村健シリーズ監修 ; 5)
ISBN 9784762027017

【参考書】

法政大学図書館が提供する新聞記事 DB、及び『図書館雑誌』

【成績評価の方法と基準】

平常点（30％）、期末試験（70％）

【学生の意見等からの気づき】

オンライン授業のメリット、デメリットを昨年度は確認できましたので、今年度はメリットを十二分に生かす予定です。

【学生が準備すべき機器他】

法政大学司書課程学習支援システム Hulic を用いて授業を進めます。

【その他の重要事項】

2020 年に提示された 21 年度授業方針に従って本シラバスは記述しています。感染状況により変更を余儀なくされる可能性も少なくありません。変更が必要な場合は、別途、学習支援システム等にて、周知します。また初回授業は出席してください。多摩キャンパスの『図書館演習』と関連する内容の科目です。

【Outline and objectives】

Lesson summary: Learn the fundamental knowledge about library system and management.

First half: Learn the law about the library.

Second half: Learn the basic knowledge of the organization and management of the library. I will also learn about problems.

Purpose of the lesson: To be able to make reasonable judgment from the viewpoint of management against various problems experienced in practice.

図書館サービス概論

有山 裕美子

配当年次／単位：2～4 年次／2 単位

開講時期：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

一口に図書館サービスといっても、地域や館種によって様々な違いがある。本授業では、公共図書館を中心に、実際の図書館におけるサービスを例に挙げながら、図書館サービスの種類及び概略について知るとともに、それぞれのサービスのあり方について学ぶ。また、理論と実践を結びつけ、実際にサービス計画を立てることで、図書館というフィールドにおけるサービスのあり方、および課題解決に向けての方策について考察する。

【到達目標】

公共図書館を中心に、そのサービス概要について知るとともに、自身が図書館員となった時に、様々な角度から図書館サービスをとらえ、現状を評価分析し、課題を把握し、改善を提案していくことが出来ることを目標とする。また、自分が描くサービス内容およびその評価を具体化し、それらをわかりやすい形でまとめ、プレゼン等で他者に的確に伝えることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

随時、ワークショップやディスカッションを取り入れるので、各自興味関心を持って積極的に取り組んでほしい。また、近所の公共図書館など、様々な図書館を積極的に利用・見学しておくこと。また、提出物に対するフィードバックは学習支援システムを通じて行い、リアクションペーパーにおける質問やコメントは授業で紹介し、フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	本講義の概要、進め方など。
第 2 回	図書館サービスの意義と役割	図書館サービスの概略を知るとともに、その意義と役割について考える。
第 3 回	図書館サービス計画の立案と工夫／公共図書館における情報ネットワーク	図書館サービス計画を立案する上での留意点や、工夫することなどについて考える。 公共図書館における役割分担や、情報ネットワーク、広域利用のあり方などについて学ぶ。
第 4 回	資料や情報を提供するための準備／排架の工夫と館内サイン／ディスプレイ	資料や情報提供の上での、資料の種類や目録、デジタル化などについて学ぶ。 図書館のレイアウトや排架の工夫、館内サインやディスプレイについて考える。
第 5 回	資料提供に関するサービス	貸出サービスや利用者登録、返却や督促、リクエストサービスなど、資料提供の意義と種類を知る。
第 6 回	情報提供サービス	レファレンスサービスやカレントアウェアネスサービス、オンライン・データベースを利用した情報検索など、情報サービスの意義と種類を知る。利用者からの相談や質問回答サービス、インターネット活用等について考える。
第 7 回	広報活動と利用者サービスの展開・コミュニケーション／図書館利用教育と情報活用能力の育成	広報活動の意義と方法、種類などを知る。 利用者に対する接遇とコミュニケーションについて知る。 図書館利用教育の種類と方法、情報活用能力の育成について考える。
第 8 回	利用対象者別の図書館サービス①／児童サービス／YA サービス	児童サービスや YA サービスについて考える。また、児童サービスの実演や、お話会のプログラム作成などを行う。
第 9 回	利用対象者別の図書館サービス②／高齢者サービス／障害者サービス	高齢者や障害者に対するサービスのあり方について考える。
第 10 回	利用対象者別の図書館サービス③／多文化サービス／外部機関との連携	多文化サービスや、学校図書館支援を始めとした外部機関との連携について考える。

第 11 回	図書館サービスをめぐる著作権問題／利用者モラル	著作権制度について知るとともに、図書館における著作権の種類と概要について知る。 電子書籍など電子メディアに関する著作権について知る。
第 12 回	図書館サービス計画立案	今までの学びを通して、自分が興味を持った分野について実際に図書館サービスの立案を試みる。
第 13 回	図書館サービス計画立案プレゼンテーション	それぞれが作成した図書館サービスについての発表を行う。発表方法は、受講者数に応じて検討する。
第 14 回	まとめ 図書館サービスにおける課題	学習のまとめと振り返りを行うとともに、図書館サービスにおける課題について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の後半部分で、実際のサービス計画を立案するので、そのことを意識しながら受講するとともに、休みの日を利用して近所の公共図書館等を積極的に活用すること。講義期間中に、実際に利用（見学）した公共図書館に関わる課題を課す。各回の講義内容についても目を通しておくこと。なお、本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特不使用しない。

【参考書】

『図書館サービス概論 改訂第 2 版』現代図書館情報学シリーズ・・・4 高山正也・植松貞夫 監修 樹村房 2020年 2160 円 978-4-88367-294-3
『図書館サービス概論 第 2 版』金沢みどり ほか 学文社 2016 年 2160 円 978-4762025822
ほか、講義内で、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

中間レポートと期末レポート、レポートを元にしたプレゼンテーションを講義内で課す。これらにおいては、論点をしっかりと押さえた上で、自分なりの分析、および評価、課題提起ができていくかどうかを評価する。また、授業内における参加態度、プレゼンテーションやディスカッションに積極的に参加しているか、また、課題に向けての準備がしっかりとできていくか、問題意識がしっかりとしているか、自ら進んで課題に取り組む姿勢があるか等、総合的に評価する。平常点（課題発表等を含む）60 点、課題・レポート 40 点

【学生の意見等からの気づき】

講義毎にリアクションペーパーを回収、生徒からの疑問や要望に応える。疑問点や、さらに深く学びたいことなど、是非積極的に発信して欲しい。

【Outline and objectives】

Even when the same term of library services are in use, those services differ depending on the areas or the library types. In this class, you will learn about library types and outlines, taking examples from actual services, mainly at public libraries. You will also study the way individual services will unfold. Also, by linking theory and practice and setting up prospective service plans, you will look into ideal services in the field of libraries as well as feasible measures to solve outstanding issues.

児童サービス論

松田 ユリ子

配当年次／単位：2～4 年次／2 単位

開講時期：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公共図書館の専門職として司書が持つべき児童サービスについての知識の習得を目指す。公共図書館における子どものための図書館サービスについて広い視野から理解し、人々の生涯に渡る学習と楽しみのために子どものための図書館サービスが果たすべき役割について考える。

【到達目標】

- (1) 図書館サービスの対象者である「子ども」について知る。
- (2) 「子ども」向けの図書館資料について知る。
- (3) 「子ども」と資料とを結びつける活動の企画や実施、評価方法について知る。
- (4) 地域や学校などとの協働活動について知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

教科書および関連する文献を読み、与えられたテーマで期日までにレポートを提出する。

翌週までに講師からのコメントを受け取り、指定された時間にやり取りの過程で生じた疑問点や考察したことをオンラインでディスカッションする。提出物に対するフィードバックは学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義のすすめ方と最初の課題を支援システム上で各自確認する。
4/25		
第 2 回	子どもの生活と読書	教科書の UNIT0 ～ UNIT6 を熟読し、課題を提出する
5/2		
第 3 回	子どもの生活と読書	返ってきたコメントを各自確認し、質問、解説、ディスカッションをオンラインで行う。
5/9		
第 4 回	児童サービスの資料	教科書の UNIT 7 ～ UNIT14 を熟読し、課題を提出する
5/16		
第 5 回	児童サービスの提供	教科書の UNIT15 ～ UNIT17 を熟読し、課題を提出する
5/23		
第 6 回	児童サービスの資料と提供	返ってきたコメントを各自確認し、質問、解説、ディスカッションをオンラインで行う。
5/30		
第 7 回	子どものための図書館プログラム	教科書の UNIT18 ～ UNIT 22 を熟読し、課題を提出する
6/6		
第 8 回	子どものための図書館プログラム	返ってきたコメントを各自確認し、質問、解説、ディスカッションをオンラインで行う。
6/13		
第 9 回	子どもと資料をつなぐ技術	教科書の UNIT18 ～ UNIT 22 を熟読し、課題を提出する
6/20		
第 10 回	乳幼児サービス／ヤングアダルトサービス／特別な支援	教科書の UNIT 34 ～ 4 2 熟読し、課題を提出する
6/27		
第 11 回	子どもの読書活動推進とネットワーク／学習支援と学校図書館	教科書の UNIT 43 ～ 47 を熟読して、課題を提出する
7/4		
第 12 回	様々な児童サービスと連携／まとめと最終課題の提示	返ってきたコメントを各自確認し、質問、解説、ディスカッションをオンラインで行う。
7/11		

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とする。その他に、児童図書館や公共図書館児童コーナーの体験調査を課す。（ただし、緊急事態宣言等で図書館が閉館している場合はこの限りではない）また、講義で取り上げられた資料を中心に、できるだけ多くの児童サービスのための資料を読むこと。

【テキスト（教科書）】

堀川照代編著、児童サービス論 新訂版（JLA 図書館情報学テキストシリーズ III-6）、日本図書館協会、2020。

【参考書】

汐崎順子著『児童サービスの歴史:戦後日本の公立図書館における児童サービスの歴史』創元社、2007 東京子ども図書館編『ブックトークのきほん:21の事例つき』東京子ども図書館、2016。

日本図書館協会児童青少年委員会児童図書館サービス編集委員会『児童図書館サービス 1:運営・サービス編』日本図書館協会、2011。

日本図書館協会児童青少年委員会児童図書館サービス編集委員会『児童図書館サービス 2:児童資料・資料組織編』日本図書館協会、2011。

望月道浩、平井歩実編著『児童サービス論』学文社、2015。

【成績評価の方法と基準】

各レポート提出が最低条件である。レポート 70 %（各レポート 10 %づつ）、最終レポート 30 %の比率で評価を行う。質問やディスカッションなど授業参加の状況なども加味する場合がある。

【学生の意見等からの気づき】

例年身近な公共図書館の児童サービスをできる限り現地で見聞きすることを課してきたが、施設によって担当者へのインタビュー等が難しい場合があった。そこで、学生としてではなく、児童資料を利用する一利用者としての体験を課し、そこから分かったことを持ち寄って議論する方法を取ることとした。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンが必要だが、用意できない場合は相談すること

【その他の重要事項】

教科書だけでなく、示された参考文献その他の情報も可能な限り参照すること。また、参照した文献は全て必ずレポート末尾に示すこと。

【Outline and objectives】

The goal of this course is to provide students with the knowledge required to plan, implement and evaluate a program of public library services for children.

情報サービス論

丹 一信

配当年次／単位：2～4 年次／2 単位

開講時期：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

インターネットの普及により、誰もが容易に情報にアクセスできるようになった。またスマホやタブレットの普及は、人々に「検索」という行為を身近なものにさせた。と同時に、インターネット上の情報は溢れかえるようになり、情報の洪水を引き起こした。さらにフェイクニュースに見られる様な悪意ある情報も混在し、玉石混交の状態となっている。この様な状況の中で、情報のプロフェッショナルである図書館司書は、適切な情報源を用いて信頼性の高い情報を入手することが益々求められるようになった。この授業の目的は、各種の情報サービスの概要を学び、情報サービス演習における必要な基礎知識を身につけることである。

【到達目標】

- ① 図書館における情報サービスの意義を理解すること
- ② ICT を活用した発信型情報サービスなどの概要を理解すること
- ③ レファレンスサービスについての基礎的知識、技術を身につけること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

テキストをもとにした講義形態で行う。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。リアクションペーパーは毎回配布する。また授業内容の性質から、一部演習も含まれる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス 情報社会と図書館	ガイダンス ・情報社会とは何か ・図書館の果たす役割
第 2 回	図書館による情報サービスの意義と実際	・情報サービス機関による情報サービス ・図書館による情報・サービスの意義と構成要素 ・情報サービスを構成するさまざまなサービス ・各種図書館と情報サービス
第 3 回	レファレンスサービスの理論と実際①	1. 利用者の情報ニーズとレファレンスサービス 2. レファレンスプロセスの各段階 3. レファレンスインタビュー
第 4 回	レファレンスサービスの理論と実際②	1. 情報サービスの企画と設計 4. 情報サービスの運営 5. 情報サービスの評価 6. 情報サービスの課題と展望
第 5 回	情報検索サービスの理論と方法①	1. 情報検索の意味 2. データベースの定義と種類
第 6 回	情報検索サービスの理論と方法②	3. レファレンスデータベースの構造と索引作業 4. 情報検索の理論
第 7 回	情報検索サービスの理論と方法③	5. 情報検索の種類 6. ウェブサイトの構造とウェブ検索の仕組み
第 8 回	情報検索サービスの理論と方法④	7. 情報検索プロセス 8. 情報検索結果の評価 9. 検索技術と情報専門家の役割
第 9 回	発信型情報サービスの展開	1. 発信型情報サービスとは何か 2. 発信型情報サービスの先駆的事例 3. 発信型情報サービスの課題と展望
第 10 回	各種情報資源の特徴と利用法①	1. 情報サービスにおける情報資源の変遷と多様化 2. 情報資源とレファレンスコレクション
第 11 回	各種情報資源の特徴と利用法②	3. 課題解決型サービスにみる各種情報資源の利用事例 4. 図書館の種類と情報資源 5. 情報資源の多様化とこれからの課題
第 12 回	利用教育の現状と展望①	1. 情報環境の変化と利用教育の必要性 2. 利用教育とは 3. 各種図書館と利用教育

第 13 回 利用教育の現状と展望② 4. 利用教育の企画と実施

5. 利用教育の課題と展望

第 14 回 総まとめ、総合演習

総合演習に取り組みます

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習として、テキストを事前に読み込むことが必須です。

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

情報サービス論 改訂（現代図書館情報学シリーズ） 山崎 久道（編著）／原田 智子（編著） 樹村房 2019 ISBN978-4-88367-295-0

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 % 期末試験 70% で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

司書課程の授業支援システム Hulic) を用います

【その他の重要事項】

情報サービス演習の前提となる科目です。

COVID-19(新型コロナウイルス)の状況によっては、上記内容に変更が生じる場合があります。その際には学習支援システムなどにより変更を周知します。

【Outline and objectives】

With the spread of the Internet, anyone can easily access information. However, the information on the Internet has begun to overflow. In addition, malicious information such as fake news is also mixed. Under these circumstances, librarians are increasingly required to obtain reliable information from appropriate sources.

The purpose of this class is to learn the outline of various information services and to acquire the necessary basic knowledge in information service exercises.

情報サービス演習

丹 一信

配当年次／単位：2～4 年次／4 単位

開講時期：年間

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報サービス演習は「情報サービス論」と対を為す科目です。情報サービス論で学んだ知識をもとに、情報サービスに必要な技能を演習を通じて修得します。

次の2点が目的です。

1. 情報資源（データベース）を検索し回答する方法を学ぶ
2. 発信型情報サービスのためのウェブサイト・データベースを構築する方法を学ぶ

【到達目標】

下記を到達目標とします。

- ①図書館のレファレンスサービスにおいて、質問の内容を理解し、適切な情報資源を選択できる。
- ②選択した情報資源を使いこなせる。
- ③発信型情報サービスのために必要な ICT の基礎知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業は演習形式で行います。実際の図書館におけるレファレンスサービスを模して行いますので、二人一組でのレファレンスインタビューの演習、グループでの演習もあります（秋学期）

また毎回、データベースの演習課題を課すことにより、情報資源としての事典、書誌などの資料や、データベース、インターネット情報などを使いこなせるように進めます。

さらに発信型情報サービスのためのウェブサイト作成やデータベース構築を、演習課題を通じて身につけます。

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。リアクションペーパーは毎回配布予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ガイダンス（履修登録に際して）
第2回	情報サービスの設計と評価	1. 図書館における情報サービス 2. レファレンスサービスの体制づくり 3. 情報サービスの評価 4. 情報サービスの設計の見直しと改善方法
第3回	情報サービス演習の準備	1. 情報資源とレファレンスコレクション 2. 演習の目的と注意事項 3. プロセスの確認とレポートの作成 4. コンピュータ検索の基本 5. 演習の具体例
第4回	情報資源の探し方	1. 情報資源の特徴とそのアプローチ 2. 検索エンジン 3. ウェブ情報資源のガイドと情報資源リンク集 4. レファレンスブックのガイド 5. 書誌の書誌 6. 図書館およびその他の情報資源
第5回	ウェブページ、ウェブサイトの探し方	1. ウェブページ、ウェブサイトの特徴とそのアプローチ 2. 検索エンジン 3. アーカイブサイト 4. 限定した範囲のウェブページやウェブサイトの検索
第6回	図書情報の探し方	1. 図書情報の特徴とそのアプローチ 2. 図書館サービスを利用する 3. 出版情報を利用する 4. 各種書誌を利用する 5. 電子図書館サービスを利用する
第7回	雑誌および雑誌記事の探し方①	1. 雑誌および雑誌記事の特徴とそのアプローチ 2. 雑誌記事を探す
第8回	雑誌および雑誌記事の探し方②	3. 逐次刊行物を探す 4. 電子ジャーナルを利用する

第9回 歴史・日時の探し方

1. 歴史・日時の特徴とそのアプローチ
2. 歴史事典
3. 歴史便覧
4. 年表
5. 事物起源事典・行事事典
6. 歴史地図

第10回 新聞記事の探し方

1. 新聞記事の特徴とそのアプローチ
2. オンライン・データベースを利用する
3. 新聞社のウェブサイトを利用する
4. ニュースサイトを利用する
5. その他新聞記事関係書誌を利用する

第11回 言葉・事柄の探し方

1. 言葉の特徴とそのアプローチ
2. 国語辞典
3. 漢和辞典
4. 対訳辞典と英英辞典
5. 特殊辞典
6. 事柄・統計の特徴とそのアプローチ
7. 百科事典
8. 専門事典
9. 複数辞典・事典のウェブサイト

第12回 統計情報の探し方

- ・統計
- ・年鑑・白書
- ・便覧

第13回 地理・地名・地図の探し方①

1. 地理・地名・地図の特徴とそのアプローチ
2. 地理学事典
3. 地図帳・地図・地図サイト

第14回 地理・地名・地図の探し方②

4. 地名事典
5. 国や自治体のウェブサイト
6. 旅行ガイドブックと観光協会のウェブサイト
7. 地域事典・地域便覧
8. 地域年鑑

第15回 人物・企業・団体の探し方

1. 人物・企業・団体の特徴とそのアプローチ
2. 人物を探す
3. 企業を探す
4. 団体・機関を探す
5. 主な商用データベース

第16回 法律・判例・特許の探し方

1. 法律・判例の特徴とそのアプローチ
2. 特許の特徴とそのアプローチ

第17回 ファッション分野の探し方

- 服飾、ファッション分野の情報の探し方

第18回 音楽・映画分野の探し方

- 音楽や映画といった芸術分野の情報の探し方

第19回 レファレンスインタビュー①

- レファレンスインタビューについて、2人組で模擬演習を行う。

第20回 レファレンスインタビュー②

- レファレンスインタビューについて、2人組で模擬演習を行う。

第21回 理系論文検索 (1)

- シソーラスを用いた検索。科学技術系論文を探す。

第22回 理系論文検索 (2)

- PubMedをはじめとする医学系のDBの使い方。論文の探し方。

第23回 総合演習課題

- 分野を問わない演習課題をこなす。

第24回 発信型情報サービスの概要

- これまでの情報サービスと発信型情報サービスの比較。

第25回 発信型情報サービスの構築と維持管理

1. インフォメーションファイルの作成と維持管理
2. パスファインダーの作成と維持管理
3. FAQとリンク集の作成と維持管理
4. レファレンス事例集およびレファレンス事例データベースの作成と維持管理

第26回 SNS 演習 (1)

- 図書館とソーシャルメディアについて

第27回 SNS 演習 (2)

- SNSを用いた図書館からの情報発信について

第28回 冬季課題の発表

- 冬季課題について各自発表する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の資料提示・連絡・課題提出には、図書館司書課程専用の授業支援システム「HULiC」を用います。

本科目は予習していることを前提に授業が進行します。欠席した場合は、テキストを熟読の上、上記の「Hulic」内の案内を元に復習します。

<http://lc.i.hosei.ac.jp/> 本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

情報サービス演習 改訂（現代図書館情報学シリーズ） 原田 智子（編著）
樹村房 2016 ISBN：978-4-88367-267-7

【参考書】

検索スキルをみがく：検索技術者検定 3 級公式テキスト / 原田智子編著；吉井隆明, 森美由紀著, 樹村房, 2020
 その他の参考書は講義の中で随時指示します。

【成績評価の方法と基準】

夏季課題 35%
 冬季課題 35%
 平常点 15%
 レポート・発表の資料等はすべて「HULiC」を用います。

【学生の意見等からの気づき】

新型コロナウイルスの影響により、特にありません。

【学生が準備すべき機器他】

司書課程の授業支援システム「Hulic」を毎回使用します。

【その他の重要事項】

人数超過の場合は抽選となります。必ず初回授業に出席してください。
 「実務経験のある教員による授業」に該当：サーチャー（1 級）としての実務経験をもとに、実践的な図書館のレファレンスサービスの演習を行います。

【Outline and objectives】

- .Purpose and Goal**
 1. Learn how to search information sources (databases).
 2. Learn how to build website and database for outgoing information service.

図書館情報資源概論

山口 洋

配当年次／単位：2～4 年次／2 単位

開講時期：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

図書館資料の特質と、資料選択、収集、保存、蔵書管理に関わる業務について解説します。また出版流通や著作権、資料収集提供に関わる諸問題についても触れます。

【到達目標】

- ①図書館における各種資料の特徴を説明できる
- ②資料収集、保存、提供の役割を説明できる
- ③現在の図書館界における資料組織の動向を理解できる
- ④関連する用語や法令、宣言などを理解し説明できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業形態は講義です。なお適宜、受講生の意見や発表も行き、学習支援システム hoppi を利用して提出やフィードバックを行います。また授業資料も授業支援システム hoppi で配信します。データのダウンロード、もしくは印刷をお願いします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	図書館情報資源	図書館情報資源とは何か？ 図書館におけるその意義を考える
第 2 回	情報資源の歴史	情報の記録化とメディアの歴史について解説する
第 3 回	印刷資料	図書館資料の中で印刷資料について解説する
第 4 回	非印刷資料	点字資料、録音資料、マイクロ資料、映像資料、音声資料について解説する
第 5 回	電子資料	パッケージ系電子メディアとネットワーク情報資源について解説する
第 6 回	出版流通システム	日本における出版流通の仕組みを解説し、図書館との関わりを考える
第 7 回	図書館の「知的自由」1	図書館の知的自由と図書館資料との関係を収集・提供の視点から考える
第 8 回	図書館の「知的自由」2	具体的な事例を検討して考える
第 9 回	資料の収集と選択 1	資料収集と選択の理論と実践を解説する
第 10 回	資料の収集と選択 2	収集方針の意義を実例から考える
第 11 回	蔵書管理	蔵書管理の意義と仕組みを解説する
第 12 回	資料の組織化	資料の受け入れ、登録、装備、予算管理について解説する
第 13 回	書庫管理	書庫管理の意義、蔵書点検、資料保存について解説する
第 14 回	まとめ	図書館資料の意義を再び考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。講義内容に応じて、事前に用語や事項の調査を指示します。参考図書や実際の図書館を利用して準備学習をしましょう。また復習では、授業内容の重要事項を自分で説明できるように知識の整理を心がけてみましょう。

【テキスト（教科書）】

馬場俊明編著『図書館情報資源概論 改訂版』（JLA 図書館情報学テキストシリーズⅢ；8）、日本図書館協会、2018
 今まど子、小山憲司編著『図書館情報学基礎資料』、樹村房、2020

【参考書】

前川恒雄、石井敦共著『新版 図書館の発見』（NHK ブックス）、2006
 竹内さとる著『生きるための図書館』（岩波新書）、2019
 授業内で適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】

- 平常点および課題を 40%、最終レポートを 60%として、以下の点を評価します。
- ①図書館における各種資料の特徴を説明できる
 - ②資料収集、保存、提供の役割を説明できる
 - ③現在の図書館界における資料組織の動向を理解できる
 - ④関連する用語や法令、宣言などを理解し説明できる

【学生の意見等からの気づき】

テキスト学習の他、発展学習への展開を指導します。

【その他の重要事項】

普段から多くの図書館を見学して、図書館のイメージを作るとよいでしょう。また、公共図書館を積極的に利用することも図書館の学習には必要ですから普段から心がけましょう。

【授業中に求められる学習活動】

C,D,E

【Outline and objectives】

Learn the characteristics of library materials and the work related to the selection, collection, storage, and collection management of library materials

図書館情報資源特論

山口 洋

配当年次／単位：2～4 年次／ 2 単位

開講時期：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

図書館資料について、公立図書館で重視される逐次刊行物、政府刊行物、地域資料を中心に学習します。また資料の収集・提供に関する諸問題について検討します。

【到達目標】

- ①公共図書館における資料の特徴を説明できる
- ②各種資料の収集、運用方法を説明できる
- ③現在の図書館界における資料組織の動向を理解できる
- ④関連する用語や法令、宣言などを理解し説明できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業形態は講義です。なお適宜、受講生の意見や発表も行き、学習支援システム hoppi を利用して提出やフィードバックを行います。また授業資料も授業支援システム hoppi で配信します。データのダウンロード、もしくは印刷をお願いします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	図書館情報資源 図書資料とは	この授業で扱う図書館資料の図書館における意義を考える
第 2 回	図書資料と逐次刊行物	図書資料の特徴を確認する。逐次刊行物の特徴を解説する
第 3 回	逐次刊行物の運用	逐次刊行物の運用を解説する
第 4 回	政府刊行物 1	政府刊行物の特徴と種類を解説する
第 5 回	政府刊行物 2	政府刊行物の運用を解説する
第 6 回	地域資料 1	地域資料の特徴と種類を解説する
第 7 回	地域資料 2	地域資料の運用と組織化を解説する
第 8 回	知的財産権	知的財産権について解説する
第 9 回	著作権と図書館	著作権と図書館について解説する
第 10 回	資料保存	資料保存と酸性紙問題について解説する
第 11 回	資料収集に関する諸問題 1	資料収集に関する実際の事例を検討する
第 12 回	資料収集に関する諸問題 2	近年の事例を検討する
第 13 回	資料提供に関する諸問題	資料提供に関する事例を検討する
第 14 回	まとめ	図書館資料の意義を再び考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。講義内容に応じて、事前に用語や事項の調査を指示します。参考図書や実際の図書館を利用して準備学習をしましょう。また復習では、授業内容の重要事項を自分で説明できるように知識の整理を心がけてみましょう。

【テキスト（教科書）】

今まど子、小山憲司編著『図書館情報学基礎資料』、樹村房、2020
適宜プリントを配布

【参考書】

馬場俊明編著『図書館情報資源概論』（JLA 図書館情報学テキストシリーズⅢ：8）、日本図書館協会、2018（図書館情報資源概論で使用了テキスト）
前川恒雄、石井敦共著『新版 図書館の発見』（NHK ブックス）、2006
授業内で適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】

平常点および課題を 40%、最終レポートを 60%として、以下の点を評価します。

- ①公共図書館における資料の特徴を説明できる
- ②各種資料の収集、運用方法を説明できる
- ③現在の図書館界における資料組織の動向を理解できる
- ④関連する用語や法令、宣言などを理解し説明できる

【学生の意見等からの気づき】

授業からの発展学習についても指導する予定です。

【授業中に求められる学習活動】

C,D,E

【Outline and objectives】

Learn the characteristics of Public library materials.

情報資源組織論

山口 洋

配当年次／単位：2～4 年次／2 単位

開講時期：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

図書館における資料組織（分類や目録）の意義、目的と方法について解説する。到達目標は、資料組織について理解を深めるとともに、図書館司書として必要な知識や思考力を習得することに置く。なお、NDC 分類の暗記や図書館用語（略語）の習熟について小テストを活用して身につけられるよう配慮したい。

【到達目標】

- ①図書館における資料組織の意味を説明できる
- ②分類の基礎知識を修得している（主に用語や考え方）
- ③目録の基礎知識を修得している（主に用語や考え方）
- ④現在の図書館界における資料組織の動向を理解できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業形態は講義です。なお適宜、受講生の意見や発表も行い、学習支援システム hoppi を利用して提出やフィードバックを行います。また授業資料も授業支援システム hoppi で配信します。データのダウンロード、もしくは印刷をお願いします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	情報資源組織化の意義と理論	資料組織の目的、意義について解説する。
第 2 回	主題による組織化	主題分析・組織法の意義について解説する。
第 3 回	分類法	分類の歴史、基本原理、分類法の機能について解説する。
第 4 回	件名法	件名法の基本原理、各種件名標目表について解説する。
第 5 回	目録法	目録法の基本、意義を解説する
第 6 回	目録規則（NCR1987 改訂 3 版）	日本目録規則を中心に紹介する
第 7 回	新しい目録規則の動向	国際規格の変化から日本の目録規則への影響を紹介する
第 8 回	書誌コントロール	書誌コントロールの目的と動向を紹介する
第 9 回	書誌情報の流通	コンピュータ目録における書誌情報作成と流通の仕組みを紹介する
第 10 回	装備と配架	図書館における資料装備と配架について紹介する
第 11 回	多様な情報資源の組織化	地域資料、絵本、視聴覚資料、学校図書館における組織化を紹介する
第 12 回	OPAC	OPAC の基本と最新の OPAC について紹介する
第 13 回	ネットワーク情報資源の組織化	各種ネットワーク情報資源、メタデータ、ウェブの組織化について解説する。
第 14 回	まとめ	授業を振り返り、情報資源組織の意義を考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。講義内容に応じて、事前にテキストを読み、用語などの調査をしておきましょう。また復習では、授業内容の重要事項を自分で説明できるように知識の整理を心がけてください。

【テキスト（教科書）】

竹之内禎、山口洋、西田洋平編著『情報資源組織論』（東海大学出版部、2020）
ISBNM : 978-4-486-02188-9

【参考書】

今まど子・小山憲司 編著『図書館情報学基礎資料 第 3 版』（樹村房、2020）
ISBN:978-4-88367-333-9（法令の改定が多くありますので最新版を購入してください）

【成績評価の方法と基準】

平常点および演習課題を 40%、最終レポートを 60%として、以下の点を評価します。

- ①図書館における資料組織の意味を説明できるか
- ②分類の基礎知識（用語や概念）を修得しているか
- ③目録の基礎知識（用語や概念）を修得しているか

【学生の意見等からの気づき】

発展学習への指導を行います。

【その他の重要事項】

普段から多くの図書館を見学して、図書館のイメージを作るとよいでしょう。また、大学以外の公共図書館を積極的に利用することも図書館の学習には必要ですから心がけてみましょう。

【授業中に求められる学習活動】

C,D,E

【Outline and objectives】

Explain the significance, purpose and method of the document organization (classification and catalog) in the library. The goal is to understand the document organization and master the knowledge and thinking skills necessary as a library librarian

情報資源組織演習

山口 洋

配当年次／単位：2～4 年次／4 単位

開講時期：年間

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では、分類や目録作業を通して受講生が主題分析、分類付与の方法、目録作成の技術を習得し、図書館資料の組織化に関わる能力を身につけることを目標とします。具体的には、『日本十進分類法』（NDC）、『基本件名標目表』（BSH）、『日本目録規則』（NCR）の構成とその使用方法を学びます。

【到達目標】

- ①『日本十進分類法』（NDC）を使用して、各主題分野に応じた適切な分類記号を与えることができる
- ②『基本件名標目表』（BSH）を使用して、各主題分野に応じた適切な件名を与えることができる
- ③『日本目録規則』（NCR）に従って、各種情報資源に対する目録データを作成できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業は技術の習得を目的とした演習形式で進めます。各回は最初に解説を行い、その後課題を利用して各人の技術習得を目指します。課題については受講生に発表する機会があります。また個別指導も行い、各人のスキルアップを目指します。また学習支援システム hoppi を利用して提出やフィードバックを行います。授業資料も授業支援システム hoppi で配信します。データのダウンロード、もしくは印刷をお願いします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	情報資源組織化の意味	組織化の目的と仕組みの概観を解説する
第 2 回	『日本十進分類法』10 版 (NDC10)	日本十進分類法の解説
第 3 回	分類規程と主題判断	分類規程と主題判断について解説、演習を行う
第 4 回	NDC10 の一般補助表	形式区分、地理区分、海洋区分、言語区分の使用法
第 5 回	NDC10 の 0 類 1 類の分類法	NDC10 の 0 類（総記）1 類（哲学）の解説と演習
第 6 回	NDC10 の 2 類の分類法	NDC10 の 2 類（歴史）の解説と演習
第 7 回	NDC10 の 3 類の分類法	NDC10 の 3 類（社会科学）の解説と演習
第 8 回	NDC10 の 4 類の分類法	NDC10 の 4 類（自然科学）の解説と演習
第 9 回	NDC10 の 5 類の分類法	NDC10 の 5 類（技術、工学）の解説と演習
第 10 回	NDC10 の 6 類の分類法	NDC10 の 6 類（産業）の解説と演習
第 11 回	NDC10 の 7 類の分類法	NDC10 の 7 類（芸術）の解説と演習
第 12 回	NDC10 の 8 類の分類法	NDC10 の 8 類（言語）の解説と演習
第 13 回	NDC10 の 9 類の分類法	NDC10 の 9 類（文学）の解説と演習
第 14 回	分類の総合演習	NDC10 を利用して分類付与を行う。
第 15 回	図書記号と別置記号	図書記号と別置記号の解説。日本著者記号表の使い方
第 16 回	『基本件名標目表』（BSH）解説と件名作業	基本件名表目標の構造と件名作業の解説
第 17 回	一般件名規程 1	一般件名規程の解説と演習
第 18 回	一般件名規程 2	一般件名規程の解説と演習
第 19 回	特殊件名規程	特殊件名規程の解説と演習
第 20 回	『日本目録規則』（NCR）解説	『日本目録規則』（NCR87）の基本項目解説
第 21 回	和書目録作成①単行書	単行書の記述方法
第 22 回	和書目録作成②単行書の様々な事例	単行書の記述方法
第 23 回	和書目録作成③シリーズものの図書（基礎）	シリーズものの図書の記述方法
第 24 回	和書目録作成④シリーズものの図書（発展）	シリーズものの図書の記述方法
第 25 回	和書目録作成⑤分冊、構成部分を持つ図書	分冊、構成部分を持つ図書の記述
第 26 回	アクセスポイント	アクセスポイントの付与
第 27 回	総合演習	実力問題に挑戦する
第 28 回	まとめ	まとめと展望

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。予習はテキストの該当箇所の確認と配信資料のチェック、用語の調査確認のみで構いませんが、復習は繰り返し行い、習った内容が定着するように心がけてみましょう。また、分類は日頃より図書館の書架を利用して親しむ様に心がけるとよいでしょう。質問は授業支援ツール hoppi から常に受け付けます。復習しながら分からない箇所はこれを使って質問しましょう。

【テキスト（教科書）】

竹之内慎ほか編著『情報資源組織演習：情報メディアへのアクセスの仕組みをつくる』、ミネルヴァ書房、2016

【参考書】

小林康隆編著『NDC の手引き：「日本十進分類法」新訂 10 版入門』（JLA 図書館実践シリーズ：32）、日本図書館協会、2017

今まど子、小山憲司編著『図書館情報学基礎資料』、樹村房、2020

【成績評価の方法と基準】

平常点および演習課題を 40%、最終レポートを 60%として、以下の点を評価します。

- 1)『日本十進分類法』（NDC）を使用して、各主題分野に応じた適切な分類記号を与えることができるか
- 2)『基本件名標目表』（BSH）を使用して、各主題分野に応じた適切な件名を与えることができるか
- 3)『日本目録規則』（NCR）に従って、各種情報資源に対する目録データを作成できるか

【学生の意見等からの気づき】

復習や発展学習のポイントを示すようにします。

【その他の重要事項】

「情報資源組織論」を履修済みまたは履修中であることを前提として授業を進めます。

【授業中に求められる学習活動】

C,D,E,F,G

【Outline and objectives】

Learn subject analysis, classification method, cataloging skills.

図書館演習

丹 一信

配当年次／単位：2～4 年次／4 単位

開講時期：年間

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

当科目は、図書館司書課程における基礎的内容を理解した上で履修することを想定しており、履修登録に際しては、【その他の重要事項】を必ず確認してください。前年度までに修得しておくことが望ましい望ましい科目もあります。（四年生、大学院生、通信教育部、科目等履修生は除く）

なお、教室の関係で受講者の選抜を行います。詳細は最下欄の項目を参照のこと。初回の授業参加は必須です。

図書館司書課程の応用かつ実践的授業と位置付けています。授業の概要は以下の通り。

1. 情報検索のスキルの向上を目指します。
2. 情報リテラシーの向上を目指します。
3. 図書館に関する総合的な学びの機会とします。

【到達目標】

春学期の到達目標は、情報検索のスキルを検索技術者検定3級合格レベルとすることです。各種のデータベース、ツール等を用いて、情報検索を効率的に行うスキルを身につけます。

秋学期は、実際に耐えるパスファインダーの製作し発表することが第一目標です。また図書館の实地見学を行うことにより、図書館の実態についての理解を深め、その調査結果のプレゼンテーションを行います。さらに専門図書館・大学図書館・データベース提供事業者などの図書館関連の事業についても深く学び、情報専門職とは何か、理解に至ることが到達点です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

春学期は、検索技術者検定3級合格を目指して、情報検索について総合的に学習します。各種データベースの演習を徹底して行います。演習中心の進め方となります。

秋学期は、また図書館サービスの一環としてのパス・ファインダーを作成します。

演習形態が中心となりますが、社会情勢が許せば、図書館見学も行う予定です。毎回リアクションペーパーを配布し、皆さんからの自由な質問等に解答します。履修登録はこのガイダンスの内容を理解した上で行ってください。また学習支援システムの説明も熟読してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	春学期授業の進行説明及び授業用グループウェア (HULiC) の利用方法
第2回	レポート論文の書き方	レポート論文の書き方について学習します。
第3回	情報検索概論	情報検索の基本理論と仕組みについて、学習します。
第4回	情報資源と情報サービス機関	データと情報：一次情報と二次情報およびそれらの情報資源の種類などについて
第5回	ネットワーク情報資源の検索と種類	ネットワーク情報資源の検索：ネットワーク情報資源の種類
第6回	ネットワーク情報資源の検索と種類	ネットワーク情報資源の検索：ネットワーク情報資源の種類
第7回	ネットワーク情報資源の検索と種類①	ネットワーク情報資源の検索演習：図書、雑誌について
第8回	ネットワーク情報資源の検索と種類②	ネットワーク情報資源の検索演習：雑誌記事、新聞記事
第9回	ネットワーク情報資源の検索と種類③	ネットワーク情報資源の検索演習：Web アーカイブ、デジタルアーカイブ
第10回	知的財産権①	知的財産権の概要について
第11回	知的財産権②	著作権について
第12回	ネットワーク社会と情報セキュリティについて①	・ネットワーク社会の諸問題 ・コンピュータの基礎知識
第13回	ネットワーク社会と情報セキュリティについて②	・インターネットの基礎知識 ・セキュリティに関する知識
第14回	ライブラリアン、サーチャー、インフォプロ、デジタルアーキビストについて	ライブラリアンの種類、インフォプロ、デジタルアーキビストなどの情報専門職について学びます。
第15回	秋学期ガイダンス 夏季課題の発表 (web にて)	秋学期授業ガイダンス

第16回	専門図書館①	専門図書館の概要
第17回	専門図書館②	専門図書館の具体例から学習します。
第18回	事例研究①	専門図書館の一つである企業内図書館について学びます。
第19回	事例研究②	COVID-19 いわゆる新型コロナウイルスが図書館に与えた影響について、グループごとに討議し考察します。
第20回	パスファインダーの制作①	パスファインダーの概要
第21回	パスファインダーの制作②	テーマの設定について
第22回	パスファインダーの製作③	図書、雑誌の記述
第23回	パスファインダーの製作④	新聞および新聞記事について
第24回	パスファインダーの製作⑤	雑誌記事について
第25回	パスファインダーの製作⑥	Web 上の情報資源、その他の情報資源について
第26回	検索技術者検定3級①	検索技術者検定3級試験解説
第27回	検索技術者検定3級②	検索技術者検定3級過去問解説 2017～2019
第28回	総まとめ	制作課題の発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

図書館への見学や調査が必須となります。夏季休業期間に、国立国会図書館や武蔵野プレイス、大原社会問題研究所への見学を行います。

また第22回図書館総合展、2021年11月9日～11日の3日間開催（パシフィコ横浜）への見学課題などが必須となります。

（上記はあくまで4月下旬時点での予定です。社会情勢の変化によりオンライン開催に変更もあります）

また当科目は検索技術者検定3級受験及び合格を目標としています。<= こちらは授業内容と強く関わります。https://www.infosta.or.jp/kensaku-kentei/

平素からの専門図書館、大学図書館や情報センターへの関心が重要です。本授業の準備学習・復習時間は概ね各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

(1) 原田 智子, 吉井 隆明, 森 美由紀. 検索スキルをみがく第2版：検索技術者検定3級公式テキスト. 樹村房, 2020, ix, 147p. ISBN 9784883673407

【参考書】

(1) 日本図書館協会図書館年鑑編集委員会. 図書館年鑑, 日本図書館協会, 2018, 冊 p.

(2) 専門図書館協議会 https://jsla.or.jp/

【成績評価の方法と基準】

提出物（60%）および平常点（40%）単に出席しているだけではなく、授業への積極的な参加が望ましいです。

【学生の意見等からの気づき】

少人数です。その利点を生かした授業を行います。夏季期間中に図書館への見学なども行っています。出来るだけ多くの知見が得られる様な見学を行っています。図書館見学は毎年好評ですので、今年度も行う予定です。

【学生が準備すべき機器他】

PC
Hulic
https://lc.i.hosei.ac.jp/

【その他の重要事項】

「図書館情報学概論Ⅰ及び情報サービス論」あるいは「図書館情報学概論Ⅰ、Ⅱ」が履修済みであることが極めて望ましい科目です（四年生、大学院生、通信教育部、科目等履修生は除く）。

初回授業には必ず出席してください。必須です。

新型コロナウイルスの影響により、変更が生じた場合は、別途お知らせします。「実務経験のある教員による授業」に該当：サーチャー1級（データベース検索技術者）としての実務経験をもとに情報検索演習を徹底し、情報リテラシーの向上に向けた授業を行います。

【Outline and objectives】

The outline of the lesson is as follows.

1. We will aim for improvement of information literacy
2. We aim to improve the skill of information retrieval.
3. We will make a comprehensive learning opportunity for libraries.

学校図書館メディアの構成

有山 裕美子

配当年次／単位：2～4 年次／2 単位

開講時期：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学校図書館メディアの種類、組織化、選択法と分類、目録の基礎を学ぶ。学校図書館メディアの構成に関する理解と実務能力の育成を通して、使いやすい学校図書館をつくる上での基礎的な知識を身につける。

【到達目標】

学校図書館の現場で必要な学校図書館メディアについての知識、選択にあたっての心構えを身につける。メディアをどう使うかを考えながら、実際の学校図書館で利用者にわかりやすい分類をつけられるようにする。検索のための目録の基礎を知る。配架、レイアウトの基本を知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

各種メディアの種類と特性を理解し、授業においてどう活用するかをまず考える。また、学校図書館メディアの構築のために、資料・情報の選択と収集・提供に必要なメディアを評価する力をつけるとともに、メディア選択・収集・更新・廃棄の基準等の実務を知る。メディアの組織化に関しては、その基本を知り、演習を行う。また、提出物に対するフィードバックは学習支援システムを通じて行い、リアクションペーパーにおける質問やコメントは授業で紹介し、フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	学校図書館メディアの教育的意義と役割	学校図書館のメディアと教育の関わりとその役割について、最新の教育動向も踏まえながら捉える。
2	学校図書館メディアの授業での活用	複数のメディアを活用した授業事例等を、新学習指導要領や GIGA スクール構想などにも結びつけながら考察する。
3	学校図書館メディアの種類	学校図書館メディア基準等を参考にしながら、学校図書館で取り扱うメディアについて、その歴史と種類について学ぶ。
4	学校図書館メディア、組織化の流れ	学校図書館メディアを児童生徒に提供するまでの流れについて、その全体的な流れを把握する。
5	学校図書館メディアの選択1	学校図書館メディアを受け入れる際の考慮するポイント、収集方針等について学ぶ。
6	学校図書館メディアの選択2	学校図書館メディアを購入際の予算や、その組織化、方法等について学ぶ。
7	学校図書館メディアの分類意義・歴史	学校図書館メディアの分類はなぜ必要か、その歴史を学ぶとともに、その意義、種類などについて学ぶ。
8	日本十進分類法（NDC）の仕組み	NDC の仕組みと、その応用方法について学ぶ
9	分類演習	NDC を用いて、実際に分類を行う。可能な範囲で、附属図書館等を活用して行う。
10	日本目録規則（NCR）の仕組み	NCR の仕組みと意義、またその歴史や種類等について知る。
11	目録演習	記述と記述を構成する書誌的事項等についての確認、及び演習を行う。
12	メディアの保存と装備	メディアの保存方法や提供方法について学ぶ。また、装備等の実習を行う。
13	図書館レイアウト	学校図書館のレイアウト計画を立て、その効率的な方法について考えるとともに、児童生徒にとって使いやすい図書館はどういう図書館か考える。
14	学校図書館メディアの実際・まとめ	講義全体を振り返るとともに、最近の動き等を確認しながら、これからの学校図書館について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

できるだけ学校図書館に実際に行き、全体のレイアウト、分類、目録、配架を見て、学校図書館メディアの全体像を具体的に掴むようにする。また、GIGA スクール構想等、ICT に関するメディアが多数学校教育の現場に入っていることを意識し、積極的にそれらのメディアの最新動向を知るとともに、活用にも努めること。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。随時資料を配布する。

【参考書】

『学校図書館メディアの構成』『探究 学校図書館学』編集委員会 編著 全国学校図書館協議会 2020

『改訂新版 学校図書館メディアの構成』北克一 平井専士 放送大学教育振興会 2016

『学校図書館メディアの構成』小田光宏編 樹村房 2016

他、授業内適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業時の発言など授業への積極的な貢献度、レポート課題、演習課題。

平常点（授業への積極的な貢献度、授業時の小課題）：40%

提出レポート「複数のメディアを使った授業を考える」：20%

演習課題等：40%

【学生の意見等からの気づき】

授業目標の明示を心がける。

【学生が準備すべき機器他】

課題提出に授業支援システムを使用する。

【その他の重要事項】

本科目は司書教諭資格取得のための科目である。

【Outline and objectives】

Students learn how to use school library's functions and resources for teaching. For that purpose they learn an inquiry learning and information literacy. This subject is a weak point in Japanese school library. To realize that teaching needs using school library, librarians (teacher librarian and school librarian) have to appeal the meaning of school library to teachers.

学校経営と学校図書館

松田 ユリ子

配当年次／単位：2～4 年次／2 単位

開講時期：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学校図書館の本質的な意義に迫る。まずは学校教育における学校図書館の位置づけを、法律・制度・歴史・学習理論などの面から考察する。その上で学校図書館運営の実際について、事例を豊富に交えながら概観し、受講者とともに理想的な学校図書館のあり方を探る。

【到達目標】

講義の内容を踏まえて、受講生が理想の学校図書館像を明確に捉え、他者に説明できることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

教科書および関連する文献を読み、与えられたテーマで期日までにレポートを提出する

翌週までに講師からのコメントを受け取り、指定された時間にやり取りの過程で生じた疑問点や考察したことをオンラインでディスカッションする

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	この授業で扱う内容と講義のすすめ方の確認
第 2 回	学校図書館の意義	事前に教科書の第 1 章～第 4 章を熟読し、課題を提出し、それに基づいて議論を行う。
第 3 回	学校の中の図書館	事前に教科書の第 5 章を熟読し、課題を提出し、それに基づいて議論を行う。
第 4 回	学校図書館の歴史	事前に教科書の第 6 章を熟読し、課題を提出し、それに基づいて議論を行う。
第 5 回	学校図書館の歴史と制度	事前に教科書の第 7 章を熟読し、課題を提出し、それに基づいて議論を行う。
第 6 回	日本の学校図書館の現状	事前に教科書の第 8 章を熟読し、課題を提出し、それに基づいて議論を行う。
第 7 回	学校図書館の目的と機能	事前に教科書の第 9 章を熟読し、課題を提出し、それに基づいて議論を行う。
第 8 回	学校図書館のサービス	事前に教科書の第 10 章を熟読し、課題を提出し、それに基づいて議論を行う。
第 9 回	学校図書館における教育活動	事前に教科書の第 11 章を熟読し、課題を提出し、それに基づいて議論を行う。
第 10 回	学校図書館の担当者	事前に教科書の第 12 章を熟読し、課題を提出し、それに基づいて議論を行う。
第 11 回	学校図書館のマネジメント	事前に教科書の第 13 章を熟読し、課題を提出し、それに基づいて議論を行う。
第 12 回	学校図書館の設計／まとめ／最終レポート提示	事前に教科書の第 14 ～ 15 章を熟読し、課題を提出し、それに基づいて議論を行う。最終レポートを確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書だけでなく、示された参考文献その他の情報も可能な限り参照すること。また、参照した文献は全て必ずレポート末尾に示すこと。

【テキスト（教科書）】

中村百合子編著『学校経営と学校図書館（司書教諭テキストシリーズ II・1）』樹村房、2015

【参考書】

金沢みどり編著『学校司書の役割と活動：学校図書館の活性化の視点から』学文社、2017

全国学校図書館協議会監修『司書教諭・学校司書のための学校図書館必携：理論と実践』改訂版、悠光堂、2017

野口武悟、前田稔編著『学校経営と学校図書館』改訂新版、放送大学教育振興会、2017

堀川照代編著『「学校図書館ガイドライン」活用ハンドブック 解説編』悠光堂、2018

【成績評価の方法と基準】

各レポートの提出が必須である。

レポート 77 %（各レポート 7 %づつ）、最終レポート 23 %の比率で評価を行う。質問やディスカッションなど授業参加の状況なども加味する場合がある。

【学生の意見等からの気づき】

課題を出すタイミングを的確にする

【学生が準備すべき機器他】

パソコンが必要だが、準備できない場合は相談すること

【Outline and objectives】

Students will articulate the history, values, legal and foundational principles of the school library profession.

To provide a broad understanding of the field of school library, and facilitate the exploration of the rich possibilities of practice in the field.

学習指導と学校図書館

松田 ユリ子

配当年次／単位：2～4 年次／2 単位

開講時期：春学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、情報リテラシー教育、メディア・リテラシー教育、言語活動、探究型学習についての理解を深め、学校図書館がいかに教科学習を支えているかを考える。

【到達目標】

授業のゴールとしては、受講生各自が司書教諭としてのオリジナルな授業案をつくることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

教科書および関連する文献を読み、与えられたテーマで期日までにレポートを提出する
翌週までにコメントを受け取り、指定された時間にやり取りの過程で生じた疑問点や考察したことをオンラインでディスカッションする

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義のすすめ方と最初の課題を支援システム上で各自確認する。
4/25		
第 2 回	学校図書館と学習指導の関わり	教科書の第 1 章～第 2 章を熟読し、課題を提出する。
5/2		
第 3 回	学校図書館と学習指導の関わり	返ってきたコメントを各自確認し、質問、解説、ディスカッションをオンラインで行う。
5/9		
第 4 回	探究的な学習	教科書の第 3 章～第 4 章を熟読し、課題を提出する。
5/16		
第 5 回	探究的な学習	返ってきたコメントを各自確認し、質問、解説、ディスカッションをオンラインで行う。
5/23		
第 6 回	情報リテラシーと探究学習	教科書の第 5 章～第 8 章を熟読し、課題を提出する。
5/30		
第 7 回	情報リテラシーと探究学習	返ってきたコメントを各自確認し、質問、解説、ディスカッションをオンラインで行う。
6/6		
第 8 回	探究プロセス	教科書の第 11 章～12 章を熟読し、課題を提出する。
6/13		
第 9 回	探究プロセスと小学校の授業実践	返ってきたコメントを各自確認し、質問、解説、ディスカッションをオンラインで行う。
6/20		
第 10 回	探究プロセスと中学校高校の授業実践	教科書の第 13 章～14 章を熟読し、課題を提出する。
6/27		
第 11 回	コラボレーション	返ってきたコメントを各自確認し、質問、解説、ディスカッションをオンラインで行う。
7/4		
第 12 回	授業案	授業案の提出
7/11		

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自分が卒業した小学校、中学校、高等学校における学校図書館の状況（職員体制・授業での活用状況）を確認しておくこと。教科書だけでなく、示された参考文献その他の情報も可能な限り参照すること。また、参照した文献は全て必ずレポート末尾に示すこと。

【テキスト（教科書）】

齋藤泰則編著『学習活動と学校図書館（司書教諭テキストシリーズ II・3）』樹村房、2016

【参考書】

塩谷京子編著『すぐ実践できる情報スキル 50:学校図書館を活用して育む基礎力』ミネルヴァ書房、2016

塩谷京子著『探究の過程におけるすぐ実践できる情報活用スキル 50:単元シートを活用した授業づくり』ミネルヴァ書房、2019

全国学校図書館協議会「情報資源を活用する学びの指導体系表」<http://www.jsla.or.jp/pdfs/20190101manabinosidoutaikaihyou.pdf>

日本図書館協会図書館利用教育委員会編著『問いをつくるスパイラル:考えることから探究学習をはじめよう!』日本図書館協会、2011

堀川照代、塩谷京子著『学習指導と学校図書館』改訂新版、放送大学教育振興会、2016

【成績評価の方法と基準】

各レポートの提出が必須である。レポート 77 %（各レポート 7 %ずつ）、最終レポート 23 %の比率で評価を行う。質問やディスカッションなど授業参加の状況なども加味する場合がある。

【学生の意見等からの気づき】

特に無し

【学生が準備すべき機器他】

パソコンが必要だが、用意できない場合は相談すること

【Outline and objectives】

Students will demonstrate competency in multiple literacies (literacy, information literacy and media literacy etc.) and inquiry-based-learning of the school library profession.

To understand the importance of collaboration between school library specialist, teachers and students.

読書と豊かな人間性

有山 裕美子

配当年次／単位：2～4 年次／2 単位

開講時期：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学校図書館における読書活動について、「学び」と「読書」を軸にしながら、読書活動の意義と目的について押さえる。さらに、読書教育の歴史や児童文学の変遷について系統的に学ぶ。また、子どもの発達段階に応じた作品や指導方法を念頭に置きながら、心の教育としての読書、そして教育カリキュラムを支える読書のあり方についても考察する。

【到達目標】

学校図書館における読書活動について、その意義や実施方法等について多方向から考察するとともに、司書教諭としての基礎的、実践的な力を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

演習や発表等を随時行い、受講生が主体的に学習に参加できるようにする。また、授業毎のアクションペーパー提出の他、学生からの積極的な発信を期待する。可能であれば、実際に読書指導等を行っている場所への見学や外部ゲスト講師の招聘も検討したい。また、提出物に対するフィードバックは学習支援システムを通じて行い、アクションペーパーにおける質問やコメントは授業で紹介し、フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の内容、授業の進め方、課題、評価の方法など。
第 2 回	読書活動の意義と目的	読書とは何か、学校図書館における読書指導の意義とは何かについて考える。
第 3 回	読書教育の歴史	子どもの読書活動の歴史、および子どもの読書活動の法律の変遷について学ぶ。
第 4 回	児童文学の変遷	日本や海外における子どものための作品がどのような変遷をたどってきているかについて学ぶ。読み継がれてきた本、新しい本の動向について理解する。
第 5 回	読書能力の発達	子どもの発達段階に応じた、読書能力の発達と、読書興味の発達について学ぶ。
第 6 回	発達段階に応じた読書の指導計画①	読書の導入的指導について、楽しみや生き方に関わる読書を中心に、発達段階に応じた資料を提示しながら考える。
第 7 回	発達段階に応じた読書の指導計画②	読書の展開的指導について、調べ学習を中心に、教科指導や総合的な学習の時間等における指導に重点を置きながら学ぶ。
第 8 回	読書資料の多様化と種類	子どもを取り巻く読書環境の現状、様々な形態やジャンルの図書について学ぶ。電子書籍や ICT を活用したものなど、出来るだけ新しい動向を取り入れる。
第 9 回	読書資料の選択	その発達段階に応じて、子どもに提供する本をどのように選んでいくかについて学ぶ。
第 10 回	読書体験の表現と交流	読書感想文や読書会、ビブリオバトルなど様々な読書体験の方法について学ぶ。
第 11 回	読書の指導方法①	読書に関する指導方法やイベント企画など、どのようなアプローチが考えられるか検討する。
第 12 回	読書の指導方法②	実際に企画した読書の指導方法等についての実演や発表を行う。
第 13 回	読書活動の展開 家庭や地域、公共図書館との連携	学校図書館活動の中で展開する読書活動について、図書委員会活動や図書館活動などの広報活動を中心に学ぶ。また、家庭や地域、公共図書館との連携を考える中で、生涯学習としての読書のあり方について学ぶ。
第 14 回	振り返りとまとめ 学校図書館における読書の現状と今後の課題	これまでの学習内容を振り返り、学校図書館における読書活動及び読書指導についてまとめるとともに、現状や今後の課題について考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各授業で学んだことを復習し、次回の講義に備える。適宜プレゼンテーションや課題に向けての準備を行う。指示されたテキストを事前に読むなど。なお、本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とする。なお、本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。適宜資料を配布する。

【参考書】

『読書と豊かな人間性』『探究 学校図書館学』編集委員会編著 全国学校図書館協議会 2020年（2200 円）

『読書教育の未来』日本読書学会編 ひつじ書房 2019年（5500 円）

『読書イベント実践事例集：学校図書館が動かす』牛尾直枝・高桑弥須子・著 少年写真新聞社 2016年（1944 円）、

ほか、授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加態度、課題・レポート、試験を総合的に評価する。演習やディスカッション等、積極的に講義に取り組む姿勢は、特に高く評価する。平常点（課題発表等を含む）50 点、課題・レポート 20 点、期末試験 30 点。

【学生の意見等からの気づき】

講義等における学生の意見を尊重しながら、講義を進める。

【授業中に求められる学習活動】

D,E,F,G

【Outline and objectives】

Regarding reading activities at school libraries, our course will focus on their meaning and purpose with a particular emphasis on the learning and reading. Besides, you will systematically learn about the history of reading education and the transition of child literature. While keeping in mind the school work and teaching method corresponding to children's formative stage, you will view reading as an education of the brain and look into the way it can support the curriculum.

情報メディアの活用

有吉 末充

配当年次／単位：2～4 年次／2 単位

開講時期：秋学期

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学校図書館においても図書以外のデジタルメディアや視聴覚メディアなどを活用した指導が必要になっている。この授業では多様な情報メディアの特性を学び、その活用方法を習得することをめざす。

【到達目標】

学校図書館における様々な情報メディアの特性を理解する。データベースを用いた情報検索スキルを身につける。ICT を活用した図書館からの情報発信の方法を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

情報メディアに関する知識を習得するだけでなく、様々な情報メディアを実際に活用できるように演習を行い、スキルを身につけることを目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要、授業支援システムの使い方
2	情報社会と学校図書館	情報社会とは何か、学校図書館の役割
3	情報メディアとはなにか	学校図書館と情報メディア
4	メディア情報リテラシーと学校図書館(1)	メディア情報リテラシーとは何か
5	メディア情報リテラシーと学校図書館(2)	メディア情報リテラシーの必要性和指導の方法
6	視聴覚メディアの種類と特性(1)	メディアの種類と学習への活用(1)
7	視聴覚メディアの種類と特性(2)	メディアの種類と学習への活用(2)
8	デジタルメディア	デジタルメディアの特性、コンピュータの基礎知識
9	インターネットの基礎	インターネットの基本的技術
10	データベースの基礎とWeb 検索	データベースの基礎と Web 検索のテクニック 情報検索演習(1)
11	インターネットを使った情報検索演習	情報検索演習(2)
12	情報倫理	著作権をはじめとする知的財産制度
13	情報表現演習(1)	ICT を用いた表現方法と指導(1)
14	情報表現演習(2)	ICT を用いた表現方法と指導(2)まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の資料提示・連絡・課題提出等には図書館司書課程専用の授業支援システム「HULiC」を用いる。<http://lc.i.hosei.ac.jp/> 準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。必要に応じて授業でプリントを配布する。

【参考書】

講義の中で随時指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な貢献度（出席状況を含む） 30%

小レポート（授業中に課題を数回出す予定） 40%

期末レポート 30%

レポートは「HULiC」またはメールを活用して提出する。

【学生の意見等からの気づき】

実践的な内容を取り上げるように心がける。

【学生が準備すべき機器他】

課題提出や連絡に授業支援システム HULiC を使用する。必ず登録を行うこと。自宅で課題制作をするためにはインターネット環境とそこに接続できる機器があった方がよい。

【その他の重要事項】

情報実習室で授業を行うため、人数超過の場合は抽選となります。必ず第1回目の授業に出席すること。

【Outline and objectives】

We learn how to utilize information, media, and technology in school libraries.

倫理学 A**松本 力**

配当年次／単位：1～4 年次／2 単位

開講時期：春学期授業/Spring

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【教職】 受講生が主として教職に就くことを前提とし、「自己と他者」をめぐるテーマをケーススタディとして示しながら、倫理学の基礎となる考え方や諸問題について学ぶ。

【到達目標】

この授業では、倫理学が扱う諸問題や基盤となる学説や具体的な考え方について正確に理解し、広い視野のもと、現代社会における倫理的諸課題について自ら主体的に考察し、そのうえで自分の考えを論理的かつ適切に表現する能力を養うことを目標とする。具体的には、生命、環境、家族、地域社会、情報社会、文化と宗教、国際平和と人類の福祉など、人間としての生き方に直接関係の深い倫理的諸課題を、他者と共に生きる自らの課題として考察を深めるということである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業形態は講義で、音声収録を行った mp4 ファイルの教材を Google Classroom にて視聴する「オンデマンド配信型」で実施する。Google Classroom への案内や入室に必要な「クラスコード」は、Hoppii のお知らせにて告知する。また、前回の授業で受講生から出た質問や考察や感想をいくつか取り上げて、全体に対してフィードバックを行う。授業では、倫理学の基本的な構図と主要な学説を、基礎的な概念の解説を通して概説し、倫理学が何を問題とし、またどのような方法を用いて議論と考察を展開するか、講義する。変化の激しい現代社会においては人々の倫理的判断も多様化し、人間としての在り方や生き方が日々問われている。そうしたなか、この授業では、自己、他者、文化、宗教、家族、地域社会、国際社会、自然環境にかかわる具体的な事例をとりあげながら、主権者として、また、良識ある公民として、めざすべき社会や民主政治の在り方について主体的に考察できるよう講義する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	倫理学とは	学問の紹介と中学社会・高校公民の教育における本授業の意味
2	倫理学の基本的構図①	課題と方法について
3	倫理学の基本的構図②	考察と実践について
4	倫理学の基本的構図③	事例と判断について
5	倫理学の基本的構図④	幸福や利益について
6	倫理学の主要な学説①	功利主義の基礎
7	倫理学の主要な学説②	功利主義の展開
8	倫理学の主要な学説③	義務論の基礎
9	倫理学の主要な学説④	義務論の展開
10	現代社会の倫理学①	社会と公共をめぐる諸問題について
11	現代社会の倫理学②	国際社会をめぐる諸問題について
12	現代社会の倫理学③	環境をめぐる諸問題について
13	現代社会の倫理学④	自己と他者をめぐる諸問題について
14	復習と試験	教育における倫理学の意味の再考と、理解度の確認テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業でとったノートを、内容を思い返ししながら整理し、併せて疑問点や自分の考えや感想も記録する。また、授業で紹介する参考文献などを必要に応じて参照し、理解を深める。さらに、現代社会において具体的にどのような倫理問題がどのようなかたちで議論されているか、新聞等のメディアを通じて情報を収集し、考察する。特に「教育」に関する問題には敏感に反応すること。これらの授業時間外学習には 4 時間ほど要する。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。

【参考書】

参考書は特に指定しないが、授業で扱う資料や参考文献については講義のなかで適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

成績は、毎回実施する小テスト（40%）と、中間ないし学期末に予定している試験またはレポート（60%）にて総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業で取り上げる具体的なテーマには、人によってはかなり重いと思われる問題（例えば犯罪や差別や貧困をめぐる諸問題）も含まれます。その点を十分考慮したうえで履修すること。

【学生が準備すべき機器他】

授業はオンライン（オンデマンド）による Google Classroom での実施となるため、PC とインターネット環境が必要である。

【Outline and objectives】

In this lecture, students acquire basic knowledge about ethics and learn ethics concerning various problems of modern society.

倫理学 A

松本 力

配当年次／単位：1～4 年次／2 単位

開講時期：春学期授業/Spring

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【教職】受講生が主として教職に就くことを前提とし、「自己と他者」をめぐるテーマをケーススタディとして示しながら、倫理学の基礎となる考え方や諸問題について学ぶ。

【到達目標】

この授業では、倫理学が扱う諸問題や基盤となる学説や具体的な考え方について正確に理解し、広い視野のもと、現代社会における倫理的諸課題について自ら主体的に考察し、そのうえで自分の考えを論理的かつ適切に表現する能力を養うことを目標とする。具体的には、生命、環境、家族、地域社会、情報社会、文化と宗教、国際平和と人類の福祉など、人間としての生き方に直接関係の深い倫理的諸課題を、他者と共に生きる自らの課題として考察を深めるということである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業形態は講義で、音声収録を行った mp4 ファイルの教材を Google Classroom にて視聴する「オンデマンド配信型」で実施する。Google Classroom への案内や入室に必要な「クラスコード」は、Hoppii のお知らせにて告知する。また、前回の授業で受講生から出た質問や考察や感想をいくつか取り上げて、全体に対してフィードバックを行う。授業では、倫理学の基本的な構図と主要な学説を、基礎的な概念の解説を通して概説し、倫理学が何を問題とし、またどのような方法を用いて議論と考察を展開するか、講義する。変化の激しい現代社会においては人々の倫理的判断も多様化し、人間としての在り方や生き方が日々問われている。そうしたなか、この授業では、自己、他者、文化、宗教、家族、地域社会、国際社会、自然環境にかかわる具体的な事例をとりあげながら、主権者として、また、良識ある公民として、めざすべき社会や民主政治の在り方について主体的に考察できるよう講義する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	倫理学とは	学問の紹介と中学社会・高校公民の教育における本授業の意味
2	倫理学の基本的構図①	課題と方法について
3	倫理学の基本的構図②	考察と実践について
4	倫理学の基本的構図③	事例と判断について
5	倫理学の基本的構図④	幸福や利益について
6	倫理学の主要な学説①	功利主義の基礎
7	倫理学の主要な学説②	功利主義の展開
8	倫理学の主要な学説③	義務論の基礎
9	倫理学の主要な学説④	義務論の展開
10	現代社会の倫理学①	社会と公共をめぐる諸問題について
11	現代社会の倫理学②	国際社会をめぐる諸問題について
12	現代社会の倫理学③	環境をめぐる諸問題について
13	現代社会の倫理学④	自己と他者をめぐる諸問題について
14	復習と試験	教育における倫理学の意味の再考と、理解度の確認テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業でとったノートを、内容を思い返ししながら整理し、併せて疑問点や自分の考えや感想も記録する。また、授業で紹介する参考文献などを必要に応じて参照し、理解を深める。さらに、現代社会において具体的にどのような倫理問題がどのようなかたちで議論されているか、新聞等のメディアを通じて情報を収集し、考察する。特に「教育」に関する問題には敏感に反応すること。これらの授業時間外学習には 4 時間ほど要する。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。

【参考書】

参考書は特に指定しないが、授業で扱う資料や参考文献については講義のなかで適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

成績は、毎回実施する小テスト（40%）と、中間ないし学期末に予定している試験またはレポート（60%）にて総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業で取り上げる具体的なテーマには、人によってはかなり重く思われる問題（例えば犯罪や差別や貧困をめぐる諸問題）も含まれます。その点を十分考慮したうえで履修すること。

【学生が準備すべき機器他】

授業はオンライン（オンデマンド）による Google Classroom での実施となるため、PC とインターネット環境が必要である。

【Outline and objectives】

In this lecture, students acquire basic knowledge about ethics and learn ethics concerning various problems of modern society.

倫理学 B

松本 力

配当年次／単位：1～4 年次／2 単位

開講時期：秋学期授業/Fall

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【教職】受講生が主として教職に就くことを前提とし、「生命・健康・医療・教育」に関わる問題をテーマとしながら、倫理的思考や背景となる事実問題について学ぶ。

【到達目標】

この授業では、倫理学が扱う諸問題や基盤となる学説や具体的な考え方について正確に理解し、広い視野のもと、現代社会における倫理的諸課題について自ら主体的に考察し、そのうえで自分の考えを論理的かつ適切に表現する能力を養うことを目標とする。具体的には、生命、環境、家族、地域社会、情報社会、文化と宗教、国際平和と人類の福祉など、人間としての生き方に直接関係の深い倫理的諸課題を、他者と共に生きる自らの課題として考察を深めるということである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業形態は講義で、音声収録を行った mp4 ファイルの教材を Google Classroom にて視聴する「オンデマンド配信型」で実施する。Google Classroom への案内や入室に必要な「クラスコード」は、Hoppii のお知らせにて告知する。また、前回の授業で受講生から出た質問や考察や感想をいくつか取り上げて、全体に対してフィードバックを行う。授業では、生命をめぐる倫理学の基本的な構図と主要な学説を、基礎的概念の解説を通して講義する。変化の激しい現代社会において、とりわけ生命をめぐる人生観や死生観は複雑に多様化し、人間としての在り方や生き方が日々問われている。そうしたなか、この授業では、生命、医療、技術、健康、家族、宗教、そして人生観と死生観にかかわる具体的な事例をとりあげながら、主権者として、また、良識ある公民として、めざすべき人間の生き方と生命の在り方について主体的に考察できるよう講義する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	倫理学とは	学問の紹介と中学社会・高校公民の教育における本授業の意味
2	生命倫理学の基礎①	課題と方法について
3	生命倫理学の基礎②	考察と実践について
4	死生観をめぐる倫理①	現代の生と死をめぐる
5	死生観をめぐる倫理②	脳死と臓器移植について
6	死生観をめぐる倫理③	尊厳死と安楽死について
7	医療と技術をめぐる倫理①	現代の社会と病をめぐる
8	医療と技術をめぐる倫理②	遺伝子と医療について
9	医療と技術をめぐる倫理③	家族と生殖について
10	生命と誕生と家族をめぐる倫理①	現代社会と出生をめぐる
11	生命と誕生と家族をめぐる倫理②	妊娠中絶について
12	生命と誕生と家族をめぐる倫理③	生命と人格の問題について
13	障害と福祉をめぐる生命の倫理について	障害学の展開
14	復習と試験	教育における倫理学の意味の再考と、理解度の確認テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業でとったノートを、内容を思い返ししながら整理し、併せて疑問点や自分の考えや感想も記録する。また、授業で紹介する参考文献などを必要に応じて参照し、理解を深める。さらに、現代社会において具体的にどのような倫理問題がどのようなかたちで議論されているか、新聞等のメディアを通じて情報を収集し、考察する。特に「教育」に関する問題には敏感に反応すること。これらの授業時間外学習には 4 時間ほど要する。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。

【参考書】

参考書は特に指定しないが、授業で扱う資料や参考文献については講義のなかで適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

成績は、毎回実施する小テスト（40%）と、中間ないし学期末に予定している試験またはレポート（60%）にて総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業で取り上げる具体的なテーマには、人によってはかなり重いと思われる問題（例えば病気や生殖や生死をめぐる諸問題）も含まれます。その点を十分考慮したうえで履修すること。

【学生が準備すべき機器他】

授業はオンライン（オンデマンド）による Google Classroom での実施となるため、PC とインターネット環境が必要である。

【Outline and objectives】

In this lecture, students acquire basic knowledge about ethics and learn ethics concerning various problems of modern society.

倫理学 B

松本 力

配当年次／単位：1～4 年次／2 単位

開講時期：秋学期授業/Fall

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【教職】受講生が主として教職に就くことを前提とし、「生命・健康・医療・教育」に関わる問題をテーマとしながら、倫理的思考や背景となる事実問題について学ぶ。

【到達目標】

この授業では、倫理学が扱う諸問題や基盤となる学説や具体的な考え方について正確に理解し、広い視野のもと、現代社会における倫理的諸課題について自ら主体的に考察し、そのうえで自分の考えを論理的かつ適切に表現する能力を養うことを目標とする。具体的には、生命、環境、家族、地域社会、情報社会、文化と宗教、国際平和と人類の福祉など、人間としての生き方に直接関係の深い倫理的諸課題を、他者と共に生きる自らの課題として考察を深めるということである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業形態は講義で、音声収録を行った mp4 ファイルの教材を Google Classroom にて視聴する「オンデマンド配信型」で実施する。Google Classroom への案内や入室に必要な「クラスコード」は、Hoppii のお知らせにて告知する。また、前回の授業で受講生から出た質問や考察や感想をいくつかり取り上げて、全体に対してフィードバックを行う。授業では、生命をめぐる倫理学の基本的な構図と主要な学説を、基礎的概念の解説を通して講義する。変化の激しい現代社会において、とりわけ生命をめぐる人生観や死生観は複雑に多様化し、人間としての在り方や生き方が日々問われている。そうしたなか、この授業では、生命、医療、技術、健康、家族、宗教、そして人生観と死生観にかかわる具体的な事例をとりあげながら、主権者として、また、良識ある公民として、めざすべき人間の生き方と生命の在り方について主体的に考察できるよう講義する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	倫理学とは	学問の紹介と中学社会・高校公民の教育における本授業の意味
2	生命倫理学の基礎①	課題と方法について
3	生命倫理学の基礎②	考察と実践について
4	死生観をめぐる倫理①	現代の生と死をめぐる
5	死生観をめぐる倫理②	脳死と臓器移植について
6	死生観をめぐる倫理③	尊厳死と安楽死について
7	医療と技術をめぐる倫理①	現代の社会と病をめぐる
8	医療と技術をめぐる倫理②	遺伝子と医療について
9	医療と技術をめぐる倫理③	家族と生殖について
10	生命と誕生と家族をめぐる倫理①	現代社会と出生をめぐる
11	生命と誕生と家族をめぐる倫理②	妊娠中絶について
12	生命と誕生と家族をめぐる倫理③	生命と人格の問題について
13	障害と福祉をめぐる生命の倫理について	障害学の展開
14	復習と試験	教育における倫理学の意味の再考と、理解度の確認テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業でとったノートを、内容を思い返しながらか整理し、併せて疑問点や自分の考えや感想も記録する。また、授業で紹介する参考文献などを必要に応じて参照し、理解を深める。さらに、現代社会において具体的にどのような倫理問題がどのようなかたちで議論されているか、新聞等のメディアを通じて情報を収集し、考察する。特に「教育」に関する問題には敏感に反応すること。これらの授業時間外学習には 4 時間ほど要する。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。

【参考書】

参考書は特に指定しないが、授業で扱う資料や参考文献については講義のなかで適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

成績は、毎回実施する小テスト（40%）と、中間ないし学期末に予定している試験またはレポート（60%）にて総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業で取り上げる具体的なテーマには、人によってはかなり重く思われる問題（例えば病気や生殖や生死をめぐる諸問題）も含まれます。その点を十分考慮したうえで履修すること。

【学生が準備すべき機器他】

授業はオンライン（オンデマンド）による Google Classroom での実施となるため、PC とインターネット環境が必要である。

【Outline and objectives】

In this lecture, students acquire basic knowledge about ethics and learn ethics concerning various problems of modern society.

哲学 A

西川 純子

配当年次／単位：1～4 年次／2 単位

開講時期：春学期授業/Spring

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

受講生が教職に就くことを前提とし、「世界とは何か」という問題を中心に据えながら、哲学および思想文化の基本的な問題や概念や考え方について学ぶ。

【到達目標】

この授業では、哲学の基本的な問題や概念について正確に理解し、現代のさまざまな哲学的課題について自ら主体的に考察し、さらにその考えを論理的かつ適切に表現する能力や態度を養うことを目標とする。具体的には、人間観や世界観を先哲に学び、それらを自分とのかかわりにおいて捉え、自ら思索しつつ形成できるようになるということである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業形態は講義で、音声収録を行った mp4 ファイルの教材を Google Classroom にて視聴する「オンデマンド配信型」で実施する。Google Classroom への案内や入室に必要な「クラスコード」は、Hoppii のお知らせにて告知する。また、前回の授業で受講生から出た質問や考察や感想をいくつか取り上げて、全体に対してフィードバックを行う。授業では、古代から近世までの哲学と思想文化全般について時代を追って解説し、哲学が何を問題とし、またどのような概念を用いて思考を展開してきたか、講義する。過去のそれぞれ哲学は、一方では各々の時代背景や社会情勢に固有な特殊性を有しつつも、他方ではどんな時代や社会にも通底し、現代においても十分参照する価値のある普遍性を有している。この授業では、そうした特殊性と普遍性の両方を広く視野に入れながら、世界観や人間観に関してこれまでどのような議論や考察がなされ、また現代においてもなされつつあるか、概説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	哲学とは	学問の紹介と中学社会・高校公民の教育における本授業の意味
2	哲学の草創期と初期自然学	古代ギリシアとソクラテス以前の哲学者たち
3	アテナイ古典哲学①	哲学者ソクラテス
4	アテナイ古典哲学②	プラトンの哲学
5	アテナイ古典哲学③	アリストテレスの哲学
6	ヘレニズム期の哲学①	キュニコス派・エピクロス派の哲学
7	ヘレニズム期の哲学②	ストア派・懐疑派の哲学
8	ローマ帝政期の哲学	新プラトン派の哲学
9	ユダヤ・キリスト教の思想	宗教思想と哲学
10	中世の哲学①	教父哲学とスコラ哲学
11	中世の哲学②	神学と哲学・普遍論争
12	ルネサンス期の哲学①	宗教や文化や芸術をめぐる新しい思想
13	ルネサンス期の哲学②	フィチーノやクザーヌスの新しい人間観と世界観
14	復習と試験	総括として教育における哲学の意義の再考と、理解度の確認テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業でとったノートを、内容を思い返しながらか整理し、併せて疑問点や自分の考えや感想も記録する。授業で配布する資料や、紹介する参考文献を自ら読み、自ら考察して理解を深める。特に「教育」という観点を常に意識しながら学習するとよい。これらの授業時間外学習には 4 時間ほど要する。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しないが、必要に応じて適宜プリントを配布する。

【参考書】

参考書は特に指定しないが、授業で扱う資料や参考文献については講義のなかで適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

成績は、毎回実施する小テスト（40%）と、中間ないし学期末に予定している試験またはレポート（60%）にて総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回一定量のノートをとることになるため、スライドの構成をできるだけわかりやすく簡潔にしている。ノートをとる際は、学習内容についてよく考えながら、自分自身で理解が深まるように工夫してとること。

【学生が準備すべき機器他】

授業はオンライン（オンデマンド）による Google Classroom での実施となるため、PC とインターネット環境が必要である。

【Outline and objectives】

In this lecture, students acquire the basic knowledge about philosophy, and consider philosophically about human beings and the world.

哲学 A

西川 純子

配当年次／単位：1～4 年次／2 単位

開講時期：春学期授業/Spring

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

受講生が教職に就くことを前提とし、「世界とは何か」という問題を中心に据えながら、哲学および思想文化の基本的な問題や概念や考え方について学ぶ。

【到達目標】

この授業では、哲学の基本的な問題や概念について正確に理解し、現代のさまざまな哲学的課題について自ら主体的に考察し、さらにその考えを論理的かつ適切に表現する能力や態度を養うことを目標とする。具体的には、人間観や世界観を先哲に学び、それらを自分とのかかわりにおいて捉え、自ら思索しつつ形成できるようになるということである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業形態は講義で、音声収録を行った mp4 ファイルの教材を Google Classroom にて視聴する「オンデマンド配信型」で実施する。Google Classroom への案内や入室に必要な「クラスコード」は、Hoppii のお知らせにて告知する。また、前回の授業で受講生から出た質問や考察や感想をいくつか取り上げて、全体に対してフィードバックを行う。授業では、古代から近世までの哲学と思想文化全般について時代を追って解説し、哲学が何を問題とし、またどのような概念を用いて思考を展開してきたか、講義する。過去のそれぞれ哲学は、一方では各々の時代背景や社会情勢に固有な特殊性を有しつつも、他方ではどんな時代や社会にも通底し、現代においても十分参照する価値のある普遍性を有している。この授業では、そうした特殊性と普遍性の両方を広く視野に入れながら、世界観や人間観に関してこれまでどのような議論や考察がなされ、また現代においてもなされつつあるか、概説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	哲学とは	学問の紹介と中学社会・高校公民の教育における本授業の意味
2	哲学の草創期と初期自然学	古代ギリシアとソクラテス以前の哲学者たち
3	アテナイ古典哲学①	哲学者ソクラテス
4	アテナイ古典哲学②	プラトンの哲学
5	アテナイ古典哲学③	アリストテレスの哲学
6	ヘレニズム期の哲学①	キュニコス派・エピクロス派の哲学
7	ヘレニズム期の哲学②	ストア派・懐疑派の哲学
8	ローマ帝政期の哲学	新プラトン派の哲学
9	ユダヤ・キリスト教の思想	宗教思想と哲学
10	中世の哲学①	教父哲学とスコラ哲学
11	中世の哲学②	神学と哲学・普遍論争
12	ルネサンス期の哲学①	宗教や文化や芸術をめぐる新しい思想
13	ルネサンス期の哲学②	フィチーノやクザーヌスの新しい人間観と世界観
14	復習と試験	総括として教育における哲学の意義の再考と、理解度の確認テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業でとったノートを、内容を思い返ししながら整理し、併せて疑問点や自分の考えや感想も記録する。授業で配布する資料や、紹介する参考文献を自ら読み、自ら考察して理解を深める。特に「教育」という観点を常に意識しながら学習するとなおよい。これらの授業時間外学習には 4 時間ほど要する。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しないが、必要に応じて適宜プリントを配布する。

【参考書】

参考書は特に指定しないが、授業で扱う資料や参考文献については講義のなかで適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

成績は、毎回実施する小テスト（40%）と、中間ないし学期末に予定している試験またはレポート（60%）にて総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回一定量のノートをとることになるため、スライドの構成をできるだけわかりやすく簡潔にしている。ノートをとる際は、学習内容についてよく考えながら、自分自身で理解が深まるように工夫してとること。

【学生が準備すべき機器他】

授業はオンライン（オンデマンド）による Google Classroom での実施となるため、PC とインターネット環境が必要である。

【Outline and objectives】

In this lecture, students acquire the basic knowledge about philosophy, and consider philosophically about human beings and the world.

哲学B

西川 純子

配当年次／単位：1～4 年次／2 単位

開講時期：秋学期授業/Fall

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

受講生が主として教職に就くことを前提とし、「人間（あるいは「私」）とは何か」という問題を中心に据えながら、哲学および思想文化の基本的な問題や概念や考え方について学ぶ。

【到達目標】

この授業では、哲学の基本的な問題や概念について正確に理解し、現代のさまざまな哲学的課題について自ら主体的に考察し、さらにその考えを論理的かつ適切に表現する能力や態度を養うことを目標とする。具体的には、人間観や世界観を先哲に学び、それらを自分とのかかわりにおいて捉え、自ら思索しつつ形成できるようになるということである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業形態は講義で、音声収録を行った mp4 ファイルの教材を Google Classroom にて視聴する「オンデマンド配信型」で実施する。Google Classroom への案内や入室に必要な「クラスコード」は、Hoppii のお知らせにて告知する。また、前回の授業で受講生から出た質問や考察や感想をいくつか取り上げて、全体に対してフィードバックを行う。授業では、近代から現代までの哲学と思想文化全般について解説し、哲学が何を問題とし、またどのような概念を用いて思考を展開してきたか、講義する。近代以降の哲学は、科学を初めとする他学問や社会状況の変化とより緊密に連携・連動し、これらはそのまま現代の人間、社会、世界をめぐる諸問題として、いまなお活発に考察と議論がなされている。この授業では、これらの哲学的問題を現代を生きる自らの課題として引き受け、さらに多様化する現代哲学・現代思想に学びながら、共に考察しつつ講義する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	哲学とは	学問の紹介と中学社会・高校公民の教育における本授業の意味
2	近代哲学の課題	哲学と科学
3	大陸合理論の哲学①	デカルト
4	大陸合理論の哲学②	スピノザ、ライブニッツ
5	イギリス経験論の哲学①	ロック、バークリ
6	イギリス経験論の哲学②	ヒューム
7	ドイツ観念論の哲学①	カント
8	ドイツ観念論の哲学②	ヘーゲル
9	生の哲学	ニーチェ
10	実存主義の哲学	キルケゴール、サルトル
11	現代哲学の諸相①	精神分析と言語学
12	現代哲学の諸相②	現象学と身体論
13	現代哲学の諸相③	構造主義以降
14	復習と試験	総括として教育における哲学の意義の再考と、理解度の確認テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業でとったノートを、内容を思い返ししながら整理し、併せて疑問点や自分の考えや感想も記録する。授業で配布する資料や、紹介する参考文献を自ら読み、自ら考察して理解を深める。特に「教育」という観点を常に意識しながら学習するとなおよい。これらの授業時間外学習には 4 時間ほど要する。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しないが、必要に応じて適宜プリントを配布する。

【参考書】

参考書は特に指定しないが、授業で扱う資料や参考文献については講義のなかで適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

成績は、毎回実施する小テスト（40%）と、中間ないし学期末に予定している試験またはレポート（60%）にて総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回一定量のノートをとることになるため、スライドの構成をできるだけわかりやすく簡潔にしている。ノートをとる際は、学習内容についてよく考えながら、自分自身で理解が深まるように工夫してとること。

【学生が準備すべき機器他】

授業はオンライン（オンデマンド）による Google Classroom での実施となるため、PC とインターネット環境が必要である。

【Outline and objectives】

In this lecture, students acquire the basic knowledge about philosophy, and consider philosophically about human beings and the world.

哲学B

西川 純子

配当年次／単位：1～4 年次／2 単位

開講時期：秋学期授業/Fall

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

受講生が主として教職に就くことを前提とし、「人間（あるいは「私」）とは何か」という問題を中心に据えながら、哲学および思想文化の基本的な問題や概念や考え方について学ぶ。

【到達目標】

この授業では、哲学の基本的な問題や概念について正確に理解し、現代のさまざまな哲学的課題について自ら主体的に考察し、さらにその考えを論理的かつ適切に表現する能力や態度を養うことを目標とする。具体的には、人間観や世界観を先哲に学び、それらを自分とのかかわりにおいて捉え、自ら思索しつつ形成できるようになるということである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業形態は講義で、音声収録を行った mp4 ファイルの教材を Google Classroom にて視聴する「オンデマンド配信型」で実施する。Google Classroom への案内や入室に必要な「クラスコード」は、Hoppii のお知らせにて告知する。また、前回の授業で受講生から出た質問や考察や感想をいくつか取り上げて、全体に対してフィードバックを行う。授業では、近代から現代までの哲学と思想文化全般について解説し、哲学が何を問題とし、またどのような概念を用いて思考を展開してきたか、講義する。近代以降の哲学は、科学を初めとする他学問や社会状況の変化とより緊密に連携・連動し、これらはそのまま現代の人間、社会、世界をめぐる諸問題として、いまなお活発に考察と議論がなされている。この授業では、これらの哲学的問題を現代を生きる自らの課題として引き受け、さらに多様化する現代哲学・現代思想に学びながら、共に考察しつつ講義する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	哲学とは	学問の紹介と中学社会・高校公民の教育における本授業の意味
2	近代哲学の課題	哲学と科学
3	大陸合理論の哲学①	デカルト
4	大陸合理論の哲学②	スピノザ、ライブニッツ
5	イギリス経験論の哲学①	ロック、バークリ
6	イギリス経験論の哲学②	ヒューム
7	ドイツ観念論の哲学①	カント
8	ドイツ観念論の哲学②	ヘーゲル
9	生の哲学	ニーチェ
10	実存主義の哲学	キルケゴール、サルトル
11	現代哲学の諸相①	精神分析と言語学
12	現代哲学の諸相②	現象学と身体論
13	現代哲学の諸相③	構造主義以降
14	復習と試験	総括として教育における哲学の意義の再考と、理解度の確認テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業でとったノートを、内容を思い返ししながら整理し、併せて疑問点や自分の考えや感想も記録する。授業で配布する資料や、紹介する参考文献を自ら読み、自ら考察して理解を深める。特に「教育」という観点を常に意識しながら学習するとなおよい。これらの授業時間外学習には 4 時間ほど要する。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しないが、必要に応じて適宜プリントを配布する。

【参考書】

参考書は特に指定しないが、授業で扱う資料や参考文献については講義のなかで適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

成績は、毎回実施する小テスト（40%）と、中間ないし学期末に予定している試験またはレポート（60%）にて総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回一定量のノートをとることになるため、スライドの構成をできるだけわかりやすく簡潔にしている。ノートをとる際は、学習内容についてよく考えながら、自分自身で理解が深まるように工夫してとること。

【学生が準備すべき機器他】

授業はオンライン（オンデマンド）による Google Classroom での実施となるため、PC とインターネット環境が必要である。

【Outline and objectives】

In this lecture, students acquire the basic knowledge about philosophy, and consider philosophically about human beings and the world.

日本史 A

古澤 直人

配当年次／単位：1～4 年次／2 単位

開講時期：春学期授業/Spring

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中学校・高等学校で日本史を教える上で必要となる知識の習得と歴史の調べ方、歴史的なものの見方や考え方を養うことをめざす。教科書の記述のものになった学説を取り上げ、関連史料を読み解きながら、日本史の大きな流れを把握するとともに、歴史を学ぶ意義を考える。

【到達目標】

日本史に関する基礎的な知識と歴史学の方法論を身につける。具体的には、先行研究や関連文献・史料を読み解きながら歴史像を構築できるようになる。指導案（教案）作成に必要な知識やスキルを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

本授業では、原始・古代から近現代にいたる歴史の展開を、政治史を中心としながら、国際環境や地理的条件などと関連づけながら講義する。各時代の特色とその変遷の総合的な考察を通じて日本の伝統形成過程を考える。授業は講義を中心に進め、基本的な知識の習得につとめるとともに、近年の日本史研究の成果も紹介し、より専門的な事柄についても学ぶ。史料や文献の調べ方、読み方、および文献・史料に基づいて歴史像を構築する力を養うために、授業中に、適宜、史料を提示し、解説を行う。毎回、リアクションペーパーを提出してもらう。毎回、授業の始めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーのいくつかを紹介し、意見交換を行う。課題提出および課題に対するフィードバックには学習支援システムを用いる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	日本列島への人類の到来	気候変動／旧石器人の生活／縄文人の生活
2	弥生時代から古墳時代へ	弥生時代の始期／水田稲作と金属器／巨大古墳の出現
3	律令国家の成立と展開	乙巳の変と諸政策／白村江の戦い／戸籍と軍団制
4	摂関政治と地方の争乱	対外関係の変化／摂関政治／東国の自立の伝統／西国武士の特色
5	鎌倉幕府と中世国家	東国国家／幕府と朝廷／承久の乱／中世的枠組みの成立／モンゴルの襲撃
6	織豊政権	検地と刀狩／惣無事令／秀吉の対外政策
7	東アジアと近世社会	幕藩体制／長崎貿易／朝鮮と琉球・蝦夷
8	近世社会の変容	三大改革の捉え方／自然災害と復興／地域社会の自立
9	幕末の動乱	ペリー来航／公武合体と尊攘運動／薩長連合（薩長同盟）／大政奉還／戊辰戦争
10	近代国家の成立	憲法制定と国会開設／日清戦争と三国干渉／日露戦争
11	第一次世界大戦と日本	大正政変／政党政治の成立／ワシントン体制と協調外交
12	満州事変からアジア太平洋戦争へ	満州事変／軍部の台頭／日中戦争／戦局の拡大
13	占領から国際社会への復帰	占領政策／民主化政策／日本国憲法の制定／東京裁判／朝鮮戦争と日本／サンフランシスコ平和条約と日米安全保障条約
14	高度成長の時代	55 年体制／高度経済成長とそのひずみ／冷戦の終結と日本社会の動揺

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ①レポートの作成。
- ②『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編』（文部科学省）と高等学校の日本史の教科書の内容をよく読んで確認しておくこと。
- ③授業中に提示した参考文献に目を通しておくこと。
- ④図書館や博物館などを利用して史料を収集・文献の調査などを行い、理解を深め、教案（授業案）作成にむけた準備を行う。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業時にプリントを配布する。

【参考書】

『日本の時代史』全 30 巻（吉川弘文館）、『日本史講座』全 10 巻（東京大学出版会）に目を通し、日本史の大きな流れを把握し、知識を深めることを心がけてください。

『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編』（文部科学省）

【成績評価の方法と基準】

期末試験 60%

課題レポート提出 30%

平常点 10%

課題レポートは学習支援システムを通じて提出する。

【学生の意見等からの気づき】

日本史の専門用語や学説について、できるだけ、わかりやすい説明を行います。基本的な文献の探し方、教案（授業案）作成に必要な文献についても紹介します。

【その他の重要事項】

興味・関心をもって授業にのぞんでほしいと思います。

『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編』（文部科学省）に読んでおくこと。

【Outline and objectives】

We aim to acquire the knowledge necessary for teaching Japanese history at junior and senior high schools, how to investigate history, and how to view and think about historical things. Taking up the theory underlying textbook descriptions, reading the related historical materials, grasping the big flow of Japanese history and thinking about the significance of learning history.

日本史 A

古澤 直人

配当年次／単位：1～4 年次／2 単位

開講時期：春学期授業/Spring

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中学校・高等学校で日本史を教える上で必要となる知識の習得と歴史の調べ方、歴史的なものの見方や考え方を養うことをめざす。教科書の記述のものになった学説を取り上げ、関連史料を読み解きながら、日本史の大きな流れを把握するとともに、歴史を学ぶ意義を考える。

【到達目標】

日本史に関する基礎的な知識と歴史学の方法論を身につける。具体的には、先行研究や関連文献・史料を読み解きながら歴史像を構築できるようになる。指導案（教案）作成に必要な知識やスキルを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

本授業では、原始・古代から近現代にいたる歴史の展開を、政治史を中心としながら、国際環境や地理的条件などと関連づけながら講義する。各時代の特色とその変遷の総合的な考察を通じて日本の伝統形成過程を考える。授業は講義を中心に進め、基本的な知識の習得につとめるとともに、近年の日本史研究の成果も紹介し、より専門的な事柄についても学ぶ。史料や文献の調べ方、読み方、および文献・史料に基づいて歴史像を構築する力を養うために、授業中に、適宜、史料を提示し、解説を行う。毎回、リアクションペーパーを提出してもらう。毎回、授業の始めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーのいくつかを紹介し、意見交換を行う。課題提出および課題に対するフィードバックには学習支援システムを用いる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	日本列島への人類の到来	気候変動／旧石器人の生活／縄文人の生活
2	弥生時代から古墳時代へ	弥生時代の始期／水田稲作と金属器／巨大古墳の出現
3	律令国家の成立と展開	乙巳の変と諸政策／白村江の戦い／戸籍と軍団制
4	摂関政治と地方の争乱	対外関係の変化／摂関政治／東国の自立の伝統／西国武士の特色
5	鎌倉幕府と中世国家	東国国家／幕府と朝廷／承久の乱／中世的枠組みの成立／モンゴルの襲撃
6	織豊政権	検地と刀狩／惣無事令／秀吉の対外政策
7	東アジアと近世社会	幕藩体制／長崎貿易／朝鮮と琉球・蝦夷
8	近世社会の変容	三大改革の捉え方／自然災害と復興／地域社会の自立
9	幕末の動乱	ペリー来航／公武合体と尊攘運動／薩長連合（薩長同盟）／大政奉還／戊辰戦争
10	近代国家の成立	憲法制定と国会開設／日清戦争と三国干渉／日露戦争
11	第一次世界大戦と日本	大正政変／政党政治の成立／ワシントン体制と協調外交
12	満州事変からアジア太平洋戦争へ	満州事変／軍部の台頭／日中戦争／戦局の拡大
13	占領から国際社会への復帰	占領政策／民主化政策／日本国憲法の制定／東京裁判／朝鮮戦争と日本／サンフランシスコ平和条約と日米安全保障条約
14	高度成長の時代	55 年体制／高度経済成長とそのひずみ／冷戦の終結と日本社会の動揺

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ①レポートの作成。
- ②『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編』（文部科学省）と高等学校の日本史の教科書の内容をよく読んで確認しておくこと。
- ③授業中に提示した参考文献に目を通しておくこと。
- ④図書館や博物館などを利用して史料を収集・文献の調査などを行い、理解を深め、教案（授業案）作成にむけた準備を行う。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業時にプリントを配布する。

【参考書】

『日本の時代史』全 30 巻（吉川弘文館）、『日本史講座』全 10 巻（東京大学出版会）に目を通し、日本史の大きな流れを把握し、知識を深めることを心がけてください。

『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編』（文部科学省）

【成績評価の方法と基準】

期末試験 60%

課題レポート提出 30%

平常点 10%

課題レポートは学習支援システムを通じて提出する。

【学生の意見等からの気づき】

日本史の専門用語や学説について、できるだけ、わかりやすい説明を行います。基本的な文献の探し方、教案（授業案）作成に必要な文献についても紹介します。

【その他の重要事項】

興味・関心をもって授業にのぞんでほしいと思います。

『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編』（文部科学省）に読んでおくこと。

【Outline and objectives】

We aim to acquire the knowledge necessary for teaching Japanese history at junior and senior high schools, how to investigate history, and how to view and think about historical things. Taking up the theory underlying textbook descriptions, reading the related historical materials, grasping the big flow of Japanese history and thinking about the significance of learning history.

日本史 B

古澤 直人

配当年次／単位：1～4 年次／2 単位

開講時期：秋学期授業/Fall

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は中学校社会科・高等学校地理歴史の教員を目指すにあたり、必要な専門的知識の習得と諸資料を用いて歴史像を構築する力を養うことを目的とする。教科書記述のもとになった学説および近年の新しい研究成果を紹介しながら、日本史の大きな流れを把握するとともに、歴史学を学ぶ意義を考える。

【到達目標】

日本史に関する基礎的な知識と歴史学の方法論を身につける。先行論文や諸資料などを読み解きながら歴史像を構築できるようになる。大きな歴史の流れを理解すると同時に、各時代の特徴をとらえられるようになる。指導案（教案）作成に必要な知識やスキルを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

本授業では、原始・古代から近現代にいたる歴史の展開を、社会経済史を中心にしながら国際環境や地理的条件などと関連づけながら考える。各時代の特色とその変遷の統合的な考察を通じて、日本の伝統文化の形成過程を学ぶ。教科書記述の基盤となっている学説の紹介、さらには近年の新しい研究成果も取り上げ、一つの歴史事実に対して様々な見方や考え方があることを述べる。また、文献史料だけではなく、絵画や地図・写真などを用いて文化財・文化遺産に関する理解を深める。毎回、リアクションペーパーを提出してもらう。毎回、授業の始めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーのいくつかを紹介し、意見交換を行う。課題提出および課題に対するフィードバックは学習支援システムを用いる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	日本文化の黎明とヤマト政権	旧石器の遊動生活／縄文・弥生人の生活と信仰／巨大古墳と副葬品／倭の五王の外交
2	律令国家と天平文化	律令と官僚制／初期荘園／遣唐使と正倉院宝物
3	摂関政治と国風文化	国際関係の変化／国文学の発達／浄土の信仰／荘園の発達
4	鎌倉幕府の成立と展開	武士の生活／中世百姓の地位と権利／定期市と見世棚／鎌倉仏教
5	室町幕府と東アジア	南北朝統一／勘合貿易／婆娑羅の文化／北山文化と東山文化
6	戦国の争乱と天下統一	戦国大名の地域政策／鉄砲と木綿／南蛮貿易／桃山文化
7	江戸幕府の成立と構造	幕府と藩／村と百姓／三都の発展／農業生産の上昇と諸産業の発展
8	江戸幕府の展開と動揺	自然災害と飢饉／藩士と百姓の帰属意識／開国と幕末の動乱
9	明治国家の成立	国民国家の形成／文明開化と殖産興業／方言と標準語
10	戦間期の日本	大戦景気と恐慌／都市と農村／関東大震災／大衆文化
11	満州事変と日中戦争	満州事変の経緯／国際連盟脱退／軍部の台頭
12	第二次世界大戦	戦争拡大の理由／戦局の展開／戦時下の生活と文化／開拓民の生活
13	占領期の日本	民主化政策／日本国憲法の制定／生活の混乱と闇市
14	高度経済成長の時代	朝鮮特需と経済復興／高度経済成長／大衆消費社会の出現

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ①レポートの作成
- ②『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編』（文部科学省）を読んでおくこと。
- ③授業時に提示した参考文献を目を通しておくこと。
- ④図書館や博物館などを利用して史料の収集・文献の調査などを行い、理解を深め、教案（授業案）作成に向けた準備を行う。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

学習支援システムに資料と授業の内容を（講義をまとめたもの）をアップしておきますので確認してください。

【参考書】

『日本の時代史』全 30 巻（吉川弘文館）、『日本史講座』第 10 巻（東京大学出版会）に目を通し、日本史の基礎知識の習得を心がけてください。『高等学校学習指導要領 地理歴史編』（文部科学省）

【成績評価の方法と基準】

期末試験 60%
課題レポート提出 30%
平常点 10%
課題レポートは学習支援システムを使って提出する。

【学生の意見等からの気づき】

歴史学の専門用語や研究史等で難解なものがあるので、わかりやすく説明します。文献や史料の探し方について指導し、教案（授業案）作成にむけた知識とスキルの習得をめざします。

【その他の重要事項】

興味・関心を持って授業に出席してほしいと思います。『高等学校学習指導要領 地理歴史編』（文部科学省）に目を通しておいて下さい。

【Outline and objectives】

We aim to acquire the knowledge necessary for teaching Japanese history at junior and senior high schools, how to investigate history, and how to view and think about historical things. Taking up the theory underlying textbook descriptions, reading the related historical materials, grasping the big flow of Japanese history and thinking about the significance of learning history.

日本史 B

古澤 直人

配当年次／単位：1～4 年次／2 単位

開講時期：秋学期授業/Fall

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は中学校社会科・高等学校地理歴史の教員を目指すにあたり、必要な専門的知識の習得と諸資料を用いて歴史像を構築する力を養うことを目的とする。教科書記述のもとになった学説および近年の新しい研究成果を紹介しながら、日本史の大きな流れを把握するとともに、歴史学を学ぶ意義を考える。

【到達目標】

日本史に関する基礎的な知識と歴史学の方法論を身につける。先行論文や諸資料などを読み解きながら歴史像を構築できるようになる。大きな歴史の流れを理解すると同時に、各時代の特徴をとらえられるようになる。指導案（教案）作成に必要な知識やスキルを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

本授業では、原始・古代から近現代にいたる歴史の展開を、社会経済史を中心にしながら国際環境や地理的条件などと関連づけながら考える。各時代の特色とその変遷の統合的な考察を通じて、日本の伝統文化の形成過程を学ぶ。教科書記述の基盤となっている学説の紹介、さらには近年の新しい研究成果も取り上げ、一つの歴史事実に対して様々な見方や考え方があることを述べる。また、文献史料だけではなく、絵画や地図・写真などを用いて文化財・文化遺産に関する理解を深める。毎回、リアクションペーパーを提出してもらう。毎回、授業の始めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーのいくつかを紹介し、意見交換を行う。課題提出および課題に対するフィードバックは学習支援システムを用いる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	日本文化の黎明とヤマト政権	旧石器の遊動生活／縄文・弥生人の生活と信仰／巨大古墳と副葬品／倭の五王の外交
2	律令国家と天平文化	律令と官僚制／初期荘園／遣唐使と正倉院宝物
3	摂関政治と国風文化	国際関係の変化／国文学の発達／浄土の信仰／荘園の発達
4	鎌倉幕府の成立と展開	武士の生活／中世百姓の地位と権利／定期市と見世棚／鎌倉仏教
5	室町幕府と東アジア	南北朝統一／勘合貿易／婆娑羅の文化／北山文化と東山文化
6	戦国の争乱と天下統一	戦国大名の地域政策／鉄砲と木綿／南蛮貿易／桃山文化
7	江戸幕府の成立と構造	幕府と藩／村と百姓／三都の発展／農業生産の上昇と諸産業の発展
8	江戸幕府の展開と動揺	自然災害と飢饉／藩士と百姓の帰属意識／開国と幕末の動乱
9	明治国家の成立	国民国家の形成／文明開化と殖産興業／方言と標準語
10	戦間期の日本	大戦景気と恐慌／都市と農村／関東大震災／大衆文化
11	満州事変と日中戦争	満州事変の経緯／国際連盟脱退／軍部の台頭
12	第二次世界大戦	戦争拡大の理由／戦局の展開／戦時下の生活と文化／開拓民の生活
13	占領期の日本	民主化政策／日本国憲法の制定／生活の混乱と闇市
14	高度経済成長の時代	朝鮮特需と経済復興／高度経済成長／大衆消費社会の出現

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ①レポートの作成
- ②『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編』（文部科学省）を読んでおくこと。
- ③授業時に提示した参考文献に目を通しておくこと。
- ④図書館や博物館などを利用して史料の収集・文献の調査などを行い、理解を深め、教案（授業案）作成に向けた準備を行う。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

学習支援システムに資料と授業の内容を（講義をまとめたもの）をアップしておきますので確認してください。

【参考書】

『日本の時代史』全 30 巻（吉川弘文館）、『日本史講座』第 10 巻（東京大学出版会）に目を通し、日本史の基礎知識の習得を心がけてください。『高等学校学習指導要領 地理歴史編』（文部科学省）

【成績評価の方法と基準】

期末試験 60%
課題レポート提出 30%
平常点 10%
課題レポートは学習支援システムを使って提出する。

【学生の意見等からの気づき】

歴史学の専門用語や研究史等で難解なものがあるので、わかりやすく説明します。文献や史料の探し方について指導し、教案（授業案）作成にむけた知識とスキルの習得をめざします。

【その他の重要事項】

興味・関心を持って授業に出席してほしいと思います。『高等学校学習指導要領 地理歴史編』（文部科学省）に目を通しておいて下さい。

【Outline and objectives】

We aim to acquire the knowledge necessary for teaching Japanese history at junior and senior high schools, how to investigate history, and how to view and think about historical things. Taking up the theory underlying textbook descriptions, reading the related historical materials, grasping the big flow of Japanese history and thinking about the significance of learning history.

世界史 A

太田 啓子

配当年次／単位：1～4 年次／2 単位

開講時期：春学期授業/Spring

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中高生の「世界史離れ」、あるいは「世界史嫌い」が叫ばれて久しい。この授業では、中学校、高等学校の授業を念頭に置いて、いかに世界の歴史への関心を引き出すか、その方法について、受講者とともに考えます。また、史料（文字史料、映像）を用いた世界史教育の方法について、史料の読解のスキルや映像を利用する際に必要となるメディアリテラシーについて、実践的に学ぶ。今学期は「世界史における隷属」を軸として、古代～近代までの社会経済の変化、その政治的背景を中心に学びます。

【到達目標】

この授業は、高校新学習指導要領を踏まえ、歴史的思考力を養う歴史教育の方法を身につけることを目標とする。具体的には、(1) 歴史への関心を引き出す方法、(2) 史料を使った歴史教育の方法、(3) 世界史の大きな流れの理解、の3点である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

【新型コロナウイルス感染拡大への措置】原則として、ZOOM によるリアルタイムのリモート授業を行います。1 回ごとにあらかじめ史料を配布し、新科目「歴史総合」と「世界史探究」を念頭に、資料の読解・解釈を中心に進めます。授業の中で、履修者に短い報告をお願いします。出席確認を兼ねて、授業の最後にリアクションペーパーを書く時間を設けますので、その場で書いて Google Classroom の所定の場所に送っていただきます。

映像資料については、授業の代わりに、各自で Youtube 等を利用して鑑賞してもらいます。鑑賞後は、翌週の授業までに映画評を送っていただきます。

通常の授業とは別に、歴史学研究会編『史料で考える世界史 20 講』（岩波書店、2014 年）から 3 章を選び、小レポートを作成していただきます。授業の中で担当を決めて、小レポートの内容を発表していただき、質疑、討論する回を設けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の概要と進め方。
第 2 回	変わる歴史教育	戦後学制改革と「社会科 世界史」の誕生。新学習指導要領の理念。
第 3 回	史料から考える世界史	史料を使った世界史教育の方法。
第 4 回	世界史における「隷属」	地中海世界、東アジア、南北アメリカの比較
第 5 回	地中海世界の成立と古代の隷属制度。 （『史料から考える世界史 20 講』第 1 回発表）	共和政ローマにおける隷属制社会と隷属反乱。
第 6 回	映画鑑賞	映画「スパルタカス」(1960) 鑑賞。
第 7 回	近世のグローバル化 （映画「スパルタカス」コメントの紹介）	世界システム論の観点から大航海時代の意味を考える。
第 8 回	大西洋世界の成立	ラテンアメリカ、カリブ海地域の植民地化。
第 9 回	南北アメリカの黒人隷属制度	大西洋隷属貿易の歴史の意味。
第 10 回	大西洋世界における北アメリカ （『史料から考える世界史 20 講』第 2 回発表）	「南北戦争・再建」の時代。
第 11 回	映画鑑賞	映画「国民の創生」(1914) 鑑賞
第 12 回	歴史教育とメディアリテラシー （映画「国民の創生」(1914) コメントの紹介）	「南北戦争の南部史観」から歴史における記憶を考える
第 13 回	近代アジアをめぐる人の移動	日本からの海外移住と多文化化する現代日本社会
第 14 回	まとめ （『史料から考える世界史 20 講』第 3 回発表）	隷属から見た世界史からわかること

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定する参考文献を読むこと。

高校時代に使用した「世界史」の教科書を通読しておくとい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

歴史学研究会編『史料から考える世界史 20 講』岩波書店、2014 年。この本の中から 3 章を選び、小レポートを提出してもらいます。できる限り、自分で購入して、レポートの課題とならなかった章も読んでください。教職希望者は、必ず購入して熟読してください。

【参考書】

各自の高等学校世界史教科書。

本田創造『新版 アメリカ黒人の歴史』岩波新書、1991 年。

土井正興『新版 スパルタカスの蜂起』青木書店、1988 年。

弓削達『地中海世界とローマ帝国』岩波書店、1977 年。

弓削達『ローマ帝国とキリスト教』河出書房新社、1989 年。

マーガレット・ミッチェル『風と共に去りぬ』全 5 冊、新潮文庫、1977 年。岩波文庫版あり。

本田創造『新版 アメリカ黒人の歴史』岩波新書、1991 年。

青木富貴子『「風と共に去りぬ」のアメリカ』岩波新書、1996 年。

ナタリー・Z・デーヴィス（中條献訳）『歴史叙述としての映画』岩波書店、2007 年。

森谷公俊『学生をやる気にさせる歴史の授業』青木書店、2008 年。

津野田興一『世界史読書案内』岩波書店、2010 年。

桃木至朗『わかる歴史 面白い歴史 役に立つ歴史』大阪大学出版会、2009 年。

大学の歴史教育を考える会『わかる・身につく 歴史学の学び方』大月書店、2016 年。

【成績評価の方法と基準】

(1) 授業への取り組み（レスポンスシート含む）50% (2) 映画コメント

20% (3) 「史料から考える世界史 20 講」小レポート 30%

なお、期末試験・レポートは実施しません。

【学生の意見等からの気づき】

高校で「世界史 B」を履修していない受講者にもできるだけ配慮して授業を進めます。世界史の基本的な知識が足りないと感じている履修者は、高校「世界史 A」で使用した教科書を読み直しておくことを勧めます。

【学生が準備すべき機器他】

スマートフォンではなく、PC での受講を勧めます。

【その他の重要事項】

(1) この授業は教職資格取得を目指す学生を対象としていますが、大学で世界史を学び直したいと考える受講者も歓迎します。

(2) 出席を重視します。教育実習、介護実習、対外試合等、正当な理由で欠席する場合は、できるだけ事前に連絡してください。やむを得ない場合は、事後でも構いません。

(3) 秋学期開講の「世界史 B」も履修することを勧めます。

(4) 期末試験は実施しません。毎回の小レポート、リアクションペーパー、授業に取り組む姿勢を中心に成績評価を行います。したがって、代理出席は試験の不正行為と同等と見なします。

【Outline and objectives】

Since several years ago, Junior and senior high school students' "aversion to the world history" became apparent. In this class, we will think about how to draw out the interest to the world history together. Students will acquire skills of reading and comprehension of historical materials and the media literacy using movies. In this class, we will think about world history focusing various types of "servitude" in the history.

世界史 B

太田 啓子

配当年次／単位：1～4 年次／2 単位

開講時期：秋学期授業/Fall

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中高生の「世界史離れ」、あるいは「世界史嫌い」が叫ばれて久しい。この授業では、中学校、高等学校の授業を念頭に置いて、いかに世界の歴史への関心を引き出すか、その方法について、受講者とともに考えます。また、史料（文字史料、映像）を用いた世界史教育の方法について、史料の読解のスキルや映像を利用する際に必要となるメディアリテラシーについて、実践的に学ぶ。今学期は近代世界の成立を軸として、「地理上の発見」以降のヨーロッパの膨張と世界各地の政治、社会経済の変化、思想・文化の創造を中心に学びます。

【到達目標】

この授業は、高校新学習指導要領を踏まえ、歴史的思考力を養う歴史教育の方法を身につけることを目標とする。具体的には、(1) 歴史への関心を引き出す方法、(2) 史料を使った歴史教育の方法、(3) 世界史の大きな流れの理解、の3点である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

【新型コロナウイルス感染症拡大への措置】原則として、ZOOM によるリアルタイムのリモート授業を行う予定ですが、対面授業が解禁された場合には、対面授業に切り替える可能性があります。

1 回ごとにあらかじめ史料を配布し、新科目「歴史総合」と「世界史探究」を念頭に、資料の読解・解釈を中心に進めます。授業の中で、履修者に短い報告をお願いします。出席確認を兼ねて、授業の最後にリアクションペーパーを書く時間を設けますので、その場で書いて Google Classroom の所定の場所に送っていただきます。

映像資料については、授業の代わりに、各自で Youtube 等を利用して鑑賞してもらいます。鑑賞後は、翌週の授業までに映画評を送っていただきます。

通常の授業とは別に、歴史学研究会編『史料で考える世界史 20 講』（岩波書店、2014 年）から 3 章を選び、小レポートを作成していただきます。授業の中で担当を決めて、小レポートの内容を発表していただき、質疑、討論する回を設けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の概要と進め方。
第 2 回	「社会化世界史」の誕生と新学習指導要領	高校「世界史 A」と「世界史 B」の考え方の異同、新学習指導要領の「歴史的思考力」。
第 3 回	「グローバルヒストリー」とは何か	新しい世界史の枠組み。
第 4 回	歴史としての 20 世紀 （『史料で考える世界史 20 講』第 1 回報告）	「短い 20 世紀」と「長い 20 世紀」
第 5 回	映画鑑賞	映画「ここで君たちを待っている」鑑賞。
第 6 回	ルネサンス・宗教改革・地理上の発見 1 （映画「ここで君たちを待っている」コメント紹介）	モア『ユートピア』から「地理上の発見」の影響を考える。
第 7 回	「ルネサンス・宗教改革・地理上の発見 2	デフォー、スウィフトの旅から近代世界成立を考える。
第 8 回	産業革命と大西洋交易圏	スミス『国富論』から見える産業革命直前の世界。
第 9 回	近代資本主義とカリブ海 （『史料で考える世界史 20 講』第 2 回報告）	「周辺」の視点から、近代世界を捉え直す。
第 10 回	世界システムと日本	「世界システム」から見る日本近世・近代。
第 11 回	植民地主義の歴史をどう考えるか	フランツ・ファノン『黒い皮膚と白い仮面』を読む。
第 12 回	映画鑑賞	映画「マルチニクの少年」（1983）。
第 13 回	一国史観と世界史 （映画「マルチニクの少年」コメント紹介）	大塚久雄「横倒しの世界史」の問題点。
第 14 回	まとめ （『史料で考える世界史 20 講』第 3 回報告）	「近代世界」は 21 世紀に何を残したか。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

高校で使用した「世界史」教科書をじっくり読んでおくことを勧めます。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

歴史学研究会編『史料で考える世界史 20 講』岩波書店、2014 年。教職希望者は、必ず自分で購入して、レポートの課題の章だけでなく全巻読んでください。

【参考書】

各自の高等学校世界史教科書。

小川幸司『世界史との対話』全 3 巻、地歴社、2013 年。

川北稔『砂糖の世界史』岩波ジュニア新書（1996 年）。

大阪大学歴史教育研究会編『市民のための世界史』大阪大学出版会、2014 年。

木畑洋一『二〇世紀の歴史』岩波新書、2014 年。

川北稔『砂糖の世界史』岩波ジュニア新書（1996 年）。

村井章介『海から見た戦国時代』ちくま新書（1997 年）。

森谷公俊『学生をやる気にさせる歴史の授業』青木書店、2008 年。

津野田興一『世界史読書案内』岩波書店、2010 年。

桃木至朗『わかる歴史 面白い歴史 役に立つ歴史』大阪大学出版会、2009 年。

大学の歴史教育を考える会『わかる・身につく 歴史学の学び方』大月書店、2016 年。

【成績評価の方法と基準】

(1) 毎回の授業時に作成する小レポート、映画評、およびリアクションペーパー 60% (2) 教科書の中から指定した 3 本の論考に関する小レポート 30% (3) 平常点（授業内での発表等、授業への参加度）10%。なお、期末試験は実施しません。

【学生の意見等からの気づき】

高校で「世界史 B」を履修していない履修者にも配慮して、授業を進めます。

【学生が準備すべき機器他】

なし。

【その他の重要事項】

(1) この授業は教職資格取得を目指す学生を対象としていますが、大学で世界史を学び直したいと考える受講者も歓迎します。

(2) 出席を重視します。教育実習、介護実習、対外試合等、正当な理由で欠席する場合は、できるだけ事前に連絡してください。やむを得ない場合は、事後でも構いません。

(3) 春学期開講の「世界史 A」も履修することを勧めます。

【Outline and objectives】

Since several years ago, Junior and senior high school students' "aversion to the world history" became apparent. In this class, we will think about how to draw out the interest to the world history together. Students will acquire skills of reading and comprehension of historical materials and the media literacy using movies. In this class, we will think about world history focusing on the formation of modern world since "expansion" of Western Europe.

国際政治論

曹 海石

配当年次／単位：2～4 年次／2 単位

開講時期：秋学期授業/Fall

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

責任ある「有権者」として必須な、国際政治の体系的理解

【到達目標】

「有権者」の国際政策の選択の基準として、理論のみならず事例の理解にも到達する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

現在、政治はかつてない変動の時代を迎えているといつて良い。「グローバルズム」、「ボーダーレス」という時代のキーワードが示すように、国際政治の影響力は、我々の生活の上に大きな影響を及ぼしている。この国際政治の現実を理論的にどう分析するのか。そのための多様な認識枠組を価値中立的に紹介することを目的とする。なお、以下の記述は、扱うべきトピックを述べているが講義の展開によって変更が及ぶ。最後の講義で講義内容のまとめや、課題に対する講評や解説によるフィードバックを試みる。また講義計画は講義の展開により、若干の変更もありうる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	国際政治学とは何か？	導入
2	国際政治学の基礎概念	基礎概念
3	冷戦と現実主義	戦後政治の基本
4	テ・タントと相互依存論	戦後政治の変容
5	ガルトウングの平和学	構造的な視点
6	ローズノーのリンケー ジ・ポリティックス論	国際政治と国内政治
7	ロッカンの国家形成・国民形成論	国家と国民とは
8	ロッカンの「欧州概念地図」	マクロな分析枠組み
9	欧州統合の展開	国際統合の現実態
10	レジーム論	多様なレジーム
11	「帝国」論	帝国と国民国家
12	欧州統合と国民国家の変容	国民国家の変容
13	日本をとりまく国際政治	最近の事例から
14	国際政治論の展望	現在の国際政治論の課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

時事問題も取り扱うので、新聞、ニュースをできればチェックすること。また、責任ある国際感覚のあふれる「有権者」となるためにはいうまでもないことであるが、政治の理解を深めるために読書レポートを準備してもらおう。本年度はどの本を読むか未定であるが、かつて『現代欧州統合の構造』芦書房、2008年。を課題とした。本年度も同等のものを読んでもらうつもりである。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義時に指示。

【参考書】

講義時に適宜指示。

【成績評価の方法と基準】

テスト70%、レポート20%、講義科目への積極度10%を中心として総合的に評価する。
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことに伴い、教場試験が実現できない場合も想定される。学期末に最終的に教場での試験が行えない場合には、成績評価の方法と基準における試験をレポートで代替することを考える。

【学生の意見等からの気づき】

学生との双方向のコミュニケーションを大切にしたい。継続して行っているこの講義の試みは、学生に好意的に評価されている。また、講義を通じ、現実の問題への関心を喚起することで、現代を現実的に理解することができているようである。

【Outline and objectives】

This course aims to provide basic understandings of theoretical aspects of International Relations.

人文地理学 I

濱田 博之

配当年次／単位：2～4 年次／2 単位

開講時期：春学期授業/Spring

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では中学社会および高校地歴の地理的分野を学ぶにあたって基本となる、地図に関する知識や技能の習得を目標とする。

【到達目標】

中学校や高等学校における「地理」は地図の利用が前提とされており、指導にあたっては地図に関する深い造詣が求められる。本講義では読図など地図の利用に関する技能のみならず、地図利用の意義を歴史的な経緯を含め深く学んでいく。さらに統計資料などをもとに地図を作成し地域理解に利用する手法や、情報通信ネットワークやGIS（地理情報システム）等の活用が重視されている現状から、これらの技術的な概説と利用についても触れていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。本授業の開始日は5月8日（11:10～）とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。
現在のところ授業はzoomなどによる映像配信を基本とし、毎回の授業の最後にはまとめとしてリアクションペーパーのオンラインでの提出を求める計画である。同時参加できなかった学生に対しては録画での視聴を求め不利益とはならないよう配慮したい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	中学校・高等学校における地理の指導と地図活用の現状
2	方向感覚と空間認知	人間や他の動物における原始的なナビゲーション
3	地図の原理 I	緯度経度や時差など地球上での位置決定における基礎事項
4	地図の原理 II	球体である地球を平面で表現するのに用いられる地図投影法
5	地図の歴史 I	古代ギリシア〜ルネサンス期の主にヨーロッパにおける地球観と地図
6	地図の歴史 II	仏教の影響を強く受けた室町時代以前の日本における地球観と地図
7	地図の歴史 III	主に江戸幕府による地図作成事業と庶民の間に流布した地図
8	測量技術の発展 I	三角測量に代表される近現代の測量とそれにより作成された地図
9	測量技術の発展 II	航空機や人工衛星を用いることで正確さを増した現代の測量技術
10	地図とコンピュータ I	GISに関する技術的な概説と実生活における利用
11	地図とコンピュータ II	主に教育現場におけるGIS活用の利点と実践事例
12	国家の領域 I	地図を用いることで決定される国家の領域と現代の国際関係
13	国家の領域 II	日本の国土の範囲と周辺に存在する領土問題
14	まとめと試験	これまでの内容の復習と試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は求めない。毎講義ごとに前回の復習を簡単に行うが、理解を深めるためにも、各自が積極的に復習をしてほしい。本授業の準備学習・復習時間は、各1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

【参考書】

地図の歴史については、織田武雄『地図の歴史 世界編・日本編』講談社現代新書などが参考となる。

【成績評価の方法と基準】

毎回のリアクションペーパー（50%）、学期末の試験（50%）。

【学生の意見等からの気づき】

教育現場等における地図やコンピュータの活用について、実際の事例を紹介していきたい。

【Outline and objectives】

In this lecture, we learn about the history of map and knowledge of the map. It is a basic part in learning geography at junior high school and senior high school. Map is the most basic field of geography and it is a field to be learned whenever teaching geography as faculty.

人文地理学Ⅱ

松永 和子

配当年次／単位：2～4 年次／2 単位

開講時期：秋学期授業/Fall

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会科学に視点をおきつつ、地理学独自の視点を大切にします。世界的な課題である環境・人口・食糧問題の原因を説き、その解決方法を探ります。身につけた内容を教育実践できることを目標とします。

【到達目標】

地図・統計の読み方、利用についての知識を身につけて、地理学の基本的知識を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義を中心に、一部映像資料やプリント作業で構成します。毎回アクションペーパーの提出。次の回でアクションペーパーの内容を中心に前回授業の「振り返り」を行い、参加者と共有します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	現代世界と地理 ～地域から世界を眺める視点	講義の方針と世界的課題を地理学の視点で学ぶ意義について
第 2 回	地球の大きさと地図(1) ～地球の成り立ちを知る	経度・緯度、時差などについて
第 3 回	地球の大きさと地図(2) ～球体を平面化する	グローバル化する世界を考える メルカトル図法と正距方位図法の違いと利用について
第 4 回	災害と人間 ～東日本大震災から学ぶ	震災被害の実態と復興過程について ハザードマップの活用
第 5 回	地域からの断絶	人権侵害である「ハンセン病」を地域からの隔絶という観点で考える
第 6 回	環境問題 ～世界遺産について	世界自然遺産登録と保護のあり方について考える
第 7 回	沖縄と現代 ～沖縄からみえる日本	米軍基地と戦後沖縄の経済と現代の沖縄について考える
第 8 回	アジアと日本 ～多文化共生について	地域にねざす在日コリアンとの共生を、大阪から学ぶ
第 9 回	世界のエネルギー政策と日本	エネルギー資源の分布・利用 原発の「安全神話」の背景とこれからのエネルギーについて
第 10 回	領土と国境	国境の島に生きる人々を中心に、領土問題を考える
第 11 回	世界の食糧問題 ～食糧バランス	世界の食糧生産、食料自給率、セカンドハーベストについて
第 12 回	森は海の恋人 ～漁師とともに山に木を植える	山の植林と海の環境に関わる気仙沼の漁師の取り組みを中心に、林業・水産業の将来を考える
第 13 回	武器ではなく命の水を	乾燥地域に緑の耕地を蘇らせた故中村哲医師の仕事
第 14 回	まとめと試験	レポート、課題の講評と試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

都市と農村の地域をテーマとして歩く。地図帳を繰り返し読み、判読できる態勢を作る。地理・歴史・公民など社会科学関連の学習会への積極的参加を求める。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

高校地図帳を必ず持参してほしい。
毎回テーマに関するプリントを配布します。

【参考書】

『新版 地理授業で使いたい教材資料』（地教研編・清水書院）
『第 5 版 授業のための世界地理』（地教研編・古今書院）
『第 5 版 授業のための日本地理』（地教研編・古今書院）
『地理を楽しく！子どもを引きつける 60 のポイント』（地教研編・高文研）
『知るほど面白くなる日本地理』（地教研編・日本実業出版社）

【成績評価の方法と基準】

学期末試験 50%
小テスト・レポート課題・平常点（毎回の出席確認と授業への取り組みを重視します） 50%
学期末に試験を実施します。
教育（介護）実習以外への出席配慮はしません。

14講中10講以上の出席が必要条件です。
 ◎オンライン授業となり、継続する場合は、学期末試験は実施しません。

【学生の意見等からの気づき】
 特になし。

【学生が準備すべき機器他】
 DVDとVTRを使用します。

【その他の重要事項】
 授業計画はあくまでも予定であり、変更もあります。
 教育実習、介護実習の予定を事前に知らせてください。

【Outline and objectives】
 While keeping a point of view on social science, we value our own viewpoint of geography. We will explain the causes of environmental problems, global population and food problems, and explore how to solve them. I will aim to be able to teach and practice what I learned.

自然地理学 I

山川 信之

配当年次／単位：2～4 年次／2 単位

開講時期：春学期授業/Spring

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、中学校課程および高校課程で扱う自然地理学分野について学習する。自然地理学は、自然環境の諸要素である地形、気候、植生、土壌の成り立ちを明らかにする学問である。その中から自然地理学 I では、おもに気候と気候に関連した土壌および植生帯について学習する。また、気象災害にも目を向け、防災に対する意識を身に付ける。

【到達目標】

以下の3点を到達目標とする。

- ①中学課程および高校課程の自然地理的分野の学習指導に対応できる知識と能力を身につける。
- ②気候の成り立ちと世界及び日本の気候環境に関する基本的な知識を身につける。
- ③自然地理学的立場から防災や減災についての理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

教員による講義を中心とする。講義では学習資料とパワーポイントを使いながら毎回の講義内容の基礎知識や重要事項の整理を行う。学習資料は、学習支援システムの教材欄にアップする。毎回配布する学習資料はワークシートになっているのでフィードバックとして次回の学習資料にて解説と解答を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし/No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	自然環境の捉え方	ガイダンスとしてさまざまな自然景観や自然現象を取り上げ、それがどのようにして成り立っているのかについて学習する。それにより自然環境は、一つの要素だけで成り立っているのではなく、様々な要素から成り立っていることを理解する。
2	気候の成り立ち	気温、降水量、風という気候要素に対し、緯度や隔海度、標高、海流、地形などの気候因子にどのような影響を及ぼすかについて学習する。それによりさまざまな気象現象や気候が生じることを理解する。
3	ケッペンの気候区分と気候区分の基本的な考え方	中高の教育課程で用いられるケッペンの気候区分について学習する。それによりケッペンの気候区分の基本的な考え方として気温と降水量に加え、植生帯も気候区分の重要な指標になる事ことを理解する。
4	熱帯・乾燥帯の気候	熱帯および乾燥帯に属するさまざまな気候について学習する。それにより熱帯および乾燥帯の気温、降水量の分布とそれを規定する要因およびそれぞれの気候環境下でみられる自然の特色について理解する。
5	温帯・亜寒帯・寒帯の気候	温帯、亜寒帯および寒帯に属するさまざまな気候について学習する。それにより温帯、亜寒帯および寒帯の気候区の気温、降水量の分布とそれを規定する要因やそれぞれの気候環境下でみられる自然の特色について理解する。
6	日本の気候と気候区分	日本の気候と気候区分について学習する。それにより日本の気候の全般的な特色や各気候区の特色および日本の気候に影響を与える気団や気象現象について理解する。
7	気象災害	日本における台風、雪崩、集中豪雨などの気象災害について学習する。また、異常気象や都市気候についても言及する。それにより気象災害がどのようなメカニズムで発生するのかについて理解する。

8	第四紀の気候変動	第四紀に起きた水河期や小氷期、亜間氷期の気候変動でどのような環境が生じたのかについて学習する。それによって現在の自然環境が、気候変動を経て成り立っていることを理解する。
9	土壌の形成過程	土壌の生成過程について学習する。それにより土壌の生成には基盤岩の風化だけでなく、生物学的および化学的変質を受けながら層位に分化した土壌層を形成することを理解する。また、成帯土壌の生成過程では、気候や植物の影響が大きいことを理解する。
10	熱帯・乾燥帯の土壌	熱帯および乾燥帯に分布する成帯土壌と成帯内性土壌（間帯土壌）について学習する。それにより熱帯および乾燥帯に分布するさまざまな土壌の性質と特徴について理解する。
11	温帯・亜寒帯・寒帯の土壌	温帯、亜寒帯および寒帯に分布する成帯土壌と成帯内性土壌（間帯土壌）について学習する。それにより温帯、亜寒帯および寒帯に分布するさまざまな土壌の性質と特徴について理解する。
12	日本の土壌	日本に分布する土壌とその特質について学習する。それにより日本の土壌分布は、複雑な地形と多様な気候環境および異なる性質の母材によって規定されていることを理解する。
13	日本の植生帯	日本の植生帯とその成り立ちについて学習する。それにより日本の植生帯は気候環境に対応した水平分布と標高によって成り立つ垂直分布があることを理解する。
14	試験・まとめと解説	前期のまとめと理解度の確認として試験を行う。また、試験後にはフィードバックとして解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業で配布する学習資料の最後に復習のためのワークがあるので、それを完成させる。フィードバックとして次回に配布する学習資料に解答と解説を掲載する。予習については、各回の授業の終わりに指示する。復習と予習に要する時間は各 2 時間、計 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。教科書の代わりに毎回の授業で学習資料を配布し、学習資料に基づいて授業を行う。

【参考書】

「環境気候学」 吉野正敏・福岡義隆編著、東京大学出版会。
「最新気象百科」 ドナルド・アーレン、丸善。
「日本の気候景観」 増補版 青山高義他編、古今書院。
「日本気候百科」 日下博幸・藤部文昭編、丸善出版。
「気象・防災情報の見方と使い方」 平井信行、第一法規。
「自然地理学概論」 高橋日出夫・小泉武栄編著、朝倉書店
「土壌地理学序説」 松井健、築地書館

【成績評価の方法と基準】

- ①平常点 10 %
毎回の授業で配布する学習資料がワークシートになっています。出席は毎回取りますが、ワークシートを完成させることが平常点となります。
- ②中間課題 20 %
8 回目の講義あたりで、それまでの講義内容に基づいた中間課題を出します。
- ③試験 70 %
第 14 回目の授業ですべての授業内容を出題範囲とした試験を行います。試験終了後、フィードバックとして解答と解説を行います。

【学生の意見等からの気づき】

授業内容に対する質問や要望がある場合は、出席票の裏面に書いてください。次回の授業の最初に回答します。

【学生が準備すべき機器他】

機器等の準備は必要ありませんが、高校で使用した地図帳があれば持参してください。

【その他の重要事項】

授業内容の構成から、前期の自然地理学Ⅰを受講した者は、後期の自然地理学Ⅱを合わせて受講することが望ましい。また、授業の展開によっては多少の授業計画の変更があることを了解してください。

【Outline and objectives】

In this class, students will learn about the physical geography fields of junior high school and high school courses. Physical geography is a discipline that landform, climate, vegetation, and soil, which are various elements of the natural environment. In physical geography I, students learn about soils and vegetation zones, which are mostly related to climate and climate. In addition, we will look at weather disasters and acquire awareness of disaster prevention.

自然地理学Ⅱ

山川 信之

配当年次／単位：2～4 年次／2 単位

開講時期：秋学期授業/Fall

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、中学校課程および高校課程で扱う自然地理学分野について学習する。自然地理学は、自然環境の諸要素である地形、気候、植生、土壌の成り立ちを明らかにする学問である。その中から自然地理学Ⅱでは、おもに地形の成り立ちについて学習する。また、地震や火山による災害、環境破壊にも目を向け、防災や環境問題に対する意識を身に付ける。

【到達目標】

- ①中学および高校課程における自然地理的分野の学習指導に対応できる知識と能力を身につける。
- ②地形の成り立ちと世界および日本の自然環境に関する基本的な知識を身につける。
- ③自然地理学的立場から世界および日本の防災や環境保全についての理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

教員による講義を中心とする。講義では学習資料とパワーポイントを使いながら毎回の講義内容の基礎知識や重要事項の整理を行う。学習資料は、学習支援システムの教材欄にアップする。毎回配布する学習資料はワークシートになっているのでフィードバックとして次回の学習資料にて解説と解答を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	世界の大地形	ガイダースとして大陸移動や大山脈の形成など地球内部のエネルギーによって起こるさまざまな現象について学習する。それにより地球の陸地が3つの形成時代の異なる地形に分けられることについて理解する。
2	地震と災害	地震が引き起こされるメカニズムと災害について学習する。それにより日本が変動帯に位置し、世界の中でも地震による災害が多い国であることを理解する。
3	火山がつくる地形	火山の噴火形式や火山がつくるさまざまな地形について学習する。また、火山の噴火によって起こるさまざまな災害について学習する。それにより日本が変動帯に位置し、世界有数の火山国であることを理解する。
4	河川がつくる地形	河川の流域に形成される河岸段丘や扇状地、三角州などの地形や氾濫原の微地形について学習する。それにより河川の地形形成作用と人々が地形を巧みに利用して生活してきたことを理解する。
5	海岸地形	砂浜海岸やリアス海岸などの海岸地形について学習する。また、人々がそれらの地形をどのように利用してきたかについても言及する。それにより海岸地形の形成過程や人々がそれらの地形を巧みに利用して生活してきたことを理解する。
6	氷河時代の環境と氷河地形	第四紀の気候変動の中で起こったヴェルム氷期に焦点を当て、氷河作用によって形成された地形や氷河時代の環境について学習する。それにより氷河時代の環境変化が現在の自然環境に大きな影響を及ぼしたことを理解する。
7	永久凍土と周氷河環境	北極海沿岸や高山帯における地形形成作用と永久凍土がつくる地形について学習する。それにより地球上には周氷河帯とよばれる特殊な地形形成作用が働く地域があることを理解する。

8	乾燥帯の地形	砂漠の形態や砂漠に見られる微地形について学習する。また、乾燥帯での人々の生活と関連付けて砂漠化などの環境問題にも言及する。それによって乾燥帯における地形形成のメカニズムや乾燥帯で暮らす人々の生活について理解する。
9	石灰岩がつくるカルスト地形	石灰岩の溶食によって形成されるさまざまな地形について学習する。また、石灰岩地域に分布する土壌についても言及する。それによって石灰岩の溶食は異なる気候環境では個別に働き、その気候環境特有のカルスト地形が形成されることを理解する。
10	年代を測る・古環境を知る	火山灰や炭素の同位体を用いた編年法や花粉分析、プラントオパール分析など古環境の復元方法について学習する。それにより地形の形成時代や古環境が復元されていることを理解する。
11	地球温暖化と自然環境への影響	地球温暖化のメカニズムと地球温暖化によって起こるさまざまな自然環境への影響について学習する。それにより温暖化を防止することが地球レベルの重要な課題であることを理解する。
12	人為が引き起こすさまざまな環境問題	熱帯雨林の縮小と砂漠化、過度な灌漑による塩地化、自然改変によるアラル海の縮小など人間の経済活動によって引き起こされたさまざまな環境問題について学習する。それにより人為的影響が自然環境の破壊につながっていることについて理解する。
13	中高における自然地理学の取り扱い方の違いと自然地理学の課題	新課程における中学と高校課程での自然地理学分野の扱い方について学習する。また、教員に自然地理学の素養が必要な理由について東日本大震災で起きた事件などを例に学習する。それにより生徒のみならず教員にも防災意識が必要であることを理解する。
14	試験・まとめと解説	後期のまとめと理解度の確認として試験を行う。また、試験後にはフィードバックとして解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業で配布する学習資料の最後に復習のためのワークがあるので、それを完成させる。フィードバックとして次回に配布する学習資料に解答と解説を掲載する。予習については、各回の授業の終わりに指示する。復習と予習に要する時間は各2時間、計4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。代わりに毎回の授業で配布する学習資料をもとに授業を行う。

【参考書】

『東京の自然史』 貝塚爽平著、講談社学術文庫
『技術者のための地形学入門』 熊木洋太他編著、山海堂
『日本地誌 1・日本総論 I（自然編）』 中村和郎他編、朝倉書店
『地形がわかるフィールド図鑑』 青木正博他著、誠文堂新光社
『写真と図で見る地形学』 貝塚爽平他編、東京大学出版会
『日本列島 100 万年史』 山崎晴雄・久保純子、講談社ブルーバックス
『自然地理学概論』 高橋日出夫・小泉武栄編著、朝倉書店

【成績評価の方法と基準】

- ①平常点 10 %
毎回の授業で配布する学習資料がワークシートになっています。出席は毎回取りますが、ワークシートを完成させることが平常点となります。
- ②中間課題 20 %
8 回目の講義あたりで、それまでの講義内容に基づいた中間課題を出します。
- ③試験 70 %
第 14 回目の授業ですべての授業内容を出題範囲とした試験を行います。試験終了後、フィードバックとして解答と解説を行います。

【学生の意見等からの気づき】

授業内容に対する質問や要望があれば出席票の裏面に記入して下さい。次の授業の最初に回答します。

【学生が準備すべき機器他】

機器の準備は特にありません。高校で使った地図帳があれば持参してください。

【その他の重要事項】

授業内容の構成から前期の自然地理学 I と合わせて受講することを推奨します。授業の展開や、社会の状況によっては多少の授業計画の変更があることを了解してください。

【Outline and objectives】

In this class, students will learn about the physical geography fields of junior high school and high school courses. Physical geography is a discipline that landform, climate, vegetation, and soil, which are various elements of the natural environment. In Physical Geography II, students will learn mainly about the origins of the landform. In addition, he will focus on disasters caused by earthquakes and volcanoes, as well as environmental destruction, and acquire awareness of disaster prevention and environmental issues.

地誌 I

松永 和子

配当年次／単位：2～4 年次／2 単位

開講時期：春学期授業/Spring

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会科学に視点をおきつつ、世界の諸地域の課題を地域の日線と理解することを目的とします。国際理解のためにも諸地域の文化、社会、経済、政治状況を多角的に学習します。

【到達目標】

地理学の基礎的知識を学び、地図や統計から地域の特徴を読み取る方法を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義を中心に、一部映像資料やプリント作業などで構成します。毎回アクションペーパーの提出。次の回でアクションペーパーの内容を中心に前回授業の「振り返り」を行い、参加者と共有します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	現代世界と地理 ～講義の方針、地域区分	地理学と地理教育、地域区分などについての概論
第 2 回	環境問題 I ～東日本大震災からみる災害・防災・減災	大震災と人間生活との関連について、学校でどのように生徒の命を守るかを考える
第 3 回	環境問題 II ～60 年	戦後最大の環境破壊（公害）問題から、産業発展と人権について考える
第 4 回	アフリカ ～南北問題について	エチオピアのコーヒー生産と消費の関係から南北問題を考える
第 5 回	アジア I ～イスラム世界を知る	アラブ地域とイスラム世界を文化圏としてとらえ、国際理解のあり方を考える
第 6 回	アジア II ～中国	経済大国に向かう中国の経済拡大と地域格差について考える
第 7 回	ヨーロッパ I ～ヨーロッパの国々	自然環境、宗教と言語からみるヨーロッパ文化について
第 8 回	ヨーロッパ II ～拡大する EU	ヨーロッパ統一の歴史と、岐路に立つヨーロッパの現状について EU を軸に考える
第 9 回	アメリカ I ～多民族国家	移民の拡大で成長してきたアメリカの歴史と「公民権運動」について
第 10 回	アメリカ II ～農業大国アメリカ	世界をリードするアメリカの農業と世界の食糧分配について
第 11 回	ラテンアメリカ ～日系移民	熱帯林が減少するブラジルで、環境保全の先頭に立ち持続可能な農業をめざす日系移民について
第 12 回	オセアニア ～オーストラリア・太平洋の島々	水没の危機に瀕する太平洋の島々
第 13 回	沖縄の歴史と現代 ～沖縄戦から学ぶ	沖縄戦の実相を学び、歴史地理教育の有効性を考える
第 14 回	まとめと試験	レポート、課題の講評と試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

都市と農村の地域をテーマとして歩く。地図帳を繰り返し読み、判読できる態勢を作る。地理・歴史・公民など社会科学関連の学習会への積極的参加を求める。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

高校地図帳を必ず持参すること。毎回テーマに関するプリントを配布します。

【参考書】

『新版 地理授業で使いたい教材資料』（地教研編・清水書院）
『第 5 版 授業のための世界地理』（地教研編・古今書院）
『第 5 版 授業のための日本地理』（地教研編・古今書院）
『知るほど面白くなる日本地理』（地教研編・日本実業出版社）

【成績評価の方法と基準】

学期末試験 50 %
小テスト、レポート課題、平常点（毎回の出席確認と授業への取り組みを重視します） 50 %
学期末に試験を実施します。
教育（介護）実習以外の出席配慮はしません。

14講中10講以上の出席が必要条件です。
 ◎オンライン授業となり、継続する場合は、学期末試験は実施しません。

【学生の意見等からの気づき】
 特になし。

【学生が準備すべき機器他】
 DVD・VTRを使用します。

【その他の重要事項】
 授業計画はあくまでも予定であり、変更もあります。
 教育実習、介護実習の予定を事前に知らせてください。

【Outline and objectives】
 It aims to understand the problems of various regions of the world from the viewpoint of the region while keeping a point of view on social science. In order to understand international understanding, we will learn culture, society, economy and political situation of various regions diversely.

地誌Ⅱ

濱田 博之

配当年次／単位：2～4 年次／2 単位

開講時期：秋学期授業/Fall

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界各地の生活や文化、自然環境などの多様性についての理解を深める。

【到達目標】

世界各地の文化的・自然的景観についてリアリティをもってその多様性を把握する。さらにはそこで発生している諸課題について、いかなる背景によってもたらされたものかを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

毎回、授業の前半では対象となる地域・テーマに焦点をあてたドキュメンタリー番組などの映像を紹介し、各地で起こっている問題について具体的なイメージを把握する。その上で後半では、それらの問題が引き起こされた背景について解説する。まとめとして毎回の授業においてリアクションペーパーの提出を求める。

下記の授業計画は、時事的な状況をみて適宜変更する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	中等教育における地誌と映像教材の意義
2	東アジアⅠ	中国における少子高齢化の進展と一人っ子政策の廃止
3	東アジアⅡ	韓国における経済格差の拡大と若者を中心とした失業率の悪化
4	東南アジア	ASEAN の結成とインドシナ半島における経済交流の拡大
5	南アジア	インドにおけるカースト問題の現代的課題
6	西アジア・北アフリカ	サウジアラビアにおけるイスラム文化
7	ヨーロッパⅠ	ギリシアにおける中東からの難民流入と住民対立
8	ヨーロッパⅡ	ドイツにおけるベルリンの壁崩壊と東西冷戦の終結
9	ロシアと周辺諸国	ロシアにおける大統領制の背景
10	北アメリカⅠ	大統領選挙におけるアメリカの分断
11	北アメリカⅡ	アメリカにおける IT 企業の増加と経済格差の拡大
12	南アメリカ	ブラジルにおけるサッカーワールドカップの開催と経済格差の拡大
13	アフリカ	エジプトにおけるナイル川流域大規模開発と遺跡の保護
14	オセアニア	ツバルにおける海面上昇への対応と移民の増加

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特に予習は求めないが、普段から新聞やニュースなどに注意し、世界の社会情勢についての認識を深めてほしい。本授業の準備学習・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

【参考書】

各国・各地域についての詳細については朝倉書店「世界地誌シリーズ」（現在 11 冊刊行）原書房「地図で見るハンドブックシリーズ」（現在 17 冊刊行）などが参考となる。

【成績評価の方法と基準】

毎回のリアクションペーパー（50%）、学期末のレポート（50%）。

【学生の意見等からの気づき】

時事的な社会情勢の理解の理解に役立つよう、常に最新の題材を取り扱っていきたい。

【Outline and objectives】

We will deepen our understanding of diversity such as life, culture and natural environment around the world.

データベースと情報システム

坂本 憲昭

配当年次／単位：3～4 年次／2 単位

開講時期：春学期授業/Spring

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

(1) 情報システム概観を学ぶとともに、データベースの役割を理解します。例えば図書館システムにおけるデータの流れやデータベースシステムを取り上げます。(2) 正規化を学び、基礎的なリレーショナルデータベースを設計します。そのために正規化を学びます。(3) Access を使用した実習により、データベースを管理・運用する技術を学びます。あわせて SQL 言語を習得します。(4) 実社会において構築されたデータベースの情報が社会に及ぼす影響と課題を理解し、情報セキュリティの確保、利用者の個人認証や暗号化などの技術的内容や情報セキュリティポリシーの策定など情報セキュリティを高めるための様々な方法を習得します。

【到達目標】

情報を蓄積し管理・検索するためのデータベースの概念を理解し、データベースを中心とした情報システムに関する知識を習得します。情報システムの設計・管理分野などの基本知識を習得し、基礎的なデータベースを設計できるようになります。問題解決においてデータベースを活用しているビジネス事例を学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

パソコン実習室にて、講義のほかに、実際に演習しながらデータベースの設計および構築をおこないます。そのほか、オンデマンド形式で授業を進める回もあります。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	情報システム概観	情報システム概観、インフラとして社会におよぼす影響、セキュリティについて
第 2 回	情報システムにおけるデータベースの位置付け	情報システムとデータベースについて、情報の保護について
第 3 回	データベースの基本構成	実際のデータベースの紹介と要求定義から詳細設計について
第 4 回	データベース製品とデータセンター	リレーショナルデータベースの実際の商品とデータセンターの紹介
第 5 回	正規化を学ぶ	統計データとデータファイルの違い、正規化の必要性
第 6 回	正規化の実習	表計算ソフトを用いて正規化手法を実習
第 7 回	リレーショナルデータベースの構成	データベースの設計演習
第 8 回	SQL 言語	SQL 言語とは
第 9 回	SQL 言語の実習	SQL に関する演習問題
第 10 回	データベースファイルの構築	表計算ソフトウェアによるデータファイルの設計とデータ入力
第 11 回	データベースシステムの作成実習、基礎構築	Access の操作方法
第 12 回	データベースシステムの詳細設計	Access による SQL 演習
第 13 回	データベースシステムの構築実習	Access によるデータベースの作成
第 14 回	総合演習問題	振り返りと総合演習問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

資料の予習、演習問題の復習をしてください。本授業の準備・復習時間は各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せずに担当教員による自作資料を配布します。

【参考書】

西村めぐみ、Access ではじめるデータベース入門、技術評論社、2017
奥野幹也、理論から学ぶデータベース実践入門～リレーショナルモデルによる効率的な SQL、技術評論社、2015

【成績評価の方法と基準】

レポートを 100 点満点 (100%) として、60 点 (60%) 以上で単位取得になります。

【学生の意見等からの気づき】

データベース作成の実習制作規模を縮小し、理解度を高めます。

【その他の重要事項】

教職（高校「情報」科目です。勘違いしている方が多いのでよく確認してください。

【Outline and objectives】

This course aims at understanding information technology centered around information system. You will acquire basic knowledge such as an outline of an information system, information technology system, and important points on planning, which is essential in this modern society.

- Understand the overview of the information system and the role of the database. For instance, we will discuss data flow and database system in a library system.
- Learn normalization and design a basic relational database.
- Gain skills to manage and operate a database through practices using Access. Learn the SQL language as well.
- Understand the power and problems of database information which is built in real society, and find various means to ensure information security, such as personal authentication, encryption of users, and its formulation.

情報メディアと画像処理

坂本 憲昭

配当年次／単位：3～4 年次／2 単位

開講時期：秋学期授業/Fall

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

(1) 講義により、情報メディア・情報デザイン・表現メディア・情報コンテンツが社会や情報産業に果たしている役割を理解します。(2) 実習により、アナログデータをデジタル化することからネット配信まで情報コンテンツ等に関する知識と技術を習得します。(3) 知的財産権の学習により、著作権、音や映像、形状などが法律により保護されていることを学びます。(4) 実際のビジネス事例を研究します。情報を表現し伝達する業種について、時間を越えて情報を伝達するビジネスモデル、空間を超えて情報を伝達するビジネスモデルを紹介します。

【到達目標】

情報メディアに関する知識と技術を習得し、情報コンテンツの制作・発信を適切に行うために必要となる特性等を理解します。実習により実際に適切かつ効果的に活用できるように、実践的な能力を身に付けます。また、個人情報の保護や著作権に関する内容等、情報コンテンツを取り扱う際に、技術や情報に関する守秘義務や法令遵守などの社会的な責任や知的財産権を習得します。最近の関連する情報産業のビジネスモデルを把握します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

パソコン実習室にて講義のほかに、フリーソフトや表計算ソフトなどにより、実際に操作演習しながら画像データの処理をおこないます。そのほか、オンデマンド形式で授業を進める回もあります。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	情報メディアの概観	情報メディアが社会や情報産業に果たしている役割
第 2 回	情報メディアの種類	情報メディアのほか、デザイン・表現メディア・コンテンツなど関係する種類と特性
第 3 回	情報メディアのハードウェアに関する基礎知識	情報メディアを活用するためにデータ収集、分析、発信などにおいて基礎的な知識
第 4 回	関連する最近のビジネスモデル	新しい情報産業、インターネットを活用したビジネスモデルの事例紹介
第 5 回	知的財産権	知的財産権について最近のマルチメディアに関する保護の学習と事例紹介
第 6 回	マルチメディアに関する定石	ポスター、新聞、雑誌などのデザイン、Web デザインの定石について
第 7 回	デジタルデータの取り扱い	音声や映像アナログデータのデジタル化実習
第 8 回	音声編集	音声編集の実習
第 9 回	映像編集	映像編集の実習
第 10 回	音声・映像と Web との連携実習	情報コンテンツの各種アプリケーションソフトウェアの紹介と基本的な操作実習
第 11 回	情報コンテンツの実習	情報コンテンツのアプリケーションソフトウェアによる実習課題の取り組み
第 12 回	デジタルデータの保存および運用管理について基礎実習	デジタルデータの配信について実習
第 13 回	演習問題	情報コンテンツに関する資格試験の紹介、サンプル問題の取り組み
第 14 回	情報産業の事例紹介	振り返りと情報産業の事例紹介

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

資料の予習と実習問題の復習をしてください。本授業の準備・復習時間は各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せずに担当教員による自作資料を配布します。

【参考書】

ウェブデザイン技能検定、色彩検定、CG クリエイター検定、マルチメディア検定、デジタル技術検定など「デザイン・クリエイティブ」に関する資格試験の教材、実施協会・団体のホームページにある練習問題など

【成績評価の方法と基準】

実習および課題の成果物を 100 点満点 (100%) として 60 点以上で合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

Excel の操作に戸惑うことがないように適宜復習をしながら実習を進めます。

【その他の重要事項】

教職（高校「情報」）科目です。勘違いしている方が多いのでよく確認してください。

【Outline and objectives】

This course aims at understanding information technology centered around information system. You will acquire basic knowledge such as an outline of an information system, information technology system, and important points on planning, which is essential in this modern society.

- Understand the role of information media, information design, expressive media, and information contents in society or information industry in lectures.

- Gain knowledge and skills on information contents from the digitization of analog data to online distribution in practical lessons.
- Understand that laws protect copyright, sounds, images, shapes, and so on by studying intellectual property rights.
- Study actual cases in business. From industries that express and communicate information, we discuss some business models which convey information beyond time and space.

情報と職業 A**坂本 憲昭**

配当年次／単位：3～4 年次／2 単位

開講時期：春学期授業/Spring

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

高校生の情報産業に対する職業観について指導できる教養を身に付けることを目的とします。さらに、昨今 50%を超える大学への進学率を鑑みると、情報産業に興味ある高校生は就業する前に大学学部等の選択が求められます。そのため大学の履修内容、すなわち、情報システムに関する教養を習得し、情報産業とのつながりを理解しておく必要があります。A ではそのために必要な知識習得が中心です。

【到達目標】

高校生の情報に関する職業感や概要、関連する進路指導などのアドバイスができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

適宜 PC 実習室においてインターネットによる情報収集や調査、レポート作成をおこないます。情報関係の技術は栄枯盛衰が早く、常に最新の情報や知識が必要なため、情報過多の時代において自らが情報収集して整理して、まとめるスキルが要求されます。そのために解説後、自分で調査してレポートにするプロセスで授業を進めます。そのほか、オンデマンド形式で授業を進める回もあります。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	高校情報教科書内容	指導要領から必要な関連知識を把握する
第 2 回	官公庁による情報戦略	戦略、政令や施策などを理解する、情報通信白書の概要を理解する
第 3 回	情報処理試験の概要	国家資格から民間による試験まで一覧と内容を知る
第 4 回	情報分野の知的財産権	知的財産権のなかから情報システムに関する内容を学ぶ
第 5 回	情報倫理	情報漏えいの原因や取り組み事例を学ぶ
第 6 回	前半のまとめと演習問題	演習問題に取り組む、理解が不足な内容について補足をする
第 7 回	前半のまとめとレポート発表	これまでに取り組んだレポートのまとめを発表する
第 8 回	大学理系学部の履修内容	各大学のシラバスを参照して履修内容を調べる、職業訓練の内容を知る
第 9 回	インターネットに関する技術の基礎知識	インターネットの仕組みなどを学ぶ
第 10 回	情報システム技術の基礎知識	情報システムがインターネットを利用する際の技術的背景を学ぶ
第 11 回	ビジネスインダストリアルのアナログデータ収集	情報システムに用いられる技術について IoT のための機器を中心に学ぶ
第 12 回	ビジネスインダストリアルネット活用	情報システムに用いられる技術についてネット活用を中心に学ぶ
第 13 回	後半のまとめと演習問題	演習問題に取り組む、理解が不足な内容について補足をする
第 14 回	後半のまとめと成果発表	これまでに取り組んだ内容の成果発表をする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習の授業内容は自宅等で課題等に取り組みます。本授業の準備・復習時間は各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

資料を配布します。

【参考書】

情報と職業 第 2 版, SCC, 2018

情報通信白書, 総務省公式 Web サイト

TECH ビジネス大全 (日経 BP ムック) 日経 ×TECH, 2019

TECH ビジネス最前線 (日経 BP ムック) 日経 ×TECH, 2019

【成績評価の方法と基準】

レポート（合計 100% = 100 点）により評価します。60 点以上が単位取得です。

【学生の意見等からの気づき】

特にありませんでした。

【学生が準備すべき機器他】

PC 実習室を使用します。必要に応じて USB メモリなどを準備してください。

【その他の重要事項】

教職（高校「情報」科目です。勘違いしている方が多いのでよく確認してください。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to acquire a culture that can teach high school students about the occupational view of the information industry. Furthermore, considering the college enrollment rate of more than 50% these days, high school students who are interested in the information industry are required to select a college or university before starting work. Therefore, it is necessary to acquire the contents of university courses, that is, the education related to information systems, and to understand the connection with the information industry.

情報と職業 B

坂本 憲昭

配当年次／単位：3～4 年次／2 単位

開講時期：秋学期授業/Fall

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

高校生の情報産業に対する職業観について指導できる教養を身に付けることを目的とします。さらに、昨今 50%を超える大学への進学率を鑑みると、情報産業に興味ある高校生は就業する前に大学学部等の選択が求められます。そのため大学の履修内容、すなわち、情報システムに関する教養を習得し、情報産業とのつながりを理解しておく必要があります。B では多様化する情報産業を知るとともに、具体的な事例研究が中心です。

【到達目標】

- (1) システム導入における構築までの流れを理解している。
- (2) 情報システムの仕組みを説明できる。具体的にデータの流れ、データ入出力に用いられるデバイスなどの基礎知識がある。
- (3) 情報産業の事例を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

適宜 PC 実習室においてインターネットによる情報収集や調査、レポート作成をおこないます。情報関係の技術は栄枯盛衰が早く、常に最新の情報や知識が必要なため、情報過多の時代において自らが情報収集して整理して、まとめるスキルが要求されます。そのために解説後、自分で調査してレポートにするプロセスで授業を進めます。そのほか、オンデマンド形式で授業を進める回もあります。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	情報システム設計	システム設計の流れを理解する、RFPとは、見積り工数手法を学ぶ
2	教育機関における情報インフラ	身近な事例として大学における情報インフラを学ぶ
3	ユニバーサルデザイン	Web サイトなどのユニバーサルデザインを知る
4	デジタルマーケティング概観	デジタルマーケティング手法の概観
5	デジタルマーケティング事例	デジタルマーケティングの事例
6	デジタルマーケティング調査	事例のレポート作成
7	IT を活用した業務改革としてビッグデータ利用を中心に解説	ビッグデータの取扱、商品としてのビッグデータ事例について学ぶ
8	IT を活用した業務改革として人工知能を中心に解説	人工知能の基礎と活用事例を学ぶ
9	IT を活用した業務改革として RPA 解説	RPA 活用事例を学ぶ
10	IT を活用した業務改革として介護および農業分野	介護テック、農業テック
11	IT を活用した業務改革として空港および流通分野	空港テック、流通テック
12	システム障害	事例研究（規模や影響、損失額など）
13	後半のまとめとして確認問題	授業内アンケートおよび確認問題により理解が不足な内容について補足をする
14	後半のまとめとして成果発表	これまでに取り組んだレポートを発表する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習の授業内容については課題等に取り組みます。本授業の準備・復習時間は各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

資料を配布します。

【参考書】

情報と職業 第 2 版, SCC, 2018
システムを「外注」するときに読む本, ダイヤモンド社, 2017
TECH ビジネス大全 (日経 BP ムック) 日経 ×TECH, 2019
TECH ビジネス最前線 (日経 BP ムック) 日経 ×TECH, 2019

【成績評価の方法と基準】

レポート（合計 100%）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特にありませんでした。

【学生が準備すべき機器他】

PC 実習室を使用します。必要に応じて USB メモリなどを準備してください。

【その他の重要事項】

教職（高校「情報」科目です。勘違いしている方が多いのでよく確認してください。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to acquire a culture that can teach high school students about the occupational view of the information industry. Furthermore, considering the college enrollment rate of more than 50% these days, high school students who are interested in the information industry are required to select a college or university before starting work. Therefore, it is necessary to acquire the contents of university courses, that is, the education related to information systems, and to understand the connection with the information industry.

教職入門

綿貫 公平

配当年次／単位：1～4 年次／2 単位

開講時期：春学期授業/Spring

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「学校のいま」と、子どもたちとともに生きる「教師の困難と希望」、これからの学校と教育の課題、教職の意義及び教員の役割を学び合い、語り合い、その在り方を問う。

※授業計画は授業の展開によって、若干の変更がありうる。

【到達目標】

教職を将来の選択肢の一つとして考え、教職の意義、教員の役割、職務内容等について基本的な知識や考え方を理解し、教職に就くとはどういうことか、そのためにどのようなことを学び、身につけておかなければならないのかなど、自らの適性を判断して教職への意欲を高める。

今なお「競い合う」学校と教育は強化され、その政策動向は社会的に大きな論争的課題となっている。当時、就学前だった（であろう）学生のみならず、可能な限り具体的に「教職」の現状と課題を考えること。みなさん一人ひとりがテーマを持って「教職」に一歩踏み出す、近づいていただくことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

*教職（学校の仕事）をめぐる現状と課題、意義と役割を、講師の体験や具体的事例を通して伝え、時にグループワークも加えて、実践的に考察する。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、コメントを付した「講義通信」を毎回発行し、それをもとに全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	オリエンテーション	自己紹介…教職の意義及び教員の役割を考える。4年間の学びをイメージする。
②	教師の一日	教職の困難と希望「学校は、子どもたちは変わったのか」
③	教科指導	ともに学ぶ「勉強は何のために？」
④	生徒指導	ともに学ぶ「うざい、きもい、むかつく、死ね！」N子との出会い。
⑤	生徒指導	ともに学ぶ「登校拒否・不登校」の問題から考えること。
⑥	生徒指導	教職の課題「いじめ」問題から考えること（1）生徒会活動
⑦	生徒指導	教職の課題「いじめ」問題から考えること（2）「道徳」の時間に
⑧	生徒指導	学校給食：「食の教科書としての…」
⑨	特別活動	学校行事をつくる
⑩	特別活動	「部活動」をどうする？！
⑪	進路指導	「キャリア教育」心がけたこと～つながり・つなげる・つながる学校と地域
⑫	進路指導	「キャリア教育」教師としての転換点：同時代・同世代を生きること
⑬	進路指導	「キャリア教育」文学や映像作品に学ぶ「人間的成長」
⑭	まとめ、期末テスト	今日の学校と教育の課題（今日の課題整理、あらためて教員の職務内容など）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自分自身の「小学校／中学校／高校時代」を、その時々・事前のアンケート等で思い起こしてほしい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定なし。内容に即して毎回検討資料を配布する。

【参考書】

全国進路指導研究会編『働くことを学ぶ』（明石書店／2006）、吉野源三郎『君たちはどう生きるか』（岩波文庫）、朝日新聞教育チーム『いま、先生は』（岩波書店／2011）、学習指導要領、生徒指導提要（文部科学省※PDFでダウンロード可能）他、授業で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

基本的な知識や考え方を理解できること、4年間の教職課程の学びに主体的に取り組む意思があることを総合的に評価する。具体的には、授業への参加姿勢、授業への貢献（RP用紙）70%、「中間レポート」及び講義のまとめとしての「期末考査」30%で評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

*学生の指摘もあり、「グループワーク」の機会を増やし、今日的課題なテーマも取り上げた。引き続き、教職を目指す学生らしい、目的意識的な参加を求めたい。

【学生が準備すべき機器他】

DVD、ビデオ等。

【その他の重要事項】

講師は、2012年まで都内公立中学校に35年間勤務した。定年退職後は、子ども・若者の支援を主とするNPO法人理事兼若者支援事業スタッフとして、引きこもっていた若者の就労に向けた活動をおこなっている。また、全国進路指導研究会の世話人として、学校現場に資する研究活動を続けている。2007～2014年：法政大学キャリアデザイン学部で兼任講師「キャリア教育／学校論」を担当した。

【Outline and objectives】

In this lecture, people aiming for the teaching profession will learn fundamental matters related to teaching jobs, and will decide their aptitude and will aim to raise motivation for the teaching profession. We will examine the current situations of school education and school teachers, their careers, future issues and so on.

教職入門

綿貫 公平

配当年次／単位：1～4 年次／2 単位

開講時期：春学期授業/Spring

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「学校のいま」と、子どもたちとともに生きる「教師の困難と希望」、これからの学校と教育の課題、教職の意義及び教員の役割を学び合い、語り合い、その在り方を問う。

※授業計画は授業の展開によって、若干の変更がありうる。

【到達目標】

教職を将来の選択肢の一つとして考え、教職の意義、教員の役割、職務内容等について基本的な知識や考え方を理解し、教職に就くとはどういうことか、そのためにどのようなことを学び、身につけておかなければならないのかなど、自らの適性を判断して教職への意欲を高める。

今なお「競い合う」学校と教育は強化され、その政策動向は社会的に大きな論争的課題となっている。当時、就学前だった（であろう）学生のみなさんと、可能な限り具体的に「教職」の現状と課題を考えること。みなさん一人ひとりがテーマを持って「教職」に一歩踏み出す、近づいていただくことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

*教職（学校の仕事）をめぐる現状と課題、意義と役割を、講師の体験や具体的事例を通して伝え、時にグループワークも加えて、実践的に考察する。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、コメントを付した「講義通信」を毎回発行し、それをもとに全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	オリエンテーション	自己紹介…教職の意義及び教員の役割を考える。4年間の学びをイメージする。
②	教師の一日	教職の困難と希望「学校は、子どもたちは変わったのか」
③	教科指導	ともに学ぶ「勉強は何のために？」
④	生徒指導	ともに学ぶ「うざい、きもい、むかつく、死ね！」N子との出会い。
⑤	生徒指導	ともに学ぶ「登校拒否・不登校」の問題から考えること。
⑥	生徒指導	教職の課題「いじめ」問題から考えること（1）生徒会活動
⑦	生徒指導	教職の課題「いじめ」問題から考えること（2）「道徳」の時間に
⑧	生徒指導	学校給食：「食の教科書としての…」
⑨	特別活動	学校行事をつくる
⑩	特別活動	「部活動」をどうする？！
⑪	進路指導	「キャリア教育」心がけたこと～つながり・つなげる・つながる学校と地域
⑫	進路指導	「キャリア教育」教師としての転換点：同時代・同世代を生きること
⑬	進路指導	「キャリア教育」文学や映像作品に学ぶ「人間的成長」
⑭	まとめ、期末テスト	今日の学校と教育の課題（今日の課題整理、あらためて教員の職務内容など）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自分自身の「小学校／中学校／高校時代」を、その時々・事前のアンケート等で思い起こしてほしい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定なし。内容に即して毎回検討資料を配布する。

【参考書】

全国進路指導研究会編『働くことを学ぶ』（明石書店／2006）、吉野源三郎『君たちはどう生きるか』（岩波文庫）、朝日新聞教育チーム『いま、先生は』（岩波書店／2011）、学習指導要領、生徒指導提要（文部科学省※PDFでダウンロード可能）他、授業で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

基本的な知識や考え方を理解できること、4年間の教職課程の学びに主体的に取り組む意思があることを総合的に評価する。具体的には、授業への参加姿勢、授業への貢献（RP用紙）70%、「中間レポート」及び講義のまとめとしての「期末考査」30%で評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

*学生の指摘もあり、「グループワーク」の機会を増やし、今日的課題なテーマも取り上げた。引き続き、教職を目指す学生らしい、目的意識的な参加を求めたい。

【学生が準備すべき機器他】

DVD、ビデオ等。

【その他の重要事項】

講師は、2012年まで都内公立中学校に35年間勤務した。定年退職後は、子ども・若者の支援を主とするNPO法人理事兼若者支援事業スタッフとして、引きこもっていた若者の就労に向けた活動をおこなっている。また、全国進路指導研究会の世話人として、学校現場に資する研究活動を続けている。2007～2014年：法政大学キャリアデザイン学部で兼任講師「キャリア教育／学校論」を担当した。

【Outline and objectives】

In this lecture, people aiming for the teaching profession will learn fundamental matters related to teaching jobs, and will decide their aptitude and will aim to raise motivation for the teaching profession. We will examine the current situations of school education and school teachers, their careers, future issues and so on.

教育原理

御園生 純

配当年次／単位：1～4 年次／2 単位

開講時期：春学期授業/Spring

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教育や学びの場面は学校の中に限られたものではありません。この講義では社会に息づく様々な場面での学びの機会を紹介し、そのありようを教員を目指す人たち同士の共通の題材として討議していくことを通じて、「関係性の中で学ぶ」ということへの理解を深めていきたい。また受講者が体験してきた学校や教育というものを様々な角度から捉えなおすことをつうじて過去の教育理論の概念を理解することをねらいとしています。

【到達目標】

教育の理論的・歴史的背景の理解
 学校の制度的な位置づけ
 教員の職制と専門性の理解

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

学校・教育にかかわる時節的なテーマを取り上げ、それらについてのさまざまな主張や意見の紹介を骨子にした講義形式の授業スタイルです。また、受講者からの意見もその都度メールなどを利用して集約し、授業中に紹介していきます。この講義では社会に息づく様々な場面での学びの機会を歴史・現在あわせて紹介し、そのありようを教員を目指す人たち同士の共通の題材として討議していきます。その際、とりわけ近年注目されている学習理論や教育関係理論、また学校を取り巻く新しい課題「情報化・国際化・人権・環境」といった時節的なテーマを題材にし、それらの現象の理解を深めていきます。また受講者が体験してきた学校や教育というものを様々な角度から捉えなおすことをつうじて過去の教育理論の概念を理解することもねらいとします。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行います。各課題について受講生毎に講評します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	教育とはなにか？ その起源と学校～近代以前	学校の始まり～ヒマ人の集うところ？
2	教育とはなにか？ その起源と学校～近代以降	なぜ学校が必要だったのか？
3	人間の誕生の特質と発達観	子どもとはなにか？ おとなになるということ
4	発達の多様性と教育の課題	発達を保証するための教育の役割
5	教育思想の源流と現在（西洋）古代から中世～近代そして現代	子どもの発見
6	教育思想の源流と現在（日本）近世から近代そして現代	日本の教育の始まりと発展
7	発達の保障と共生の課題（1）	発達保障論の系譜
8	発達の保障と共生の課題（2）	発達保障と共生理論
9	学習理論の歴史と現段階一関係性のなかで学ぶ（1）	なぜ初歩から学ぶのか？
10	学習理論の歴史と現段階一関係性のなかで学ぶ（2）	分かち持たれる知性
11	教育関係論の過去と現在一おとなと子どもの関係論	おとなと子どもの境界線
12	教育関係論の過去と現在一発達段階と教育保障	発達論から関係論へ
13	学校教育の機能と役割を問う（1）	学校の相対化
14	学校教育の機能と役割を問う（2）	IT 技術と教育

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

とくにありません。授業中に配布するプリント類は重要かもしれませんが、プリントさえ手に入れば授業を受けなくても何とかかなる、というものでもありません。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30%

課題 70%

【学生の意見等からの気づき】

双方向性を重視し、問題提起型の授業により受講者に考察可能な実際の学校で起こっている教育にかかわる諸問題の解決方法を討議の対象とする。また、講義と同期した twitter のハッシュタグ等を利用したりリアルタイムポストなども実施していきたい。

【Outline and objectives】

The History of education, in the relationship of politics, economy, society family. Some basic concepts of education, some educational thoughts. Active learning; group discussion about today's educational issues

教育の制度・経営

福島 真治

配当年次／単位：1～4 年次／2 単位

開講時期：春学期授業/Spring

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業の構成は、大きく二分される。一つは、学校の組織・経営を枠付け、規制する公教育や行財政の法制度やしぐみを理解し考えることである。もう一つが、学校の組織・経営を具体的な諸側面において理解し考えることであり、危機管理や安全対策、地域との連携も取り上げる。

【到達目標】

日本の学校教育に関する制度的及び経営的なトピックを取り上げ、教員として必須な公教育の法制度及び学校の組織・経営に関わる基礎的理解を促す。学校組織・経営の基礎知識には、地域との連携、安全と危機管理もふくまれる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義を中心に、グループディスカッション等を用いて、各回のテーマについて理解と考察を進める。各回では、コメントシートの提出を求める。そこで出された疑問・質問等は、次回以降の講義冒頭で応答する。

本授業は、基本的には (1) Zoom を使用してのオンライン授業・(2) 資料等の掲示による課題提出、の 2 通りの方法で進めていく。

「(1) Zoom を使用してのオンライン授業」に関して、授業用の URL は授業日までに学習支援システムで掲示する。

「(2) 資料等の掲示による課題提出」に関して、資料等は授業時間開始前までに、学習支援システムにアップする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション（現代社会と学校改革）	現在の社会全体が抱える課題と、それに向き合っている学校制度の変遷について簡単に紹介し、講義の概要と評価方法の説明を行う。
第 2 回	世界の教育改革	PISA や TALIS 等の国際調査の結果を概観しながら、世界の教育の状況を確認した上で、日本と諸外国の教育制度の比較を行う。
第 3 回	憲法・教育基本法	日本国憲法及び教育基本法が定めている教育に関する諸権利と、それが実際の場面でどのように保障されているかについて解説する。
第 4 回	教育行政のしくみ	国と地方教育行政機関の構造や実際の働きを説明した上で、教育という営為が全国でどのように展開しているのかを検討する。
第 5 回	学習指導要領と教科書制度	学習指導要領の性質を理解し、それがどのような仕組みによって各学校で具体化されているかを解説する。
第 6 回	教育財政制度と無償化	教育の無償化に関する議論を踏まえながら、中央・地方の教育財政（リソースの管理・運営）の仕組みを概観する。
第 7 回	学校組織の法としくみ	学校経営を中心とした、学校組織に関する法制度を学ぶことで、実際の現場における学校づくりの実態について考える。
第 8 回	学級経営	学校全体の目的を達成するために、児童・生徒への指導等を通じて教員が取り組む学級経営について、その態様やそこの教員の役割について説明を行う。
第 9 回	学校と教員の評価	学校と教員に対する評価制度の意義やその成立背景を概観し、様々なアクターの学校参加や社会に対しての学校の役割を考える。
第 10 回	教員の成長と同僚性	教員の職能成長に関わる様々な仕組みや法制度について解説を行い、教員が学校組織全体として活動していくための条件を検討する。
第 11 回	子どもの人権と学校	校則、懲戒・体罰、いじめ等の問題のような、学校における子どもの人権に関する議論やその保障のあり方を解説し、現場での実現の方途を検討する。

第 12 回 学校の危機管理と安全対策

学校で発生する事件や災害等に対する備えや対策について、危機管理やレジリエンスの観点から解説する。

第 13 回 「チームとしての学校」

学校業務の多様化と、それによる教員の多忙化・多忙感の増加という現状を踏まえ、学校内外のアクターによる分業と協働というテーマについて考える。地域社会における学校の役割がより意識されるようになった背景を概観した上で、「様々なアクターとの関わり合いによる学校づくり」とはどういうものなのかを考える。

第 14 回 地域・家庭・多様な専門家に開かれた学校づくり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指定しない。

【参考書】

勝野正章・藤本典裕返書『教育行政学（改訂新版）』学文社
小川正人・勝野正章『改定版 教育行政と学校経営』放送大学教育振興会
文部科学省「学習指導要領」（最新版）、同ホームページ上の資料（法令、審議会答申等）

【成績評価の方法と基準】

基礎知識の理解度だけでなく、自らの考えを知識やデータで裏付けて論述できるかを評価する。授業内の発表やコメントペーパー等（40 % 程度）、定期試験（60 % 程度）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできない。

【学生が準備すべき機器他】

・ZOOM を使用しての講義が中心となるため、そのための環境設定等が必要となる。
・授業支援システムを使用するが、使用の範囲は状況により判断する。

【その他の重要事項】

この科目は、教職課程および社会教育主事課程の認定科目である。

【Outline and objectives】

The content of this class consists of the two parts. The first one is focused on Japanese laws and systems in educational administration and finance.

The second is related to the topics on school organization and management including risk management, safety measure and cooperation with local community,

It is necessary for those who attend the class to understand the basic knowledge of them and consider these matters by themselves.

教育原理

御園生 純

配当年次／単位：1～4 年次／2 単位

開講時期：春学期授業/Spring

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教育や学びの場面は学校の中に限られたものではありません。この講義では社会に息づく様々な場面での学びの機会を紹介し、そのありようを教員を目指す人たち同士の共通の題材として討議していくことを通じて、「関係性の中で学ぶ」ということへの理解を深めていきたい。また受講者が体験してきた学校や教育というものを様々な角度から捉えなおすことをつうじて過去の教育理論の概念を理解することをねらいとしています。

【到達目標】

教育の理論的・歴史的背景の理解
 学校の制度的な位置づけ
 教員の職制と専門性の理解

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

学校・教育にかかわる時節的なテーマを取り上げ、それらについてのさまざまな主張や意見の紹介を骨子にした講義形式の授業スタイルです。また、受講者からの意見もその都度メールなどを利用して集約し、授業中に紹介していきます。この講義では社会に息づく様々な場面での学びの機会を歴史・現在あわせて紹介し、そのありようを教員を目指す人たち同士の共通の題材として討議していきます。その際、とりわけ近年注目されている学習理論や教育関係理論、また学校を取り巻く新しい課題「情報化・国際化・人権・環境」といった時節的なテーマを題材にし、それらの現象の理解を深めていきます。また受講者が体験してきた学校や教育というものを様々な角度から捉えなおすことをつうじて過去の教育理論の概念を理解することもねらいとします。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行います。各課題について受講生毎に講評します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	教育とはなにか？ その起源と学校～近代以前	学校の始まり～ヒマ人の集うところ？
2	教育とはなにか？ その起源と学校～近代以降	なぜ学校が必要だったのか？
3	人間の誕生の特質と発達観	子どもとはなにか？ おとなになるということ
4	発達の多様性と教育の課題	発達を保証するための教育の役割
5	教育思想の源流と現在（西洋）古代から中世～近代そして現代	子どもの発見
6	教育思想の源流と現在（日本）近世から近代そして現代	日本の教育の始まりと発展
7	発達の保障と共生の課題（1）	発達保障論の系譜
8	発達の保障と共生の課題（2）	発達保障と共生理論
9	学習理論の歴史と現段階一関係性のなかで学ぶ（1）	なぜ初歩から学ぶのか？
10	学習理論の歴史と現段階一関係性のなかで学ぶ（2）	分かち持たれる知性
11	教育関係論の過去と現在一おとなと子どもの関係論	おとなと子どもの境界線
12	教育関係論の過去と現在一発達段階と教育保障	発達論から関係論へ
13	学校教育の機能と役割を問う（1）	学校の相対化
14	学校教育の機能と役割を問う（2）	IT 技術と教育

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

とくにありません。授業中に配布するプリント類は重要かもしれませんが、プリントさえ手に入れば授業を受けなくても何とかかなる、というものでもありません。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30%

課題 70%

【学生の意見等からの気づき】

双方向性を重視し、問題提起型の授業により受講者に考察可能な実際の学校で起こっている教育にかかわる諸問題の解決方法を討議の対象とする。また、講義と同期した twitter のハッシュタグ等を利用したりリアルタイムポストなども実施していきたい。

【Outline and objectives】

The History of education, in the relationship of politics, economy, society family. Some basic concepts of education, some educational thoughts. Active learning; group discussion about today's educational issues

教育の制度・経営

福島 真治

配当年次／単位：1～4 年次／2 単位

開講時期：秋学期授業/Fall

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業の構成は、大きく二分される。一つは、学校の組織・経営を枠付け、規制する公教育や行財政の法制度やしぐみを理解し考えることである。もう一つが、学校の組織・経営を具体的な諸側面において理解し考えることであり、危機管理や安全対策、地域との連携も取り上げる。

【到達目標】

日本の学校教育に関する制度的及び経営的なトピックを取り上げ、教員として必須な公教育の法制度及び学校の組織・経営に関わる基礎的理解を促す。学校組織・経営の基礎知識には、地域との連携、安全と危機管理もふくまれる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義を中心に、グループディスカッション等を用いて、各回のテーマについて理解と考察を進める。各回では、コメントシートの提出を求める。そこで出された疑問・質問等は、次回以降の講義冒頭で応答する。

本授業は、基本的には (1) Zoom を使用してのオンライン授業・(2) 資料等の掲示による課題提出、の 2 通りの方法で進めていく。

「(1) Zoom を使用してのオンライン授業」に関して、授業用の URL は授業日までに学習支援システムで掲示する。

「(2) 資料等の掲示による課題提出」に関して、資料等は授業時間開始前までに、学習支援システムにアップする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション（現代社会と学校改革）	現在の社会全体が抱える課題と、それに向き合っている学校制度の変遷について簡単に紹介し、講義の概要と評価方法の説明を行う。
第 2 回	世界の教育改革	PISA や TALIS 等の国際調査の結果を概観しながら、世界の教育の状況を確認した上で、日本と諸外国の教育制度の比較を行う。
第 3 回	憲法・教育基本法	日本国憲法及び教育基本法が定めている教育に関する諸権利と、それが実際の場面でどのように保障されているかについて解説する。
第 4 回	教育行政のしくみ	国と地方教育行政機関の構造や実際の働きを説明した上で、教育という営為が全国でどのように展開しているのかを検討する。
第 5 回	学習指導要領と教科書制度	学習指導要領の性質を理解し、それがどのような仕組みによって各学校で具体化されているかを解説する。
第 6 回	教育財政制度と無償化	教育の無償化に関する議論を踏まえながら、中央・地方の教育財政（リソースの管理・運営）の仕組みを概観する。
第 7 回	学校組織の法としくみ	学校経営を中心とした、学校組織に関する法制度を学ぶことで、実際の現場における学校づくりの実態について考える。
第 8 回	学級経営	学校全体の目的を達成するために、児童・生徒への指導等を通じて教員が取り組む学級経営について、その態様やそこの教員の役割について説明を行う。
第 9 回	学校と教員の評価	学校と教員に対する評価制度の意義やその成立背景を概観し、様々なアクターの学校参加や社会に対しての学校の役割を考える。
第 10 回	教員の成長と同僚性	教員の職能成長に関わる様々な仕組みや法制度について解説を行い、教員が学校組織全体として活動していくための条件を検討する。
第 11 回	子どもの人権と学校	校則、懲戒・体罰、いじめ等の問題のような、学校における子どもの人権に関する議論やその保障のあり方を解説し、現場での実現の方途を検討する。

第 12 回 学校の危機管理と安全対策

学校で発生する事件や災害等に対する備えや対策について、危機管理やレジリエンスの観点から解説する。

第 13 回 「チームとしての学校」

学校業務の多様化と、それによる教員の多忙化・多忙感の増加という現状を踏まえ、学校内外のアクターによる分業と協働というテーマについて考える。地域社会における学校の役割がより意識されるようになった背景を概観した上で、「様々なアクターとの関わり合いによる学校づくり」とはどういうものなのかを考える。

第 14 回 地域・家庭・多様な専門家に開かれた学校づくり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指定しない。

【参考書】

勝野正章・藤本典裕返書『教育行政学（改訂新版）』学文社
小川正人・勝野正章『改定版 教育行政と学校経営』放送大学教育振興会
文部科学省「学習指導要領」（最新版）、同ホームページ上の資料（法令、審議会答申等）

【成績評価の方法と基準】

基礎知識の理解度だけでなく、自らの考えを知識やデータで裏付けて論述できるかを評価する。授業内の発表やコメントペーパー等（40 % 程度）、定期試験（60 % 程度）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできない。

【学生が準備すべき機器他】

・ZOOM を使用しての講義が中心となるため、そのための環境設定等が必要となる。

・授業支援システムを使用するが、使用の範囲は状況により判断する。

【その他の重要事項】

この科目は、教職課程および社会教育主事課程の認定科目である。

【Outline and objectives】

The content of this class consists of the two parts. The first one is focused on Japanese laws and systems in educational administration and finance.

The second is related to the topics on school organization and management including risk management, safety measure and cooperation with local community,

It is necessary for those who attend the class to understand the basic knowledge of them and consider these matters by themselves.

教育心理学

安齊 順子

配当年次／単位：1～4 年次／2 単位

開講時期：秋学期授業/Fall

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ・ 幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程、外的及び内的要因の相互作用
- ・ 乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達
- ・ 様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論
- ・ 主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方
- ・ 主体的な学習活動を支える指導の基礎

【到達目標】

- ・ 幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程並びに特徴を理解する。
- ・ 幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎的知識を身に付け、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

テキストとパソコンを利用した講義、課題によってはグループ学習の形式も取り入れる（例、アンガーマネジメント実習）。リアクションペーパーは毎回提出する。授業は感染症の状態によりオンラインになる可能性もある。方向性は大学に準ずる。変更等は掲示で知らせる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業上の注意を説明する
2	教育における発達理解の意義	心理学における発達概念を学ぶ
3	対人関係の発達	心理学における発達概念、特に対人関係に注目して学ぶ
4	認知の発達	認知心理学、学習心理学の基礎概念を学ぶ
5	アイデンティティ	青年期の心理的問題について学ぶ
6	学習の理論	古典的条件づけなど大切な学習理論を学ぶ
7	学習の指導	学級の心理学、具体的には、いじめなどについて学ぶ
8	動機づけ	動機づけの理論的背景を学ぶ
9	学習の評価	教育評価とはどのようなものか学ぶ
10	記憶の種類	記憶の種類と、記憶のしくみについて学ぶ
11	性格の理解	人格理解とその歴史について学ぶ
12	性格の様々な測定方法	心理検査、知能検査について詳しく学ぶ
13	発達障害の理解	発達障害について学ぶ
14	発達障害の支援・指導	幼児期、児童期の心理的問題とその解決について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前の学習 新聞などで子供や学校に関する記事を読むこと。ほかの参考書も用いて学習すること。「教育相談・心理学・臨床心理学・心理学辞典」など他の科目のテキストも参考に学ぶこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「使える」教育心理学 服部環他著 北樹出版

【参考書】

子安増生ら 2015『教育心理学 第 3 版（ベーシック現代心理学 6）』有斐閣
文部科学省『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』（最新版）
「やさしい教育心理学」有斐閣アルマ 鎌原 雅彦他著
「教師のたまごのための教育相談」北樹出版 会沢信彦・安斎順子編著

【成績評価の方法と基準】

定期試験（70％）、授業への積極的参加（30％）で評価

【学生の意見等からの気づき】

毎回プリントを配布して、授業後の感想をもとにやりとりのある授業を心掛けている。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

教員はスクールカウンセラーの体験があるためそれについて語る場合がある。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the mental and physical development of children, learning theory and educational evaluation.

教育心理学

安齊 順子

配当年次／単位：1～4 年次／2 単位

開講時期：秋学期授業/Fall

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ・ 幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程、外的及び内的要因の相互作用
- ・ 乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達
- ・ 様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論
- ・ 主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方
- ・ 主体的な学習活動を支える指導の基礎

【到達目標】

- ・ 幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程並びに特徴を理解する。
- ・ 幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎的知識を身に付け、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

テキストとパソコンを利用した講義、課題によってはグループ学習の形式も取り入れる（例、アンガーマネジメント実習）。リアクションペーパーは毎回提出する。授業は感染症の状態により、オンラインになる可能性がある。方向性は大学の方針に準ずる。変更等は掲示で知らせる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業上の注意を説明する
2	教育における発達理解の意義	心理学における発達概念を学ぶ
3	対人関係の発達	心理学における発達概念、特に対人関係に注目して学ぶ
4	認知の発達	認知心理学、学習心理学の基礎概念を学ぶ
5	アイデンティティ	青年期の心理的問題について学ぶ
6	学習の理論	古典的条件づけなど大切な学習理論を学ぶ
7	学習の指導	学級の心理学、具体的には、いじめなどについて学ぶ
8	動機づけ	動機づけの理論的背景を学ぶ
9	学習の評価	教育評価とはどのようなものか学ぶ
10	記憶の種類	記憶の種類と、記憶のしくみについて学ぶ
11	性格の理解	人格理解とその歴史について学ぶ
12	性格の様々な測定方法	心理検査、知能検査について詳しく学ぶ
13	発達障害の理解	発達障害について学ぶ
14	発達障害の支援・指導	幼児期、児童期の心理的問題とその解決について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前の学習 新聞などで子供や学校に関する記事を読むこと。ほかの参考書も用いて学習すること。「教育相談・心理学・臨床心理学・心理学辞典」など他の科目のテキストも参考に学ぶこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「使える」教育心理学 服部環他著 北樹出版

【参考書】

子安増生ら 2015『教育心理学 第 3 版（ベーシック現代心理学 6）』有斐閣
 文部科学省『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』（最新版）
 「やさしい教育心理学」有斐閣アルマ 鎌原 雅彦他著
 「教師のたまごのための教育相談」北樹出版 会沢信彦・安斎順子編著

【成績評価の方法と基準】

定期試験（70％）、授業への積極的参加（30％）で評価

【学生の意見等からの気づき】

毎回プリントを配布して、授業後の感想をもとにやりとりのある授業を心掛けている。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

教員はスクールカウンセラーの体験があるためそれについて語る場合がある。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the mental and physical development of children, learning theory and educational evaluation.

教育相談

沼田 あや子

配当年次／単位：1～4 年次／2 単位

開講時期：春学期授業/Spring

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教育相談活動の基礎知識、方法、対人援助のための姿勢を学ぶ

【到達目標】

教育相談を進めるにあたり、幼児、児童及び生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切にとらえ、支援するために必要な基礎的知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業は講義中心となります。ただし、教育相談においては意見の多様性が大切ですので、ディスカッションもおこないます。学校現場の具体的な事例をもとに、子どもの理解と対処方法を一緒に考えていきましょう。ゲストを招いての講義を1回おこなう予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要と成績評価方法についての説明。教師がカウンセリングについて学ぶ意味を考える。
2	スクールカウンセリングの実際：問題の見方、対策の立て方	具体的な相談事例をもとに、学校内外との連携について学ぶ。
3	幼児期、児童期の発達	身体、思考、対人関係の発達など、人間の発達の基礎知識について学ぶ。
4	思春期、青年期の発達	思春期、青年期の心理発達の諸理論を学び、現代の若者理解について考える。
5	発達障害とは	発達障害（自閉症スペクトラム、学習障害、ADHD）の基礎知識について学ぶ。
6	発達障害をもつ子への支援	発達障害をもつ児童生徒に対して、学校現場での具体的な支援について学ぶ。
7	精神障害と虐待	気分障害、身体表現性障害、統合失調症について学ぶ。また、PTSDの背景にある児童虐待について学ぶ。
8	カウンセリングの諸技法	カウンセリングの理論と技法を知り、話を聴くこと、語ることを体験してみる。
9	不登校	現在の不登校事情とその支援について考える。
10	いじめ	いじめのメカニズムと介入方法について考える。
11	非行・問題行動	非行・少年犯罪とはなにか、その背景、支援について考える。
12	保護者対応	保護者との実際のトラブルを想定して、対応の仕方を学ぶ。
13	教師のストレスと対処方法	教師自身のストレスマネジメントについて学ぶ。
14	まとめ	自分が教師になったとき、どのような教師でいたいのか、児童生徒とどう向き合うかを考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で紹介する文献、自分の興味のあるトピックに関するニュースや本を積極的に読みましょう。そしてどんなテーマのものでも、自分の感想、自分の考えをもつよう心がけましょう。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回、レジュメを配布します。

【参考書】

都築学（編）『やさしい心理学』ナカニシヤ出版

文部科学省『学習指導要領』

※その他、授業のなかで紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業中毎回コメントの提出を求めます。成績評価は学期末1回のレポート（60%）、授業時のコメント（40%）によりおこないます。コメントやレポートは、正解はあるような出題内容ではありません。自分で考えて自分の言葉で書いているかどうかを重視します。

【学生の意見等からの気づき】

スクールカウンセリングの現場の話題を取り入れます。

【その他の重要事項】

・「教育相談」は後期にも同じ内容で開講されます。ほかの授業とのバランスを考慮して、前期後期どちらで履修するかを決めてください。

・履修状況によっては、授業スケジュールが前後する可能性があります。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the basic knowledge on educational counseling and organizational approach.

教育相談

沼田 あや子

配当年次／単位：1～4 年次／2 単位

開講時期：秋学期授業/Fall

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教育相談活動の基礎知識、方法、対人援助のための姿勢を学ぶ

【到達目標】

教育相談を進めるにあたり、幼児、児童及び生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切にとらえ、支援するために必要な基礎的知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業は講義中心となります。ただし、教育相談においては意見の多様性が大切ですので、ディスカッションもおこないます。学校現場の具体的な事例をもとに、子どもの理解と対処方法を一緒に考えていきましょう。ゲストを招いての講義を1回おこなう予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要と成績評価方法についての説明。教師がカウンセリングについて学ぶ意味を考える。
2	スクールカウンセリングの実際：問題の見方、対策の立て方	具体的な相談事例をもとに、学校内外との連携について学ぶ。
3	幼児期、児童期の発達	身体、思考、対人関係の発達など、人間の発達の基礎知識について学ぶ。
4	思春期、青年期の発達	思春期、青年期の心理発達の諸理論を学び、現代の若者理解について考える。
5	発達障害とは	発達障害（自閉症スペクトラム、学習障害、ADHD）の基礎知識について学ぶ。
6	発達障害をもつ子への支援	発達障害をもつ児童生徒に対して、学校現場での具体的な支援について学ぶ。
7	精神障害と虐待	気分障害、身体表現性障害、統合失調症について学ぶ。また、PTSDの背景にある児童虐待について学ぶ。
8	カウンセリングの諸技法	カウンセリングの理論と技法を知り、話を聴くこと、語ることを体験してみる。
9	不登校	現在の不登校事情とその支援について考える。
10	いじめ	いじめのメカニズムと介入方法について考える。
11	非行・問題行動	非行・少年犯罪とはなにか、その背景、支援について考える。
12	保護者対応	保護者との実際のトラブルを想定して、対応の仕方を学ぶ。
13	教師のストレスと対処方法	教師自身のストレスマネジメントについて学ぶ。
14	まとめ	自分が教師になったとき、どのような教師でいたいのか、児童生徒とどう向き合うかを考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で紹介する文献、自分の興味のあるトピックに関するニュースや本を積極的に読みましょう。そしてどんなテーマのものでも、自分の感想、自分の考えをもつよう心がけましょう。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回、レジュメを配布します。

【参考書】

都築学（編）『やさしい心理学』ナカニシヤ出版

文部科学省『学習指導要領』

※その他、授業のなかで紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業中毎回コメントの提出を求めます。成績評価は学期末1回のレポート（60%）、授業時のコメント（40%）によりおこないます。コメントやレポートは、正解はあるような出題内容ではありません。自分で考えて自分の言葉で書いているかどうかを重視します。

【学生の意見等からの気づき】

スクールカウンセリングの現場の話題を取り入れます。

【その他の重要事項】

・「教育相談」は前期にも同じ内容で開講されます。ほかの授業とのバランスを考慮して、前期後期どちらで履修するかを決めてください。

・履修状況によっては、授業スケジュールが前後する可能性があります。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the basic knowledge on educational counseling and organizational approach.

道徳教育指導論

石神 真悠子

配当年次／単位：2～4 年次／2 単位

開講時期：春学期授業/Spring

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は道徳の本質を問い直し、そのうえで今後の道徳教育のあり方についての展望を与えることを目指すものである。道徳教育をめぐっては、道徳が「特別の教科」に変更されたことに伴い、そのあり方をめぐって議論が進められているが、そうした転換期にあって、「そもそも道徳とは何か?」「道徳教育は可能なのか?」「道徳教育はいかになされるべきか?」といった根本的な問いに向き合うことは不可欠であろう。本講義ではそうした原理的な問いに立ち返りつつ、今後の道徳教育のあり方を問うべく、道徳教育の歴史、現状、課題について概説する。そしてそのうえで優れた道徳教育の実践を紹介し、履修者自らが授業を構成していくための知識の修得を目指す。

【到達目標】

道徳の意義や原理等に基づき、学校における道徳教育の目標や内容を理解する。学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科における指導計画や指導方法を理解する。

- ①道徳教育の現状と課題について把握する。
- ②道徳の本質を説明できる。
- ③道徳教育の歴史について理解する。
- ④学習指導要領に示された道徳教育及び道徳科の目標及び主な内容を理解している。
- ⑤自ら「道徳」の授業を組み立てることができる。
- ⑥模擬授業の実施とそのふりかえりを通して、授業改善の視点を身につけている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式とするが、模擬授業やグループワーク等の機会を設ける。また、コメントシートの提出を必須とし、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	道徳教育を学ぶ意義について	授業の目的や進め方、評価方法についてガイダンスを行い、道徳教育を学ぶ意義を検討する。
2	道徳教育の現状と課題－「道徳の教科化」とその学習評価	学習指導要領を踏まえて、道徳の教科化とその学習評価について検討する。
3	道徳教育の歴史	戦前・戦後の道徳教育を検討する。
4	心の教育について－学習指導要領における「心の教育」	学習指導要領を踏まえて、「心の教育」について検討する。
5	いのちの教育について－学習指導要領における「いのちの教育」	学習指導要領を踏まえて、「いのちの教育」について検討する。
6	人権教育について－学習指導要領における「人権教育」	学習指導要領を踏まえて、「人権教育」について検討する。
7	道徳性の発達理論	道徳性の発達理論を踏まえて、道徳性が発達するとはどのようなことかを検討する。
8	悪の体験と子どもの発達	悪の体験から子どもの発達、教育の限界点について検討する。
9	情報モラル	情報モラルについて確認したうえで、情報モラル教育について検討する。
10	シティズンシップ教育について	シティズンシップ教育と道徳教育の重なりとずれを検討する。
11	モラルジレンマ型の道徳教育	モラルジレンマ型の道徳教育について、その意義と課題を検討する。
12	「道徳」における指導案の書き方および発問の仕方について	指導案作成のポイントについて検討する。
13	模擬授業の実施および「道徳」の実践例の紹介	模擬授業を実施するとともに、「道徳」の実践例を紹介し、それらについて検討する。
14	全体のふりかえりとまとめ	本講義のふりかえりとまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃より道徳教育に関わる新聞記事や文献等に目を通し、「道徳」とは何は、「道徳を教育する」とはどういうことかについて考えを深める。

【テキスト（教科書）】

教員が適宜指定する。

【参考書】

井藤元編『ワークで学ぶ道徳教育』（ナカニシヤ出版、2016年）
中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領（最新版 文部科学省）
このほか、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業におけるコメントシートおよび小テスト（60%）と達成度テスト（40%）の点数を合わせて総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

授業の進め方は、履修者と相談したうえで、必要に応じて変更する場合がある。また授業の内容についても、適宜変更する場合がある。

【Outline and objectives】

This class aims to understand the goals and contents of moral education at a school and further discusses moral education through whole school educational activities as well as curriculum and instruction of moral education. Details are to explore ① the current situation and issues of moral education, ② the essence of morality, ③ the history of moral education, ④ the goals and main contents of moral education in the National Courses of Study, ⑤ how to design lesson plans of moral education, and ⑥ the simulated lessons and their reflection.

生徒・進路指導論

谷川 由佳

配当年次／単位：2～4 年次／2 単位

開講時期：春学期授業/Spring

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生徒指導の意義と原理を理解し、生徒集団全体に対する指導、個別の課題を抱える生徒への指導のあり方や方法を理解できるようにする。また、進路指導（キャリア教育の基礎的な事項を含む）の意義と原理を理解し、生徒集団全体に対するガイダンス、個別の生徒に対するキャリア・カウンセリングのあり方や方法を理解できるようにする。

【到達目標】

生徒指導の理論と方法、進路指導（キャリア教育の基礎的な事項を含む）の理論と方法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

本授業は講義形式となる。授業の初めに、前回の授業で提出されたりアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業の概要とガイダンス	授業の概要、成績評価等についての説明 学校体験を振り返る（これまで受けた生徒指導と進路指導）
2	生徒指導の意義と役割	教育課程における生徒指導の位置付け
3	生徒指導の方法	生徒指導の基本的な考え方、方法
4	生徒指導における集団指導	生活集団と学習集団
5	生徒指導における個別指導（今日的な生徒指導の課題）	生徒指導における今日的課題と期待される実践
6	生徒指導における個別指導（不登校等への対処）	「不登校」の現在と生徒指導の考え方
7	生徒指導における個別指導（暴力行為、いじめ等への対処）	いじめの問題にどう取り組むのか
8	進路指導の意義と役割	進路指導の基本的な考え方
9	進路指導の歴史と方法	進路指導の歴史の変遷、方法
10	キャリア教育の意義と役割	学校間接続・学校から仕事への移行とキャリア教育
11	進路指導・キャリア教育におけるガイダンスの役割と方法	現代の若者の進学と労働のあり方を踏まえた進路指導・キャリア教育
12	進路指導・キャリア教育におけるキャリア・カウンセリングの役割と方法	キャリア・カウンセリングの意義と内容
13	進路指導・キャリア教育におけるポートフォリオの活用	進路指導・キャリア教育における今日的課題と期待される実践
14	集団指導の組織的な推進体制	生徒・進路指導と学校外の機関との連携

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指定しない。授業時にレジュメや資料を配布する。

【参考書】

折出健二編『生活指導：生き方についての生徒指導・進路指導とともに』学文社、2014 年
林尚示・伊藤秀樹編『生徒指導・進路指導 第 2 版:理論と方法』学文社、2018 年
『生徒指導提要』（文部科学省）

【成績評価の方法と基準】

提出物（リアクションペーパー等）40 %、期末レポート 60%で、総合的に判断して成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

前年度アンケート未実施科目につき、特になし。

【学生が準備すべき機器他】

本授業はオンライン授業となるため、授業資料の配布や課題提出は学習支援システムを通して行う。講義は Zoom を用いた双方向オンライン型での実施を予定している。
学習支援システムや Zoom を利用するための機器（パソコン等）があることが望ましい。

【その他の重要事項】

授業時にリアクションペーパー等の提出を求める。また、その内容は匿名化したうえで授業内で紹介することができる。

【Outline and objectives】

This course introduces the significance and principles of student guidance and career guidance & education. The former includes how to guide the whole student group and individual students with special educational needs. The latter includes how to provide career guidance & education for the whole student group, and career counseling for individual students.

生徒・進路指導論

谷川 由佳

配当年次／単位：2～4 年次／2 単位

開講時期：春学期授業/Spring

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生徒指導の意義と原理を理解し、生徒集団全体に対する指導、個別の課題を抱える生徒への指導のあり方や方法を理解できるようにする。また、進路指導（キャリア教育の基礎的な事項を含む）の意義と原理を理解し、生徒集団全体に対するガイダンス、個別の生徒に対するキャリア・カウンセリングのあり方や方法を理解できるようにする。

【到達目標】

生徒指導の理論と方法、進路指導（キャリア教育の基礎的な事項を含む）の理論と方法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

本授業は講義形式となる。授業の初めに、前回の授業で提出されたりアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業の概要とガイダンス	授業の概要、成績評価等についての説明 学校体験を振り返る（これまで受けた生徒指導と進路指導）
2	生徒指導の意義と役割	教育課程における生徒指導の位置付け
3	生徒指導の方法	生徒指導の基本的な考え方、方法
4	生徒指導における集団指導	生活集団と学習集団
5	生徒指導における個別指導（今日的な生徒指導の課題）	生徒指導における今日的課題と期待される実践
6	生徒指導における個別指導（不登校等への対処）	「不登校」の現在と生徒指導の考え方
7	生徒指導における個別指導（暴力行為、いじめ等への対処）	いじめの問題にどう取り組むのか
8	進路指導の意義と役割	進路指導の基本的な考え方
9	進路指導の歴史と方法	進路指導の歴史の変遷、方法
10	キャリア教育の意義と役割	学校間接続・学校から仕事への移行とキャリア教育
11	進路指導・キャリア教育におけるガイダンスの役割と方法	現代の若者の進学と労働のあり方を踏まえた進路指導・キャリア教育
12	進路指導・キャリア教育におけるキャリア・カウンセリングの役割と方法	キャリア・カウンセリングの意義と内容
13	進路指導・キャリア教育におけるポートフォリオの活用	進路指導・キャリア教育における今日的課題と期待される実践
14	集団指導の組織的な推進体制	生徒・進路指導と学校外の機関との連携

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指定しない。授業時にレジュメや資料を配布する。

【参考書】

折出健二編『生活指導：生き方についての生徒指導・進路指導とともに』学文社、2014年

林尚示・伊藤秀樹編『生徒指導・進路指導 第2版:理論と方法』学文社、2018年
『生徒指導提要』（文部科学省）

【成績評価の方法と基準】

提出物（リアクションペーパー等）40%、期末レポート60%で、総合的に判断して成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

前年度アンケート未実施科目につき、特になし。

【学生が準備すべき機器他】

本授業はオンライン授業となるため、授業資料の配布や課題提出は学習支援システムを通して行う。講義はZoomを用いた双方向オンライン型での実施を予定している。
学習支援システムやZoomを利用するための機器（パソコン等）があることが望ましい。

【その他の重要事項】

授業時にリアクションペーパー等の提出を求める。また、その内容は匿名化したうえで授業内で紹介することができる。

【Outline and objectives】

This course introduces the significance and principles of student guidance and career guidance & education. The former includes how to guide the whole student group and individual students with special educational needs. The latter includes how to provide career guidance & education for the whole student group, and career counseling for individual students.

特別活動論

桐島 次郎

配当年次／単位：2～4 年次／2 単位

開講時期：秋学期授業/Fall

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生が将来、学級担任、教科担任、分掌担任、部活顧問として、特別活動の各分野、即ち学級活動（ホームルーム活動）、生徒会活動、学校行事、部活動において、見通しをもって取り組む上で必要な視点、更には、家庭、地域住民や関係諸機関との連携の在り方も含めて必要となる知識や視点、特質についても理解する。また、その目標を達成するための指導法、企画力を、討議、グループワーク等を通して高める。

【到達目標】

特別活動は、学校における様々な構成の集団での活動を通して、課題の発見や解決を行い、よりよい集団や学校生活を目指して様々に行われる活動の総体である。学校教育全体における特別活動の意義を理解し、「人間関係形成」・「社会参画」・「自己実現」の三つの視点や「チームとしての学校」の視点を持つとともに、学年の違いによる活動の変化、各教科等との往還的な関連、地域住民や他校の教職員と連携した組織的な対応等の特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

本授業では、これからの特別活動のあり方を考える上で必要となる文献、実践等を紹介し、検討していく。毎回授業の最後に、各自の意見、論点をコメントペーパーにまとめて提出してもらう。授業の初めに、前回の授業で提出されたコメントペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	講義の進め方、評価の仕方等の説明
2	教育課程の中の特別活動	特別活動の教育課程における位置づけ、およびその指導の特徴について考える。
3	特別活動の歴史	特別活動の変遷をたどり、今日の特別活動へと引き継がれている内容について考える。
4	学習指導要領と特別活動	特別活動に求められる新たな視点、および各教科等との関連性について考える。
5	特別活動の目標と展開	特別活動の目標についての理解を深め、実践を展開する上で必要な観点について考える。
6	特別活動の評価と改善	特別活動にふさわしい評価のあり方、また改善のすすめ方について考える。
7	話し合い活動とその指導	対話と討論を通じた相互理解と合意形成にむけて、指導の課題を考える。
8	学級・ホームルーム活動	信頼関係に基づく学級づくり、仲間づくりの意義と方法について考える。
9	児童会・生徒会活動	参画と自治、協同性によって学校生活をより良いものへとつくり変えていくために必要な能力について考える。
10	学校行事	発見と共感、創造性によって運営される学校行事固有の魅力、特性について考える。
11	部活動	「文化」の共有をとおして仲間とつながり、その成果を地域社会へとひろげていく部活動の可能性について考える。
12	家庭・地域・関連機関と連携した特別活動（シティズンシップ教育）	ボランティア学習、社会への貢献的活動等を通じて育まれていく「市民性」の意味について考える。
13	家庭・地域・関係機関と連携した特別活動（キャリア教育）	学習の成果を社会の課題とつなぎ、自己の実現とよりよい集団の形成を達成していくための方法を考える。
14	まとめ：特別活動の課題と可能性	講義全体を振り返り、特別活動の展望と課題について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業において配付する関連資料を次回までに読了する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教員が適宜指定する。

【参考書】

中学校学習指導要領/特別活動編、高等学校学習指導要領/特別活動編（最新版 文部科学省）

【成績評価の方法と基準】

コメントペーパーと参加姿勢（60%）、課題レポートの内容（40%）

【学生の意見等からの気づき】

授業後に提出してもらうコメントペーパーのいくつかを毎回授業のはじめに紹介し、前回の授業の内容等に関する「気づき」について述べる。

【Outline and objectives】

This course introduces extra-curricular activities at school. In the field of extra-curricular activities, there are home room activities, student council activities, school events, etc. This course explains how the teacher guides students in these activities, and how to cooperate with students' families and related organizations in the regional community. In this lesson, discussions, group work and other active learning methods will be carried out.

特別活動論

桐島 次郎

配当年次／単位：2～4 年次／2 単位

開講時期：秋学期授業/Fall

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生が将来、学級担任、教科担任、分掌担任、部活顧問として、特別活動の各分野、即ち学級活動（ホームルーム活動）、生徒会活動、学校行事、部活動において、見通しをもって取り組む上で必要な視点、更には、家庭、地域住民や関係諸機関との連携の在り方も含めて必要となる知識や視点、特質についても理解する。また、その目標を達成するための指導法、企画力を、討議、グループワーク等を通して高める。

【到達目標】

特別活動は、学校における様々な構成の集団での活動を通して、課題の発見や解決を行い、よりよい集団や学校生活を目指して様々に行われる活動の総体である。学校教育全体における特別活動の意義を理解し、「人間関係形成」・「社会参画」・「自己実現」の三つの視点や「チームとしての学校」の視点を持つとともに、学年の違いによる活動の変化、各教科等との往還的な関連、地域住民や他校の教職員と連携した組織的な対応等の特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

本授業では、これからの特別活動のあり方を考える上で必要となる文献、実践等を紹介し、検討していく。毎回授業の最後に、各自の意見、論点をコメントペーパーにまとめて提出してもらう。授業の初めに、前回の授業で提出されたコメントペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	講義の進め方、評価の仕方等の説明
2	教育課程の中の特別活動	特別活動の教育課程における位置づけ、およびその指導の特徴について考える。
3	特別活動の歴史	特別活動の変遷をたどり、今日の特別活動へと引き継がれている内容について考える。
4	学習指導要領と特別活動	特別活動に求められる新たな視点、および各教科等との関連性について考える。
5	特別活動の目標と展開	特別活動の目標についての理解を深め、実践を展開する上で必要な観点について考える。
6	特別活動の評価と改善	特別活動にふさわしい評価のあり方、また改善のすすめ方について考える。
7	話し合い活動とその指導	対話と討論を通じた相互理解と合意形成にむけて、指導の課題を考える。
8	学級・ホームルーム活動	信頼関係に基づく学級づくり、仲間づくりの意義と方法について考える。
9	児童会・生徒会活動	参画と自治、協同性によって学校生活をより良いものへとつくり変えていくために必要な能力について考える。
10	学校行事	発見と共感、創造性によって運営される学校行事固有の魅力、特性について考える。
11	部活動	「文化」の共有をとおして仲間とつながり、その成果を地域社会へとひろげていく部活動の可能性について考える。
12	家庭・地域・関連機関と連携した特別活動（シティズンシップ教育）	ボランティア学習、社会への貢献的活動等を通じて育まれていく「市民性」の意味について考える。
13	家庭・地域・関係機関と連携した特別活動（キャリア教育）	学習の成果を社会の課題とつなぎ、自己の実現とよりよい集団の形成を達成していくための方法を考える。
14	まとめ：特別活動の課題と可能性	講義全体を振り返り、特別活動の展望と課題について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業において配付する関連資料を次回までに読了する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教員が適宜指定する。

【参考書】

中学校学習指導要領/特別活動編、高等学校学習指導要領/特別活動編（最新版 文部科学省）

【成績評価の方法と基準】

コメントペーパーと参加姿勢（60%）、課題レポートの内容（40%）

【学生の意見等からの気づき】

授業後に提出してもらうコメントペーパーのいくつかを毎回授業のはじめに紹介し、前回の授業の内容等に関する「気づき」について述べる。

【Outline and objectives】

This course introduces extra-curricular activities at school. In the field of extra-curricular activities, there are home room activities, student council activities, school events, etc. This course explains how the teacher guides students in these activities, and how to cooperate with students' families and related organizations in the regional community. In this lesson, discussions, group work and other active learning methods will be carried out.

教育課程論

三浦 芳恵

配当年次／単位：2～4 年次／2 単位

開講時期：秋学期授業/Fall

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

カリキュラム研究及び学習指導要領の検討をもとに、教育課程の意義や編成の方法を考察するとともに、事例研究や指導計画の立案や評価を実践することを通して、カリキュラム・マネジメントの考え方・進め方について理解する。

【到達目標】

資質・能力の育成をめざした教育課程の意義や編成の方法及びカリキュラム・マネジメントの考え方・進め方を理解している。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義形式・リアクションペーパー提出あり

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	この授業の概要について説明をします。
2	カリキュラムとは	カリキュラムの概念について学びます。
3	教育内容の組織化	経験主義カリキュラムと系統主義カリキュラムなど、カリキュラムの組織化の種類について把握し、検討します。
4	カリキュラムデザインを支える学習理論	現行学習指導要領における学習理論の転換について
5	教育課程の意義と位置づけ	教育課程関連制度の基本的な枠組みについて学びます。
6	学習指導要領の変遷	学習指導要領の変遷について把握します。
7	学力論の系譜	「ゆとり教育」導入時の学力をめぐる議論を中心に、学力とは何かを検討します。
8	学習指導要領改訂の要点	現行の学習指導要領に関する分析を行います。
9	カリキュラム・マネジメント	カリキュラム・マネジメントの概念について、教育実践の事例から検討します。
10	社会に開かれた教育課程	高校の教育実践から、地域に開かれた教育課程づくりの意義について検討します。
11	教育課程と指導計画－教科・領域の横断	中学校の総合的な学習の時間に関する実践について検討します。
12	教育課程と指導計画－通時性と共時性	キャリア教育の実践から、長期的な教育計画について検討します。
13	カリキュラム評価	近年の教育課程評価の動向について、実際の事例から検討します。
14	授業のまとめ	この授業のまとめを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回のテーマに関連するような文献（新聞・雑誌・専門書など）を読み、自分なりの関心を持つこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定しない。適宜資料を配布する。

【参考書】

文部科学省「中学校学習指導要領・高等学校学習指導要領」（最新版）
松尾知明『新版 教育課程・方法論－コンピテンシーを育てる学びのデザイン』学文社、2018 年。

【成績評価の方法と基準】

毎回のリアクションペーパー（60%）、授業内課題（40%）をもとに総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

グループワークの時間を有意義なものにできるよう、問いの立て方や受講者たちへの接し方を工夫したいと思います。

【Outline and objectives】

This class aims to discuss the significance of school curriculum and methods of their development based on the study of curriculum research and the National Courses of Study. Also, the class further examines and explores the ideas and implementations of the curriculum management through case studies, curriculum development, and their evaluation.

教育課程論

三浦 芳恵

配当年次／単位：2～4 年次／2 単位

開講時期：秋学期授業/Fall

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

カリキュラム研究及び学習指導要領の検討をもとに、教育課程の意義や編成の方法を考察するとともに、事例研究や指導計画の立案や評価を実践することを通して、カリキュラム・マネジメントの考え方・進め方について理解する。

【到達目標】

資質・能力の育成をめざした教育課程の意義や編成の方法及びカリキュラム・マネジメントの考え方・進め方を理解している。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義形式・リアクションペーパー提出あり

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	この授業の概要について説明をします。
2	カリキュラムとは	カリキュラムの概念について学びます。
3	教育内容の組織化	経験主義カリキュラムと系統主義カリキュラムなど、カリキュラムの組織化の種類について把握し、検討します。
4	カリキュラムデザインを支える学習理論	現行学習指導要領における学習理論の転換について
5	教育課程の意義と位置づけ	教育課程関連制度の基本的な枠組みについて学びます。
6	学習指導要領の変遷	学習指導要領の変遷について把握します。
7	学力論の系譜	「ゆとり教育」導入時の学力をめぐる議論を中心に、学力とは何かを検討します。
8	学習指導要領改訂の要点	現行の学習指導要領に関する分析を行います。
9	カリキュラム・マネジメント	カリキュラム・マネジメントの概念について、教育実践の事例から検討します。
10	社会に開かれた教育課程	高校の教育実践から、地域に開かれた教育課程づくりの意義について検討します。
11	教育課程と指導計画－教科・領域の横断	中学校の総合的な学習の時間に関する実践について検討します。
12	教育課程と指導計画－通時性と共時性	キャリア教育の実践から、長期的な教育計画について検討します。
13	カリキュラム評価	近年の教育課程評価の動向について、実際の事例から検討します。
14	授業のまとめ	この授業のまとめを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回のテーマに関連するような文献（新聞・雑誌・専門書など）を読み、自分なりの関心を持つこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定しない。適宜資料を配布する。

【参考書】

文部科学省「中学校学習指導要領・高等学校学習指導要領」（最新版）
松尾知明『新版 教育課程・方法論－コンピテンシーを育てる学びのデザイン』学文社、2018 年。

【成績評価の方法と基準】

毎回のリアクションペーパー（60%）、授業内課題（40%）をもとに総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

グループワークの時間を有意義なものにできるよう、問いの立て方や受講者たちへの接し方を工夫したいと思います。

【Outline and objectives】

This class aims to discuss the significance of school curriculum and methods of their development based on the study of curriculum research and the National Courses of Study. Also, the class further examines and explores the ideas and implementations of the curriculum management through case studies, curriculum development, and their evaluation.

教育方法論

酒井 英光

配当年次／単位：2～4 年次／2 単位

開講時期：春学期授業/Spring

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、教育の方法及び技術を学ぶ。(情報機器及び教材の活用を含む)特に、「授業」とは何か、「授業」はいかにあるべきか、「授業」をいかに準備し、実践するかということに重点を置く。

【到達目標】

実際に授業を準備し、イメージ豊かに組み立て・展開する力をつけ、指導案の形で表現し、実際に授業をおこなう能力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業は当面の間、「学習支援システム」によるオンラインによって行なう。「双方向の動画配信型」の授業ではなく、毎回教材ファイルを配信する「資料配信型」の授業を行なう。場合によっては、動画を配信する場合もあるが、基本的にはワードや PDF の教材ファイルを配布する。教材ファイルは、時間割り通り、授業日の午前中には、「学習支援システム」の「教材」のところに掲示する。その日の授業の進め方は「本日の授業ガイダンス」ファイルで指示する。質疑応答・感想等については、「授業内掲示板」に「トピック」を設けて利用する。投稿に対しては、できるだけ速やかに応答する予定である。(自宅外にいる場合は難しいが、2日間ほどは、短くとも応答するつもりである。)「授業計画」を含むシラバスの変更がある場合、その詳細は「学習支援システム」のお知らせや教材のところにファイルを載せるのを見てほしい。

この講義では、いくつかの授業例を紹介し、分析・評価をしてゆく。その中で授業づくりの段取りや技術、教材の活用方法等についても説明する。板書の要領、プリントの作成などについても話すつもりである。授業例としては、受講生の取得希望免許科目と講師の経験的制約のため、公民や地歴、社会科学系の授業の紹介が多くなる。情報科のみ、福祉科のみ、あるいは保健体育科の免許を取得しようとする諸君には、最低でも一回はそれぞれの教科の授業事例を取りあげるので、許容していただきたい。

紹介した授業例に対しては2回ほど小レポートによって批評を書いていただく予定である。(当日1本だけ書いていただく場合もありうる。)

最終レポート=大レポートの主要部分は1時間分の指導案である。設定されたテーマに沿って1時間分の指導計画を構想して書いていただく。

教室授業が可能になった場合は、授業計画の相当の変更がありうる。(情報の授業紹介は、これまでゲストに来ていただいて、アクティブラーニング形式で実施していた。また、福祉の授業例も優れた模擬授業のビデオを利用していた。教室での対面授業が可能となれば、何とか組み込みたいと思っているが、対面授業ができない場合はいずれの実施も困難となる。)

社会科学系の科目はいうまでもなく、福祉・保健・健康・情報にかかわる問題も、世界の動き、政治・経済・文化等と密接なかわりを持っている。教員がそのような世界の動向に関心を持ち、相当の理解を持っていることは、知的な指導者として教壇に立つための前提であると私は考える。このような準備なしでは、いずれの科目においても生徒が興味を持ち、生徒に説得力のある授業をすることは難しいと思う。そのため、この講義の受講生には現代の社会の動きにより関心を持っていただくために、何回かは講義の中で時事問題を取りあげ、「時事問題の小試験」を実施し、現代の社会にかかわる著作も紹介していきたいと考えている。社会科学系の免許を取ろうとする諸君はもちろんのことだが、情報科のみ、福祉科のみ、あるいは保健体育科の免許を取得しようとする諸君にも、現代の日本や世界に関する幅広い知識と関心を持っていただきたいからである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	講義の予定、最終レポート（大レポート）のサンプル紹介と説明。時事問題の小試験紹介と解答・解説。
2	授業実践例1と授業論（授業評価の視点その1）	「健康・保健」の授業紹介、分析。授業論として、授業評価の視点その1。「事実」について。
3	授業実践例2と授業論（授業評価の視点その2）	「高校世界史」授業紹介、分析。授業論として、授業評価の視点その2。「良い授業」の条件等。
4	授業実践例3と授業論（授業評価と授業準備について）	「中学地理的分野」授業紹介、分析。授業評価と授業準備について。

5	授業実践例4の紹介・分析と授業論（授業の諸類型とその特徴：「講義」）	「健康・保健」の授業紹介、分析。その2。授業論として、授業の諸類型とその特徴。とりわけ講義のあり方等について考える。
6	授業実践例5と「福祉」科の授業論	「福祉」科授業の紹介、分析。「福祉」科授業の目標等。(教室授業ができない場合、プライバシー保護の観点から他の授業例に切り替える。現代社会論として、後半の講義に振り替える可能性もある。)
7	授業実践例6と授業論（授業の方法「問答学習」）	「高校日本史または中学歴史的分野の授業」の紹介、分析。授業の類型としては「問答学習」を考える。
8	授業実践例7と「情報」科の授業論（アクティブラーニングについて）	教室授業が可能であれば、ゲストによる「情報」の授業紹介と討論。「情報」の授業とアクティブラーニングの目的。(できない場合は他の授業紹介で代替する。)
9	第1回「時事問題小試験」と現代社会論	第1回「時事問題小試験」実施。解答・解説し、世界の動きについて考える。
10	授業実践例8と授業準備の手順	歴史教育の実践例を紹介し、一時間の授業をどう準備するのか、解説する。
11	授業実践例9と指導案の書き方	実践例紹介しながら、授業の構成、指導案の書き方とチェックすべき視点などについて解説する。
12	授業実践例10（情報または討論の授業）の紹介と分析	教室授業で、これまでの映像教材が紹介できない場合、討論授業を紹介して分析する。
13	授業実践例11（情報の授業）例紹介	メディアリテラシーの授業を紹介し、分析する。
14	第2回「時事問題小試験」最終レポート=大レポート提出	第2回「時事問題小試験」。解答・解説し、と世界の動きについて若干の説明をする。最終レポート「=大レポート提出。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生は、免許を取得する教科について、深く広く学習すること。各種新聞をできるだけ毎日読み、インターネットやテレビのニュースなどを視聴すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

佐藤学『教育の方法』2010年刊 放送大学叢書 左右社 ¥1524(税別)

【参考書】

文部省「中学校学習指導要領」、「高等学校学習指導要領」
 『新版 社会・地歴・公民の教育』大森正・石渡延男編著 2009年 梓出版刊
 『よい授業とは何か』川田龍哉著 2019年 学文社刊

【成績評価の方法と基準】

「指導案」を主とする最終レポート=大レポートが最も大きな評価の材料となる。70%。「時事問題小試験」は2回実施してで10%程の評価材料となる。何回かはその授業内に感想・批評を書いていただくこともあるが、紹介した授業に関する小レポートもまとめて2回ほどは書いていただく(合計で10%程)。

オンライン授業が最後まで続く場合、授業内掲示板への投稿回数と内容、既読率も授業への参加の目安として重視する。(評価のウェイトとしては10%程)。

第一回目の授業で、「学習支援システム」の「教材」のところに、「時事問題小試験の紹介」を載せておくのでやってみてほしい。いずれの問題もインターネットなどで調べれば一瞬にして答えの分かるものだが、まずは何も見ないで解いてみてほしい。教室で小試験が実施される場合、インターネットなど、一切の情報は参照不可となるためである。

【学生の意見等からの気づき】

以前よりも大幅に課題を縮小した。現在の課題は適量の模様である。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン
 インターネット受信能力
 オフィスのワードとエクセルのソフト

【Outline and objectives】

This class aims to examine basic concepts, ideas and application of education methods and techniques. Also, on the basis of this knowledge and skills, the class further discusses how to develop lesson plans to enhance competencies and actually design them.

教育方法論

酒井 英光

配当年次／単位：2～4 年次／2 単位

開講時期：秋学期授業/Fall

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、教育の方法及び技術を学ぶ。(情報機器及び教材の活用を含む)特に、「授業」とは何か、「授業」はいかにあるべきか、「授業」をいかに準備し、実践するかということに重点を置く。

【到達目標】

実際に授業を準備し、イメージ豊かに組み立て・展開する力をつけ、指導案の形で表現し、実際に授業をおこなう能力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業は当面の間、「学習支援システム」によるオンラインによって行なう。「双方向の動画配信型」の授業ではなく、毎回教材ファイルを配信する「資料配信型」の授業を行なう。場合によっては、動画を配信する場合もあるが、基本的にはワードや PDF の教材ファイルを配布する。教材ファイルは、時間割り通り、授業日の午前中には、「学習支援システム」の「教材」のところに掲示する。その日の授業の進め方は「本日の授業ガイダンス」ファイルで指示する。質疑応答・感想等については、「授業内掲示板」に「トピック」を設けて利用する。投稿に対しては、できるだけ速やかに応答する予定である。(自宅外にいる場合は難しいが、2日間ほどは、短くとも応答するつもりである。)「授業計画」を含むシラバスの変更がある場合、その詳細は「学習支援システム」のお知らせや教材のところにファイルを載せるのを見てほしい。

この講義では、いくつかの授業例を紹介し、分析・評価をしてゆく。その中で授業づくりの段取りや技術、教材の活用方法等についても説明する。板書の要領、プリントの作成などについても話すつもりである。授業例としては、受講生の取得希望免許科目と講師の経験的制約のため、公民や地歴、社会科学系の授業の紹介が多くなる。情報科のみ、福祉科のみ、あるいは保健体育科の免許を取得しようとする諸君には、最低でも一回はそれぞれの教科の授業事例を取りあげるので、許容していただきたい。

紹介した授業例に対しては2回ほど小レポートによって批評を書いていただく予定である。(当日1本だけ書いていただく場合もありうる。)

最終レポート=大レポートの主要部分は1時間分の指導案である。設定されたテーマに沿って1時間分の指導計画を構想して書いていただく。

教室授業が可能になった場合は、授業計画の相当の変更がありうる。(情報の授業紹介は、これまでゲストに来ていただいで、アクティブラーニング形式で実施していた。また、福祉の授業例も優れた模擬授業のビデオを利用していた。教室での対面授業が可能となれば、何とか組み込みたいと思っているが、対面授業ができない場合はいずれの実施も困難となる。)

社会科学系の科目はいうまでもなく、福祉・保健・健康・情報にかかわる問題も、世界の動き、政治・経済・文化等と密接なかわりを持っている。教員がそのような世界の動向に関心を持ち、相当の理解を持っていることは、知的な指導者として教壇に立つための前提であると私は考える。このような準備なしでは、いずれの科目においても生徒が興味を持ち、生徒に説得力のある授業をすることは難しいと思う。そのため、この講義の受講生には現代の社会の動きにより関心を持っていただくために、何回かは講義の中で時事問題を取りあげ、「時事問題の小試験」を実施し、現代の社会にかかわる著作も紹介していきたいと考えている。社会科学系の免許を取ろうとする諸君はもちろんのことだが、情報科のみ、福祉科のみ、あるいは保健体育科の免許を取得しようとする諸君にも、現代の日本や世界に関する幅広い知識と関心を持っていただきたいからである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	講義の予定、最終レポート（大レポート）のサンプル紹介と説明。時事問題の小試験紹介と解答・解説。
2	授業実践例1と授業論（授業評価の視点その1）	「健康・保健」の授業紹介、分析。授業論として、授業評価の視点その1。「事実」について。
3	授業実践例2と授業論（授業評価の視点その2）	「高校世界史」授業紹介、分析。授業論として、授業評価の視点その2。「良い授業」の条件等。
4	授業実践例3と授業論（授業評価と授業準備について）	「中学地理的分野」授業紹介、分析。授業評価と授業準備について。

5	授業実践例4の紹介・分析と授業論（授業の諸類型とその特徴：「講義」）	「健康・保健」の授業紹介、分析。その2。授業論として、授業の諸類型とその特徴。とりわけ講義のあり方等について考える。
6	授業実践例5と「福祉」科の授業論	「福祉」科授業の紹介、分析。「福祉」科授業の目標等。(教室授業ができない場合、プライバシー保護の観点から他の授業例に切り替える。現代社会論として、後半の講義に振り替える可能性もある。)
7	授業実践例6と授業論（授業の方法「問答学習」）	「高校日本史または中学歴史的分野の授業」の紹介、分析。授業の類型としては「問答学習」を考える。
8	授業実践例7と「情報」科の授業論（アクティブラーニングについて）	教室授業が可能であれば、ゲストによる「情報」の授業紹介と討論。「情報」の授業とアクティブラーニングの目的。(できない場合は他の授業紹介で代替する。)
9	第1回「時事問題小試験」と現代社会論	第1回「時事問題小試験」実施。解答・解説し、世界の動きについて考える。
10	授業実践例8と授業準備の手順	歴史教育の実践例を紹介し、一時間の授業をどう準備するのか、解説する。
11	授業実践例9と指導案の書き方	実践例紹介しながら、授業の構成、指導案の書き方とチェックすべき視点などについて解説する。
12	授業実践例10（情報または討論の授業）の紹介と分析	教室授業で、これまでの映像教材が紹介できない場合、討論授業を紹介して分析する。
13	授業実践例11（情報の授業）例紹介	メディアリテラシーの授業を紹介し、分析する。
14	第2回「時事問題小試験」最終レポート=大レポート提出	第2回「時事問題小試験」。解答・解説し、と世界の動きについて若干の説明をする。最終レポート「=大レポート提出。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生は、免許を取得する教科について、深く広く学習すること。各種新聞をできるだけ毎日読み、インターネットやテレビのニュースなどを視聴すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

佐藤学『教育の方法』2010年刊 放送大学叢書 左右社 ¥1524(税別)

【参考書】

文部省「中学校学習指導要領」、「高等学校学習指導要領」
『新版 社会・地歴・公民の教育』大森正・石渡延男編著 2009年 梓出版刊
『よい授業とは何か』川田龍哉著 2019年 学文社刊

【成績評価の方法と基準】

「指導案」を主とする最終レポート=大レポートが最も大きな評価の材料となる。70%。「時事問題小試験」は2回実施してで10%程の評価材料となる。何回かはその授業内に感想・批評を書いていただくこともあるが、紹介した授業に関する小レポートもまとめて2回ほどは書いていただく(合計で10%程)。

オンライン授業が最後まで続く場合、授業内掲示板への投稿回数と内容、既読率も授業への参加の目安として重視する。(評価のウェイトとしては10%程)。

第一回目の授業で、「学習支援システム」の「教材」のところに、「時事問題小試験の紹介」を載せておくのでやってみてほしい。いずれの問題もインターネットなどで調べれば一瞬にして答えの分かるものだが、まずは何も見ないで解いてみてほしい。教室で小試験が実施される場合、インターネットなど、一切の情報は参照不可となるためである。

【学生の意見等からの気づき】

以前よりも大幅に課題を縮小した。現在の課題は適量の模様である。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン
インターネット受信能力
オフィスのワードとエクセルのソフト

【Outline and objectives】

This class aims to examine basic concepts, ideas and application of education methods and techniques. Also, on the basis of this knowledge and skills, the class further discusses how to develop lesson plans to enhance competencies and actually design them.

道徳教育指導論

石神 真悠子

配当年次／単位：2～4 年次／2 単位

開講時期：秋学期授業/Fall

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は道徳の本質を問い直し、そのうえで今後の道徳教育のあり方についての展望を与えることを目指すものである。道徳教育をめぐっては、道徳が「特別の教科」に変更されたことに伴い、そのあり方をめぐって議論が進められているが、そうした転換期にあって、「そもそも道徳とは何か?」「道徳教育は可能なのか?」「道徳教育はいかになされるべきか?」といった根本的な問いに向き合うことは不可欠であろう。本講義ではそうした原理的な問いに立ち返りつつ、今後の道徳教育のあり方を問うべく、道徳教育の歴史、現状、課題について概説する。そしてそのうえで優れた道徳教育の実践を紹介し、履修者自らが授業を構成していくための知識の修得を目指す。

【到達目標】

道徳の意義や原理等に基づき、学校における道徳教育の目標や内容を理解する。学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科における指導計画や指導方法を理解する。

- ①道徳教育の現状と課題について把握する。
- ②道徳の本質を説明できる。
- ③道徳教育の歴史について理解する。
- ④学習指導要領に示された道徳教育及び道徳科の目標及び主要内容を理解している。
- ⑤自ら「道徳」の授業を組み立てることができる。
- ⑥模擬授業の実施とそのふりかえりを通して、授業改善の視点を身につけている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式とするが、模擬授業やグループワーク等の機会を設ける。また、コメントシートの提出を必須とし、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	道徳教育を学ぶ意義について	授業の目的や進め方、評価方法についてガイダンスを行い、道徳教育を学ぶ意義を検討する。
2	道徳教育の現状と課題－「道徳の教科化」とその学習評価	学習指導要領を踏まえて、道徳の教科化とその学習評価について検討する。
3	道徳教育の歴史	戦前・戦後の道徳教育を検討する。
4	心の教育について－学習指導要領における「心の教育」	学習指導要領を踏まえて、「心の教育」について検討する。
5	いのちの教育について－学習指導要領における「いのちの教育」	学習指導要領を踏まえて、「いのちの教育」について検討する。
6	人権教育について－学習指導要領における「人権教育」	学習指導要領を踏まえて、「人権教育」について検討する。
7	道徳性の発達理論	道徳性の発達理論を踏まえて、道徳性が発達するとはどのようなことかを検討する。
8	悪の体験と子どもの発達	悪の体験から子どもの発達、教育の限界点について検討する。
9	情報モラル	情報モラルについて確認したうえで、情報モラル教育について検討する。
10	シティズンシップ教育について	シティズンシップ教育と道徳教育の重なりとずれを検討する。
11	モラルジレンマ型の道徳教育	モラルジレンマ型の道徳教育について、その意義と課題を検討する。
12	「道徳」における指導案の書き方および発問の仕方について	指導案作成のポイントについて検討する。
13	模擬授業の実施および「道徳」の実践例の紹介	模擬授業を実施するとともに、「道徳」の実践例を紹介し、それらについて検討する。
14	全体のふりかえりとまとめ	本講義のふりかえりとまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃より道徳教育に関わる新聞記事や文献等に目を通し、「道徳」とは何か、「道徳を教育する」とはどういうことかについて考えを深める。

【テキスト（教科書）】

教員が適宜指定する。

【参考書】

井藤元編『ワークで学ぶ道徳教育』（ナカニシヤ出版、2016年）
中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領（最新版 文部科学省）
このほか、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業におけるコメントシートおよび小テスト（60%）と達成度テスト（40%）の点数を合わせて総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

授業の進め方は、履修者と相談したうえで、必要に応じて変更する場合がある。また、授業内容についても適宜変更する場合がある。

【Outline and objectives】

This class aims to understand the goals and contents of moral education at a school and further discusses moral education through whole school educational activities as well as curriculum and instruction of moral education. Details are to explore ① the current situation and issues of moral education, ② the essence of morality, ③ the history of moral education, ④ the goals and main contents of moral education in the National Courses of Study, ⑤ how to design lesson plans of moral education, and ⑥ the simulated lessons and their reflection.

教職実践演習（中・高）

御園生 純

配当年次／単位：4 年次／2 単位

開講時期：秋学期授業/Fall

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、将来の教育専門職に相応しい知識、技能などの理解を深め、4年間の大学における教職課程履修の総仕上げをおこなう科目です。

【到達目標】

学習の目標は以下の通りです。

- ①学校現場における授業づくりの実践力量の深化、
- ②専門教科領域における教育研究と教材作成力量の深化、
- ③生徒理解や学級・学校運営に関する実践力量の深化、
- ④教育職に関する理解の深化と各自の目標の設定、
- ⑤教育専門職としての他者との関わり・自己表現の深化、

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業は演習形式でおこない、グループ学習、次年度教育実習予定者との共同学習、模擬授業づくりのサポートを通じた経験報告やアドバイス、期末報告の発表会などによって構成されます。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行います。各課題について受講生毎に講評します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 本講義の目的と位置づけ	①本講義の性格、課題、到達目標の確認。②本演習の期末課題に関する説明。課題は「教育関係者のヒアリング報告・後輩に残す教科教材の作成・教職に関する研究レポート」から学生が選択し決定する。
2	教職課程のふりかえり交流（1回目）	これからの時代・社会における教職にはどのような力量・専門性が求められるのか、報告と討論を行う。
3	教職課程のふりかえり交流（2回目）	前回の報告と討論を踏まえて、次年度教育実習予定者へのメッセージを作成する。
4	次年度実習予定者へのプレゼンテーション	次年度教育実習予定者に対して、教育実習への準備の在り方、授業づくりのあり方、実習授業の展開などを伝える。
5	グループディスカッションに向けた準備作業。	これからの教職実践の問い（授業づくり、生徒理解）を出し合い、グループディスカッションのテーマを決め、準備をおこなう。
6	グループディスカッション①	「授業づくり」を通じた、これからの時代・社会の教職に求められる専門職性をめぐるディベート形式の討論。
7	グループディスカッション②	「生徒理解」を通じた、これからの時代・社会の教職に求められる専門職性をめぐるディベート形式の討論。
8	期末課題のテーマの起案と計画書の提出	期末課題の計画書を作成・提出する
9	期末課題製作作業①	第12回の発表予定者は教員に対して中間報告をおこない、コメントを受ける。
10	期末課題製作作業②	第13回の発表予定者は教員に対して中間報告をおこない、コメントを受ける。
11	期末課題製作作業③	第14回の発表予定者は教員に対して中間報告をおこない、コメントを受ける。
12	期末課題発表会①	完成させた期末課題の発表会をおこなう。ここには次年度教育実習予定者など教職課程履修学生にも参加を呼びかけ、コメントを受ける。
13	期末課題発表会②	各自の発表に対する講評と問題点や改善点の抽出。
14	期末課題発表会③	前回の授業を踏まえて加筆修正した最終課題の再発表。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・7月にオリエンテーションをおこないますので、必ず参加ください。
- ・期末課題の作成には、グループワークが必要になります。

・次年度教育実習予定者のクラスに何度か参加して、後輩の支援・指導にあたります。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・特に指定しません。必要に応じて、文献や資料などを指定あるいは配布します。

【参考書】

- ・『文部科学白書』最新版（インターネットによる文科省ホームページを利用等のデータ
- ・教育実践記録（講義の最初に提示します）
- ・『中学校・高等学校学習指導要領』

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加度） 20%
 授業指導案 40%
 模擬授業 40%

【学生の意見等からの気づき】

現時点では特にありませんが、授業期間の途中でも、積極的な意見を歓迎します。

【学生が準備すべき機器他】

この授業では授業支援システムの利用を予定しています。

【その他の重要事項】

7月にオリエンテーションをおこないますので、必ず参加ください。

【授業中に求められる学習活動】

学生がつくる授業ですので授業への積極的な参加が要求されます。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire proper knowledge and skills needed for educational professionals. By the end of this course, students should complete their final report of teacher training course.

教職実践演習（中・高）

高橋 繁

配当年次／単位：4 年次／2 単位

開講時期：秋学期授業/Fall

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

将来教職を担うに相応しい知識、技能、姿勢の理解を深め、4年間の大学における教職課程履修の総仕上げをおこなう科目です。

【到達目標】

- ①学校現場における授業計画・実践力量（授業指導案の作成を含む）の深化
- ②専門教科領域における教育研究と教材作成力量の深化
- ③子ども理解及び学級・学校の実際理解
- ④教育職に向けた意欲と各自の目標の設定
- ⑤コミュニケーションと発表・プレゼンテーションの技能向上

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業は演習形式でおこない、グループ学習、次年度教育実習予定者との共同討論、模擬授業づくりのサポートを通じた経験報告やアドバイス、期末課題の発表会などによって構成されます。授業計画は授業の展開によって若干の変更があり得ます。課題に対する講評と解説は、授業の中で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	①本講義の概要説明。「履修カルテ」および「教職課程のふりかえり～自己評価と課題」レポートの提出の指示。
第 2 回	各自のふりかえり交流	②本演習の期末課題に関する説明。提出された「自己評価と課題」を素材に、これからの時代・社会における教職にはどのような力量・専門性が求められるのか、学生の報告と討論を行う。
第 3 回	次年度実習予定者へのプレゼンテーション	3年生に対して、教育実習への準備の在り方、指導案の書き方、実習授業の進め方などを伝え、応答をおこなう。
第 4 回	「これからの時代・社会の教職に求められる専門職性」をめぐるグループディスカッションのテーマの起案。	テーマ設定にあたっては、「教科教育・生徒指導・学校・学級運営」についてそれぞれ起案する。今日の教育労働がおかれている実態や法的仕組みなども踏まえつつ、その専門職性の高度化について考える。
第 5 回	グループディスカッション準備	ディスカッションに向けた準備。
第 6 回	グループディスカッション①	「教科教育」を通じた専門職性をめぐる討論
第 7 回	グループディスカッション②	「生徒指導・学校・学級運営」を通じた専門職性をめぐる討論
第 8 回	期末課題製作作業①	第 11 回の発表予定者は教員に対して中間報告をおこなう。
第 9 回	期末課題製作作業②	第 12 回発表予定者は中間報告
第 10 回	期末課題製作作業③	第 13 回発表予定者は中間報告
第 11 回	期末課題発表会①	期末課題の発表会。ここには次年度教育実習予定者はじめ、1,2,3 年生の教職課程履修学生にも参加を呼びかけ、その評価を受ける場合もある。
第 12 回	期末課題発表会②	前回到続き、期末課題の発表を行う。
第 13 回	期末課題発表会③	前回到続き、期末課題の発表を行う。あわせて、後期に教育実習を行った学生の報告も行う。
第 14 回	まとめ	これまでの授業をふりかえるとともに、課題を提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・7月にオリエンテーションを行いますので必ず参加下さい。
- ・期末課題の作成には、学外でのフィールドワークなど課外活動が必要になります。
- ・教育実習予定者を対象とした「教育実習事前指導」に数回参加して、模範授業の実施、後輩の模擬授業づくりへのサポートをおこないます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

- ・必要文献、資料などを適宜指定、紹介、あるいは配布します。

【成績評価の方法と基準】

①期末課題とその発表・報告に対する評価（50%）②演習への参加と積極的な役割の遂行や討論への参加状況（40%）③レポート課題（10%）を総合的に勘案して評価をおこないます。なお、最終的評価については、必要に応じて個別評価面接を実施する事があります。

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションなどを通して、目標がより深化するよう努めていきます。

【学生が準備すべき機器他】

この授業では学習支援システムの利用を予定しています。

【その他の重要事項】

特になし

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire proper knowledge and skills needed for educational professionals. By the end of this course, students should complete their final report of teacher training course.

教職実践演習（中・高）

小嶋 常喜

配当年次／単位：4 年次／2 単位

開講時期：秋学期授業/Fall

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、以下のいくつかの観点から、将来教職を担うに相応しい知識、技能、姿勢の理解を深め、4年間の大学における教職課程履修の総仕上げをおこなう科目です。

【到達目標】

- ①学校現場における授業計画・実践力量（授業指導案の作成を含む）の深化、
 - ②専門教科領域における教育研究と教材作成力量の深化、
 - ③子ども理解及び学級・学校の実際の理解、
 - ④教育職に向けた意欲と各自の目標の設定、
 - ⑤コミュニケーションと発表・プレゼンテーションの技能向上、
- の五点を学習の到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業は演習形式でおこない、グループ学習、次年度教育実習予定者との共同討論、模擬授業づくりのサポートを通じた経験報告やアドバイス、最終報告（プレゼンテーションや報告）の発表会などによって構成されます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	本講義の目標と性格について	本講義の性格、課題、到達すべき目標の確認。「履修カルテ」および「教職課程のふりかえり～自己評価と課題」レポート（1500 字程度）の提出（あるいはその指示）。 ②本「演習」の期末課題に関する説明。課題は「教育関係者のヒアリング報告・後輩に残す教科教材の作成・教職に関する研究レポート」から学生が選択し決定する。
2	①各自のふりかえり交流（1 回目） ②期末課題のテーマ登録	提出された「自己評価と課題」を素材に、これからの時代・社会における教職にはどのような力量・専門性が求められるのか、学生の報告と討論を行う。
3	各自のふりかえり交流（2 回目）	前回に引き続き、提出された「自己評価と課題」を素材に、これからの時代・社会における教職にはどのような力量・専門性が求められるのか、学生の報告と討論を行い、そのまとめを踏まえて、次年度教育実習予定者へのメッセージを作成する
4	次年度実習予定者へのプレゼンテーション	教育実習に向けて準備をしている 3 年生に対して、教育実習への準備の在り方、指導案の書き方、実習授業の進め方などを伝え、3 年生との応答をおこなう。（グループ分けによって多くの学生の報告を可能にする）
5	①「これからの時代・社会の教職に求められる専門職性」をめぐる講義ならびにグループディスカッションのテーマの起案 ② 期末課題の計画書提出	テーマ設定にあたっては、「教科教育・生徒指導・学校・学級運営」についてそれぞれ起案する。今日の教育労働がおかれている実態や法的仕組みなども踏まえつつ、その専門職性の高度化について考える。
6	グループディスカッション①	グループディスカッションに向けた準備作業。
7	グループディスカッション②	「教科教育」を通じた、これからの時代・社会の教職に求められる専門職性をめぐるシンポジウムもしくはディベート形式の討論
8	グループディスカッション③	「生徒指導・学校・学級運営」を通じた、これからの時代・社会の教職に求められる専門職性をめぐるシンポジウムもしくはディベート形式の討論
9	期末課題製作作業①	第 12 回の発表予定者は教員に対して中間報告をおこない、コメントを受ける。

10	期末課題製作作業②	第 13 回の発表予定者は教員に対して中間報告をおこない、コメントを受ける。
11	期末課題製作作業③	第 14 回の発表予定者は教員に対して中間報告をおこない、コメントを受ける。
12	期末課題発表会①	成させた期末課題の発表会をおこなう。ここには次年度教育実習予定者はじめ、1,2,3 年生の教職課程履修学生にも参加を呼びかけ、その評価を受ける場合もある。以下第 13 回、14 回も同様。
13	期末課題発表会②	期末課題発表会②
14	期末課題発表会③	期末課題発表会③

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

オリエンテーション時に提示した課題への取り組み
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のものは使用しない

【参考書】

必要に応じて提示する

【成績評価の方法と基準】

教職実践演習は通常の評価をおこないます。実習教科ですので、評価にあたっては、出席、授業への積極的参加・発言、課題の提出・実施・取り組みの水準などが厳しく問われます。評価の割合と基準は以下の通りです。

- (1) 教育実習後レポート（20%）：教育実習を基本的な振り返りができたか。
- (2) 授業内での発表・取り組み（40%）：自らの実習体験を 3 年生に有用な形で伝えることができたか。
- (3) 修了作品（40%）：教育実習の成果と課題をまとめることができたか。

【学生の意見等からの気づき】

模擬授業への相互の講評を今後も大事にしたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire proper knowledge and skills needed for educational professionals. By the end of this course, students should complete their final report of teacher training course.

教職実践演習（中・高）

本山 明

配当年次／単位：4 年次／2 単位

開講時期：秋学期授業/Fall

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、いくつかの観点から、将来教職を担うに相応しい知識、技能、姿勢の理解を深め、4年間の大学における教職課程履修の総仕上げをおこなう科目です。

【到達目標】

- ①学校現場における授業計画・実践力量（授業指導案の作成を含む）の深化
 - ②専門教科領域における教育研究と教材作成力量の深化
 - ③子ども理解及び学級・学校の実際の理解
 - ④教育職に向けた意欲と各自の目標の設定
 - ⑤コミュニケーションと発表・プレゼンテーションの技能向上
- の五点を学習の到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業は演習形式でおこない、グループ学習、次年度教育実習予定者との共同討論、模擬授業づくりのサポートを通じた経験報告やアドバイス、最終報告（プレゼンテーションや報告）の発表会などによって構成されます。授業内に行ったレポート等のなかでいくつかを取り上げ全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	①本講義の目標と性格について——本講義の性格、課題、到達すべき目標の確認②本「演習」の期末課題に関する説明	「履修カルテ」および「教職課程のふりかえり～自己評価と課題」レポート（1500 字程度）の提出（あるいはその指示）。課題は「教育関係者のヒアリング報告・後輩に残す教科教材の作成・教職に関する研究レポート」から学生が選択し決定する。
第2回	①各自のふりかえり交流（1回目）②期末課題のテーマ登録	提出された「自己評価と課題」を素材に、これからの時代・社会における教職にはどのような力量・専門性が求められるのか、学生の報告と討論を行う。
第3回	各自のふりかえり交流（2回目）	前回に引き続き、提出された「自己評価と課題」を素材に、これからの時代・社会における教職にはどのような力量・専門性が求められるのか、学生の報告と討論を行い、そのまとめを踏まえて、次年度教育実習予定者へのメッセージを作成する。
第4回	次年度実習予定者へのプレゼンテーション	教育実習に向けて準備をしている3年生に対して、教育実習への準備の在り方、指導案の書き方、実習授業の進め方などを伝え、3年生との応答をおこなう。（グループ分けによって多くの学生の報告を可能にする）
第5回	①「これからの時代・社会の教職に求められる専門職性」をめぐる講義ならびにグループディスカッションのテーマの起案。②期末課題の計画書提出	テーマ設定にあたっては、「教科教育・生徒指導・学校・学級運営」についてそれぞれ起案する。今日の教育労働がおかれている実態や法的仕組みなども踏まえつつ、その専門職性の高度化について考える。
第6回	グループディスカッションに向けた準備作業	準備作業。
第7回	グループディスカッション①	「教科教育」を通じた、これからの時代・社会の教職に求められる専門職性をめぐるシンポジウムもしくはディベート形式の討論。
第8回	グループディスカッション②	「生徒指導・学校・学級運営」を通じた、これからの時代・社会の教職に求められる専門職性をめぐるシンポジウムもしくはディベート形式の討論。
第9回	期末課題製作作業①	第12回の発表予定者は教員に対して中間報告をおこない、コメントを受ける。

第10回 期末課題製作作業②

第13回の発表予定者は教員に対して中間報告をおこない、コメントを受ける。

第11回 期末課題製作作業③

第14回の発表予定者は教員に対して中間報告をおこない、コメントを受ける。

第12回 期末課題発表会①

完成させた期末課題の発表会をおこなう。ここには次年度教育実習予定者はじめ、1,2,3年生の教職課程履修学生にも参加を呼びかけ、その評価を受ける場合もある。

第13回 期末課題発表会②

完成させた期末課題の発表会をおこなう。ここには次年度教育実習予定者はじめ、1,2,3年生の教職課程履修学生にも参加を呼びかけ、その評価を受ける場合もある。

第14回 期末課題発表会③
まとめ、期末課題の提出

完成させた期末課題の発表会をおこなう。ここには次年度教育実習予定者はじめ、1,2,3年生の教職課程履修学生にも参加を呼びかけ、その評価を受ける場合もある。
まとめと課題提出。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・7月にオリエンテーションをおこないますので、必ず参加ください。
- ・期末課題の作成には、学外でのフィールドワークなど課外活動が必要になります。
- ・次年度教育実習予定者のクラスに何度か参加して、後輩の支援・指導にあたります。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。毎回必要文献、資料など指定、あるいは配布します。

【参考書】

- ・『文部科学白書』最新版（インターネットによる文科省ホームページを利用）等のデータ
- ・教育実践記録（講義の最初に指示する）
- ・『中学校・高等学校学習指導要領』

【成績評価の方法と基準】

特に期末テストは行わない。期末課題の提出をもって、終了とする。①期末課題とその発表・報告に対する評価、②演習への参加と積極的な役割の遂行や討論への参加状況、を総合的に勘案して評価をおこないます。なお、最終的評価については、必要に応じて個別評価面接を実施する事があります。平常点50%、期末課題50%。

【学生の意見等からの気づき】

あり

【学生が準備すべき機器他】

あり

【その他の重要事項】

上記以外に別途、次年度教育実習予定者を対象とした「教育実習事前指導」に各自数回参加して、模範授業の実施、ないしは後輩の模擬授業づくりへの指導・サポートをおこなう。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire proper knowledge and skills needed for educational professionals. By the end of this course, students should complete their final report of teacher training course.

教育実習（事前指導）

御園生 純

配当年次／単位：3～4 年次／2 単位

開講時期：秋学期授業/Fall

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この科目は、次年度に教育実習に臨むための、関門・ハードルとしての役割を持ちます。従って、出席や課題提出などについて、非常に厳しい扱いをせざるをえません。よく認識してください。後期授業ですが、7月に第一回目の授業を行います。その時、夏期課題を提示します。7月授業の出席が第一関門です。必ず出席してください。

【到達目標】

次年度に行う教育実習のために、実習の重み・責任を強く認識し理解することが大切です。具体的には、グループワークによる模擬授業を行い、教育実習に欠かせない教材研究・教案作成の方法と実践力をつけ、教壇実習実施のための最低条件を学習・習得すること、さらに実施のためのチームワーク力を身につけることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

具体的には、模擬授業の準備・実施・検討を中心にして事前指導を行います。加えて、実習を経験した上級生から、授業（教案を含む）、生徒理解、その他、つまり教育実習全体の経験を学びます。

・課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション（7月実施）	必ず出席。グループ編成、夏期課題の提示・説明
2	授業案の講評	夏期課題の返却と講評
3	授業研究	4年生（教員）の模擬授業から学ぶ
4	生活指導研究	4年生（教員）の実習報告から学ぶ
5	模擬授業の準備	模擬授業準備のグループワーク
6	模擬授業1	担当グループの模擬授業
7	模擬授業2	担当グループの模擬授業
8	模擬授業3	担当グループの模擬授業
9	模擬授業4	担当グループの模擬授業
10	模擬授業5	担当グループの模擬授業
11	模擬授業6	担当グループの模擬授業
12	模擬授業のふりかえり	全員による検討・討議
13	交流学習	実習経験者・実習予定者の交流学習
14	事前指導のまとめ	振り返りレポートの作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・7月のオリエンテーション（初回授業）出席。夏期課題＝夏期休暇中に提出しますが、不十分な場合、再提出することになります。

・模擬授業はグループで取り組みますので、授業時間外のグループワークが必要です。

・教材研究や教案作成・資料作成など、模擬授業に関する準備と振り返りがあります。本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。

【参考書】

中学校・高等学校の各種教科書および指導関連の図書が図書館にありますので、積極的に利用してください。その他、参考図書についての詳細は、7月オリエンテーションで行います。

【成績評価の方法と基準】

教育実習事前指導は、○と×で評価を行います。×の評価を受けると、次年度の実習が行えません。実習教科ですので、評価にあたっては、出席と授業への積極的参加、課題の提出・実施・取り組みの水準などが厳しく問われます。春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにもない、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示します。

【学生の意見等からの気づき】

現時点で特にありませんが、授業期間中でも積極的な意見を歓迎します。

【学生が準備すべき機器他】

・模擬授業は、実施グループがビデオで撮影して自己点検を行えるようにしています。

・授業支援システムの利用を予定しています。

【その他の重要事項】

教職課程履修上の、この授業の特別な位置づけについて、3年次を対象とした4月冒頭のオリエンテーションでお話します。なお、7月に実施するオリエンテーション（初回授業）への出席が受講の条件となります。各学部掲示板で、日程確認を怠らぬようくれぐれも留意してください。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students prepare their teaching practice in secondary schools.

教育実習（事前指導）

高橋 繁

配当年次／単位：3～4 年次／2 単位

開講時期：秋学期授業/Fall

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この科目は、次年度に教育実習に臨むためのいわば関門、ハードルとしての役割をもつものです。従って、出席や課題提出などについて、大変厳しい扱いをせざるを得ませんので、あらかじめよく認識してください。また7月に初回授業としてオリエンテーションを実施し、夏休み課題を提示します。オリエンテーションへの参加が受講の条件になります。

【到達目標】

次年度の教育実習を前に、実習がもつさまざまな意味での重みや責任を認識・理解してもらうこと、より具体的にはグループワークによる模擬授業の実施を通じて、教育実践に必要なチームワーク、教材研究、授業案作成、教壇実習実施の最低条件を学習・修得することが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

具体的には、模擬授業の準備・実施・検討を中心にして事前指導をおこないますが、これに加えて、当該年度に実習を経験した上級生から、授業、生徒理解、特別活動など教育実習総体の経験を学びます。授業計画は授業の展開によって、若干の変更はあり得ます。課題に対する講評と解説は授業の中で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	グループ編成・夏休み提出課題の提示
第2回	学習指導案の書き方	夏休み提出課題の返却と講評。グループ研究。
第3回	授業研究	4年生による模擬授業と交流
第4回	生活指導研究	4年生による発表と交流
第5回	模擬授業1	第1グループによる模擬授業および批評会
第6回	模擬授業2	第2グループの模擬授業と批評会
第7回	模擬授業3	第3グループの模擬授業と批評会
第8回	模擬授業4	第4グループの模擬授業と批評会
第9回	模擬授業5	第5グループの模擬授業と批評会
第10回	模擬授業6	第6グループの模擬授業と批評会
第11回	模擬授業7	第7グループの模擬授業と批評会
第12回	模擬授業のふりかえり	模擬授業で学んだことをまとめる
第13回	現代の教育課題	実習経験者・実習予定者の交流学習 4年生の発表を聞く
第14回	まとめ	実習経験者・実習予定者の交流学習 教育実習までに準備しておくことをまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

7月に実施するオリエンテーション（初回授業）で提示する夏休み課題への取り組み

後期授業でおこなうグループ模擬授業の準備・反省

教育実習修了者（4年生）の学習発表への参加本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。

【参考書】

中学校・高等学校の各種教科書および指導関連の図書が図書館にありますので、積極的に利用してください。

必要文献、資料などを適宜紹介、あるいは配布します。

【成績評価の方法と基準】

教育実習事前指導は、○と×で評価をおこないます。×の評価を受けると、次年度の実習が行えません。実習教科ですので、評価にあたっては、出席と授業への積極的参加、課題の提出・実施・取り組みの水準などが厳しく問われます。

【学生の意見等からの気づき】

模擬授業のグループ分けや準備方法を工夫していきます。

【学生が準備すべき機器他】

模擬授業は、実施グループがビデオで撮影することを予定しています。

そのため、後期の冒頭、授業開始前にビデオ講習（撮影のみ）を受講してもらいます。

【その他の重要事項】

この授業では、学習支援システムの利用を予定しています。

【授業中に求められる学習活動】

・教職課程履修上この授業の特別な位置づけについて、3年次生対象の4月のオリエンテーションでお話します。

・7月に実施するオリエンテーション（初回授業）への出席が受講の条件となりますので、各学部掲示版で日程確認を怠らないよう留意してください

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students prepare their teaching practice in secondary schools.

教育実習（事前指導）

小嶋 常喜

配当年次／単位：3～4 年次／2 単位

開講時期：秋学期授業/Fall

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この科目は、次年度に教育実習に臨むためのいわば関門、ハードルとしての役割をもつものです。従って、出席や課題提出などについて、大変厳しい扱いをせざるを得ませんので、あらかじめよく認識してください。また7月に初回授業としてオリエンテーションを実施し、夏休み課題を提示します。オリエンテーションへの参加が受講の条件となります。

【到達目標】

次年度の教育実習を前に、実習がもつさまざまな意味での重みや責任を認識・理解してもらうこと、より具体的にはグループワークによる模擬授業の実施を通じて、教育実践に必要なチームワーク、教材研究、授業案作成、教壇実習実施の最低条件を学習・修得することが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

具体的には、模擬授業の準備・実施・検討を中心にして事前指導をおこないますが、これに加えて、当該年度に実習を経験した上級生から、授業、生徒理解、特別活動など教育実習総体の経験を学びます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	授業のオリエンテーション	ガイダンス
第2回	教育実習の実際と実習に向けての準備のあり方	教育実習の意味と目的について
第3回	授業の進め方や実習に向けての準備・心構えについて	中学・高校教員に求められる資質とは
第4回	実習ガイダンス 生活指導について	生活指導のあり方について
第5回	実習ガイダンス 2 教育実習全般の注意	実習期間中の過ごし方
第6回	実習ガイダンス 3 校務分掌	教職員のサービス 生徒指導
第7回	実習ガイダンス 4 学校運営全体における情報科担当教員の役割	左記のとおり
第8回	教科指導 授業の事前準備の方法	年間計画と単元計画
第9回	教科指導 学習指導案の作成	副教材の作成方法
第10回	教科指導 学習指導案に即して	発問・板書・まとめ・考査の方法
第11回	教科指導 模擬授業の実施と検討	授業を演出する意味について
第12回	担任指導	生活・進路指導
第13回	ホームルーム指導の実際	生徒指導の実際例を引いてその効果的な指導方法などをまなぶ
第14回	特別活動の指導	HR や行事の教育的な効果について理解する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。模擬授業についてはこれとは別に十分な準備時間が必要となります。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

「中学校学習指導要領」（社会）およびその「解説」
「高等学校学習指導要領」（地歴・公民）およびその「解説」

【成績評価の方法と基準】

教育実習事前指導は、不合格の評価を受けると次年度の実習が行えません。実習教科ですので、評価にあたっては、出席と授業への積極的参加、課題の提出・実施・取り組みの水準などが厳しく問われます。模擬授業の運営と、それにかかわる準備・授業計画の立案等を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実際に授業ができる。
様々な局面における適切な生徒指導ができる。

【学生が準備すべき機器他】

模擬授業の際に自分が必要な教材、機材

【その他の重要事項】

・教職課程履修上のこの授業の特別な位置づけについては、4月に実施される3年生対象のオリエンテーションでお話しますので必ず確認ください。
・7月に実施するオリエンテーション（初回授業）への出席が受講の条件となりますので、各学部掲示版で日程確認を怠らないよう留意ください。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students prepare their teaching practice in secondary schools.

教育実習（事前指導）

本山 明

配当年次／単位：3～4 年次／2 単位

開講時期：秋学期授業/Fall

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

次年度に教育実習を行うにあたり、これまで学んだ教職課程の集大成として、教員に求められる資質を身につけるとともに、授業の構成の方法・生徒指導のあり方などを、各自の模擬授業を通して実践的かつ総合的に学びます。

【到達目標】

次年度の教育実習を前に、実習がもつさまざまな意味での重みや責任を認識・理解してもらうこと、より具体的にはグループワークによる模擬授業の実施を通じて、教育実践に必要なチームワーク、教材研究、授業案作成、教壇実習実施の最低条件を学習・修得することが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

具体的には、模擬授業の準備・実施・検討を中心にして事前指導をおこないますが、これに加えて、当該年度に実習を経験した上級生から、授業、生徒理解、特別活動など教育実習総体の経験を学びます。授業内に行ったレポート等のなかでいくつかを取り上げ全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション（グループ編成・夏休み提出課題の提示）	授業の目的と方法や全体の概要、今後の予定を説明します。
2	夏休み提出課題の返却、講評	提出課題の特徴と注意点を説明します。
3	授業研究（4年生との交流授業）	授業の方法、展開の仕方、授業案の作成について説明します。
4	生活指導研究（4年生との交流授業）	生徒とのコミュニケーションの取り方について説明します。
5	模擬授業準備のグループワーク	グループごとに模擬授業の準備をします。
6	模擬授業とその評価①	グループごとに模擬授業を行い、全体で批評をします。
7	模擬授業とその評価②	グループごとに模擬授業を行い、全体で批評をします。
8	模擬授業とその評価③	グループごとに模擬授業を行い、全体で批評をします。
9	模擬授業とその評価④	グループごとに模擬授業を行い、全体で批評をします。
10	模擬授業とその評価⑤	グループごとに模擬授業を行い、全体で批評をします。
11	模擬授業とその評価⑥	グループごとに模擬授業を行い、全体で批評をします。
12	模擬授業とその評価⑦	グループごとに模擬授業を行い、全体で批評をします。
13	模擬授業のふりかえり ふりかえりレポートの作成	模擬授業全体を通して到達点と課題を確認します。
14	実習経験者・実習予定者の交流学習	教育実習の経験を経た4年生と意見交換を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・7月に実施するオリエンテーション（初回授業）で提示する夏休み課題への取り組み

・後期授業でおこなうグループ模擬授業の準備と反省

・教育実習修了者（4年生）の学習発表への参加本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。

【参考書】

オリエンテーション時に配布します。

【成績評価の方法と基準】

教育実習事前指導は、○と×で評価をおこないます。×の評価を受けると、次年度の実習が行えません。実習教科ですので、評価にあたっては、出席と授業への積極的参加、課題の提出・実施・取り組みの水準などが厳しく問われます。

【学生の意見等からの気づき】

全員が模擬授業を必ず行っておくことが大切です。

【学生が準備すべき機器他】

模擬授業は、実施グループがビデオで撮影することを予定しています。

【その他の重要事項】

・教職課程履修上のこの授業の特別な位置づけについては、4月に実施される3年生対象のオリエンテーションでお話しますので必ずご確認ください。

・7月に実施するオリエンテーション（初回授業）への出席が受講の条件となりますので、各学部掲示板で日程確認を怠らないよう留意ください。

・この授業では、授業支援システムの利用を予定しています。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students prepare their teaching practice in secondary schools.

教育実習（中・高）

永木 耕介

配当年次／単位：4 年次／4 単位

開講時期：年間授業/Yearly

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

実際の中学校・高等学校に赴き、教育実習生として 2 週間ないし 3 週間にわたり、授業、学級運営、課外活動指導などにあたる。

【到達目標】

教育の現場たる中学校・高等学校における教師の多様な教育実践・実務（教師の仕事）を体験することを通して、「教育」の重要性・困難性、人間性（生徒）と接し、未来の教師としての基礎的力量を育成するとともに、その責任と自覚を確立することを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

教育実習は、教員免許取得に必要な全教育課程の総仕上げとして位置づけられている。具体的には、①教育実習に向けての事前指導（現職教師の特別講義を含む）、②中学校・高等学校での実習、③実習後の反省と総括（次年度実習予定者への助言も含む）を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
実習前①	事前指導	第 3 年次（教育実習前年度）に各免許教科別に分かれて授業を行う。事前指導は、模擬授業を中心に、教職に関する実践的な知識と力量の基礎を身につけることを目的とする。
実習前②	教育実習特別講義	教育実習を直前に控えた学生を対象とした講義、教育実習指導教員からの教科指導・生活指導に関するアドバイス・諸注意などの指導を行う。
実習中①	教育実習校でのオリエンテーション	実習校の概要や特色、指導方針等の確認、指導教員との打ち合わせ等
実習中②	教育実習（3 週間）	・現職の先生の授業を見学 ・学習指導案の作成 ・授業実習 ・研究授業（実習生が行う教育実習の総仕上げの授業実践） ・研究授業の反省会（研究授業後、実習校の先生から指導を受ける。）
実習後	事後指導	事後指導は、教育実習の体験を総括し、共有することで、今後教壇に立つための更なる課題を自覚することを目的とする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

担当する授業の授業案の作成など本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

各プロセスで指示する。

【参考書】

必要に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】

実習校の採点を主とし、実習日誌の評価、実習後にまとめる実習レポートの採点および事後指導の結果を加味して、総合的に出される。なお、評価は、この両者を総合評価するが、それぞれに一定の基準を満たさなければ、教育実習の単位は修得できない。

【学生の意見等からの気づき】

該当しない

【Outline and objectives】

This course is teaching practice in secondary schools for 2 or 3 weeks. Students will work on teaching, class management and extra curricular activities as trainees.

教育実習（高）

永木 耕介

配当年次／単位：4 年次／4 単位

開講時期：年間授業/Yearly

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

実際の高等学校に赴き、教育実習生として 2 週間ないし 3 週間にわたり、授業、学級運営、課外活動指導などにあたる。

【到達目標】

教育の現場たる中学校・高等学校における教師の多様な教育実践・実務（教師の仕事）を体験することを通して、「教育」の重要性・困難性、人間性（生徒）と接し、未来の教師としての基礎的力量を育成するとともに、その責任と自覚を確立することを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

教育実習は、教員免許取得に必要な全教育課程の総仕上げとして位置づけられている。具体的には、①教育実習に向けての事前指導（現職教師の特別講義を含む）、②中学校・高等学校での実習、③実習後の反省と総括（次年度実習予定者への助言も含む）を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
実習前①	事前指導	第 3 年次（教育実習前年度）に各免許教科別に分かれて授業を行う。事前指導は、模擬授業を中心に、教職に関する実践的な知識と力量の基礎を身につけることを目的とする。
実習前②	教育実習特別講義	教育実習を直前に控えた学生を対象とした講義、教育実習指導教員からの教科指導・生活指導に関するアドバイス・諸注意などの指導を行う。
実習中①	教育実習校でのオリエンテーション	実習校の概要や特色、指導方針等の確認、指導教員との打ち合わせ等
実習中②	教育実習（2 週間）	・現職の先生の授業を見学 ・学習指導案の作成 ・授業実習 ・研究授業（実習生が行う教育実習の総仕上げの授業実践） ・研究授業の反省会（研究授業後、実習校の先生から指導を受ける。）
実習後	事後指導	事後指導は、教育実習の体験を総括し、共有することで、今後教壇に立つための更なる課題を自覚することを目的とする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

担当する授業の授業案の作成など本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

各プロセスで指示する。

【参考書】

必要に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】

実習校の採点を主とし、実習日誌の評価、実習後にまとめる実習レポートの採点および事後指導の結果を加味して、総合的に出される。なお、評価は、この両者を総合評価するが、それぞれに一定の基準を満たさなければ、教育実習の単位は修得できない。

【学生の意見等からの気づき】

該当しない

【Outline and objectives】

This course is teaching practice in secondary schools for 2 or 3 weeks. Students will work on teaching, class management and extra curricular activities as trainees.

社会教育経営論

荒井 容子

配当年次／単位：2～4 年次／4 単位

開講時期：年間授業/Yearly

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域社会での、おとなから子どもまで、人々の学びの多様な実態を理解し、それを支える社会教育について、社会教育施設、民間の社会教育事業・活動等の現状を理解し、施設経営、事業展開について、その成果を評価し、課題を析出するための理念と手法を知ることを目指す。

【到達目標】

地域社会で人々の学びを支える多様な取り組みの意義を、人々の学びに対する地域社会の諸機関・諸団体からの期待とも関連させながら、地方自治体の社会教育行政施策のあり方も含め、全体としてとらえることができる力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

通常は、資料等をもとに説明したあと討議を行いながら講義を進める。春学期の学習成果をもとに、各自で特定自治体を選び、当該地域での社会教育施設・施策、住民の学習運動に関する調査を実施してもらい、その成果を中間レポートとして、秋学期はじめに提出してもらい、秋学期第2回講義では、この中間レポートを受講生全体で検討する。講義最終回には秋学期の学習成果を踏まえて中間レポートを改定した最終レポート提出し報告してもらい、全体で検討しあう。この中間レポート、最終レポートの講義中の検討における教員から質問・コメントが、受講生の学習成果提出に対するフィードバックにあたる。全学行動制限レベル「0」になるまではオンラインによるバーチャル教室と実際の教室での講義を併用して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	学びの多様性	社会教育経営の前提となる、人間にとっての「学び」の意味について解説する。
2	社会教育経営の前提となる、人間にとっての「学び」の意味について解説する。	人々にとっての地域社会の多様な意味について解説する。
3	日常生活と地域社会	人々の日常生活と地域社会の関係の多様性について解説する
4	地域社会での人々の学びの全体像	地域社会での人々の学びの多様性について解説する。
5	人々の学びに関する統計調査	地域社会での人々の学びに関する既存の統計調査をもとにその価値と限界について解説する。
6	人々の学びに関する事例調査	地域社会での人々の学びに関する既存の事例調査をもとにその価値と限界について解説する。
7	人々の学びに関する歴史的把握	地域社会での人々の学びを歴史調査から把握することの価値と限界について解説する
8	人々の学びの支援	人々の学びを支援するとはどういうことか、教育論から解説する。
9	学びを支援する多様な形態	地域社会での人々の学びを支援する担い手・内容の多様性について解説する。
10	教育機関を通じた施設提供	社会教育施設・学校による施設提供について、その実際と成果を評価する方法について解説する。
11	教育施設以外の施設提供	教育施設以外の施設の提供について、その実際と成果を評価する方法について解説する。
12	学習者が施設提供の担い手になる意義	学習者としての地域住民が施設の提供者になることについて、その実際と成果を評価する方法について解説する。
13	地域住民からの期待に応える学習プログラム等	学習者としての地域住民からの期待に応える学習プログラム等の実際とその成果を評価する方法について解説する。
14	地域の諸機関・諸組織から求められる学習プログラム等	地域の学校等諸機関や諸組織からの期待に応える学習プログラム等の実際とその成果を評価する方法について解説する。

秋学期

回	テーマ	内容
1	地域住民自身が学習プログラム等の企画者になる意義	学習者としての地域住民が事業企画の担い手となることの実際とその成果を評価する方法
2	地域社会での人々の学びの支援の実際	受講生による実態調査報告（春学期の学習成果を踏まえた調査報告）
3	社会教育に関わる法制度	地域社会における社会教育に関わる法制度の歴史と現状について解説する
4	社会教育施設等の歴史と現状	地域社会における社会教育施設整備の歴史と現状について解説する。
5	民間諸団体による社会教育活動の歴史と現状	民間諸団体による社会教育活動の歴史と現状について解説する。
6	施設運営・事業展開のための費用	社会教育活動のための予算獲得・資金調達等の歴史と課題、方法について解説する。
7	施設運営・事業展開のための情報収集・広報	社会教育施設経営・社会教育事業展開のための情報収集・広報に関する歴史と課題、方法について解説する。
8	諸機関・諸組織の連携	社会教育機関・学校・民間組織との連携の全体像と歴史について解説する。
9	学校との連携	社会教育機関と学校との連携の歴史と現状、課題について解説する。
10	民間諸組織との連携	民間諸組織との連携
11	職員体制のあり方	施設運営・事業展開を担う職員体制のあり方について解説する。
12	職員体制整備の方法	施設運営・事業展開のための有給職員確保の課題と方法について解説する。
13	地域社会で人々の学びを支える「仕組み」の課題	自治体職員、民間諸団体被雇用職員、民間諸団体運営者、民間企業経営者、地域団体組織リーダー、学習する地域住民等、多様な立場から、課題の全体像をつかむために受講生全体で討議し、それをふまえて解説する。
14	地域社会で人々の学びを支える「仕組み」の継続と改革	各自がまとめた実態調査結果に基づいて、改めて地域社会での人々の学びを支える仕組みのあり方として再評価し、課題を提示し合い、受講生間で討議する。その討議と関連させて、社会教育経営の課題について解説する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃から身近な社会教育施設やさまざまな学習活動、社会教育事業に興味をもち、自主的に参加して体験を積んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

講義時に、適宜、講義内容に合わせた資料を提示する。

【参考書】

社会教育全国協議会編『社会教育・生涯学習ハンドブック』エイデル研究所（第7版）2005年、（第8版）2011年、（第9版）2017年。

【成績評価の方法と基準】

春学期のまとめとして課すレポートを35%程度、講義内でのその報告を10%程度、秋学期のまとめとして課すレポートを35%程度、講義内でのその報告を10%程度、また毎回の講義での討議等への貢献度を10%程度で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

受講生が10名に満たないためアンケートは行っていない。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムによる「お知らせ」のeメールが確実に自分に届くようにしておくこと。

【Outline and objectives】

In this course we grasp the variety of peoples' learning in their community lives from children to adults, and also understand the role of social education to support their learning activities through its facilities and practices both by public sectors and by private ones. Through this process we get the idea and methods to evaluate both the facility management and the practices of social education and found out their challenges.

社会教育総合演習（実習を含む）

江頭 晃子

配当年次／単位：2～4 年次／4 単位

開講時期：年間授業/Yearly

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会教育という学びの場を体験的に学びながら、自分の課題に向き合い、学びの受容者から、学びをつくり出す主体となる視点を持てるようになる。

【到達目標】

学びの場・交流の場などを自ら作り出す（講座企画、地域調査、フィールドワーク、居住地域での社会教育施設等での実習体験などの実施）。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義と演習・実習を行う。受講生自身の興味関心や在住地域により、実習先や方法は検討する。受講生の状況に応じて授業内容に若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	自己紹介と状況交換
2	教育とは	教育とは何か。 各自にとっての教育。
3	教育の3つの形	学校教育・社会教育・家庭教育
4	私の教育史	私の教育史を書いてみる
5	社会教育とは	社会教育とは何か
6	社会教育施設調査	自分の居住自治体の社会教育リソース調査
7	コロナ禍における教育のありかた	自治体による違い
8	市民組織	市民組織の役割
9	地域の市民組織	自分の居住地域における市民組織を調べてみる
10	コロナ禍における市民組織	現在でも動いている市民組織はあるか
11	私の課題と社会教育 1	自分にとっての課題を探り学習課題化する
12	私の課題と社会教育 2	自分にとっての課題を探り学習課題化する
13	私の課題と社会教育 3	自分にとっての課題を探り学習課題化する
14	夏休みの課題設定	自分にとっての課題を探り学習課題化する

秋学期

回	テーマ	内容
15	夏休みにおける課題研究の検討	各自の課題にあわせて夏休みの計画を練る
16	レポート報告 (1)	夏休みの課題研究の発表
17	レポート報告 (2)	夏休みの課題研究の発表
18	社会教育施設見学 (3)	各自の課題にあわせて講座に参加
19	学習課題を講座・学習会として企画する①	目的、対象の検討
20	学習課題を講座・学習会として企画する②	内容の検討
21	学習課題を講座・学習会として企画する③	講師や場所の検討
22	講座・学習会の最終企画	話し合い
23	講座・学習会の講師打ち合わせ	実践
24	講座・学習会の最終検討、役割分担	実践
25	講座・学習会実施①	実践
26	講座・学習会実施②	実践
27	講座・学習会等の反省会	話し合い
28	講座・学習会等の記録作成分担・相互評価	演習の反省と感想

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

社会教育施設（公民館など）の調査・見学、講座参加、地域の情報収集、企画書作成、記録作成等。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料配布。参考文献は授業内で提示。

【参考書】

授業内で提示。

【成績評価の方法と基準】

授業や演習への積極的参加 (70%)、レポート等提出物 (30%) を総合的に評価。

【学生の意見等からの気づき】

社会教育主事資格のためだけでなく、学校教育から卒業した後、貴重な学びの場となる社会教育をいかに自分自身に役立てるようにするか、という視点も大切にしているため、参加学生の興味関心に沿って授業を組み立てています。

【学生が準備すべき機器他】

授業がオンラインになった場合はパソコン（カメラオン）で授業を受けられる環境が望ましい。

【Outline and objectives】

We learn about social education in Japan. Ane you get a method of the learning to solve social problems as a social member.

生涯学習支援論

栗山 究

配当年次／単位：2～4 年次／4 単位

開講時期：年間授業/Yearly

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たちは一人ひとりが自分自身の人生を主体的に生きるために、いつでもどこでも自らの実生活に即して相互に学びあう営みを続けています。

授業ではそうした生涯学習の基本的な特徴を探り、誰もが生きやすい社会をつくらうとしている地域住民の学びあいの実践と関連づけながら、地域の学習活動を支える人びとの基盤となる理論や実践に関する知識や技法を習得し、住民の学びあいを支える人たちの役割を考察します。

【到達目標】

(1) 私たちが地域で学んでいることの意味を捉えられるようになり、その概要を説明できるようになります。

(2) (1) で捉えられた学習者相互の学びあいを支援する人たちの役割を理解し、そこでのより良い学びあいを促す条件整備のあり方や技法を主体的に考えられるようになります。

(2) で理解した考えを、これからの多様な実践の場面で活かしていけるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義と演習（グループワーク・ディスカッションなど）を組み合わせて進めていきます。春学期の初頭から演習形式の展開（相互学習）が中心となりますので、自分なりに学習した内容をふりかえり、その内容を探究していくとする姿勢や行動は積極的に応援していきます。

少人数の受講者で構成される社会教育主事・社会教育士資格課程科目であるという例年の特徴を活かし、授業内での相互学習を踏まえ、可能な限り実際の社会教育施設等を訪問し、住民・社会教育職員とともに学習を深めていく機会等を留意したいと考えています。従って、下記の「授業計画」は、受講者人数・受講者相互の問題意識や興味関心の程度および現場の条件に応じて柔軟に変更していく可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	社会教育職員のおかれる現在を確認し、昨年までの事例を参考に授業の進め方を話し合います
2	生涯学習・社会教育とは	受講者各位の教育経験をふりかえり、本講義で使用する専門用語の内容を確認します
3	学習論の基礎① 成人の学習	ノールズのアンドラゴジー概念から成人の学習を支える考え方を考察します
4	学習論の基礎② 相互学習	受講者相互の話しあいの意味を考え、この授業での取り組みを検討します
5	生涯学習支援の事例に学ぶ① 例：NPO・民間事業者での講座	受講者各位の関心に即して文献・実践記録などを輪読・検討します
6	生涯学習支援の事例に学ぶ② 例：公民館での講座	受講者各位の関心に即して文献・実践記録などを輪読・検討します
7	生涯学習支援の事例に学ぶ③ 例：博物館での講座	受講者各位の関心に即して文献・実践記録などを輪読・検討します
8	生涯学習支援の事例に学ぶ④ 例：若者・青年の学び	受講者各位の関心に即して文献・実践記録などを輪読・検討します
9	生涯学習支援の事例に学ぶ⑤ 例：子育て世代の学び	受講者各位の関心に即して文献・実践記録などを輪読・検討します
10	生涯学習支援の事例に学ぶ⑥ 例：高齢者の学び	受講者各位の関心に即して文献・実践記録などを輪読・検討します
11	生涯学習支援の事例に学ぶ⑦ 例：障害のある人たちとともにある学び	受講者各位の関心に即して文献・実践記録などを輪読・検討します
12	生涯学習支援の事例に学ぶ⑧ 例：在住外国人とともにある学び	受講者各位の関心に即して文献・実践記録などを輪読・検討します
13	生涯学習支援の事例に学ぶ⑨ 例：ジェンダーに関する学び	受講者各位の関心に即して文献・実践記録などを輪読・検討します

14 中間のまとめ これまでの学習を踏まえて各自の夏休みの課題を考えます

秋学期

回	テーマ	内容
15	実際の学習講座の参画体験① 事例のもちより	実際に参加・体験してきた生涯学習支援の現場を報告しあいます
16	実際の学習講座の参画体験② 内容の検討	生涯学習支援の現場で行われていた学習支援の方法を検討しあいます
17	実際の学習講座の参画体験③ 課題の抽出	生涯学習支援の現場で行われていた学習支援上の課題を検討しあいます
18	社会教育職員の役割	学習者の学びに寄り添う公務労働者の役割を検討します
19	学習支援者の力量形成	学習支援者はどのような役割を果たしているかを考えます
20	社会教育事業の実践事例分析①	地域社会における住民の学びの諸相を検討し、事業計画を展望します
21	社会教育事業の実践事例分析②	NPO、社会教育関係団体との協働のあり方を考えます
22	社会教育事業の実践事例分析③	講座に参画する学習者の学習課題を検討します
23	社会教育事業の実践事例分析④	学習者主体の学びの条件整備のあり方を考え、その展開方法を検討します
24	社会教育事業の実践事例分析⑤	学習支援者が提供する／した学習素材を検討します
25	社会教育事業の実践事例分析⑥	学習者の学びあいと地域社会での実践の関わりを考えます
26	社会教育事業の実践事例分析⑦	企画運営会議での学びあいと成立した講座との関係を考えます
27	社会教育事業の実践事例分析⑧	講座を踏まえた新たな学習課題と地域社会での実践の展開を考えます
28	全体のまとめ	この授業での学習をどう生かしていくかを考えます

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

春学期は、受講者各位の関心に即して、教員が指定する文献・実践記録などを輪読し、検討する予定です。

秋学期は、持続可能な地域社会づくりに関する現代的課題の学習を取り扱った実際の社会教育事業の実践記録「3.11 以後の社会とエネルギー問題」を事前に配布する予定です。

それぞれ、授業当日までに読んできて、自身の考えを整理してきてください。なお、春学期の学習は、受講者各位の関心に即して、通年を通じた学習として展開していく場合もあります。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

各回テーマに応じて適宜、授業内で指示するほか、担当教員がレジメを作成して配布します。

【参考書】

必要に応じて、各回の授業内で提示します。

【成績評価の方法と基準】

授業（学外授業を含む）への積極的な参加（40％）と、夏休みと学年末のレポート課題（各 30％）から総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

初回の授業で通年授業の大まかな進め方・授業運営方針をガイダンスします。社会教育固有の方法論ともいわれる相互学習を意識しながら授業は展開しますので、受講を希望される学生は、必ず出席するようにしてください。なお、相互学習のもつ意味は、授業内で学習していきます。

【その他の重要事項】

本科目は、社会教育主事の任用資格ならびに社会教育士資格を取得するための文部科学省令で定められる「社会教育に関する科目」群の必修専門科目の一つに位置づきます。

本授業では、公立の社会教育施設で教育事業を担当した実務経験に基づき、そこでの教育活動の実践について解説する機会を適宜、設けていきます。

【Outline and objectives】

In this class, we will learn fundamental features in Adult Learning and understand that various learning is being created among our lives living in contemporary society while associating with ourselves or Community education practice in each region.

Therefore, we will consider the following two aspects according to specific cases. The first is the role and subject of Adult and Community education to confront the various issues of contemporary society. The second is the role and meaning of Adult and Community education officer or Learning facilitator who are supporting residents' interactive learning.

視聴覚教育 I

原田 雅子

配当年次／単位：2～4 年次／2 単位

開講時期：秋学期授業/Fall

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博物館は多様な視聴覚教材（実物、データなど）を用いて教育を行う場である。現在博物館が扱うアナログ／デジタル情報についてデータの利活用も含めて俯瞰し、博物館で実施されている視聴覚教育法の概要と特徴を知る。また一部を体験することで、博物館での教育手法やその意義について学び、博物館または学校などの教育現場で生かせる知識を習得する。

【到達目標】

博物館で行われている視聴覚教育のありかたや様々な手法について知り、考えることで、適切な場面で必要な手法を行えるようになる。また、博物館資料データの取り扱い・利活用の方法、著作権法などのメディアリテラシーの基礎を知ること、教育現場におけるデータの取り扱いを知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義と参加者によるディスカッションを行う。また、可能な場合は、校外実習として博物館で行われる教育手法を体験する。受講人数や講義の進行具合等により、授業計画は変更される可能性がある。課題（レポートや試験）に関しては、提出当日あるいは次回の授業においてフィードバックを行う。授業中のフィードバックが困難な場合は、メールによって行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	講義：博物館の機能	イントロダクション：博物館の役割と種類を俯瞰し、それぞれの役割と種類における情報媒体の在り方を知る。
2	講義：博物館と視聴覚教育の歴史	近現代の博物館教育の歴史を振り返り、その中で視聴覚教育がどのように発展してきたかをたどる。
3	講義：博物館での情報の記録	博物館は情報を集積する場所であるが、そこでどのように情報が収集、保存され、また、記録・管理されるのかを知る。
4	講義：博物館の収蔵品・展示物と情報デジタル化（1）	博物館では現在は多くの収蔵品の情報をデジタル化しているが、それによるメリット・課題を、実際に博物館がポータルサイト等を通じて公開しているデータを通じて考える。
5	講義：博物館の収蔵品・展示物と情報デジタル化（2）	デジタル化された博物館情報の中でも、とくに 3D 情報や位置情報など、21 世紀になって新たに注目されているデータの収集・活用をとりあげる。
6	講義：博物館の視聴覚教材	実際に博物館でどんなものが視聴覚教材として使われているかを考え、分類し、その分類の特徴に基づいてそれぞれの教材としての意義を考察する。
7	講義：博物館と様々な立場の人々の視聴覚教育	博物館はそもそも生涯学習の場として学齢期のみならずあらゆる世代・立場（病気や障がい、貧困の有無など）の人々の教育を目的としている。それらの事例にスポットを当て、博物館がしている教育、できる教育を考える。また、点字を打つ実演を行うことで、視覚偏重になりがちな博物館の在り方について考える。
8	講義：博物館と知的財産・メディアリテラシー	博物館での情報の発信の際にとくに重要になる著作権などの関連法規の基礎知識を学ぶ。
9	講義：博物館の展示物とブログを使った意見交換学習プログラムの体験（1）	（可能な場合は博物館を訪れ、）教員が用意したブログに投稿する形の学習プログラムを実施する。鑑賞教育の一つ、Visual Thinking Strategy についても紹介する。
10	演習：博物館の展示物とブログを使った意見交換学習プログラムの体験（2）	前回博物館で実施した学習プログラムの作品についてディスカッションを行い、その意義を考察する。また、学習プログラムそのものの改善点についても考察を行う。

11	講義：情報でつながる博物館	実際に博物館で行われた研究の中で、インターネットやテレビなどの媒体が効果的に使用された例や、ゲームやクラウドファンディングなど、新しい媒体を通じて博物館が基盤を強めていく取り組みを紹介する。
12	講義：自分の行いたい視聴覚教育を企画してみよう	博物館教育における未来予測に関する資料を紹介し、これまでの内容を踏まえて、自分が実施したい視聴覚教育プログラムについて考え、企画書や指導案を作ってみる。
13	講義：これからの視聴覚教育を考える	前回作成した企画書・指導案の内容の共有を行い、これまでの講義を振り返る。博物館における視聴覚教育とは何かを考える。
14	まとめ	テストを行うことで、全体の理解度を確認する。また、その内容について解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

時間を見つけて博物館の web サイトを見たり、博物館展示を見学したりすることで、講義の内容が理解しやすくなります。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

博物館情報・メディア論（放送大学教育振興会）

【成績評価の方法と基準】

①授業への積極的な参加態度（出席等）（30 点満点）、②講義期間中の提出課題（30 点満点）、③講義最終回に実施するテスト（40 点満点）による。合計 100 点満点として 60 点以上が合格。ただし、①～③のうち 1 つでも 0 点のものがあれば不合格。

【学生の意見等からの気づき】

受講者が毎年 10 名未満のため、アンケートは実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

授業は基本的にオンラインで行う。Microsoft Office などのオフィスツール搭載のパソコン推奨。

【Outline and objectives】

The goals of this course are to

- (1) Understand the meaning and utilization of information at museums.
- (2) Obtain basic skills about utilization of various media at museum education.

視聴覚教育 I

原田 雅子

配当年次／単位：2～4 年次／2 単位

開講時期：秋学期授業/Fall

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博物館は多様な視聴覚教材（実物、データなど）を用いて教育を行う場である。現在博物館が扱うアナログ／デジタル情報についてデータの利活用も含めて俯瞰し、博物館で実施されている視聴覚教育法の概要と特徴を知る。また一部を体験することで、博物館での教育手法やその意義について学び、博物館または学校などの教育現場で生かせる知識を習得する。

【到達目標】

博物館で行われている視聴覚教育のありかたや様々な手法について知り、考えることで、適切な場面で必要な手法を行えるようになる。また、博物館資料データの取り扱い・利活用の方法、著作権法などのメディアリテラシーの基礎を知ること、教育現場におけるデータの取り扱いを知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義と参加者によるディスカッションを行う。また、可能な場合は、校外実習として博物館で行われる教育手法を体験する。受講人数や講義の進行具合等により、授業計画は変更される可能性がある。課題（レポートや試験）に関しては、提出当日あるいは次回の授業においてフィードバックを行う。授業中のフィードバックが困難な場合は、メールによって行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	講義：博物館の機能	イントロダクション：博物館の役割と種類を俯瞰し、それぞれの役割と種類における情報媒体の在り方を知る。
2	講義：博物館と視聴覚教育の歴史	近現代の博物館教育の歴史を振り返り、その中で視聴覚教育がどのように発展してきたかをたどる。
3	講義：博物館での情報の記録	博物館は情報を集積する場所であるが、そこでどのように情報が収集、保存され、また、記録・管理されるのかを知る。
4	講義：博物館の収藏品・展示物と情報デジタル化（1）	博物館では現在は多くの収藏品の情報をデジタル化しているが、それによるメリット・課題を、実際に博物館がポータルサイト等を通じて公開しているデータを通じて考える。
5	講義：博物館の収藏品・展示物と情報デジタル化（2）	デジタル化された博物館情報の中でも、とくに 3D 情報や位置情報など、21 世紀になって新たに注目されているデータの収集・活用をとりあげる。
6	講義：博物館の視聴覚教材	実際に博物館でどんなものが視聴覚教材として使われているかを考え、分類し、その分類の特徴に基づいてそれぞれの教材としての意義を考察する。
7	講義：博物館と様々な立場の人々の視聴覚教育	博物館はそもそも生涯学習の場として学齢期のみならずあらゆる世代・立場（病気や障がい、貧困の有無など）の人々の教育を目的としている。それらの事例にスポットを当て、博物館がしている教育、できる教育を考える。また、点字を打つ実演を行うことで、視覚偏重になりがちな博物館の在り方について考える。
8	講義：博物館と知的財産・メディアリテラシー	博物館での情報の発信の際にとくに重要になる著作権などの関連法規の基礎知識を学ぶ。
9	講義：博物館の展示物とブログを使った意見交換学習プログラムの体験（1）	（可能な場合は博物館を訪れ、）教員が用意したブログに投稿する形の学習プログラムを実施する。鑑賞教育の一つ、Visual Thinking Strategy についても紹介する。
10	演習：博物館の展示物とブログを使った意見交換学習プログラムの体験（2）	前回博物館で実施した学習プログラムの作品についてディスカッションを行い、その意義を考察する。また、学習プログラムそのものの改善点についても考察を行う。

11	講義：情報でつながる博物館	実際に博物館で行われた研究の中で、インターネットやテレビなどの媒体が効果的に使用された例や、ゲームやクラウドファンディングなど、新しい媒体を通じて博物館が基盤を強めていく取り組みを紹介する。
12	講義：自分の行いたい視聴覚教育を企画してみよう	博物館教育における未来予測に関する資料を紹介し、これまでの内容を踏まえて、自分が実施したい視聴覚教育プログラムについて考え、企画書や指導案を作ってみる。
13	講義：これからの視聴覚教育を考える	前回作成した企画書・指導案の内容の共有を行い、これまでの講義を振り返る。博物館における視聴覚教育とは何かを考える。
14	まとめ	テストを行うことで、全体の理解度を確認する。また、その内容について解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

時間を見つけて博物館の web サイトを見たり、博物館展示を見学したりすることで、講義の内容が理解しやすくなります。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

博物館情報・メディア論（放送大学教育振興会）

【成績評価の方法と基準】

①授業への積極的な参加態度（出席等）（30 点満点）、②講義期間中の提出課題（30 点満点）、③講義最終回に実施するテスト（40 点満点）による。合計 100 点満点として 60 点以上が合格。ただし、①～③のうち 1 つでも 0 点のものがあれば不合格。

【学生の意見等からの気づき】

受講者が毎年 10 名未満のため、アンケートは実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

授業は基本的にオンラインで行う。Microsoft Office などのオフィスツール搭載のパソコン推奨。

【Outline and objectives】

The goals of this course are to

- (1) Understand the meaning and utilization of information at museums.
- (2) Obtain basic skills about utilization of various media at museum education.

視聴覚教育Ⅱ

原田 雅子

配当年次／単位：2～4 年次／2 単位

開講時期：秋学期授業/Fall

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博物館における情報提供のコンテンツの制作実習を通じ、多様な来館者に向けた情報発信のために、対象と学習目的を設定し、適切な情報の選択を行い、提供する情報を整理して発信できるようになることを目的とする。

【到達目標】

博物館において扱う情報の意義及び活用方法を理解する。
教育に関わる視聴覚メディアについて、実際にコンテンツを作成しての中でその特性を理解し、情報発信において活用する能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

博物館における情報提供のコンテンツ作成実習を通じ、多様な来館者に向け、対象と学習目的を設定し、適切な情報の選択を行い、情報発信することを学ぶ。受講人数やコンテンツ作成の進具合等により、授業計画は変更される可能性がある。

課題（レポートや試験）に関しては、提出当日あるいは次回の授業においてフィードバックを行う。授業中のフィードバックが困難な場合は、メールによって行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	博物館展示における情報発信	多様な学びのニーズに合わせた情報の提供について学ぶ。
2	情報発信の事例紹介	携帯情報端末の導入事例を元に、効果的な利用法を考える。
3	情報発信の対象設定	情報を伝える対象と目標の設定について学ぶ。
4	ソフト実習	コンテンツを制作するソフトウェアの使い方を学ぶ。 ソフトウェアは受講者の状況等に応じて使用するものを変更する場合がある。
5	情報デザイン（1）	制作するコンテンツの全体構成および用いるメディアについて検討する。
6	情報デザイン（2）	制作するコンテンツの全体構成および用いるメディアについて検討する。
7	コンテンツ作成（1）	情報を伝えるために必要な素材を集める。
8	コンテンツ作成（2）	これまでに集めた素材を編集する。
9	博物館コンテンツの体験	（可能な場合は、）実際に博物館を訪れ、博物館のコンテンツ利用を体験する。
10	コンテンツ作成（3）	中間発表と、相互評価を行う。
11	コンテンツ作成（5）	評価をもとに修正点を整理し、コンテンツの更新を行う。
12	完成したコンテンツの講評	全体の構成をチェックし、完成したコンテンツの発表と相互評価を行う。
13	コンテンツの改善	作成したコンテンツの課題の抽出と改善を行う。
14	理想の博物館コンテンツを考える	博物館が行うべき情報発信の姿について議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博物館における情報発信の演習を行うので、時間を見つけて博物館の web サイトを見たり、博物館展示を見学したりすることをすすめます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特ありません。必要に応じて資料を配付します。

【参考書】

博物館情報・メディア論（放送大学教育振興会）

【成績評価の方法と基準】

①講義の中で作成したコンテンツおよびレポート（70 点満点）、②講義への積極的な参加態度（出席等）（30 点満点）を考慮して判断します。60 点以上で合格としますが、①②いずれか 0 点の場合は不合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

受講者が毎年 10 名未満のため、アンケートは実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

授業は基本的にオンラインで行う。Microsoft Office などのオフィスツール搭載のパソコン推奨。

【Outline and objectives】

The goals of this course are to

- (1) Understand the meaning and utilization of information at museums.
- (2) Obtain basic skills about utilization of various media at museum education.

特別な教育的ニーズの理解と支援

山下 洋児

配当年次／単位：1～4 年次／2 単位

開講時期：春学期授業/Spring

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

発達障害や軽度知的障害をはじめとするさまざまな障害、外国籍あるいは家庭養育基盤が弱いことなどにより、特別な支援を必要としている幼児、児童、生徒が、通常の学級に在籍し、授業活動にも参加している実感を持ち、また、子どもたちが生きる力を身に付けていくための、現状の把握、支援の方法を学ぶ。

【到達目標】

特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性、心身の発達を理解する。特に、様々な障害の学習上および生活上の困難に関する基礎的な知識を身に付け、当該子どもの心身の発達、心理的特性、学習の過程を理解し、インクルーシブ教育を含めた特別支援教育の制度の理念や仕組みを理解する。

特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒の教育課程及び支援の方法を理解する。特に、支援方法の具体例を理解し、通級指導と自立活動のカリキュラム上の位置づけを理解し、個別の指導計画や教育支援計画を作成する意義と方法を理解し、コーディネーターや関係機関、家庭と連携した支援体制の構築の意義を理解している。

障害はないが特別な教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の把握や支援を理解する。特に、母国語や貧困の問題等により本件に該当する子どもたちの学習上、生活上の困難とその対応方法を理解し、組織的な対応の必要性を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

特別な支援を必要とする幼児・児童・生徒の生きづらさに気付き、どのような理解、支援を行えばよいのか、考えを深められるよう、具体的な事例も伝え、授業を行う。資料の読み取りが中心となるが、毎回のリアクションペーパーの内容を適宜取り入れ、他の受講生がどのように考えているのかが参考となるようにする。リアクションペーパーは毎時間提出する。必要に応じてグループディスカッションも行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	本講義の目的、授業の進め方、評価の仕方。受講者自身の「特別な支援を必要とする児童・生徒」に関わる学校体験を振り返る。
第 2 回	特別支援教育の概要	特別支援教育の概要と、教師として特別な支援を必要とする子どもたちをどのように理解するかということについて学ぶ。
第 3 回	障害特性とはなにか	発達障害の「障害特性・認知特性」について、事例に沿って学ぶ。
第 4 回	自閉スペクトラム症 (ASD) の子どもの理解とその支援	自閉スペクトラム症について概要と具体例を学ぶ。
第 5 回	注意欠如多動症 (ADHD) の子どもの理解とその支援	注意欠如多動症について概要と具体例を学ぶ。
第 6 回	学習障害 (LD) の子どもの理解とその支援	学習障害について概要と具体例を学ぶ。
第 7 回	知的障害の子どもの理解とその支援	知的障害について概要と具体例を学ぶ。
第 8 回	肢体不自由・病弱の子ども理解とその支援	肢体不自由・病弱教育について概要と具体例を学ぶ。
第 9 回	家庭基盤の弱い子どもの理解とその支援	不適切な養育状況にある子ども、貧困状況にある子ども等の概要と具体例について学ぶ。
第 10 回	多様性とインクルーシブ教育	障害だけでなく、特別な支援が必要な子どもについて知り、インクルーシブ教育、合理的配慮について学ぶ。
第 11 回	個別の指導計画、教育支援計画	個別の指導計画、教育支援計画の意義と作成について学ぶ。
第 12 回	多様な関係・連携と支援	学校内における連携、学校外の関係諸機関との連携について学ぶ。
第 13 回	介護等体験の意義と留意点	介護体験の意義と留意点について学び、特別支援学校の教育活動のイメージをもつ。

第 14 回 まとめ：特別支援教育の今後の展望 特別支援教育の今後の展望について学び、自身が教員になった際のイメージをもつ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業は、1 回ずつが単独で終わるのでなく、他の回とも関連し合っているので、授業資料を事前・事後に読んで読むこと。また、日常的に、特別支援教育に関わるニュースやテレビ番組等に意識を向けておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しない。毎回資料を配布する予定。配布資料は、その回の授業だけでなく、他の回の授業、期末レポート等に必要になるので、整理して保存すること。

【参考書】

・中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領（最新版 文部科学省）
・戸田竜也「学級担任・特別支援教育コーディネーターのための『特別な教育的ニーズ』をもつ子どもの支援ガイド」明治図書、2015 年
その他、適宜授業で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（毎時間の理解を示すリアクションペーパー等）70 % + 最終レポート 30 %

【学生の意見等からの気づき】

公立中学校教員として勤務した経験からのエピソード、映像などを使用して行った授業が分かりやすかったという学生からの意見を参考にし、引き続き分かりやすい授業改善に取り組む。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

公立中学校特別支援学級教員の経験を活かし、特別支援教育に関わる今日の課題についての授業を行う。

【Outline and objectives】

Support and Understand for Special Educational Needs, concretely developmental disorders, mild mental retardation, ethnic minority, poverty, child abuse and so on.

特別な教育的ニーズの理解と支援

山下 洋児

配当年次／単位：1～4 年次／2 単位

開講時期：秋学期授業/Fall

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

発達障害や軽度知的障害をはじめとするさまざまな障害、外国籍あるいは家庭養育基盤が弱いことなどにより、特別な支援を必要としている幼児、児童、生徒が、通常の学級に在籍し、授業活動にも参加している実感を持ち、また、子どもたちが生きる力を身に付けていくための、現状の把握、支援の方法を学ぶ。

【到達目標】

特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性、心身の発達を理解する。特に、様々な障害の学習上および生活上の困難に関する基礎的な知識を身に付け、当該子どもの心身の発達、心理的特性、学習の過程を理解し、インクルーシブ教育を含めた特別支援教育の制度の理念や仕組みを理解する。

特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒の教育課程及び支援の方法を理解する。特に、支援方法の具体例を理解し、通級指導と自立活動のカリキュラム上の位置づけを理解し、個別の指導計画や教育支援計画を作成する意義と方法を理解し、コーディネーターや関係機関、家庭と連携した支援体制の構築の意義を理解している。

障害はないが特別な教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の把握や支援を理解する。特に、母国語や貧困の問題等により本件に該当する子どもたちの学習上、生活上の困難とその対応方法を理解し、組織的な対応の必要性を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

特別な支援を必要とする幼児・児童・生徒の生きづらさに気付き、どのような理解、支援を行えばよいのか、考えを深められるよう、具体的な事例も伝え、授業を行う。資料の読み取りが中心となるが、毎回のリアクションペーパーの内容を適宜取り入れ、他の受講生がどのように考えているのかが参考となるようにする。リアクションペーパーは毎時間提出する。必要に応じてグループディスカッションも行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	本講義の目的、授業の進め方、評価の仕方。受講者自身の「特別な支援を必要とする児童・生徒」に関わる学校体験を振り返る。
第 2 回	特別支援教育の概要	特別支援教育の概要と、教師として特別な支援を必要とする子どもたちをどのように理解するかということについて学ぶ。
第 3 回	障害特性とはなにか	発達障害の「障害特性・認知特性」について、事例に沿って学ぶ。
第 4 回	自閉スペクトラム症 (ASD) の子どもの理解とその支援	自閉スペクトラム症について概要と具体例を学ぶ。
第 5 回	注意欠如多動症 (ADHD) の子どもの理解とその支援	注意欠如多動症について概要と具体例を学ぶ。
第 6 回	学習障害 (LD) の子どもの理解とその支援	学習障害について概要と具体例を学ぶ。
第 7 回	知的障害の子どもの理解とその支援	知的障害について概要と具体例を学ぶ。
第 8 回	肢体不自由・病弱の子ども理解とその支援	肢体不自由・病弱教育について概要と具体例を学ぶ。
第 9 回	家庭基盤の弱い子どもの理解とその支援	不適切な養育状況にある子ども、貧困状況にある子ども等の概要と具体例について学ぶ。
第 10 回	多様性とインクルーシブ教育	障害だけでなく、特別な支援が必要な子どもについて知り、インクルーシブ教育、合理的配慮について学ぶ。
第 11 回	個別の指導計画、教育支援計画	個別の指導計画、教育支援計画の意義と作成について学ぶ。
第 12 回	多様な関係・連携と支援	学校内における連携、学校外の関係諸機関との連携について学ぶ。
第 13 回	介護等体験の意義と留意点	介護体験の意義と留意点について学び、特別支援学校の教育活動のイメージをもつ。

第 14 回 まとめ：特別支援教育の今後の展望 特別支援教育の今後の展望について学び、自身が教員になった際のイメージをもつ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業は、1 回ずつが単独で終わるのではなく、他の回とも関連し合っているので、授業資料を事前・事後に読んで読むこと。また、日常的に、特別支援教育に関わるニュースやテレビ番組等に意識を向けておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しない。毎回資料を配布する予定。配布資料は、その回の授業だけでなく、他の回の授業、期末レポート等に必要になるので、整理して保存すること。

【参考書】

・中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領（最新版 文部科学省）
・戸田竜也「学級担任・特別支援教育コーディネーターのための『特別な教育的ニーズ』をもつ子どもの支援ガイド」明治図書、2015 年
その他、適宜授業で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（毎時間の理解を示すリアクションペーパー等）70 % + 最終レポート 30 %

【学生の意見等からの気づき】

公立中学校教員として勤務した経験からのエピソード、映像などを使用して行った授業が分かりやすかったという学生からの意見を参考にし、引き続き分かりやすい授業改善に取り組む。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

公立中学校特別支援学級教員の経験を活かし、特別支援教育に関わる今日の課題についての授業を行う。

【Outline and objectives】

Support and Understand for Special Educational Needs, concretely developmental disorders, mild mental retardation, ethnic minority, poverty, child abuse and so on.

総合的な学習の時間の指導法

本山 明

配当年次／単位：2～4 年次／2 単位

開講時期：秋学期授業/Fall

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

総合的な学習の時間の意義と原理、特に学校ごとに目標や内を定める際の考え方を理解する。総合的な学習の時間の指導計画作成の考え方、特に探求的な学習の基礎的な理論や対話を中心とした学習の具体的方法、および他教科との連携の方法を理解し、実際に指導計画が立てられるようになる。総合的な学習の時間の指導と評価の考え方および実践上の留意点を理解できる。

【到達目標】

探求的な見方・考え方をし、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育む「総合的な学習の時間」の指導計画の作成および具体的な指導の仕方、学習活動の評価に関する知識・技能を身につける。特に、教科ごとに育まれる見方・考え方を活用し、広範な事象を多様な角度から俯瞰してとらえ、実社会・実生活の課題を探求する学びを実現する授業づくりに必要な基礎的力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

「総合的な学習の時間」な学習指導理論を理解し、学習指導案の内容を子どもの認識や思考、学力などの実態に沿ったものに作成できるようにする。また模擬授業の実施と振り返りを通して授業改善の視点を身につける。「総合的な学習の時間」における実践研究の動向を紹介し、グループワーク・問題解決学習など主体的・対話的で深い学びの授業設計の向上に取り組めるようにする。授業内に行ったレポート等のなかでいくつかを取り上げ全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション（ねらいと目標、進め方）	学生の「総合的な学習の時間」の体験を振り返り、その意義について共有化をはかる。
2	「総合的な学習の時間」の位置づけ（目標、授業回数、他教科との関連）	戦後の学習指導要領にみる「総合的な学習の時間」戦後初期のコア・カリキュラムの示唆するもの
3	カリキュラム上の特徴（問題解決型学習や探求的な学習）	教育課程と校内体制。指導計画の基本的考え方。SDGs と「総合的な学習の時間」
4	実社会に活かす学び（学校教育と実社会経験の架橋）	体験活動・情報活用能力・シティズンシップ教育・地域との連携（フィールドワークを含む）
5	アクティヴ・ラーニングの技法	問題解決型学習・参加型学習・探究的な学習・他者と協同して取り組む学習の実践
6	具体的な実践例（社会科系）と評価方法	公正な社会世界・共生を創る実践と評価
7	具体的な実践例（理科系）と評価方法	循環型社会・気候変動を中心にした実践と評価
8	学校ごとの目標の立て方（目標と診断的評価）	「総合的な学習の時間」の目標と育成を目指す資質・能力。評価の方法・ポイント
9	年間計画と指導案作成の理解	クラス・学年・学校を単位とした年間計画と指導案
10	指導案作成の実践的学習	探究のプロセスのポイントと思考ツールの使用による協同学習
11	指導案改善の観点と方法	課題設定・情報収集・整理分析・まとめ表現の観点と方法を改善する
12	指導案改善の実践的学習	生徒同士の学び合い学習視点での指導案の改善
13	授業指導案の発表と講評（中学校）	中学校における授業指導案の発表と講評
14	授業指導案の発表と講評（高校）	高校における授業指導案の発表と講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「総合的な学習の時間」のテーマを考える上で、毎日、新聞を 30 分以上読み、新聞スクラップブックを作成する。定型用紙は授業者が用意し、そこに自分のコメントを書き込み提出する。新聞が手元に無い場合は、図書館の新聞をコピーし使用する事。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない。適宜、指示する。

【参考書】

中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領（最新版 文部科学省）
文部科学省（2008 / 2010）『中学校／高等学校学習指導要領解説総合的な学習の時間編』海文堂出版

【成績評価の方法と基準】

平常点（各時間の提出レポート・新聞スクラップの中で授業者が評価に必要であるとしたもの）50 %
最終提出の授業計画案（授業指導案）、期末レポート 50 %

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していない。

【学生が準備すべき機器他】

必要な時は指示する。

【その他の重要事項】

質問事項などは、授業後お願いします。1999 年より公立中学校で 15 年間、「総合的な学習の時間」の責任者を経験。現場の実践に役立つ授業をしていく。

【授業中に求められ学習活動】

広く豊かな社会認識を身につけるため積極的な発言、対話を期待する。

【Outline and objectives】

Method for the Period for Integrated Studies. The significance of this subject, flame of purpose and contents in each school, how to make taching plans, the way of evaluation of students'grades.

総合的な学習の時間の指導法

本山 明

配当年次／単位：2～4 年次／2 単位

開講時期：春学期授業/Spring

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

総合的な学習の時間の意義と原理、特に学校ごとに目標や内を定める際の考え方を理解する。総合的な学習の時間の指導計画作成の考え方、特に探求的な学習の基礎的な理論や対話を中心とした学習の具体的方法、および他教科との連携の方法を理解し、実際に指導計画が立てられるようになる。総合的な学習の時間の指導と評価の考え方および実践上の留意点を理解できる。

【到達目標】

探求的な見方・考え方をし、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育む「総合的な学習の時間」の指導計画の作成および具体的な指導の仕方、学習活動の評価に関する知識・技能を身につける。特に、教科ごとに育まれる見方・考え方を活用し、広範な事象を多様な角度から俯瞰してとらえ、実社会・実生活の課題を探求する学びを実現する授業づくりに必要な基礎的力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

「総合的な学習の時間」な学習指導理論を理解し、学習指導案の内容を子どもの認識や思考、学力などの実態に沿ったものに作成できるようにする。また模擬授業の実施と振り返りを通して授業改善の視点を身につける。「総合的な学習の時間」における実践研究の動向を紹介し、グループワーク・問題解決学習など主体的・対話的で深い学びの授業設計の向上に取り組めるようにする。授業内に行ったレポート等のなかでいくつかを取り上げ全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション（ねらいと目標、進め方）	学生の「総合的な学習の時間」の体験を振り返り、その意義について共有化をはかる。
2	「総合的な学習の時間」の位置づけ（目標、授業時数、他教科との関連）	戦後の学習指導要領にみる「総合的な学習の時間」戦後初期のコア・カリキュラムの示唆するもの
3	カリキュラム上の特徴（問題解決型学習や探求的な学習）	教育課程と校内体制。指導計画の基本的考え方。SDGs と「総合的な学習の時間」
4	実社会に活かす学び（学校教育と実社会経験の架橋）	体験活動・情報活用能力・シティズンシップ教育・地域との連携（フィールドワークを含む）
5	アクティヴ・ラーニングの技法	問題解決型学習・参加型学習・探究的な学習・他者と協同して取り組む学習の実際
6	具体的な実践例（社会科系）と評価方法	公正な社会世界・共生を創る実践と評価
7	具体的な実践例（理科系）と評価方法	循環型社会・気候変動を中心にした実践と評価
8	学校ごとの目標の立て方（目標と診断的評価）	「総合的な学習の時間」の目標と育成を目指す資質・能力。評価の方法・ポイント
9	年間計画と指導案作成の理解	クラス・学年・学校を単位とした年間計画と指導案
10	指導案作成の実践的学習	探究のプロセスのポイントと思考ツールの使用による協同学習
11	指導案改善の観点と方法	課題設定・情報収集・整理分析・まとめ表現の観点と方法を改善する
12	指導案改善の実践的学習	生徒同士の学び合い学習視点での指導案の改善
13	授業指導案の発表と講評（中学校）	中学校における授業指導案の発表と講評
14	授業指導案の発表と講評（高校）	高校における授業指導案の発表と講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「総合的な学習の時間」のテーマを考える上で、毎日、新聞を 30 分以上読み、新聞スクラップブックを作成する。定型用紙は授業者が用意し、そこに自分のコメントを書き込み提出する。新聞が手元に無い場合は、図書館の新聞をコピーし使用する事。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない。適宜、指示する。

【参考書】

中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領（最新版 文部科学省）
文部科学省（2008 / 2010）『中学校／高等学校学習指導要領解説総合的な学習の時間編』海文堂出版

【成績評価の方法と基準】

平常点（各時間の提出レポート・新聞スクラップの中で授業者が評価に必要であるとしたもの）50 %
最終提出の授業計画案（授業指導案）、期末レポート 50 %

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していない。

【学生が準備すべき機器他】

必要な時は指示する。

【その他の重要事項】

質問事項などは、授業支援システムで行います。1999 年より公立中学校で 15 年間、「総合的な学習の時間」の責任者を経験。現場の実践に役立つ授業をしていく。

【授業中に求められ学習活動】

広く豊かな社会認識を身につけるため積極的な発言、対話を期待する。

【Outline and objectives】

Method for the Period for Integrated Studies. The significance of this subject, flame of purpose and contents in each school, how to make teaching plans, the way of evaluation of students'grades.

社会・地歴科教育法（1）

石出 法太

サブタイトル：社会・地歴科教育法

配当年次／単位：2～4 年次／2 単位

開講時期：春学期授業/Spring

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会科の歴史を学び、学習指導要領の目標と内容を理解しながら、地歴分野の教材や学習方法、評価の仕方の基本を学びます。その上で、学習指導案を作成して模擬授業（教育実践研究）を実施し、その振り返りを通して授業改善の視点を身につけます。

【到達目標】

中学校と高等学校における地理・歴史分野の学習指導要領の目標と内容を考え理解するとともに、教科指導と授業設計をするに当たって必要な知識や資質・能力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

春学期は主に社会・地歴科教育の課題について歴史と現状をおさえながら学び、秋学期は具体的な授業テーマ（歴史が軸になります）をとりあげ、教科書と学習方法などを具体的に学びます。授業は講義と質疑、模擬授業、学生による発表です。状況により授業形態・計画の変更もあります。提出物・レポート・試験などについては適宜授業で講評・解説を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の授業予定の確認	1 年間の授業計画の提示やアンケート、現在の社会と教育の問題をとりあげる。
2	社会・地歴科とは何か	社会・地歴科教育の現状と課題をとりあげる。
3	社会科前史	近代教育の出発と国定教科書をとりあげる。
4	戦争と教科書	戦争と教育とのつながりを考える。
5	敗戦と教育	敗戦がもたらしたものと戦後教育の出発点を考える。
6	社会科の成立	教育改革と社会科、学習指導要領の成立を考える。
7	戦後の社会科	日本の教育、社会科の変化を冷戦という視点から考える。
8	社会科のあゆみ	学習指導要領の変遷と教科書の変化をとりあげる。
9	教科書問題	「うれうべき教科書の問題」などを社会の変化から考える。
10	教科書裁判	家永教科書裁判と検定の問題をとりあげる。
11	社会科の課題	80 年代以降の社会科につながる問題をとりあげる。
12	地歴科の課題	今日につながる歴史認識にかかわる問題をとりあげる。
13	授業案の作成	歴史の授業をどうつくっていくのか模擬授業も含め考える。
14	春学期のまとめとテストの実施	春学期のまとめと確認テストをおこない、夏季課題の説明をおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

社会科、地歴科の教員には豊富な知識と様々な情報に精通していることが求められます。日々世の中の出来事に関心を持ち、読書や新聞の講読、テレビのニュースなどを見るように努めてください。日本や世界で今おこっている様々なことを説明できますか。鋭い歴史認識・現代認識を身につけてください。授業中に紹介した文献も読んでみましょう。本を読むことは教員の仕事のひとつともいえます。毎回提出のレポートや夏期課題が不十分な場合、再提出を求める場合もあります。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

中学歴史教科書『社会科中学の歴史 日本の歩みと世界の動き』帝国書院

【参考書】

授業中の文献を紹介、プリントを配布します。学習指導要領や中高の教科書は研究・検討の対象になります。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加姿勢（10%）、毎時間提出の感想・レポート提出など（30%）、試験（60%）を総合的に勘案して評価します。状況により変更もあります。

【学生の意見等からの気づき】

実践的な役に立つ授業を工夫していきます。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

授業計画は受講者の人数や問題意識などを勘案して適宜変更することがあります。

【授業中に求められる学習活動】

毎授業時の講義は教員と学生との双方の対話が大切であるので、積極的な授業参加を期待します。

【授業中に求められる学習活動】

授業時の視聴覚学習やレポートには意欲的にとりくむ姿勢が求められます。

【Outline and objectives】

While studying the history of social studies and understanding the goals and contents of the course of study,

Learn the basics of teaching materials, learning methods and evaluation methods in the field of history. In addition, studies

We created a training instruction plan and implemented simulated lessons (educational practice research)

Through returning to learn perspective of improving classes.

社会・地歴科教育法 (2)

石出 法太

サブタイトル：社会・地歴科教育法

配当年次／単位：2～4 年次／2 単位

開講時期：秋学期授業/Fall

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会科の歴史を学び、学習指導要領の目標と内容を理解しながら、地歴分野の教材や学習方法、評価の仕方の基本を学びます。その上で、学習指導案を作成して模擬授業（教育実践研究）を実施し、その振り返りを通して授業改善の視点を身につけます。

【到達目標】

中学校と高等学校における地理・歴史分野の学習指導要領の目標と内容を考え理解するとともに、教科指導と授業設計をするに当たって必要な知識や資質・能力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

春学期は主に社会・地歴科教育の課題について歴史と現状をおさえながら学び、秋学期は具体的な授業テーマ（歴史が軸になります）をとりあげ、教科書と学習方法を具体的に学びます。授業は講義と質疑、模擬授業、学生による発表です。提出物・レポート・試験などは適宜授業で講評・解説を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	秋学期の授業予定の確認	夏季の課題の提出と後期授業の進め方についてのオリエンテーションをおこなう。
2	現代をどうとらえるか	社会・地歴科の授業につながる現在の世界と日本の出来事について考える。
3	学習指導案と授業	夏季課題の授業案と模擬授業を含め授業の検討を行なう。
4	授業研究 その1 日本とアジア	指導案の実例と検討をアジアからの視点でおこなう。
5	授業研究 その2 アジアと世界	指導案の実例と検討をアジアと世界の視点でおこなう。
6	授業研究 その3 民族問題	指導案の実例と検討を民族という視点からおこなう。
7	授業研究 その4 植民地支配	指導案の実例と検討を植民地支配をあげて世界と日本からおこなう。
8	授業研究 その5 第一次世界大戦	指導案の事例と検討を帝国主義という視点から考える。
9	授業研究 その6 民族運動	指導案の実例と検討をアジアの民族運動という視点からおこなう。
10	授業研究 その7 ファシズムの問題	指導案の実例と検討を現代的・政治的な視点からおこなう。
11	授業研究 その8 第二次世界大戦	指導案の実例と検討を戦争の加害と被害という視点からおこなう。
12	実践授業研究 その1 戦後史の模擬授業	指導案と模擬授業の検討を日本の敗戦と戦後の出発点から考える。
13	実践授業研究 その2 現代世界の模擬授業	指導案と模擬授業の検討を現在世界でおこっている出来事から考える。
14	秋学期のまとめと確認テスト	授業のふりかえりと確認テストをおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

社会科、地歴科の教員には豊富な知識と様々な情報に精通していることが求められます。日々世の中の出来事に関心を持ち、読書や新聞の講読、テレビのニュースなどを見るように努めてください。日本や世界で今おこっている様々なことを説明できますか。鋭い歴史認識・現代認識を身につけてください。授業中に紹介した文献も読んでみましょう。本を読むことは教員の仕事のひとつともいえます。毎回提出のレポートや夏期課題が不十分な場合、再提出を求める場合もあります。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

中学歴史教科書『社会科中学の歴史 日本の歩みと世界の動き』帝国書院

【参考書】

授業中の文献を紹介、プリントを配布します。学習指導要領や中高の教科書は研究・検討の対象になります。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加姿勢（10%）、毎時間提出の感想・レポート・学習指導案の提出（30%）、試験（60%）を総合的に勘案して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実践的な役に立つ授業を工夫していきます。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

授業計画は受講者の人数や問題意識などを勘案して適宜変更することがあります。

【授業中に求められる学習活動】

毎授業時の講義は教員と学生との双方の対話が大切であるので、積極的な授業参加を期待します。

【授業中に求められる学習活動】

授業時の視聴覚学習やレポートには意欲的にとりくむ姿勢が求められます。

【Outline and objectives】

While studying the history of social studies and understanding the goals and contents of the course of study,

Learn the basics of teaching materials, learning methods and evaluation methods in the field of history. In addition, studies

We created a training instruction plan and implemented simulated lessons (educational practice research)

Through returning to learn perspective of improving classes.

社会・公民科教育法（1）

松山 尚寿

サブタイトル：社会・公民科教育法

配当年次／単位：2～4 年次／2 単位

開講時期：春学期授業/Spring

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会・公民科の歴史、学習指導要領に示された目標や内容、教材研究や学習指導の方法などについての基本的な事項を理解するとともに、それらの知識・技能に基づいて、学習指導案の作成を行う。社会・公民科の歴史、学習指導要領に示された目標や内容、教材研究や学習指導の方法などについての基本的な知識・技能に基づいて、グループや個人で実践事例の研究、学習指導案の作成、模擬授業の実施と振り返りなどを行う。

【到達目標】

資質・能力の育成をめざし、社会・公民科における教育の目標や内容を理解し、学習指導理論を踏まえて学習指導案を作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

社会科教育の歴史と現状をまずおさえ、問題点と課題をさぐり、実践的な内容と方法の検討へと進めていく予定です。授業計画は授業の展開によって、若干の変更があります。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	公民科と教師の力量形成
2	公民教育の意義と役割	公民的資質とは何か
3	公民教育の歴史	学習指導要領の変遷
4	学習指導要領と公民科	社会科、地理歴史科、公民科の全体構造
5	公民科の目標と内容	小学校・中学校・高等学校での展開
6	実践事例の検討(1)	中学校公民的分野
7	実践事例の検討(2)	高等学校公民科
8	学習指導案の書き方	授業設計のポイント
9	教材研究・教材開発の視点・方法	教材とは
10	学習指導の工夫	情報機器及び教材の効果的な活用
11	学習指導の工夫と実際	評価の考え方・進め方
12	学習指導案の検討(1)	中学校公民的分野
13	学習指導案の検討(2)	高等学校公民科
14	前期のまとめ	振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。次の授業への課題を時々出します。その課題にはしっかりと取り組んでください。また、社会科教師をめざす学生として、日常的に世界と日本の動向・問題点・課題に関心をもち、報道や論説に注目するようにしてほしいと思います。世の中の重要な問題について、関心や自分の意見がないようでは困ります。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは指定せず、教材プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

文部科学省「中学校、高等学校学習指導要領 社会、公民」（最新版）
大月書店「未来の市民を育む『公共』の授業」杉浦真理他編

【成績評価の方法と基準】

平常点（25%）、宿題・予習課題（40%）、夏期・冬期のレポート課題（35%）によって総合評価します。

【学生の意見等からの気づき】

受講する学生の問題関心に配慮しながら、少しずつ要求水準を引き上げていきたいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用します。また Google のアプリ「Classroom」を授業で活用します。

【その他の重要事項】

春学期・秋学期合わせての履修を推奨します。

【授業中に求められる学習活動】

None.

【Outline and objectives】

This class aims to gain basic understanding of the history of social studies and civic education, the goals and contents in the National Courses of Study, and teaching materials research and learning methods. Also, based on this knowledge and skills, the class further discusses how to develop lesson plans and actually design them. And then, the class also implements case studies of teaching practices, developments of lesson plans, and practices and reviews of simulated lessons with groups and individuals.

社会・公民科教育法 (2)

松山 尚寿

サブタイトル：社会・公民科教育法
 配当年次／単位：2～4 年次／2 単位
 開講時期：秋学期授業/Fall

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会・公民科の歴史、学習指導要領に示された目標や内容、教材研究や学習指導の方法などについての基本的な事項を理解するとともに、それらの知識・技能に基づいて、学習指導案の作成を行う。社会・公民科の歴史、学習指導要領に示された目標や内容、教材研究や学習指導の方法などについての基本的な知識・技能に基づいて、グループや個人で実践事例の研究、学習指導案の作成、模擬授業の実施と振り返りなどを行う。

【到達目標】

資質・能力の育成をめざし、社会・公民科における教育の目標や内容を理解し、学習指導理論を踏まえて学習指導案を作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

社会科教育の歴史と現状をまずおさえ、問題点と課題をさぐり、実践的な内容と方法の検討へと進めていく予定です。授業計画は授業の展開によって、若干の変更がありえます。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	実践研究及び授業評価の視点	教材内容・授業技術の視点
2	実践研究	中学校公民的分野 グループによる提案と質疑
3	実践研究	高等学校「公民」 グループによる提案と質疑
4	実践研究	高等学校「倫理」 グループによる提案と質疑
5	実践研究	高等学校「政治・経済」 グループによる提案と質疑
6	模擬授業	中学校公民的分野 現代社会を捉える視点
7	模擬授業	中学校公民的分野 社会にみられる課題の解決
8	模擬授業	高等学校「公共」 人間と社会のあり方
9	模擬授業	高等学校「公共」 公共的な空間に見られる課題の解決
10	模擬授業	高等学校「倫理」 人間としてのあり方 生き方
11	模擬授業	高等学校「倫理」 現代の倫理的諸課題の解決
12	模擬授業	高等学校「政治・経済」 社会のあり方
13	模擬授業	高等学校「政治・経済」 社会に見られる課題の解決
14	授業のまとめ	振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
 次の授業への課題を時々出します。その課題にはしっかりと取り組んでください。また、社会科教師をめざす学生として、日常的に世界と日本の動向・問題点・課題に関心をもち、報道や論説に注目するようにしてほしいと思います。世の中の重要な問題について、関心や自分の意見がないようでは困ります。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは指定せず、教材プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

文部科学省「中学校、高等学校学習指導要領 社会、公民」（最新版）
 大月書店「未来の市民を育む『公共』の授業」杉浦真理他編

【成績評価の方法と基準】

平常点 (25%)、宿題・予習課題 (40%)、夏期・冬期のレポート課題 (35%) によって総合評価します。

【学生の意見等からの気づき】

受講する学生の問題関心に配慮しながら、少しずつ要求水準を引き上げていきたいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用します。また Google のアプリ「Classroom」を活用して授業を行います。

【その他の重要事項】

秋学期の授業は春学期の履修を前提に進めるので、春学期・秋学期合わせての履修を推奨します。

【授業中に求められる学習活動】

None.

【Outline and objectives】

This class aims to gain basic understanding of the history of social studies and civic education, the goals and contents in the National Courses of Study, and teaching materials research and learning methods. Also, based on this knowledge and skills, the class further discusses how to develop lesson plans and actually design them. And then, the class also implements case studies of teaching practices, developments of lesson plans, and practices and reviews of simulated lessons with groups and individuals.

情報科教育法 I

御園生 純

サブタイトル：情報科教育法

配当年次／単位：2～4 年次／2 単位

開講時期：春学期授業/Spring

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報及び情報技術を活用するための知識と技能を習得し、情報に関する科学的な見方や考え方や情報化の進む社会に積極的に参画することができる能力・態度である「情報活用能力」を養うための授業運営の理論および実践方法の習得を目指す。

【到達目標】

・教科「情報」設置の理念と社会的背景・高等学校全体の教育課程における位置づけを学ぶ。
・共通教科「情報」と専門教科「情報」の違い、および共通教科「情報」と他教科との関連等について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

春学期は教科情報の成立過程のその目的や政策的な背景、授業運営の理論などを講義を中心に展開する。秋学期は年間計画、単元計画、授業指導案の作成を目標として受講者による発表や模擬授業を実施する。

また、単に情報科の教員免許取得にとどまらず、教職を目指すものとして必要不可欠な教育観、人権観、情報倫理（他者の作成した情報を活用する際のルール等）などについても、受講者同士の討議を中心に理解を深めています。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行います。各課題について受講生毎に講評します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	教科情報設置の経緯とその精神について	なぜ教科「情報」が設けられたのか、その背景と社会的状況について理解する。
2	ディスカッション：高校時代に受けた教科「情報」とはどんな授業だったか？	高校での情報の授業がその後の社会生活でどのように機能しているのかについて
3	普通科目「情報」と専門科目「情報」比較	他科目・高等学校の教育課程全体との関係の構造的な理解
4	普通教科情報の3つの観点と授業内容～情報活用能力とは	何を教えるのか？ そのためにどんな知識・技能が必要なのか？
5	問題解決と課題解決の授業の観念的・理論的理解	問題解決の理論と論理的思考について
6	「情報A」「情報B」から「情報の科学」への変更点	情報社会の変遷の現状とこれからの社会に求められる知識と技術について
7	「情報の科学」の内容と指導計画の概要	年間指導計画と科目目的との整合性について
8	「情報の科学」の授業例～情報A・Bとの相違点を中心に	学習指導要領改訂の目的の理解と情報テクノロジーの変遷について
9	「情報A」「情報C」から「社会と情報」への変更点	「情報の科学」「社会と情報」の各々の到達点と授業運営についての理解
10	「社会と情報」の内容と指導計画の概要	授業内容の理解と把握
11	「社会と情報」の授業例～情報Cとの相違点を中心に	社会における情報技術の活用の実態とその問題点について
12	「情報」教員に求められるスキル、学習指導案の考え方・書き方	授業設計のデザインと単元の組み立てについて
13	メディアリテラシーの概念と指導法	各種ソーシャルメディアや情報発信に必要なりテラシーについて。とりわけ情報の流用とそのルール・関係法規についての理解（小テスト実施）
14	Webとユーザビリティ、ユニバーサルデザインの理論、SNSの光と影	SNSなどの活用と実際の問題状況について

秋学期

回	テーマ	内容
---	-----	----

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします
学習指導要領・高等学校「情報編」をあらかじめ精読しておくこと

【テキスト（教科書）】

学習指導要領・高等学校「情報編」

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

■評価配分

平常点 40%

課題1 40%（年間指導計画・単元計画の作成等）

小テスト20%（個人情報の取り扱い・情報の引用・流用について

【学生の意見等からの気づき】

ありません。

【学生が準備すべき機器他】

ありません

【その他の重要事項】

ありません

【Outline and objectives】

The course of Teaching Method of Information Sciences (Joho-ka Kyoiku-ho) is made up of the two classes, Teaching Method I and II. The objectives of Teaching Method I are mainly for students to learn the basic knowledges and skills on information and information technologies, and to understand the goals of the subject and its positioning in the Course of Study for high schools.

情報科教育法Ⅱ

御園生 純

サブタイトル：情報科教育法

配当年次／単位：2～4 年次／ 4 単位

開講時期：秋学期授業/Fall

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- I. 教科「情報」の概要と意義
 - II. 情報活用の実践力・情報の科学的理解
 - III. 情報化社会に参画する態度
 - IV. 教科「情報」における学習指導
 - V. 教科「情報」のカリキュラム・指導計画作成
- 以上 5 つの項目について、以下授業の構成の内容で講義・実習をおこなう。

【到達目標】

- 1、実際に高校での授業運営が可能な実践的な教職能力の習得
- 2、授業指導案の作成能力の獲得
- 3、実際の教室運営と指導観の涵養

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

前期は教科情報の成立過程のその目的や政策的な背景、授業運営の理論などを講義を中心に展開する。後期は年間計画、単元計画、授業指導案の作成を目標として受講者による発表や模擬授業を実施する。

また、単に情報科の教員免許取得にとどまらず、教職を目指すものとして必要不可欠な教育観、人権観、などについても、受講者同士の討議を中心に理解を深めていきます。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行います。各課題について受講生毎に講評します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 15 回	情報社会に参画する態度 I～受益者・受信者として。	E コマースなどの消費者としての取り組み
第 16 回	情報社会に参画する態度 II～発信者として。	SNS などの発信者としての取り組みと問題。
第 17 回	メディアリテラシー、電子コミュニケーション	SNS などの活用と実際
第 18 回	情報と職業	IT 技術によって労働の形態がどのように変わっていくのか？
第 19 回	あたらしい労働専門性と労働のスタイル、電子決済や仮想通貨について	消費者教育としての情報教育
第 20 回	情報教育の理論～キーコンピテンシーとしての情報教育	あたらしい基礎リテラシーとしての情報教育
第 21 回	情報テクノロジーの進化と教職の変化	教職専門性と情報技術について
第 22 回	問題解決能力について	論理的思考と問題解決の手法
第 23 回	教科「情報」と「総合的な学習の時間」	教育課程全体における情報科の位置づけ
第 24 回	他教科との連携と協働、プレゼンテーションとディスカッション・コラボレーション	プレゼンテーションツールの利用方法について
第 25 回	情報教育における評価方法	授業評価（生徒の評価と授業の評価の関係について）
第 26 回	教師の自己点検と授業評価、学習環境の整備と保守	クラス全体を評価する～偏差値の重要性
第 27 回	「情報」の授業のイメージ作り	授業の入り口と出口～なにを習得させるのか？
第 28 回	学習計画の作成	年間指導計画の作成
秋学期		
回	テーマ	内容

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。
高校教科「情報」がどのような経緯で設置されたのか、目的とその歴史的経緯などについては web 等で調べておくこと。

【テキスト（教科書）】

高等学校学習指導要領「総則」編

高等学校学習指導要領「情報」編

【参考書】

授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30%
課題（発表プレゼン含む） 40%
模擬授業 30%

【学生の意見等からの気づき】

理論だけでなく、実際に教壇に立った時に必要となる実践的な授業運営方法について模擬授業などを通じて学びます。

【Outline and objectives】

The aims of this lecture is basic knowledge as a teacher of subject information and acquisition of educational technology.

福祉社会学Ⅰ

堅田 香緒里

配当年次／単位：2～4 年次／2 単位

開講時期：春学期授業/Spring

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

福祉が社会の中でどのような意味や機能をもつのかについて学ぶ。

【到達目標】

- 1) 福祉国家の歴史／学説史を理解する。
- 2) 現代社会における福祉の意味や機能ならびに課題を理解する。
- 3) これからの福祉社会を展望するために必要な基礎的能力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義の前半では、社会が福祉を必要としてきた背景やそれを支えてきた理念や規範について、福祉国家の歴史および学説史の検討を通して学ぶ。そのうえで、講義の後半では、現代社会における福祉の意味や課題を理解するために重要な幾つかの論点を取り上げ、解説する。これらを通して、これからの福祉社会を展望するために必要な基礎的能力を養うことを目的とする。

※なお、授業計画は、参加者の興味・関心および進捗状況に応じて変更の可能性もある。

※課題については、適宜授業時間内にフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	福祉とは何か、必要とは何か
2	福祉国家とは何か	福祉国家の目的・編成・機能
3	福祉国家の歴史①生成期	救済法から戦後福祉国家誕生まで
4	福祉国家の歴史②拡大期	社会支出の増大、社会権の確立
5	福祉国家の歴史③危機と再編	右派からの批判、「新しい社会運動」による異議申し立て
6	福祉国家論①	産業主義理論、権力資源論から福祉レジーム論へ
7	福祉国家論②	福祉レジーム論の新展開、脱商品化と脱家族化
8	福祉国家論③	福祉レジーム論への批判と、新しいレジーム論
9	シティズンシップ	権利と義務、市民共和主義と自由主義、フェミニスト・シティズンシップ、国籍と難民
10	自由とセキュリティ	「生の保障」と「治安」、福祉国家の監視国家化
11	ケアと再生産	生産、再生産、ケア、家事労働
12	自立と依存	フェミニズム／障害学が投げかける問い
13	再分配と承認	「声」の政治、マイノリティ
14	福祉社会に向けて	福祉国家から福祉社会へ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業のテーマに関わる文献やニュースから情報を積極的に集め、理解を深める。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。講義は毎回の配布資料に沿って進めます。

【参考書】

武川正吾・森川美絵・井口高志・菊地英明（2020）『よくわかる福祉社会学』ミネルヴァ書房。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、授業毎に設定する課題の提出 40 %、最終レポート 60 %で行う。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーへの応答を引き続き積極的に行う。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the history and the function of modern welfare state.

福祉社会学Ⅱ

堅田 香緒里

配当年次／単位：2～4 年次／2 単位

開講時期：秋学期授業/Fall

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

福祉政策および周辺の諸政策について学び、そのうえで、今日の福祉政策が抱える課題やそれを克服するための展望について考える。

【到達目標】

- 1) 既存の福祉政策の内容や目的・背景にある規範を理解する。
- 2) 福祉政策が現在直面している課題について理解する。
- 3) これからの福祉政策のあり方について各々が展望する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

今日、福祉国家を支えてきた様々な社会的諸条件が揺らぐ中、福祉政策の再編が進行しつつある。こうした現代的文脈を踏まえ、講義の前半では、とりわけ日本の福祉政策および周辺の諸政策を取り上げ、その目的・内容及び背景にある規範について学ぶ。講義の後半では、これらの福祉政策が現代社会において直面している諸課題を検討し、それを克服するために近年検討されている新しい政策構想に触れ、これからの福祉政策のあり方を展望する。

※授業計画は、参加者の興味・関心や進捗状況に応じて変更の可能性もある。※課題については、適宜授業時間内にフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	福祉政策の目的・編成・機能
2	福祉政策の実際①：障害者福祉	自立生活、介助サービス
3	福祉政策の実際②：高齢者福祉	介護保険、介護労働、ケア
4	福祉政策の実際③：子ども家庭福祉	社会手当、保育サービス、ソロマザー
5	福祉政策の実際④：低所得者福祉	生活保護、生活福祉資金、生活困窮者支援
6	福祉政策の周辺①：健康の保障	医療保険、予防的介入
7	福祉政策の周辺②：教育の保障	教育政策、奨学金
8	福祉政策の周辺③：住宅の保障	公営住宅、「ホームレス」政策
9	福祉政策の現代的課題①	雇用の不安定化に伴う諸課題
10	福祉政策の現代的課題②	家族の不安定化に伴う諸課題
11	福祉政策の現代的課題③	コミュニティの再編に伴う諸課題
12	新しい福祉政策①	ワークフェア
13	新しい福祉政策②	アクティベーション、参加所得
14	新しい福祉政策③	ベーシックインカム

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業のテーマに関わる文献やニュースから情報を積極的に集め、理解を深める。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。講義は毎回の配布資料に沿って進めます。

【参考書】

武川正吾・森川美絵・井口高志・菊地英明（2020）『よくわかる福祉社会学』ミネルヴァ書房。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、各回に設定する課題の提出 40 %、最終レポート 60 %で行う。

【学生の意見等からの気づき】

毎回提出してもらったリアクションペーパーへの授業内応答を、引き続き行う。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of challenges and prospects facing modern welfare state.

グローバル社会のローカリティ／地域社会学

中筋 直哉

配当年次／単位：2～4 年次／2 単位

開講時期：秋学期授業/Fall

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

前世紀の国民国家に組み込まれた地域社会とは異なる、グローバル化した現代社会におけるローカルな場所の実態と意味を、主に社会学の方法に基づいて理解する。とくに場所の間を移動していく人びとの生活のリアリティに重点を置く。

【到達目標】

・新しいローカリティの可能性と困難を、肯定的にせよ批判的にせよ事実とデータに基づいて理解・説明できる。
・新しいローカリティを踏まえた社会形成についての自らの考えを論理的に表明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

オンライン・オンデマンド形式で実施（予定）。学習支援システムで講義資料と音声・動画を事前配布する。質疑応答は指定した時間に学習支援システムを使って行う。課題については授業中に期末試験については試験後に、受講者全体に対するフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の目的と構成の説明
2	ローカリティとは何か 1	国民国家の構成要素としての地域社会
3	ローカリティとは何か 2	グローバル化による地域社会の脱構築
4	ローカリティの諸形態 1	親密圏の解体と再生
5	ローカリティの諸形態 2	農山漁村の生存戦略
6	ローカリティの諸形態 3	世界都市と分極化
7	ローカリティの諸形態 4	境界と辺境をめぐるゲーム
8	事例研究的講義	新しいローカリティの典型事例の紹介
9	事例をめぐる討論	グループディスカッション
10	人びとの移動と定着 1	移民・難民たちのレガシーズ
11	人びとの移動と定着 2	リアリティ・トランジットとアート
12	人びとの移動と定着 3	旅する信仰と思想
13	ローカリティの未来 1	新しい市民社会形成の方途の探究
14	ローカリティの未来 2	重要論点の復習と質疑、討論

※別途定期試験を実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容の予習復習の他、「今日の課題図書」のうちいくつかを読むことが必要。授業の中盤に A4×1 枚程度のレポートを課す。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

レポートの出来が 35 % (提出しないと D)、論述式の期末試験が 55 %。授業参加の総合的評価が 10 %。試験解答において、現代社会のローカルな生活に対する自分の考えを、事実とデータに基づいて論理的に表明できることが A の条件。

【学生の意見等からの気づき】

理論的説明をよりゆっくりとていねいに行うよう努める。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムへのアクセスが必須。ただ画面を眺めるだけでなく自分のノートを作ることが重要。

【その他の重要事項】

コースの専門的科目なので入門科目以上の知識が必要。

【Outline and objectives】

This lecture aims to study local society making below globalization by sociological perspective.

国際法

妻木 伸之

配当年次／単位：2～4 年次／2 単位

開講時期：秋学期授業/Fall

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目では、国際社会を規律する法である国際法の概要について学び、現代国際社会における諸課題解決の手がかりを得ます。

【到達目標】

国際法学について基本的な理解ができること。加えて、可能であれば、現代国際社会の諸課題について国際法に基づき検討できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

オンラインでのオンデマンド方式（講義時間内はオンタイムでの質疑応答に対応）を現状予定。なお、方式については、状況により変更の可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入 1：「国際法」の歴史的展開	国際法の歴史を通じ、現代国際法の特徴とその課題を学ぶ。
2	導入 2：国際社会における立法・司法・執行	国内法などとの比較を通じ、国際社会・国際法の特徴について学ぶ
3	国際法の「法源」—国際法の存在形式	国際法がどのような形で存在するかについて学ぶ。
4	国際法の「主体」—国家・国際組織・その他	国際法をつくり、国際法により規律されるのは誰かについて学ぶ。
5	「主権」と国家の基本的権利・義務	国際法の基本概念である「主権」について学ぶ。
6	陸・海・空に関する国際法	国際法における領域（主に海洋）の取扱いについて学ぶ。
7	個人と国際法—国際刑事法・国際人権法	「国際犯罪」への国際法の対応および国際人権法の展開について学ぶ。
8	国際人権法の実現—国内実現と国際実現	国内平面と国際平面における国際人権法の実現について学ぶ。
9	武力不行使原則の確立と平和的紛争処理手続	戦争の違法化と武力を用いない紛争処理手段について学ぶ。
10	集団安全保障：その限界と克服の努力	戦争抑止のための集団安全保障の展開について学ぶ。
11	自衛権／武力紛争法	武力不行使原則の例外および武力紛争時の法について学ぶ。
12	ブレトンウッズ体制／GATT・WTO 体制	WW II 後の西側先進国主導の経済秩序について学ぶ。
13	南北問題と「新国際経済秩序」	「南側」からの経済秩序変革について学ぶ。
14	まとめ	全体のまとめ（調整日）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回合計 2 時間程度、各自で予習・復習をすることが望ましい。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない（講義用のレジュメ等は授業支援システムを通じて配布する）。

【参考書】

一例として、横田洋三編『国際社会と法』（有斐閣、2010 年）、玉田大ほか『国際法』（有斐閣、2017 年）、柳原正治ほか編『プラクティス国際法講義（第 3 版）』（信山社、2017 年）、渡部茂己ほか編『国際法（第 2 版）』（弘文堂、2014 年）など。

【成績評価の方法と基準】

試験に代替するレポート 100 %（追加の救済措置はない点に留意）。

【学生の意見等からの気づき】

質疑応答に迅速・丁寧に応える

【学生が準備すべき機器他】

ネット接続が可能な機器（レポート作成を念頭にすると PC が望ましい）

【Outline and objectives】

This course introduces international public law.

The goals are following.

- (1) to obtain the basic knowledge of the international law,
- (2) as possible, to be able to appraise global issues from the legal perspective.

発達・教育の理論 I

山下 大厚

配当年次／単位：2～4 年次／2 単位

開講時期：春学期授業/Spring

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教育の歴史と思想、および人間発達の理論の形成と展開について学ぶ。

【到達目標】

主要な教育思想、発達論について理解し、歴史の中で子供たちの処遇はどうか変化し、今またどうあるべきなのか、考える手立てを得ること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義は配布資料、映像資料を用いて行なう。振り返りテストや小レポートで学習状況を確認するが、その都度、講評し、疑問や感想にも応じたい。また授業計画は適宜変更がありうる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーションと受講上の注意	education の語源と「発達」/教育を受ける権利と子供の権利条約
第 2 回	人間の発達とは何か	人類史と霊長類研究における人の発達
第 3 回	子供（観）の歴史	前近代の産育/ルソーの「子供の発見」とアリエスの「子供の誕生」
第 4 回	児童中心主義の展開	ベスタロッツ/オーエン/フレール/エレン・ケイ/モンテッソーリ
第 5 回	近代公教育の展開	国民国家と義務教育/ヘルバルト派と新教育
第 6 回	近世、近代日本の教育思想	世阿弥/貝原益軒/福沢諭吉/森有礼
第 7 回	進歩主義教育の展開	デュルケム/デュイ/ラッセル
第 8 回	戦中・戦後の教育と人間観	戦時下の教育/戦後教育改革/高度経済成長と人的能力開発
第 9 回	発達の科学のはじまり	ダーウィン/ビネー/ワトソン/ゲゼル
第 10 回	発達の諸理論 (1)	ピアジェ/ヴィゴツキー/ブルーナー
第 11 回	発達の諸理論 (2)	バンデューラ/ポウルビック/ライン
第 12 回	発達の諸理論 (3)	A・フロイト/エリクソン/チョドロウ
第 13 回	近代学校教育への批判	再生産、脱学校、フリースクールほか
第 14 回	教育における今日的課題	神経科学時代の子供と教育

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。教材の予習、振り返りテストを活用した復習により理解を深めること。また、普段から子供・教育・学校に関する話題や報道にも関心を持つこと。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。各回の講義で必要な資料を配布する。

【参考書】

上笙一郎ほか編, 1977, 『日本子どもの歴史 1～7』第一法規。ジョージ・バタワース, ハリス・マーガレット, 1997, 『発達心理学の基本を学ぶ：人間発達の生物学的・文化的基盤』ミネルヴァ書房。

【成績評価の方法と基準】

評価の方法とウェイト：振り返りテスト (50%) と小レポート (50%)。評価の基準：振り返りテストは、学習内容の確認、小レポートについては、そのときのテーマを適切に理解し、自らの意見や疑問が述べられているか評価する。

【学生の意見等からの気づき】

昨年のオンライン授業では様々な要望があり、それに応えようと努めたが、大半の受講生は当初の緊張の糸が、いつの間にか切れてしまったようにみえた。今後も改善に動じむが、自らの学習姿勢についても改めて点検して欲しい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムの利用が不可欠である。また学習支援システムの受講者名簿には必ず連絡の取れるメールアドレスを登録すること。

【その他の重要事項】

質問などは学習支援システムの掲示板やメールで受け付ける。なお、この科目は発達・教育の理論 II と併せて履修することが望ましい。

【Outline and objectives】

This course introduces the modern/pres-modern history of education, philosophy of education and theories of human development to students taking this course.

発達・教育の理論 II

山下 大厚

配当年次／単位：2～4 年次／2 単位

開講時期：秋学期授業/Fall

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

新たな学習・学力、地域との連携、危機管理、多様性の包摂など「改革」が学校教育に求められる背景と課題、公教育を支える教育行政、学校経営、教員の役割に生じた新たな課題などについて理解する。

【到達目標】

社会の変化と課題、あるいはまた地域に対して「開かれた学校」であることが求められ、その対応が、学校の社会的・制度的・経営的課題となっている。「開かれた学校」づくりの意味と課題、問題点について理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義は配布資料や映像を用いて行なう。振り返りテストや小レポートはその都度、講評し疑問や感想に応じたい。また授業計画は適宜変更がありうる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーションと受講上の注意	公教育を取り巻く現代的課題と「改革」を迫られる学校
第 2 回	公教育制度の基盤	公教育の原理と理念、教育法体系
第 3 回	公教育制度の行政と組織	教育行政機構及び学校組織と教員組織
第 4 回	学力とカリキュラム行政	「新しい学力」と教育課程行政
第 5 回	教育機会の保障と基盤	改正教育基本法と教育財政
第 6 回	教職員の働き方改革	改革のポイントと問題点
第 7 回	学校のカバナス	学校経営とアカウンタビリティ
第 8 回	地域と連携協働する学校	コミュニティスクールの目的と課題
第 9 回	学級制度と学級経営	担任の職務と学級経営の課題
第 10 回	危機管理と安全教育	事故災害、いじめ、ハラスメントの対応
第 11 回	多様性の包摂と機会保障	不登校、LGBT、外国籍などへの対応
第 12 回	インクルーシブ教育	特別の支援や配慮が必要な子どもたち
第 13 回	非行少年の社会的包摂	自立支援、更生を支える仕組みと課題
第 14 回	学習指導要領の変遷	昭和と平成の教育は何を求めてきたか

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。教材の予習、振り返りテストを活用した復習により理解を深めること。また、普段から子供・教育・学校に関する話題や報道にも関心を持つこと。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。各回の講義で必要な資料を配布する。

【参考書】

中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領（最新版 文部科学省）/ 佐藤晴雄, 2017, 『コミュニティ・スクールの成果と展望: スクール・ガバナンスとソーシャル・キャピタルとしての役割』ミネルヴァ書房/グループ・ディダクティカ編, 2012, 『教師になること、教師であり続けること—困難の中の希望—』勁草書房/ 田中正博, 佐藤晴雄, 2013, 『教育のリスクマネジメント—子ども・学校を危機から守るために』時事通信出版局

【成績評価の方法と基準】

評価の方法とウェイト：振り返りテスト (50%) と小レポート (50%)。評価の基準：振り返りテストは、学習内容の確認、小レポートについては、そのときのテーマを適切に理解し、自らの意見や疑問が述べられているか評価する。

【学生の意見等からの気づき】

オンライン授業の進め方については、未だ試行錯誤しながら改善を模索しているが、受講生の皆さん方にも、自らの学習姿勢について改めて点検を望む。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムの利用が不可欠である。また学習支援システムの受講者名簿には必ず連絡の取れるメールアドレスを登録すること。

【その他の重要事項】

質問などは学習支援システムの掲示板やメールで受け付ける。この授業は、発達・教育の理論 I と併せて履修することが望ましい。

【Outline and objectives】

This course introduces the current education reform in Japan and the discussion of its social background and problems to students taking this course.

社会教育概論 I / 生涯学習論 I

荒井 容子

配当年次/単位：2～4 年次 / 2 単位

開講時期：春学期授業/Spring

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人々の学習とそれを支える社会教育実践に関わるさまざまな事例や考え方について、受講生同士の集団討議という、すぐれた社会教育実践における学習方法の一端を実体験しながら、人々の学習とそれを支える社会教育実践についての理解を深めていく。

【到達目標】

人々の学習・学習運動とそれを支える社会教育実践の実際について知り、そのあり方について深く考える力を養うことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

多様な実践事例、学習・実践に関する批判的理論、また社会教育職員という実践者からの見方などを紹介する。

講義期間中、各自に何らかの社会教育事業に参加して課題2を提出してもらい、講義最終日に、簡単な報告レポートをもって報告してもらう（参加の課題は若干修正する場合がある）。

毎回課す宿題と講義後の感想・意見への応答は必要に応じて講義中に行う。

授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

全学行動制限レベル「0」になるまでは、オンラインによるバーチャル教室を使用して授業をすすめる。各回の授業計画の変更はその都度、学習支援システムに提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第1ラウンド 社会教育のイメージ	「社会教育のイメージ」について－バズ・セッションと概念説明－
2	第1ラウンド 社会教育のイメージ	日本の社会教育活動事例の紹介
3	第1ラウンド 社会教育のイメージ	社会教育のイメージについてのバズセッション
4	第2ラウンド 「成人の学習」をどう考えるか	「学ぶ」とはどういうことか 1
5	第2ラウンド 「成人の学習」をどう考えるか	「学ぶ」とはどういうことか 2
6	第3ラウンド 成人識字教育の実践と理論に学ぶ	成人の識字・非識字について 貧困と識字
7	第3ラウンド 成人識字教育の実践と理論に学ぶ	パウロ・フレイレの識字教育実践と理論 貧困・支配の中での学習の課題と方法
8	第4ラウンド 日本における社会教育実践の蓄積	生活記録運動とその後の「書く」学習の展開
9	第4ラウンド 日本における社会教育実践の蓄積	公害と戦う学習運動の歴史1
10	第4ラウンド 日本における社会教育実践の蓄積	公害と戦う学習運動の歴史2
11	第5ラウンド 社会教育職員による社会教育実践事例	社会教育職員の実践史、実践事例1
12	第5ラウンド 社会教育職員による社会教育実践事例	社会教育職員の実践史、実践事例2
13	第6ラウンド 現代の社会教育実践・社会教育運動	現代社会教育政策・成人教育政策の矛盾（生涯学習論の矛盾・学習権宣言ほか）
14	第6ラウンド 現代の社会教育実践・社会教育運動	社会教育事業参加 報告会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、事前に宿題を提出してもらう。宿題の中には、オンラインで提供するビデオ鑑賞したうえで書いてもらうものもある。宿題として提出したものは手元で見ることができるようにおき、講義当日はそれをもとにバズセッション（グループ討議）を行う。グループ討議の内容はその場で担当者が記録し、記録者はそれをもとに、直後に行う全体の場で報告する。このグループ討議の記録は担当者が講義後に、学習支援システムを通じて提出してもらう。講義の感想や討議をへの追加の意見等、感想・意見は講義後に学習支援システムを通じて提出してもらう。

従って、本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

講義時に、適宜、講義内容に合わせた資料を提示する。

【参考書】

社会教育全国協議会編『社会教育・生涯学習ハンドブック』エイデル研究所（第7版）2005年、（第8版）2011年、（第9版）2017年。

【成績評価の方法と基準】

社会教育事業参加レポート（課題2）の提出、報告会に参加しての報告、最終レポート（課題1）の提出の三つは単位習得の必須条件となる。評価は上記三つのうち前二者で40%、後一者で60%とする。他に講義中に行うグループ討議前後等の感想文は最終レポートの課題と関わる可能性が高いため、積極的に取り組んでおくことを推奨する。

【学生の意見等からの気づき】

「感想・意見メモ」は熟考する機会として配布していること、次週までは提出することを認めていること、この授業では評価の対象にしていないことをさらに周知する必要。また、返却方法への不満に対応するには物理的に無理があることを伝えた上で、学生たちに返却の必要の有無を尋ねておく必要がある。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムによる「お知らせ」を通じて講義に関する指示を出すこともあるので、「お知らせ」のeメールが確実に自分に届くようにしておくこと。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to gain understanding of people's learning and social education that support it. Students will discuss about each cases and ideas in "buzz sessions" (small-group discussions) and will give presentations in the classroom.

社会教育概論 I / 生涯学習論 I

荒井 容子

配当年次/単位：2～4 年次 / 2 単位

開講時期：春学期授業/Spring

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

成人の学習とそれを支える社会教育実践に関わるさまざまな事例や考え方について、受講生同士の集団討議という、すぐれた社会教育実践における学習方法の一端を実体験しながら、人々の学習とそれを支える社会教育実践についての理解を深めていく。

【到達目標】

人々の学習・学習運動とそれを支える社会教育実践の実際について知り、そのあり方について深く考える力を養うことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

多様な実践事例、学習・実践に関する批判的理論、また社会教育職員という実践者からの見方などを紹介する。

講義期間中、各自に何らかの社会教育事業に参加して課題2を提出してもらい、講義最終日に、簡単な報告レポートをもって報告してもらう（参加の課題は若干修正する場合がある）。

毎回課す宿題と講義後の感想・意見への応答は必要に応じて講義中に行う。

授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

全学行動制限レベル「0」になるまでは、オンラインによるバーチャル教室を使用して授業をすすめる。各回の授業計画の変更はその都度、学習支援システムに提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第1ラウンド 社会教育のイメージ	「社会教育のイメージ」について－バズ・セッションと概念説明－
2	第1ラウンド 社会教育のイメージ	日本の社会教育活動事例の紹介
3	第1ラウンド 社会教育のイメージ	社会教育のイメージについてのバズセッション
4	第2ラウンド 「成人の学習」をどう考えるか	「学ぶ」とはどういうことか 1
5	第2ラウンド 「成人の学習」をどう考えるか	「学ぶ」とはどういうことか 2
6	第3ラウンド 成人識字教育の実践と理論に学ぶ	成人の識字・非識字について 貧困と識字
7	第3ラウンド 成人識字教育の実践と理論に学ぶ	パウロ・フレイレの識字教育実践と理論 貧困・支配の中での学習の課題と方法
8	第4ラウンド 日本における社会教育実践の蓄積	生活記録運動とその後の「書く」学習の展開
9	第4ラウンド 日本における社会教育実践の蓄積	公害と戦う学習運動の歴史1
10	第4ラウンド 日本における社会教育実践の蓄積	公害と戦う学習運動の歴史2
11	第5ラウンド 社会教育職員による社会教育実践事例	社会教育職員の実践史、実践事例1
12	第5ラウンド 社会教育職員による社会教育実践事例	社会教育職員の実践史、実践事例2
13	第6ラウンド 現代の社会教育実践・社会教育運動	現代社会教育政策・成人教育政策の矛盾（生涯学習論の矛盾・学習権宣言ほか）
14	第6ラウンド 現代の社会教育実践・社会教育運動	社会教育事業参加 報告会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、事前に宿題を提出してもらう。宿題の中には、オンラインで提供するビデオ鑑賞したうえで書いてもらうものもある。宿題として提出したものは手元で見ることができるようにおき、講義当日はそれをもとにバズセッション（グループ討議）を行う。グループ討議の内容はその場で担当者が記録し、記録者はそれをもとに、直後に行う全体の場で報告する。このグループ討議の記録は担当者が講義後に、学習支援システムを通じて提出してもらう。講義の感想や討議をへの追加の意見等、感想・意見は講義後に学習支援システムを通じて提出してもらう。

従って、本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

講義時に、適宜、講義内容に合わせた資料を提示する。

【参考書】

社会教育全国協議会編『社会教育・生涯学習ハンドブック』エイデル研究所（第7版）2005年、（第8版）2011年、（第9版）2017年。

【成績評価の方法と基準】

社会教育事業参加レポート（課題2）の提出、報告会に参加しての報告、最終レポート（課題1）の提出の三つは単位習得の必須条件となる。評価は上記三つのうち前二者で40%、後一者で60%とする。他に講義中に行うグループ討議前後等の感想文は最終レポートの課題と関わる可能性が高いので、積極的に取り組んでおくことを推奨する。

【学生の意見等からの気づき】

「感想・意見メモ」は熟考する機会として配布していること、次週までは提出することを認めていること、この授業では評価の対象にしていないことをさらに周知する必要。また、返却方法への不満に対応するには物理的に無理があることを伝えた上で、学生たちに返却の必要の有無を尋ねておく必要がある。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムによる「お知らせ」を通じて講義に関する指示を出すこともあるので、「お知らせ」のeメールが確実に自分に届くようにしておくこと。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to gain understanding of people's learning and social education that support it. Students will discuss about each cases and ideas in "buzz sessions" (small-group discussions) and will give presentations in the classroom.

社会教育概論Ⅱ／生涯学習論Ⅱ

荒井 容子

配当年次／単位：2～4 年次／2 単位

開講時期：春学期授業/Spring

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会教育・成人教育の歴史を、人々の学習運動と公権力による社会教育政策（法制度及び教育活動）の推進という二つの方向からとらえ、その関係について、史実をもとに考えていく。

【到達目標】

人々の学習運動と公権力による社会教育政策それぞれの展開と、「社会教育」をめぐる相互の展開についての理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

日本の社会教育史について講義したのち、他の国々の成人教育史について概観し、最後に、国際的な成人教育運動について紹介する。講義内容については毎回バズ・セッション（受講者同士の小グループ討議と討議結果の全体での共有）を行い、理解を深める。毎回宿題、講義の感想・意見の提出を課すが、これについては講義時に必要に応じて講義時に応答する。課題については、最後の講義日に相互に検討する報告会を行なう。全学行動制限レベル「0」になるまでは、オンラインによるバーチャル教室を使用して授業をすすめる。各回の授業計画の変更はその都度、学習支援システムに提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	社会教育・成人教育の歴史の概要	社会教育・成人教育の歴史をどう把握するか
2	第1ラウンド 日本の社会教育政策・運動の歴史－第二次世界大戦以前	近代化政策と自由民権運動の中での学習運動 1
3	第1ラウンド 日本の社会教育政策・運動の歴史－第二次世界大戦以前	①近代化政策と自由民権運動の中での学習運動 2 ビデオ鑑賞（宿題）をもとに
4	第1ラウンド 日本の社会教育政策・運動の歴史－第二次世界大戦以前	②「通俗教育」政策の展開 「社会教育」制度化と民衆の自己教育運動の展開（労働学校運動、自由大学運動）
5	第1ラウンド 日本の社会教育政策・運動の歴史－第二次世界大戦以前	社会教育制度の完成と崩壊
6	第2ラウンド 日本の社会教育政策・運動の歴史－第二次世界大戦以後	戦後社会教育法制度の新たな建設と統制政策の復活・自己教育運動の再展開
7	第2ラウンド 日本の社会教育政策・運動の歴史－第二次世界大戦以後	社会教育「民主化」運動と多様な自己教育運動・社会教育運動の展開 「学習権」「権利としての社会教育」と住民参加の展開
8	第2ラウンド 日本の社会教育政策・運動の歴史－第二次世界大戦以後	自治体社会教育行政の蛇行－行政「合理化」政策と「生涯学習」政策の登場
9	第2ラウンド 日本の社会教育政策・運動の歴史－第二次世界大戦以後	社会教育政策の後退・変質と社会教育を求める住民・職員の新たな運動
10	第3ラウンド 世界の成人教育史・運動史	英国、スカンジナビア諸国、北アメリカ、ラテンアメリカでの成人教育運動
11	第3ラウンド 世界の成人教育史・運動史	抑圧に対する抵抗としての文化運動 軍事政権下時代のチリ（ラテンアメリカ）での民衆文化運動
12	第3ラウンド 世界の成人教育史・運動史	成人教育運動の国際的ネットワークの展開
13	第3ラウンド 世界の成人教育史・運動史	社会変革における学習運動・成人教育運動の力 シリアでの青年たちによる「秘密」図書館づくり
14	第4ラウンド 総括討論会	社会教育・成人教育の歴史から、その今後あり方を考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、事前に宿題を提出してもらう。宿題の中には、オンラインで提供するビデオ鑑賞したうえで書いてもらうものもある。宿題として提出したものは手元で見ることができるようにしておき、講義当日はそれをもとにバズセッション（グループ討議）を行う。グループ討議の内容はその場で担当者が記録し、記録者はそれをもとに、直後に行う全体の場で報告するが、このグループ討議の記録は担当者が講義後に、学習支援システムを通じて提出してもらう。講義の感想や討議をへての追加の意見等、感想・意見は講義後に学習支援システムを通じて提出してもらう。従って、本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

講義時に、適宜、講義内容に合わせた資料を提示する。

【参考書】

藤田秀雄、大串隆吉編『日本社会教育史』エイデル研究所 1984 年 12 月。
千野陽一監修『現代日本の社会教育』エイデル研究所 2015 年 9 月。

【成績評価の方法と基準】

最終レポート（課題・期限は講義内で提示）を 60 %、講義内で適宜課す「宿題」と「感想・意見メモ」等は 40 % で評価する。最終レポートの課題は通常、講義を受講していなければ執筆できない内容になるので積極的に講義に参加して欲しい。また講義最終回では、最終レポートをもとにしたバズ・セッションを行う。このバズ・セッションへの参加は単位取得のための必要条件となる。

【学生の意見等からの気づき】

配布資料はすべて学習支援システムを通じて提供することにしたので、煩雑さをさけることができた。特に提供する資料が多い場合には、選択して宿題に回答できるように配慮したことで、学生への負担を軽減できた。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムによる「お知らせ」の e メールが確実に自分に届くようにしておくこと。

【Outline and objectives】

This course will review the history of social education in Japan and adult education in the other countries. Some cases of adult education movements and policies will be introduced. Students will discuss about them in “buzz sessions” (small-group discussions) and will give presentations in the classroom.

社会教育概論Ⅱ／生涯学習論Ⅱ

荒井 容子

配当年次／単位：2～4 年次／2 単位

開講時期：秋学期授業/Fall

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会教育・成人教育の歴史を、人々の学習運動と公権力による社会教育政策（法制度及び教育活動）の推進という二つの方向からとらえ、その関係について、史実をもとに考えていく。

【到達目標】

人々の学習運動と公権力による社会教育政策それぞれの展開と、「社会教育」をめぐる相互の展開についての理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

日本の社会教育史について講義したのち、他の国々の成人教育史について概観し、最後に、国際的な成人教育運動について紹介する。講義内容については毎回バズ・セッション（受講者同士の小グループ討議と討議結果の全体での共有）を行い、理解を深める。毎回宿題、講義の感想・意見の提出を課すが、これについては講義時に必要に応じて講義時に応答する。課題については、最後の講義日に相互に検討する報告会を行なう。全学行動制限レベル「0」になるまでは、オンラインによるバーチャル教室を使用して授業をすすめる。各回の授業計画の変更はその都度、学習支援システムに提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	社会教育・成人教育の歴史の概要	社会教育・成人教育の歴史をどう把握するか
2	第1ラウンド 日本の社会教育政策・運動の歴史－第二次世界大戦以前	近代化政策と自由民権運動の中での学習運動 1
3	第1ラウンド 日本の社会教育政策・運動の歴史－第二次世界大戦以前	①近代化政策と自由民権運動の中での学習運動 2 ビデオ鑑賞（宿題）をもとに
4	第1ラウンド 日本の社会教育政策・運動の歴史－第二次世界大戦以前	②「通俗教育」政策の展開 「社会教育」制度化と民衆の自己教育運動の展開（労働学校運動、自由大学運動）
5	第1ラウンド 日本の社会教育政策・運動の歴史－第二次世界大戦以前	社会教育制度の完成と崩壊
6	第2ラウンド 日本の社会教育政策・運動の歴史－第二次世界大戦以後	戦後社会教育法制度の新たな建設と統制政策の復活・自己教育運動の再展開
7	第2ラウンド 日本の社会教育政策・運動の歴史－第二次世界大戦以後	社会教育「民主化」運動と多様な自己教育運動・社会教育運動の展開 「学習権」「権利としての社会教育」と住民参加の展開
8	第2ラウンド 日本の社会教育政策・運動の歴史－第二次世界大戦以後	自治体社会教育行政の蛇行－行政「合理化」政策と「生涯学習」政策の登場
9	第2ラウンド 日本の社会教育政策・運動の歴史－第二次世界大戦以後	社会教育政策の後退・変質と社会教育を求める住民・職員の新たな運動
10	第3ラウンド 世界の成人教育史・運動史	英国、スカンジナビア諸国、北アメリカ、ラテンアメリカでの成人教育運動
11	第3ラウンド 世界の成人教育史・運動史	抑圧に対する抵抗としての文化運動 軍事政権下時代のチリ（ラテンアメリカ）での民衆文化運動
12	第3ラウンド 世界の成人教育史・運動史	成人教育運動の国際的ネットワークの展開
13	第3ラウンド 世界の成人教育史・運動史	社会変革における学習運動・成人教育運動の力 シリアでの青年たちによる「秘密」図書館づくり
14	第4ラウンド 総括討論会	社会教育・成人教育の歴史から、その今後あり方を考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、事前に宿題を提出してもらう。宿題の中には、オンラインで提供するビデオ鑑賞したうえで書いてもらうものもある。宿題として提出したものは手元で見ることができるようにしておき、講義当日はそれをもとにバズセッション（グループ討議）を行う。グループ討議の内容はその場で担当者が記録し、記録者はそれをもとに、直後に行う全体の場で報告するが、このグループ討議の記録は担当者が講義後に、学習支援システムを通じて提出してもらう。講義の感想や討議をへての追加の意見等、感想・意見は講義後に学習支援システムを通じて提出してもらう。従って、本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

講義時に、適宜、講義内容に合わせた資料を提示する。

【参考書】

藤田秀雄、大串隆吉編『日本社会教育史』エイデル研究所 1984 年 12 月。
千野陽一監修『現代日本の社会教育』エイデル研究所 2015 年 9 月。

【成績評価の方法と基準】

最終レポート（課題・期限は講義内で提示）を 60 %、講義内で適宜課す「宿題」と「感想・意見メモ」等は 40 % で評価する。最終レポートの課題は通常、講義を受講していなければ執筆できない内容になるので積極的に講義に参加して欲しい。また講義最終回では、最終レポートをもとにしたバズ・セッションを行う。このバズ・セッションへの参加は単位取得のための必要条件となる。

【学生の意見等からの気づき】

配布資料はすべて学習支援システムを通じて提供することにしたので、煩雑さをさけることができた。特に提供する資料が多い場合には、選択して宿題に回答できるように配慮したことで、学生への負担を軽減できた。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムによる「お知らせ」の e メールが確実に自分に届くようにしておくこと。

【Outline and objectives】

This course will review the history of social education in Japan and adult education in the other countries. Some cases of adult education movements and policies will be introduced. Students will discuss about them in “buzz sessions” (small-group discussions) and will give presentations in the classroom.

表象文化論 A

高橋 愛

配当年次／単位：1～4 年次／2 単位

開講時期：春学期授業/Spring

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間は自らが生きる世界を多様なシステムを通じて表象し、その行為によって、たえず文化を創造、展開してきた。本授業の目的は、さまざまな文化事象の歴史的な脈や時代の政治的・社会的背景を検討し、表象を成り立たせている諸要素や様態について考察することである。

【到達目標】

本授業では、言語テキスト、絵画、写真、映画、建築などのジャンルを横断しながら、個々の作品がいかなる歴史的・社会的文脈において制作され、いかなる装置によって表象されたのかを考え、文化事象を読み解く方法を提示する。それを手がかりとして、受講生は各自が関心を持つ対象にアプローチし、広い視野をもって、解析する。さらに、自ら適切に表現することもできる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

・講義形式で進め、授業の内容に関する受講生の質問等にも応じ、議論を深める。具体的な方法については「学習支援システム」の「お知らせ」に掲示する。
・授業のはじめに、前回の課題等で示された質問や意見からいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業内容と方法の説明
2	中世（1）	聖地巡礼とロマネスク聖堂
3	中世（2）	ゴシック大聖堂と聖母崇拜
4	ルネサンス	フランス・ルネサンス運動
5	古典時代（1）	ヴェルサイユ宮殿と宮廷文化
6	古典時代（2）	市民社会と思想・文化
7	近代（1）	ナポレオン伝説
8	近代（2）	産業革命とレアリスムの興隆
9	近代（3）	オスマンのバリ大改造と首都風景、芸術活動
10	近代（4）	世紀末芸術
11	現代（1）	エッフェル塔とパリ
12	現代（2）	モダニズム
13	現代（3）	今世紀にみる文化の継承と発展
14	まとめと解説	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業内容に関するレポート課題（中間・期末の 2 回）で評価する。成績評価の内訳は、中間レポート（50%）と期末レポート（50%）とする。

【学生の意見等からの気づき】

2021 年度も随時アクチュアルなテーマを交えて授業を進めたい。

【Outline and objectives】

The main aims of this course are to help students understand the various cultural phenomena in Europe and deepen knowledge of cultural representation.

表象文化論 B

野田 吉郎

配当年次／単位：2～4 年次／2 単位

開講時期：秋学期授業/Fall

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、「表象」の分析という観点から、日本の戦後美術へのさまざまなアプローチを試みる。また、20 世紀後半から現代までの通史的な考察を行い、世界美術史における日本の戦後美術、現代美術の特殊性について学ぶ。

【到達目標】

- 1) 日本の戦後美術に関する基礎知識を身につける。
- 2) 現代美術の作品を多角的に分析する能力を養う。
- 3) 獲得した知識と能力を美術以外の芸術文化の学習に生かすことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

レジュメとパワーポイントを用いて講義を行う。課題等の提出とフィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	シラバスの解説と補足、導入
2	記憶	原爆の図
3	物質	肉体絵画
4	記録	ルポルタージュ絵画
5	アクション（1）	具体美術協会
6	アクション（2）	反芸術のパフォーマンス
7	ジェンダー	アンチ・アクション
8	映像鑑賞	未定
9	メディア	実験工房
10	環境	環境芸術、万博芸術
11	制度（1）	もの派
12	制度（2）	美術館
13	歴史	悪い場所
14	まとめと期末試験	総論、試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 1) 授業で指示された課題（リアクションペーパー、レポート）に取り組む。
- 2) 授業で紹介された参考文献を読み、知識を広げる（本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とする）。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

授業の中で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点…… 20 %
レポート課題…… 30 %
期末試験…… 50 %

【学生の意見等からの気づき】

社会学部で開講する意義を確かめながら授業を進めていきたいと考える。

【その他の重要事項】

授業に関連して展覧会鑑賞を求めることがある。その際の費用は自己負担となる。

【Outline and objectives】

This course introduces students to various approaches to postwar Japanese art.

メディアと人間 I / 比較文化論 I

李 舜志

配当年次/単位：1～4 年次 / 2 単位

開講時期：春学期授業/Spring

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

メディアと人間が切っても切り離せない関係で結ばれていることを学び、メディアの分析、設計、表現に資する基礎的な知見を習得する。メディアと人間 I は基礎編として主に理論を学び、メディアと人間 II では応用編として作品分析を多く行う予定である。

【到達目標】

書物やラジオ、映画などの各メディアがどのように誕生し、人間社会にどのような影響を与えたのかを大まかに理解する。それにより自分なりの「メディア観」を作り上げていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

基本的に、各回ごとに具体的なメディア（書物やラジオ、漫画など）を取り上げつつ、その歴史的意義を考察する。リアクションペーパーに沿って授業内容を変更する場合もある。授業内でリアクションペーパーによる感想や質問に回答する時間も設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の概要と評価方法、課題について説明する。
2	文字（アルファベット）の誕生	アルファベットの誕生が人間社会に与えたインパクトについて学ぶ。
3	書物の誕生	ヨーロッパにおける書物の誕生を例に、書物の生産・流通・消費が人間社会に与えた影響について学ぶ。
4	学校の誕生	書物をはじめとする「教育メディア」を取り上げつつ、学校の誕生について学ぶ。
5	絵本の誕生	子ども向け絵本の誕生にまでさかのぼり、子ども観の変遷と現代的課題を学ぶ。
6	新聞の誕生	新聞に関する知見をもとにして、近代ジャーナリズムの歴史について学ぶ。
7	ラジオの誕生	玉音放送を取り上げつつ、ラジオの誕生がもたらしたインパクトについて学ぶ。
8	写真の誕生	写真が誕生当時与えたインパクトと、加工が容易になった現代における写真の意義について学ぶ。
9	映画の誕生	ニュースや娯楽、プロパガンダなど、黎明期の多面的な映画について学ぶ。
10	「被災地」の誕生	「ヒロシマ」や「ナガサキ」がいかにメディアによって構築されてきたのかについて学ぶ。
11	カルチュラル・スタディーズの介入	カルチュラル・スタディーズの視点がメディア論にもたらしたものについて学ぶ。

12	「人間」の条件	ハンナ・アレントの議論を参考に、現代のメディア環境における「人間」の条件について学ぶ。
13	インターネットは民主主義の敵か	インターネットの持つ政治的なポテンシャルがどのように議論されているかについて学ぶ。
14	アテンション・エコノミーの誕生	「注意」を奪い合う現代社会について、その問題点について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

佐藤卓己『現代メディア史 新版』、岩波書店、2018 年。
吉見俊哉『メディア文化論 メディアを学ぶ人のための 15 話 改訂版』、有斐閣アルマ、2012 年。
石田英敬『大人のためのメディア論講義』、筑摩書房、2016 年。

【成績評価の方法と基準】

前半（第一回～第七回）のレポート：50 %
後半（第八回～第十四回）のレポート：50 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline and objectives】

To learn the relationship between media and human being and acquire knowledges and skills regarding analyze, design and expression of media.

メディアと人間Ⅱ／比較文化論Ⅱ

李 舜志

配当年次／単位：1～4 年次／2 単位

開講時期：秋学期授業/Fall

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

メディアと人間が切っても切り離せない関係で結ばれていることを学び、メディアの分析、設計、表現に資する基礎的な知見を習得する。メディアと人間Ⅰは基礎編として主に理論を学び、メディアと人間Ⅱでは応用編として作品分析を多く行う予定である。

【到達目標】

映画や漫画、テレビ番組などのコンテンツを通して、メディアがどのような意図のもとで設計・表現されているのか、そしてそれらをどのように分析すればよいのか、理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

コンテンツの持つ歴史的意義と、それが現代においてどのように反省的に捉えられるのか考察する。リアクションペーパーに沿って授業内容を変更する場合もある。授業内でリアクションペーパーによる感想や質問に回答する時間も設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の概要と評価方法、課題について説明する。
2	ナチズムと映画	ナチズムのプロパガンダ映画を分析する。
3	戦争はどのように描かれてきたか	第二次世界大戦が日本のメディアでどのように描かれてきたか、いくつかの作品を参照して分析する。
4	「ショア」と「シンドラのリスト」	ナチスによるユダヤ人虐殺の表象をめぐる議論と作品を分析する。
5	絵本と子どもの哲学	子ども向けのメディアである絵本が哲学と結び付けられる意義を分析する。
6	近代日本文学の起源	「私」や「国語」といった自明の概念が、近代日本文学というメディアと共に構築されてきた経緯を分析する。
7	漫画、虚構と現実	漫画表現がどのように現実とコミットするのか分析する。
8	少女漫画とジェンダー	少女漫画がジェンダー観とどのように結び付き、また刷新するのか分析する。
9	桐島、スクールカースト	「桐島、部活やめるってよ」を中心に、スクールカーストとその描かれた方を分析する。
10	ビデオゲーム	ゲーム脳、e スポーツ、ゲーミフィケーションなど、社会の様々な領域に進出するゲームについて分析する。
11	メディアアート	メディアアートの歴史と作品を通して、技術と芸術の関係について分析する。
12	写真、他者の苦痛へのまなざし	戦争報道写真を例に、写真から他者の苦痛を感受することができるか分析する。
13	リテラシー教育	近年のリテラシー教育への関心の高まりを確認し、これからのリテラシー教育について分析する。
14	メディアと人間総まとめ	メディアと人間Ⅰ・Ⅱを通したまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

前半（第一回～第七回）のレポート：50%

後半（第八回～第十四回）のレポート：50%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

必須ではないが、メディアと人間Ⅰを履修していることが望ましい。

【Outline and objectives】

To learn the relationship between media and human being and acquire knowledges and skills regarding analyze, design and expression of media.

マス・コミュニケーション論

加藤 徹郎

配当年次／単位：2～4 年次／2 単位

開講時期：春学期授業/Spring

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

マス・コミュニケーションにおける理論的解釈の変遷を解説しながら、それを応用した現代的課題についても考察を加える。

【到達目標】

マス・コミュニケーション理論を単に学説史として把握するのではなく、現代のメディア現象をとらえる視座を得ることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

それぞれのマス・コミュニケーション研究を紹介を通じ、その社会的背景や現代にもつながる課題を考えていく。

※ 授業内容は変更する場合があります。

※ フィードバックは、授業冒頭で前回授業のリアクション・ペーパーに返答する形で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業ガイダンス	授業内容・履修方法などの確認
第 2 回	メディア史概説	マス・メディアの発達史を概説する。
第 3 回	弾丸効果モデル	マス・メディアの効果が強調されるケースの解説。
第 4 回	限定効果モデル	マス・メディアの効果への疑義が問われるケースの解説。
第 5 回	中範囲の理論	議題設定理論や世論の構築過程などの解説。
第 6 回	メディアイベント論	マス・メディアの効果の見直しについて解説。
第 7 回	デジタルメディア論	デジタル時代の新たなメディア論についての解説。
第 8 回	強力効果論の捉えなおし①	沈黙のらせんと第三者効果。
第 9 回	強力効果論の捉えなおし②	培養理論の解説。
第 10 回	カルチュラル・スタディーズ①	エンコーディング／デコーディングモデルの解説。
第 11 回	カルチュラル・スタディーズ②	物語論を基礎にした映画・ドラマなどの分析手法について。
第 12 回	カルチュラル・スタディーズ③	物語論を基礎にしたバラエティ番組などの分析手法について。
第 13 回	普及過程論①	情報の社会的浸透過程の考察。
第 14 回	普及過程論②	量的調査によるメディアコンテンツへの接近。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の準備・復習時間は、それぞれ1時間程度とします。授業内容をもとに、平日頃から自分の「情報行動」について「絶えず問い直す」ようにしてください。理解が深まるはずです。

【テキスト（教科書）】

使用しません（授業中、適宜指示します）。

【参考書】

毎回、授業プリントに参考文献を提示します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験によって評価する（100％）。

【学生の意見等からの気づき】

大教室の授業ですが、なるべく双方向で意見を言い合える講義環境にしたいと考えます。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of general knowledge of mass media.

保健体育科教育法 I

小田 佳子

配当年次／単位：2～4 年次／2 単位

開講時期：春学期授業/Spring

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学校教育の法的根拠である学習指導要領（保健体育）の変遷を踏まえ、「体育」における学習指導要領（中学校・高等学校）に示される目標・内容・学習指導計画・指導評価などについて理解し、修得する。加えて、学習指導の基本的・実務的事項についての検討や学習指導案作成及び評価の方法について学ぶ。

【到達目標】

中等教育における保健体育科教育の目的・目標・学習内容、学習指導の留意事項、学習評価等を理解し、将来の体育教師として勤めるための知識や能力、態度を身につける。また、ICT(PC やタブレット)や教材を活かした体育の授業づくりの基礎知識について学び、体育(分野)学習指導計画の作成によって「生きる力」の育成並びに生涯スポーツの推進などに貢献することのできる力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

中学校・高等学校における保健体育科教育の目的・目標、役割を明らかにし、学習指導の基本的・実務的事項について検討する。

講義内容としては、学校教育の法的関係、保健体育科教育の変遷より「体育」における学習指導要領の示す目標・内容・学習指導計画・学習評価・教師像などについてする。

※本講義は、対面とオンラインのハイブリット型授業を予定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	体育科教育の必要性 ※対面型	体育科教育とは何か
2	体育科教育の概念 ※対面型	教育課程における位置づけ
3	保健体育教師の心得 ※対面型	姿勢・態度、服装、生徒との関わり方
4	学習指導要領 変遷 (1) ※オンライン型	法的根拠 (憲法・教育基本法・学校教育法・施行規則等)
5	学習指導要領 変遷 (2) ※オンライン型	戦前から現在の体育の捉え方
6	学習指導要領 要点 (1) ※オンライン型	教科及び科目の目標 (中学校・高等学校)
7	学習指導要領 要点 (2) ※オンライン型	領域及び内容の取扱い 授業時数
8	授業づくり① ※オンライン型	A 体づくり運動
9	授業づくり② ※オンライン型	B 器械運動
10	授業づくり③ ※オンライン型	C 陸上競技
11	授業づくり④ ※オンライン型	D 水泳
12	学習指導案作成 (1) ※対面型	E 球技
13	学習指導案作成 (2) ※対面型	F 武道
14	まとめ ※対面型 → 試験	G ダンス H 体育理論 指導計画 (年間・単元・単元時間/ 導入・展開・整理) 学習評価のねらい、方法 単元目標・単元時間計画/ 単元における評価基準の設定方法 学習指導案の提出 学習指導要領の理解確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・毎授業ごとに、A4 一枚程度の内容要約を行っておくこと

・学習指導要領の各領域について熟読すること

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・中学校学習指導要領解説（平成 29 年告示） 保健体育編（東山書房）

・高等学校学習指導要領解説（平成 30 年告示） 保健体育編 体育編（東山書房）

・中学校検定教科書『新中学保健体育』（学研）

・高等学校検定教科書『最新高等保健体育』（大修館書店）

※教科書については多摩キャンパスの生協で購入可

【参考書】

- ・保健体育科教育法（大修館書店）
- ・新版体育科教育学入門（大修館書店）

【成績評価の方法と基準】

- ・試験 50%
- ・課題レポート・発表 30%
- ・学習指導案 20%

【学生の意見等からの気づき】

- ・試験のみの評価ではないため、毎回のプリント・レポートや学習指導案作成の取り組み方、授業態度など毎回の授業に精一杯参加すること

【その他の重要事項】

- ・本講義は対面型授業（集中講義）と遠隔型授業（オンライン）の組合せて、ハイブリッド型の授業を展開する。
- ・授業の展開によっては、若干の変更があり得る。

【Outline and objectives】

These lectures will make you understand,purpose,target,learning contents,educational guidance and learning evaluation of Health and Physical Education.To acquire the knowledge,the ability and most important attitude needed for becoming a skillful Health and Physical Education teacher.

保健体育科教育法Ⅱ

鬼頭 英明

配当年次／単位：2～4 年次／2 単位

開講時期：秋学期授業/Fall

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中学校及び高等学校の学習指導要領「保健」が果たすべき役割とは何か、保健で何をどのように学ぶことが効果的か、「保健」の授業を通じて育成すべき資質・能力とは何か、を理解し、指導実践につなげられる指導力を育成することを旨とする。

【到達目標】

保健体育科の教科及び科目の目標、学習内容及び学習内容の取扱い、学習評価などを理解し、授業論・指導論を中心とした授業研究、ICT(PC やタブレット) や教材を活かした保健の授業づくりの基礎的知識について学ぶ。「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を目指すとともに、生徒が保健の「見方・考え方」を自在に働かせることができるようにすることを旨とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

「保健」の指導内容や効果的な指導法などについて理解を進めるとともに、教材活用や授業づくりのためのポイントについても学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	保健科教育とは何か	学校保健の中の保健科教育
2	保健科教育のあゆみ	教育課程における位置づけ、歴史的変遷と考え方
3	カリキュラム	3 校種のカリキュラム構成と系統性
4	中学校学習指導要領の目標	三つの目標の考え方
5	高等学校学習指導要領の目標	ヘルスプロモーションの考え方
6	中学校における大単元の内容	中学校（4 単元）におけるねらいとポイント
7	高等学校における大単元の内容	高等学校（4 単元）における主なねらいとポイント
8	授業づくり①	様々な指導方法 多様な授業スタイル
9	授業づくり②	ICT 活用 (実習・実験などを効果的に行うための ICT 活用方法)
10	授業づくり③	評価方法
11	授業づくり④	年間指導計画と単元計画
12	指導上の課題	現状と問題点、連携の在り方
13	学習指導案作成 (1)	単元目標と単元における評価規準の設定方法
14	学習指導案作成 (2)	本時の目標・本時案と学習活動における評価規準の設定方法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・毎授業ごとに、A4 一枚程度のレポートを作成すること。
- ・中学校及び高等学校の保健の教科書は熟読することを求める。
- ・日常的に保健の授業内容に関わる関連情報について敏感に収集し、発言できるようにしておくこと。
- 準備学習・復習時間は各 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

- ・中学校学習指導要領解説（平成 29 年告示）保健体育編（東山書房）
- ・高等学校学習指導要領解説（平成 30 年告示）保健体育編 体育編（東山書房）
- ・中学校検定教科書『新中学保健体育』（学研）
- ・高等学校検定教科書『最新高等保健体育』（大修館書店）

【参考書】

- 保健科教育法入門 日本保健科教育学会編 大修館書店
- 保健科教育法 森良一編著 東洋館出版社

【成績評価の方法と基準】

- ・試験 50 %
- ・小レポート・小テスト 20 %
- ・学習指導案 20 %
- ・授業への積極的な取り組み 10%

【学生の意見等からの気づき】

積極的な取り組みと発言を期待する

【その他の重要事項】

授業の進展状況に応じ、内容の若干の変更が予想されるので、進捗状況について留意すること。

【Outline and objectives】

These lectures will make you understand, purpose, learning contents, educational guidance and learning evaluation of Health Education. In these lectures I talk about the basic knowledge of Health Education making use of ICT and teaching materials. To acquire the knowledge, the ability and most important attitude needed for becoming a skillful Health and Physical Education teacher.

保健体育科教育法Ⅲ

永木 耕介

配当年次／単位：3～4 年次／2 単位

開講時期：秋学期授業/Fall

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中学校・高等学校における体育科教育法について、模擬授業を通じた具体的な授業づくりと実践的指導力の養成を目指す。

【到達目標】

学習指導案の作成、評価法等の検討ができるようになるとともに、模擬授業を通して、説明力やコミュニケーション能力の向上等、実践につながる指導力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

①グループによって選択した運動領域について、目標の設定、教材・教具、指導法、評価法等を検討し、単元計画を踏まえた学習指導案の作成を行う。②グループごとで指導案にもとづいた模擬授業を実施し、受講者全員による振り返りによって各模擬授業を評価し合う。それらを踏まえ、最終的に各自が改善した学習指導案を提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業計画、成績評価等について説明、グループ分け
2	学習指導案の作成①	各グループによる運動領域の選択、単元目標の設定、単元計画の作成
3	学習指導案の作成②	各グループによる効果的な教材・教具、指導方法、指導形態等の検討
4	模擬授業の準備①	各グループによる模擬授業のシミュレーションと時間計画の練り上げ
5	模擬授業① 「体づくり運動」	グループ①による模擬授業の実施。実施後、教師役の自己評価、生徒役の評価
6	模擬授業② 「器械運動」	グループ②による模擬授業の実施。実施後、教師役の自己評価、生徒役の評価
7	模擬授業③ 「陸上競技」	グループ③による模擬授業の実施。実施後、教師役の自己評価、生徒役の評価
8	模擬授業④ 「水泳」	グループ④による模擬授業の実施。実施後、教師役の自己評価、生徒役の評価
9	模擬授業⑤ 「球技」	グループ⑤による模擬授業の実施。実施後、教師役の自己評価、生徒役の評価
10	模擬授業⑥ 「武道」	グループ⑥による模擬授業の実施。実施後、教師役の自己評価、生徒役の評価
11	模擬授業⑦ 「ダンス」	グループ⑦による模擬授業の実施。実施後、教師役の自己評価、生徒役の評価
12	模擬授業⑧ 「体育理論」	グループ⑧による模擬授業の実施。実施後、教師役の自己評価、生徒役の評価
13	模擬授業の振り返り	各グループで模擬授業実施後に調査した授業評価、授業記録等を分析・検討
14	総括	各グループで模擬授業のまとめをプレゼンテーション、グループ間による相互評価、改善指導案の提出（後日）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習指導案の作成、模擬授業の準備についてはグループ毎で授業時間外も打ち合わせを必要とする。模擬授業の実施後、グループ毎で授業評価、授業記録等にもとづいた振り返りを行うこと。本授業の準備学習・復習時間は各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

中学校学習指導要領解説 保健体育編（東山書房）
 高等学校学習指導要領解説 保健体育編 体育編（東山書房）
 中学保健体育（学研）
 最新高等保健体育（大修館書店）

【参考書】

体育科教育学入門（大修館書店）
 保健体育科教育法（大修館書店）
 体育授業を観察評価する（明和出版）
 内容学と架橋する保健体育科教育論（見洋書房）
 体育の教材を創る（大修館書店）
 楽しい体育理論の授業をつくろう（大修館書店）

【成績評価の方法と基準】

参加状況・態度による平常点（50%）、プレゼンテーション（30%）、レポート点（20%）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

今年度も受講生が積極的に参加しながら理解を深めることができる授業を展開する。

【学生が準備すべき機器他】

課題提出については授業支援システムを使用する。

【その他の重要事項】

「保健体育科教育法Ⅰ」を履修していること。本授業計画は履修者数や授業展開によって若干の変更があり得る。

【Outline and objectives】

The aim of this class is for students to acquire the capability to design lessons and deliver practical instruction based on the Physical Education pedagogy for both Junior and Senior High Schools.

保健体育科教育法Ⅳ

小田 佳子

配当年次／単位：2～4 年次／2 単位

開講時期：秋学期授業/Fall

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中学校及び高等学校「保健」における学習指導要領の示す目標・内容・学習指導計画・学習評価などを踏まえて学習指導案を作成し、模擬授業の経験を通して教師の資質や能力、責任などを認識・理解する。

【到達目標】

保健体育科の教科及び科目の目標、学習内容の留意事項、学習評価などを理解した上で、実際に「保健」における学習指導計画の作成及び授業展開を行うことで、教育的実践力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

中学校及び高等学校「保健」において、学習指導要領の示す目標・指導内容・評価などを踏まえて、ICT(PC やタブレット)や教材を活かした保健の授業づくりの基礎知識など保健体育科教育法Ⅱで学んだ内容を発展・具体化して学習指導案を作成し、模擬授業を実施する。
 その後、学生同士で互いに授業評価をして振り返りを行い、教師としての資質・能力、責任などを認識・理解する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	本授業の進め方 成績評価 各担当単元の班編成 学習指導案立案手順方法
2	学習指導案作成 (1)	単元目標・単元計画・単元における評価規準の設定方法
3	学習指導案作成 (2)	教材観・生徒観・指導観の記述方法
4	学習指導案作成 (3)	教材 (実習・実験を行うために必要な ICT 活用、グループワーク、討議法)、指導方法、指導形態の選定
5	模擬授業準備	黒板や教壇、教材を用いた模擬授業のシミュレーション及び学習指導案の修正
6	模擬授業及び省察①	健康の考え方、生活習慣病 (中学校 1 単元 高等学校 1 単元)
7	模擬授業及び省察②	飲酒・喫煙、薬物乱用 (中学校 1 単元 高等学校 1 単元)
8	模擬授業及び省察③	応急手当、心肺蘇生法 (中学校 3 単元 高等学校 2 単元)
9	模擬授業及び省察④	性への関心、性行動 (中学校 2 単元 高等学校 3 単元)
10	模擬授業及び省察⑤	妊娠・出産、結婚生活 (中学校 2 単元 高等学校 3 単元)
11	模擬授業及び省察⑥	労働、加齢 (高等学校 3 単元)
12	模擬授業及び省察⑦	大気汚染、水質汚濁・土壌汚染、ごみ処理・上下水道、食品安全 (中学校 4 単元 高等学校 4 単元)
13	模擬授業振り返り	各模擬授業後に課した学生への授業評価記録や録画による分析・検討
14	まとめ	各班における模擬授業反省のプレゼンテーション、振り返りを踏まえた学習指導案の修正作業

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

中学校及び高等学校における学習指導要領及び教科書（保健部分）を熟読し、担当分野の資料を常日頃から収集しておくこと
 本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・中学校学習指導要領解説 保健体育編（東山書房）
 ・高等学校学習指導要領解説 保健体育編 体育編（東山書房）
 ・中学校教科書『新中学保健体育』（学研）
 ・高等学校教科書『最新高等保健体育』（大修館書店）
 ※教科書については多摩キャンパスの生協で購入可

【参考書】

・保健科教育の基礎（教育出版）

【成績評価の方法と基準】

- ・学習指導案(模擬授業前/振り返り後)40%
- ・模擬授業に対する意欲・態度及び教材の工夫 20%
- ・模擬授業者への授業評価(コメント)20%
- ・模擬授業反省のプレゼンテーション 10%
- ・毎回の授業を受けるにあたっての参加態度 10%

【学生の意見等からの気づき】

- ・模擬授業を行う場合、展開部分はどこがポイントになるのか明確にして進めること
- ・模擬授業を受ける学生は、毎回の授業者が行う授業より、参考になったこと(良かった点)、改善すべきこと(改善点)を具体的に見つけながら参加すること

【その他の重要事項】

授業の進行状況によっては、内容の若干の変更があり得る
7月に事前の履修ガイダンスを開催し、課題を提示する

【Outline and objectives】

To create the "health education" teaching plans based on the goals, contents, learning guidance plan and learning evaluation through the course of study for junior high school and high school.
Then students can recognize and understand teachers' qualities, abilities, and responsibilities through the experience of mock lessons.

視聴覚教育 I

原田 雅子

配当年次／単位：2～4 年次／2 単位

開講時期：秋学期授業/Fall

実務教員：

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

博物館は多様な視聴覚教材(実物、データなど)を用いて教育を行う場である。現在博物館が扱うアナログ/デジタル情報についてデータの利活用も含めて俯瞰し、博物館で実施されている視聴覚教育法の概要と特徴を知る。また一部を体験することで、博物館での教育手法やその意義について学び、博物館または学校などの教育現場で生かせる知識を習得する。

【到達目標】

博物館で行われている視聴覚教育のありかたや様々な手法について知り、考えることで、適切な場面で必要な手法を行えるようになる。
また、博物館資料データの取り扱い・利活用の方法、著作権法などのメディアリテラシーの基礎を知ること、教育現場におけるデータの取り扱いを知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

講義と参加者によるディスカッションを行う。また、可能な場合は、校外実習として博物館で行われる教育手法を体験する。

受講人数や講義の進行具合等により、授業計画は変更される可能性がある。
課題(レポートや試験)に関しては、提出当日あるいは次回の授業においてフィードバックを行う。授業中のフィードバックが困難な場合は、メールによって行う。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	講義：博物館の機能	イントロダクション：博物館の役割と種類を俯瞰し、それぞれの役割と種類における情報媒体の在り方を知る。
2	講義：博物館と視聴覚教育の歴史	近現代の博物館教育の歴史を振り返り、その中で視聴覚教育がどのように発展してきたかをたどる。
3	講義：博物館での情報の記録	博物館は情報を集積する場所であるが、そこでどのように情報が収集、保存され、また、記録・管理されるのかを知る。
4	講義：博物館の収蔵品・展示物と情報デジタル化(1)	博物館では現在は多くの収蔵品の情報をデジタル化しているが、それによるメリット・課題を、実際に博物館がポータルサイト等を通じて公開しているデータを通じて考える。
5	講義：博物館の収蔵品・展示物と情報デジタル化(2)	デジタル化された博物館情報の中でも、とくに3D情報や位置情報など、21世紀になって新たに注目されているデータの収集・活用をとりあげる。
6	講義：博物館の視聴覚教材	実際に博物館でどんなものが視聴覚教材として使われているかを考え、分類し、その分類の特徴に基づいてそれぞれの教材としての意義を考察する。
7	講義：博物館と様々な立場の人々の視聴覚教育	博物館はそもそも生涯学習の場として学齢期のみならずあらゆる世代・立場(病気や障がい、貧困の有無など)の人々の教育を目的としている。それらの事例にスポットを当て、博物館がしている教育、できる教育を考える。また、点字を打つ実演を行うことで、視覚偏重になりがちな博物館の在り方について考える。
8	講義：博物館と知的財産・メディアリテラシー	博物館での情報の発信の際にとくに重要になる著作権などの関連法規の基礎知識を学ぶ。
9	講義：博物館の展示物とブログを使った意見交換学習プログラムの体験(1)	(可能な場合は博物館を訪れ、)教員が用意したブログに投稿する形の学習プログラムを実施する。鑑賞教育の一つ、Visual Thinking Strategyについても紹介する。
10	演習：博物館の展示物とブログを使った意見交換学習プログラムの体験(2)	前回博物館で実施した学習プログラムの作品についてディスカッションを行い、その意義を考察する。また、学習プログラムそのものの改善点についても考察を行う。

11	講義：情報でつながる博物館	実際に博物館で行われた研究の中で、インターネットやテレビなどの媒体が効果的に使用された例や、ゲームやクラウドファンディングなど、新しい媒体を通じて博物館が基盤を強めていく取り組みを紹介する。
12	講義：自分の行いたい視聴覚教育を企画してみよう	博物館教育における未来予測に関する資料を紹介し、これまでの内容を踏まえて、自分が実施したい視聴覚教育プログラムについて考え、企画書や指導案を作ってみる。
13	講義：これからの視聴覚教育を考える	前回作成した企画書・指導案の内容の共有を行い、これまでの講義を振り返る。博物館における視聴覚教育とは何かを考える。
14	まとめ	テストを行うことで、全体の理解度を確認する。また、その内容について解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

時間を見つけて博物館の web サイトを見たり、博物館展示を見学したりすることで、講義の内容が理解しやすくなります。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

博物館情報・メディア論（放送大学教育振興会）

【成績評価の方法と基準】

①授業への積極的な参加態度（出席等）（30 点満点）、②講義期間中の提出課題（30 点満点）、③講義最終回に実施するテスト（40 点満点）による。合計 100 点満点として 60 点以上が合格。ただし、①～③のうち 1 つでも 0 点のものがあれば不合格。

【学生の意見等からの気づき】

受講者が毎年 10 名未満のため、アンケートは実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

授業は基本的にオンラインで行う。Microsoft Office などのオフィスツール搭載のパソコン推奨。

【Outline and objectives】

The goals of this course are to

- (1) Understand the meaning and utilization of information at museums.
- (2) Obtain basic skills about utilization of various media at museum education.

視聴覚教育 II

原田 雅子

配当年次／単位：2～4 年次／2 単位

開講時期：秋学期授業/Fall

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博物館における情報提供のコンテンツの制作実習を通じ、多様な来館者に向けた情報発信のために、対象と学習目的を設定し、適切な情報の選択を行い、提供する情報を整理して発信できるようになることを目的とする。

【到達目標】

博物館において扱う情報の意義及び活用方法を理解する。教育に関わる視聴覚メディアについて、実際にコンテンツを作成してみる中でその特性を理解し、情報発信において活用する能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

博物館における情報提供のコンテンツ作成実習を通じ、多様な来館者に向け、対象と学習目的を設定し、適切な情報の選択を行い、情報発信することを学ぶ。受講人数やコンテンツ作成の進行具合等により、授業計画は変更される可能性がある。

課題（レポートや試験）に関しては、提出当日あるいは次回の授業においてフィードバックを行う。授業中のフィードバックが困難な場合は、メールによって行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	博物館展示における情報発信	多様な学びのニーズに合わせた情報の提供について学ぶ。
2	情報発信の事例紹介	携帯情報端末の導入事例を元に、効果的な利用法を考える。
3	情報発信の対象設定	情報を伝える対象と目標の設定について学ぶ。
4	ソフト実習	コンテンツを制作するソフトウェアの使い方を学ぶ。 ソフトウェアは受講者の状況等に応じて使用するものを変更する場合がある。
5	情報デザイン（1）	制作するコンテンツの全体構成および用いるメディアについて検討する。
6	情報デザイン（2）	制作するコンテンツの全体構成および用いるメディアについて検討する。
7	コンテンツ作成（1）	情報を伝えるために必要な素材を集める。
8	コンテンツ作成（2）	これまでに集めた素材を編集する。
9	博物館コンテンツの体験	（可能な場合は、）実際に博物館を訪れ、博物館のコンテンツ利用を体験する。
10	コンテンツ作成（3）	中間発表と、相互評価を行う。
11	コンテンツ作成（5）	評価をもとに修正点を整理し、コンテンツの更新を行う。
12	完成したコンテンツの講評	全体の構成をチェックし、完成したコンテンツの発表と相互評価を行う。
13	コンテンツの改善	作成したコンテンツの課題の抽出と改善を行う。
14	理想の博物館コンテンツを考える	博物館が行うべき情報発信の姿について議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博物館における情報発信の演習を行うので、時間を見つけて博物館の web サイトを見たり、博物館展示を見学したりすることをすすめます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。必要に応じて資料を配付します。

【参考書】

博物館情報・メディア論（放送大学教育振興会）

【成績評価の方法と基準】

①講義の中で作成したコンテンツおよびレポート（70 点満点）、②講義への積極的な参加態度（出席等）（30 点満点）を考慮して判断します。60 点以上で合格としますが、①②いずれか 0 点の場合は不合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

受講者が毎年 10 名未満のため、アンケートは実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

授業は基本的にオンラインで行う。Microsoft Office などのオフィスツール搭載のパソコン推奨。

発行日：2021/4/3

【Outline and objectives】

The goals of this course are to

- (1) Understand the meaning and utilization of information at museums.
- (2) Obtain basic skills about utilization of various media at museum education.